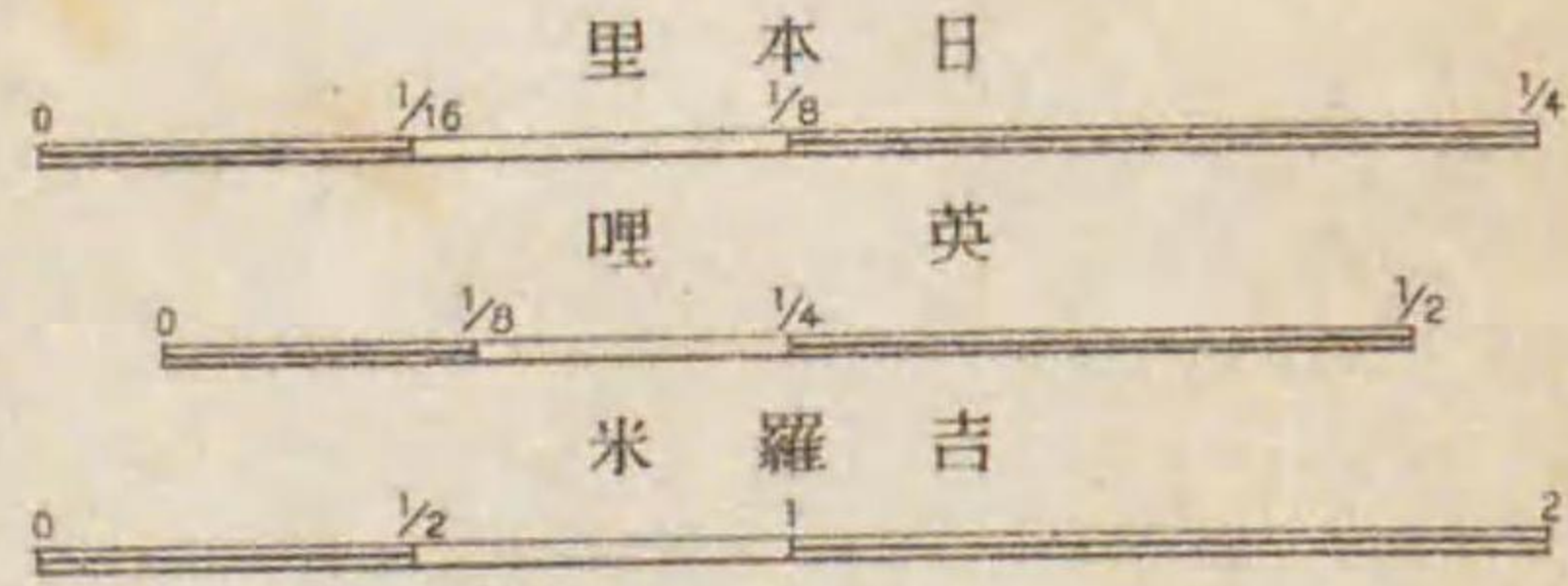


必要とし、モンド瓦斯發生爐竝に副産物、採收装置を備
坑事務所と相對する大和町の一端にあり。孰れも樹木花卉を
、從來發集せられたる更炭と石炭とを混合し、一試七ノ硫黄



大連

縮尺二萬分之一



1
2
3
4
5
6
7

A B C D E F G H I J K

D E F G H I J K L M N

1
2
3
4
5
6
7



の東北里餘なる渾河右岸に在り一其の左岸
の地たり。孰れも樹木花卉を
の便あり。城は明代の築造に係る小規模
二門を開き、曾ては旗民の居を占むるもの多



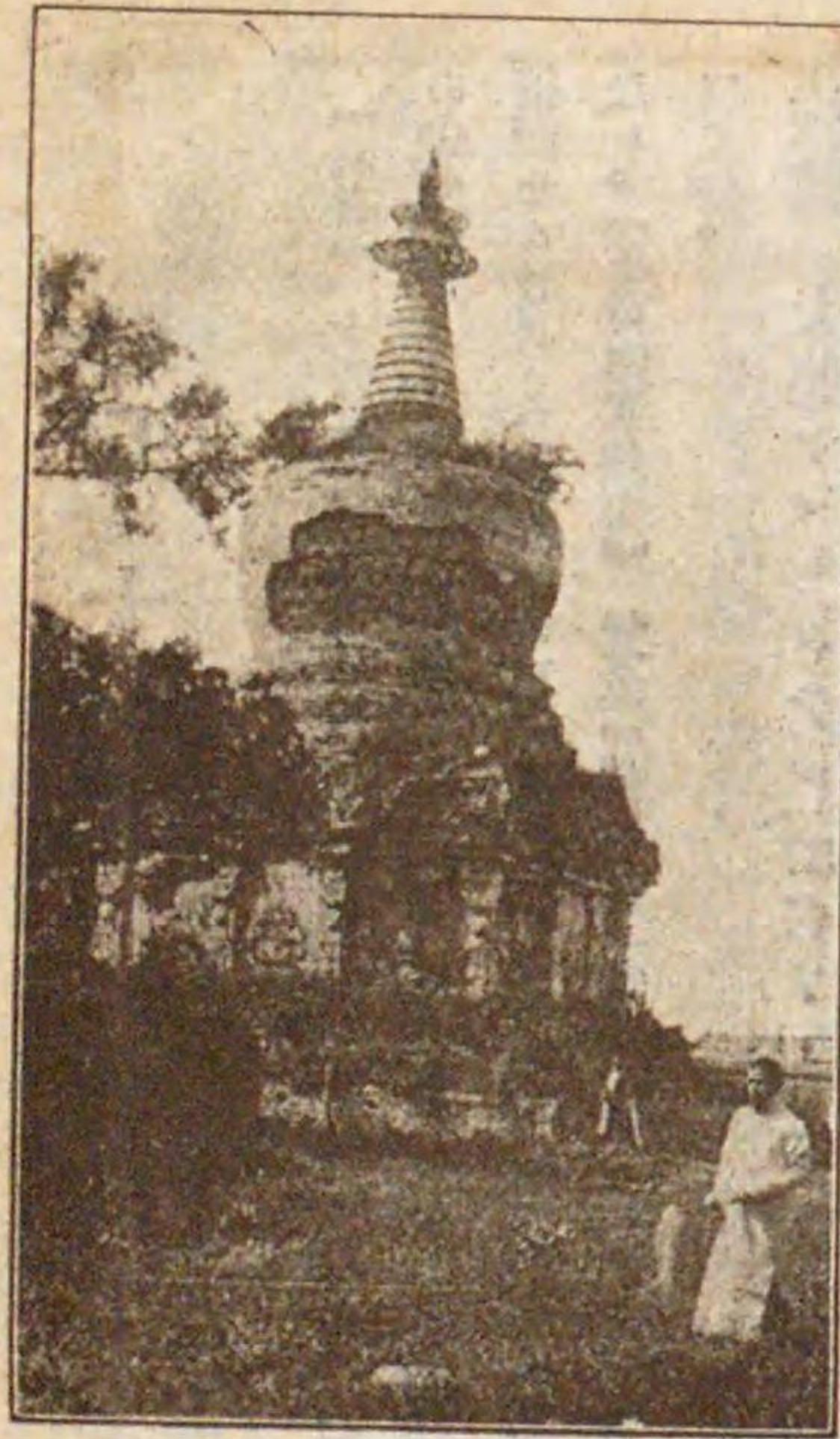
A B C D E F G H I J



- | | | | |
|-----------------|-----|---------------|-----|
| 22 朝鮮銀行支店 | G.6 | 23 滿鐵電燈營業所 | H.6 |
| 21 三越呉服店出張所 | " | 24 遼東ホテル花屋ホテル | F.6 |
| 20 東亞煙草會社清國總販賣所 | F.6 | 25 扇芳亭 | " |
| 19 大阪商船會社 | " | 26 浪速町勸業場 | " |
| 18 憲兵分隊 | G.6 | 27 浪速町郵便所 | G.6 |
| 17 通信管理局及郵便局 | G.6 | 28 電話交換所 | " |
| 16 山口運輸公司 | G.5 | 29 大山勸業場 | " |
| 15 日本煙草會社出張所 | G.5 | 30 正隆銀行支店 | " |
| 14 道勝銀行支店 | H.6 | 31 大連ホテル | " |
| 13 スタンプト石油會社 | H.6 | 32 橫濱正金銀行支店 | G.7 |
| 12 遼東新報社 | G.6 | 33 消防屯所 | " |
| 11 實業俱樂部 | G.6 | 34 水道事務所 | " |
| 10 商業會議所 | G.6 | 35 大連民政署 | " |
| 9 中國銀行 | G.7 | 36 英國領事館 | " |
| 8 基督教青年會 | G.6 | 37 ヤマトホテル | " |
| 7 滿州日日新聞社 | H.7 | 38 英國基督教會 | " |
| 6 滿鐵電話交換所 | " | 39 大連市役所 | F.7 |
| 5 日清豆粉製造會社 | " | 40 日本基督教會 | " |
| 4 大連基督教會 | " | 41 西廣島郵便所 | " |
| 3 大連油鹽工業株式會社 | " | 42 大連貯蓄銀行 | " |
| 2 パーデン商會 | " | 43 磐城ホテル | " |
| 1 天主教會 | H.6 | 44 信濃町郵便所 | " |

必要とし、モンド瓦斯發生爐竝に副産物、採收装置を備へ、從來廢棄せられたる硬炭と石炭とを混合して氣化し硫酸アンモニアを製造し、而して其發生したる瓦斯は汽罐内に燃焼せしめ、發電機に必要な蒸汽を供給す。此電力に依りて運轉する電氣鐵道電氣機關車は、撫順驛以東に於ける石炭運搬と各坑填砂用土砂運搬に使用せられる、外、尙客車をも運轉して各坑區間の交通に便せり。

勝地 【公園】 新市街に公園二あり、一は本町公園と名づけ、約四千四百坪、車站の正面に當れる本町大通りの北端に近く位置す。一は大和公園と稱し、約二千二百坪、炭



塔 白 天 奉

坑事務所と相對する大和町の一端にあり。孰れも樹木花卉を栽培し市民行樂の地たり。

撫順城 【撫順城】 驛の東北里餘なる渾河右岸に在り、其の左岸永安橋畔迄は電車の便あり。城は明代の築造に係る小規模のものにして、南北二門を開き、曾ては旗民の居を占むるもの多かりしが漸く衰微あり、今や知縣衙門の所在地として人口四千餘を有するに過ぎず。城北を繞れる丘山は清人の所謂龍脈にして、城走蜿蜒東の方蔭爾嶺山に連亘す。乃ち過ぎし明清の戦

竝に日露の役に於て、是れ倔強の天嶮として攻防兩者の火花を散せしところ、丘頂到處に今尙堡壘の殘影あり。

白塔 【白塔】 撫順城北門外の丘頂に一基の白塔あり。高數十尺内に觀音像を安置す。明代の建立に係り古色愛すべく、日露戦役の際我砲彈の爲めに上部の一角を打壞せられしより、永安橋と共に我戦勝の好記念物たり。

永安橋 【永安橋】 撫順城の南方渾河に架せられたる橋梁にして、全長一千二十呎、沙河會戦の前後に於て露軍の左翼たりしリネウキツチ軍の軍橋たりしもの、我鴨綠江軍の南海師團之を占領して撫順を攻撃せしに因り、四國橋の別名あり。

13 大連 Dairen

【到着】大連車站は滿鐵本線の極端驛にして、其の位置は大連市街の中央に近く、埠頭との距離は較々隔たれども手荷物は構内線に由て接続せらるべく、旅客は電車、馬車、人力車の執れに依るも連絡至便なり。【手荷物運搬夫】賃金一個に付三錢宛。又その市内配達賃は一圓八錢。

旅館 大連ヤマトホテル(37 G 7 場大廣)、南滿鐵道會社の經營に係る純西洋風の旅館にして、宿泊料は歐式室料二圓五〇以上十圓迄、食事料一朝食一圓、晝食一圓五〇、夕食一圓七〇。尙ほホテル内にて乗車船券を發賣し、船車發着の都度制服着用の送迎人を派遣す。日本風旅館は遼東ホテル(24 F 6 町信濃)を第一とし和洋兩様の設備あり。宿泊料は二圓乃至五圓。その他一等旅館としては磐城ホテル(43 F 7 町信濃)、花屋ホテル(24 F 6 町信濃)、春田旅館(監部)、吾妻旅館(F 6 町信濃)、大連ホテル(31 G 6 町愛宕)等あり。孰れも純日本式旅館にして宿泊料一圓五〇乃至四圓。二等旅館—鎮西館(町信濃)、桑名館(町吉野)、長崎屋旅館(町飛騨)、富士

屋旅館(町信濃)等あり。宿泊料は一等旅館と大差なし。三等旅館—大阪屋旅館(町吉野)、初音旅館(町常陸)、鹿兒島旅館(町上同)、山岡旅館(町信濃)等。宿泊料(二食付)一圓乃至三圓五〇位にして、晝食料は其の半額とす。

料理店 その重なるものを擧ぐれば扇芳亭(25 F 6 浪花)、千勝館(F 6 町美濃)、金城閣、晚翠軒、淡月、菊水(料理)等。

【人力車】賃金—市街地三町迄四錢、五町迄五錢、五町以上は二町毎に一錢。市外は一里に付一八錢、客待一時間に付五錢、一日雇切(十時間)九〇錢、半日雇切五〇錢。【馬車】賃金—市街地三町迄六錢、五町迄八錢、五町以上は二町毎に一錢五厘。市外一里に付二十五錢、一日雇切二圓二〇、半日雇切一圓三〇、二人乗以上は一人増毎に三割増、護送輪も二割増。但し人力車、馬車共往復の場合は片道の六割増、夜間(市外に限る)一割増、雨雪の際は二割増とす。【自動車】現在營業用のものは三臺にして、其の賃金市内は雇切三〇分以内二圓、一時間以内三圓五〇、市内乗合一區七錢、市外老虎灘往復四圓、星ヶ浦往復八圓。

【電車】滿鐵の經營にして線路の延長一七哩餘に達す。その重なる運轉系統は埠頭—小崗子線、埠頭—逢阪町線、長門町—近江町線、伏見臺下—伏見臺線、日本橋—南廣場—露西亞町—埠頭線等とし、乗車賃金—市内は均一にして半時間券(特等五錢、並等四錢)、一時間券

市街概観

(特等六錢、並等五錢)の二種あり。時間内は何回にても乗降差支なし。市外線は長門町を起點とし、沙河口線、星ヶ浦線(四哩餘)及老虎灘線(三哩餘)あり。區間制にて一區特等五錢、並等四錢とす。外に三十回券(特等一圓二〇、並等一圓)を發行す。

郵便電信 大連郵便局(17 G 6 通監部)、大連無線電信局(大孤山)、その他郵便所は埠頭、小崗子、沙河口、西廣場、外市内五個所に在り。

大連概観 大連港は大連灣の右翼岬角、黃柏嘴に連なるウキクトリア澳の一部を占め、前面海を隔て、大孤山岬角と相對し、背面丘陵を負へるを以て自ら北西南三面の荒風を遮り、縁に東方の一路を黃海に向て開けり。

市街の區劃は勿論概ね露治時代の設計を踏襲せるものにして、先づ市の中央に直径百餘間に亘る圓形の大廣場を設け、又夫よりの東、西、南、北各方面の樞要地點にも夫々適宜の廣場を置きて各街の中心點と爲し、此等各廣場より放線形に射出する大街路を骨子として、幾多の中、小路を之と経緯せしめ、以て宛然蛛網狀の一大街衢を成せり。就中其の大街路には車道と歩路の區別あり。路面は凡てマカダム式の築造法を

採り、其の上面にコイルターを塗布したれば車行平滑なり。又歩路にはコンクリート木塊板を敷詰めれば雨天にも泥濘の感なく、且その兩側適宜の間隔に植ゑられたるアカシヤ、白楊などの並木の縁も爽快なり。

中央大廣場(G 7)の正面より北に走る大山通は鐵筋混凝土造の一大跨線橋日本橋(F 5)に依て南北に分たれ、橋下に通ずる鐵道は滿鐵本線の埠頭に至る構内線にして、大連車站(E 6)は橋の北畔少距離に在り。又橋南の廣場より東に走る監部通は敷島町北端の廣場(此處には長門町電車庫前なる環狀線あり)を掠めて、寺内通の末端東廣場(J 6)乃至埠頭に連なる。更に東廣場の一端より之と相接して斜に西南に走る大街山縣通は其の末端中央大廣場(此處にも亦各方面に連なる環狀電車路あり)を隔て、西大通街と相對し、其の西端は伏見臺、小崗子又は逢阪町等各方面に至る街路に接続す。

當初露治時代にあつたといふ官衙區、行政區、商業區の區劃も今は爾かく明確ならざれども、大廣場の南部一帯には各國領事館、大連民政署、市役所、滿鐵本社、陸軍用地

等列次相隣接せるあり、先づ官衙區を以て目すべし。又其の後方丘地に亘る町々には滿鐵社宅、民政署宿舍其の他住宅多くして學校、病院、寺廟の類其の間に介在せり。之に反して大廣場の北部一帶には諸會社、銀行、新聞社、旅館、市場其の他各種店舖の類櫛比し、自ら商業區たるの面目躍如たり。中にも信濃町、伊勢町、大山通、奥町等を目拔の場所とす。埠頭の南部、即ち東廣場界隈は豆油及豆粕製造業者の本據にして主なる油房は皆此の邊に在り、自ら工業區を以て目すべき歟。

市の西郊伏見臺は元兵營區たりしが、今は中央試驗所の外、滿鐵社宅、民政署宿舍等あり。其の南端丘腹には水道貯水池あり。伏見臺の西北に連なる一區劃は所謂小崗子道の支那市街にして、此地初め北崗子、西崗子などの別名ありしより支那人中には今尚ほ西崗子の稱を用うるもの多しと云ふ。打見る處凡て純然たる支那風にして、町名の如きも平素彼等の間に慣用せらる、吉祥の字句を用る得勝街、久壽街、永樂街などの名を冠したり。近時此の方面も亦著しく發展の勢を呈し油房等の經營續出の狀ありといふ。

大連市街の概観

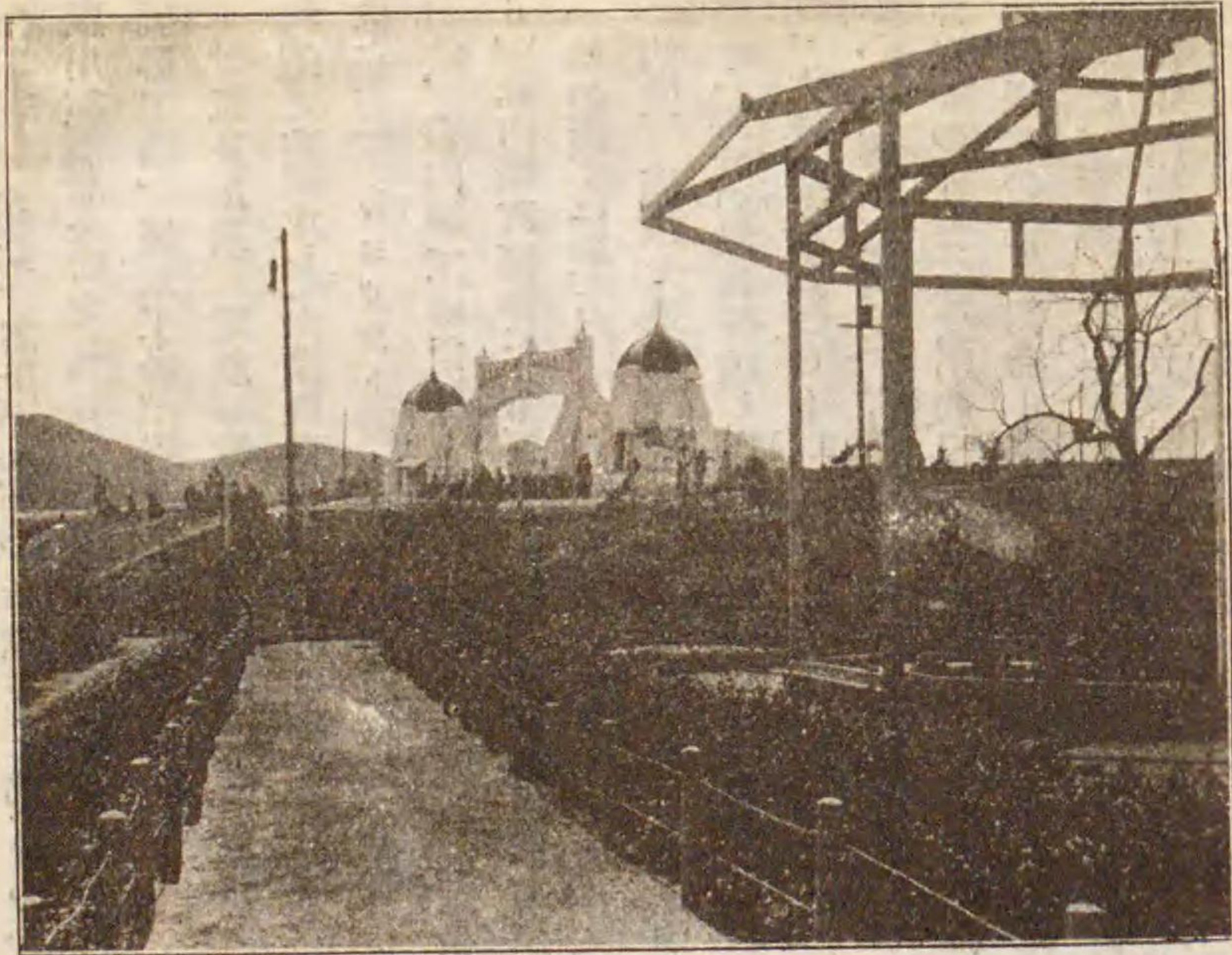


著其の歩を進めて、遂に現今見るが如き文明的の大都市を成すに至れり。

最近大連市(小崗子を含む)の現住人口は七萬七千餘、其の約四割半は内地人、他は支那人にして尙ほ漸次膨脹の傾向あり。又之に沙河子、老虎灘其の他附近地の在住者を加ふれば總人口約十三萬五千を算し、其の約七割は支那人なりとす。

【沿革】大連は初め青泥窪と稱する一寒村に過ぎざりしが、西紀一八九八年露清間の追加條約に依りて露國の租借に歸するや、爾來露國は此の地を以て東方經營の策源地たらしむべく、東清鐵道の一端を延長して此に一大商港を建設せむとの計畫を起し名をダルニーと命じて、鐵道の敷設及築港等の工事を進むると共に、或は官衙、兵營を建築し、或は公園、道路を開設修築する等萬般の企圖漸く緒に就き、將に一大新都市を現出せむとするの際日露戰爭の勃發となり、明治三十七年五月我軍此の地を占領するや直に軍政を布き其の經營は一旦我軍政委員の手に委せられしが、三十八年九月ポーツマス條約成立の結果、寬城子以南の鐵道沿線及關東半島一帶の租借權我國に歸屬すると共に、關東州民政署を此の地に置き以て半島行政の中心地となし、銳意秩序の回復を圖り、市街の經營より築港其の他諸般の施設を進めたり。次て邦人の自由渡航開始せられてより來り住する者日に多きを加へ、三十九年九月關東都督府官制の實施せらるるや更に一新生面を開くと共に、一方南滿鐵道株式會社の設立に依り一大發展の動機を得て鐵道の改修、港灣埠頭の築造より電氣、瓦斯其の他各種の事業も著

埠頭 大連港は大連市街の中央より北東に面する一帯の海面にして、其の築港は一八九八年東清鐵道會社に依りて創始せられ、露治時代無慮一千萬留の巨資を投じて尙半成の儘我に繼承せしものなるが、其の主要部は總延長一萬貳千五百尺の防波堤に拘攔せられ、水面廣袤約一百万坪を算す。埠頭繫船岸は既成第一、第二埠頭及之に接續せる甲、乙埠頭を合せて延長約九千五百尺に達し、其の水深は各岸壁直下に於て干潮面より二十尺以上三十尺の間在れば、僅に一萬噸級の巨舶を横付するに足るべく、現在之に二十四の繫船區設定せられあるも尙往々不足を告ぐるより、既に第三埠頭(長二千尺幅四百尺)の増築工事中に在り。之が完成の曉には岸壁の總延長一萬三千餘尺に達すべく、同時に三十隻の繫船を可能ならしむべく、名實共に東洋第一の巨港たる面目を發揮するに至るべし。尙埠頭構内には三十餘棟の倉庫ありて約十八萬噸の貨物を容るゝに足るべく、又各繫船場及各倉庫間には夫々滿鐵大



(連大) 園遊氣電

中央試験所(C9) 伏見臺に在り。元關東都督府の開始せしものを明治四十三年中滿鐵會社に繼承し、爾來漸次擴張經營せらる。分析科、應用化學、製絲染織、窯業、釀造、衛生、電氣化學等の諸分科を置きて滿洲所産の諸貨物(例

(J6 東廣) 大連取引所信託株式會社(J6 東廣)、大連汽船株式會社(I6 通山縣)、大阪商船會社支店(I9 F6 通大山)、三井物産會社支店(I6 通山縣)、三越吳服店支店(21 F6)、滿洲水産株式會社(E7 信濃)、大日本鹽業株式會社(15 G5 通監部)、大連土地建物株式會社(通山縣)、ソーライト製造株式會社(淡路)、福昌公司(J6 通山縣)、油脂工業株式會社(3 H6 紀伊)、日清豆粕製造株式會社、三泰油房(K6)、小寺油房(以上東公園附近)、鈴木油房(寺兒)。
商業機關 大連商業會議所(10 G7 敷島)、滿洲重要物産同業組合(I6 通寺内)、公議會(支那商工)、市場(信濃町、山子各所に在り)、大連俱樂部(北大)、實業俱樂部(敷島)。
滿洲日々新聞社(7 H7 東公)、遼東新報社(12 G6 敷島)、泰東日報社(漢字新聞)(G5 奧町)、マンチュリア・テリリー、ニユース社(東公)、滿洲新報局(支監部)。

連車站に接續せる構内側線の敷込ありて、海陸運輸の連絡自在なる。但し汽船、汽車連絡旅客の託送手荷物等も亦此の構内線に由て埠頭と車站間に接續運搬の便あること、別項『到着』の條下に述べし所の如し(第一〇八頁参照)。その他構内に埠頭事務所(K5)、上下船客待合所等の設けありて、手荷物の構内運搬(賃金一個三錢)、同市内配達(五十斤以内一個五錢)等孰れも便利に取扱はる。
最近一ケ年(大正二年來三年間平均)に於ける埠頭著發の船舶數は約四千二百五十隻にして、輸出入貨物約二百四十萬噸、其の約四分の一は輸入貨物とし、他の四分三は輸出貨物なりとす。

官公署 大連民政署(35 G7 大廣)、大連市役所(39 F7 西廣)、通信管理局(19 G6 通監部)、海務局(K5 頭埠)、農事試驗場(E8 西公)、水産試驗場(老虎)、大連苗圃事務所(河口)、土木課出張所(通西)、憲兵分隊(18 G6 通監部)、陸軍運輸部出張所(K5 頭埠)、旅順關東倉庫支庫(H7 東公)、陸軍經理部出張所(H7 東公)、旅順要塞司令部事務所(H7 東公)、旅順衛戍病院分院(I7 東公)、大連海關(J6 通山縣)。

各國領事館 英國領事館(36 G7 大廣)、米國領事館(兼露國領事館領事取扱)(I6 龍田)。
露國領事館(兼日扶國領事取扱)。
學校、社寺 大連商業學校(G8 天神)、南滿洲工業學校(C9 伏見)、大連高等女學校(F5 兒玉)、その他市内に高等小學校一、尋常小學校三あり。大連幼稚園(G8 播磨)、子供館(F7 若狹)、大連公學堂(D8 伏見)。
大連神社(H10 南山)、沙河神社(沙河)、西本願寺別院(G10 南山)、東本願寺別院(G10 南山)、曹洞宗常安寺(天神)、淨土宗明照寺(對馬)、日蓮宗教會所(春日)、高野山大師教會(攝津)、淨土宗教會所(老虎)、日本基督教會(西廣)、聖公會(丹後)、救世軍小隊(西廣)、福音ルーテル教會(小崗)、青年會館(敷島)、その他金光、大社、御嶽、黒住、天理教等の諸教會所あり。
銀行、會社 橫濱正金銀行支店(32 G7 大廣)、正隆銀行(30 G6 通大山)、朝鮮銀行出張所(22 G6 通大山)、大連銀行(42 F7 伊勢)、教育貯蓄銀行(通監部)、道勝銀行(14 H6 通監部)、龍口銀行支店(加賀)、中國銀行支店(9 G7 大廣)。
南滿洲鐵道株式會社(H7 東公)、大連重要物産取引所

へば大豆、高粱、石炭、鐵礦、柞蠶等に就き其の成分及應用範圍等を研究し、且之が實驗方法として製絲工場、陶磁器工場、煉瓦工場、釀造工場等をも附設しあり。

電氣及瓦斯 電氣事業は露治時代小規模の經營ありしを滿鐵之を繼承して大擴張を爲し、濱町に發電所(G4)を置きて約五千キロワット時の發電裝置を爲し、電燈、電車の外、市内諸工場への電力供給を爲す。又瓦斯製造場(E6)は山城町海岸に在りて五十萬立方呎の製造能力を有し、一般の需要に應ぜり。

病院 滿鐵大連醫院(E5)山城町、目下神明町東側に新築中、諸般の設備整頓し内科、外科は勿論其の他の各科を有す。大連婦人醫院(G9)南山麓、大連療病院(G11)市外西王家屯、避病院、大連慈惠病院(D9)伏見、宏濟醫院(B8)小崗、その外私人の經營なるもの約三十あり。

劇場其他 劇場—歌舞伎座(G6)敷島町、大連座(F9)若狹町。寄席—大山席(通)花月席(吉野)活動寫眞館—高等演藝館(F7)西廣場、演藝館(電氣遊園内)、浪花館(浪花町)。支那劇場—保善茶園(G6)奥町、瀛海茶園(F8)近江町。

通北裏手に在り。面積五千坪、老松園内に蟠居したるところ松公園の名に背かず。附近は劇場、寄席、玉突場、大弓場、料理店等櫛比し、大連の淺草公園とも評すべき盛り場なり。

東公園 大廣場の東方東公園町北側の一區劃を占め、陸軍専用地に屬す。公園としての設備未だ完からざるも其の閑寂は寧ろ掬すべし。表忠碑(J7)あり。明治三十七八年の役海城以南に於て戦死したる將卒四千餘人の納骨所にして、毎年四月及十一月招魂祭を執行す。

電氣遊園(D78) 市の西方伏見臺高地の一角に在り。電氣鐵道附屬の遊園にして、歐米の鐵道公園に模して經營せられたるもの、電力の應用至らざるなし。温室、花園、演藝館、射的場、動物園、圖書館、喫茶店、支那料理店及「メリー・ゴー・ラウンド」「ローラー・スケーティング」等一として備はらざるなく、夜間は活動寫眞を開演し、全園イルミネーションを施し煌として不夜城の盛觀を呈す。

大廣場(G7) 市街の中央に位する廣場なり。設備未だ完からざるに似たれど濃淡とり／＼の綠樹、萌え出る芝生の清清しきは之を圍繞する大連民政署、ヤマトホテル、正金銀

西公園(E89) 虎公園とも稱す。市の西部に位し、北は其の左右西公園町と伏見臺の通路に沿ひ、南は南山の丘陵を負ひ、其の面積五十餘萬坪、大連の公園中最大なるものなり。此地もと土人村落の點在せし處なりしも、露治時代既に公園として設計せられ、次で我都督府の手に移るに及び幾多の設備を加へしもの。楊柳、桃李、胡藤等の樹木生ひ茂り四季の眺め佳ならざるはなし。園内には旗亭西園亭(E9)及び六花園ありて隨時飲食を命じ得べく、又農事試驗所、苗圃及南花園に至れば四季折々の花卉を賞し得べし。公設運動場(F9)に於てはベースボール及テニスの競技屢々行はれ、音樂堂にては樂隊の奏樂あり。又背後の山嶺に登れば全市雄大の景を恣にするを得べし。

北公園(E5) 北大山通の一角に在り。日本橋を北に渡れば町餘にして達す。是亦露治時代の創設にして爾來滿鐵會社の經營に係れり。園内稍や狭き憾あるも氷滑場、テニスコート、大弓場、器械運動場、小動物園、花園等ありて來園者絶ゆることなし。

松公園(G5) 常盤公園ともいふ。奥町の東側なる監部行等の輪奐の美と相映し、又一佳裏たるを失はず。場内の一側に前關東都督子爵大島大將の壽像あり。

伏見臺 市の西方山麓に連なる高地にして、臺上には舊露國兵舍尙ほ存し、今更めて滿鐵社宅及民政署員の宿舍に充てらる。四邊開豁山を負ひ海に臨み、大連、小崗子を左右に俯瞰すべく眺望最も佳なり。山腹には松樹點綴し翠嵐掬すべし。臺下潺々たる澗流に沿ひて古刹松山寺(D9)あり。乾隆年間の碑を存す。車站埠頭の執れよりも電車の便あり。

小崗子 伏見臺の西北海岸に近き支那街にして、大連市を距る二十餘町に在り(土地の名稱其他第一一〇頁参照)。戸數約二千百、人口約一萬三千を有し、少許の邦人を除くの外悉く支那人にして、百般の事物凡て支那習俗の下に行はる。事業の主なるものは油房(豆油及豆粕製造)にして、燒鍋(高粱酒釀造場)、磨房(製粉所)等も間々之なきにあらざれども、遂上最も多く見らるるは食料品其他雜貨を賣ぐ店舗なり。彼等の共同施設は公議會に依て決せられ秩序よく行はる。北方海岸寄に滿鐵中央試驗所の黨業部あり。其の他當地著名の場所は小崗子市場、天后宮廟、慶昇茶園

(支那芝居)等なりとす。

沙河工場 市街の西北四哩なる北沙河口に在り。最近満鐵の創設せし所にして、敷地面積約三十萬坪を占め、水道及發電所等の特設せられある外各種の工場は赤煉瓦造にして、約二千名の職工を便役し、機關車二十六輛、客車三十六輛、貨車百三十輛を同時に製造修理し得るの能力を有し、且諸機械其の他鐵道諸用品の製作機關をも完備せり。工場の隣接地約十七萬坪は従業者の住宅地とし、社宅、病院、小學校、郵便局、貨店等の煉瓦家屋櫛比して市の西郊別に一工業市を成せり。

星ヶ浦 大連市の西南二里餘(電車行程三十分時)に在り。西北は緩傾斜の丘地を負ひ、南方海に面して一帯の長汀曲浦之に連なる。避暑、避寒ともに絶好の保養地なり。此地元來一漁村に過ぎざりしが、明治四十二年滿鐵會社の經營に依りて松、胡藤、楊柳、桃李等の植栽を首め和洋各種の貸別莊建設せらるゝなど忽ち一新樂境と化せられたり。全境域十餘萬坪、樹林芝生の清々しき間にテニスコート其の他の遊技場あり、白沙清き濱邊には海水浴客の更衣場あり。又

近時附近の丘地約七萬坪を以てゴルフ遊技場と爲し、内外人の娛樂に供せり。食事、宿泊等の爲にはヤマトホテル分館、旗亭星の家等の設けもあれば日返り滯泊共に便利なり。

老虎灘 大連の西南一里餘の海岸に在り。電車(逢坂町より五町徒歩を要す)及自動車(往復四圓)の便あり。往時は寂寞たる一漁村に過ぎざりしが、大連開埠以來比年の繁盛は延いて此村にも及ぼし、人煙次第に稠密し來り、別莊旗亭など設けらるゝに至れり。灣内水清く游泳に適するのみならず、魚族に富むを以て小舟を備うて釣魚の樂をなす者多し。旗亭に千勝館別館、觀瀾閣、嘯月等あり。

小平島 星ヶ浦の西南二里餘、小舟に棹せば約一時間半にて達すべし。戸數七百餘、人口四千百餘。公會堂及警察署あり。乾隆以後五六十年前までは山東方面との通航上遼東半島唯一の要津たりしが、後營口大連の開港を見るに及んで復當時の盛觀なく今や一漁村に過ぎず。島上高麗城址及高麗の古墳あり。島は海拔三百尺許の嶮嶮にして其の大洋に面する處全面絶壁をなし、或は洞門となり或は奇峭となり、千態萬狀眞に神工鬼鑿の妙を極め、又得難きの仙境たり。

14 旅 順

旅順支線は大連の北方約八哩なる臭水子附近より分岐して西南に走り、途次三車站を経て旅順に至る。大連よりの行程三七哩一(賃金一等二圓二五、二等一圓三〇)、毎日五回の列車便あり、片道一時間半にて達す。

臭水子驛の北方二哩八に旅順支線の分岐點あり。故に奉天方面よりする旅客は列車接續時刻の都合次第當驛にて本線列車より乗換ふるも可なれど、多くの場合、一旦大連に入りて更に期を定めて同地より旅順行列車に頼るを便とす。

【觀光の準備】 旅順見物は大概一日にて足るべきも、戰蹟巡覽の爲約十時間を要すべければ、大連よりの日返り客は成るべく早朝一番列車にて出發するを可とす。又巡覽上必要な馬車、案内者の雇用及普通の飲料等は旅順驛にて夫々調達し得らるべきも、特殊の飲料、畫食辨當等は豫め準備、携行するを便とす。

夏家河子 Hsia-chia-ho-tzu (二哩) 以下準之) 金州灣に注ぎ入る夏家河口に在る漁村にして、白沙の海濱は海水浴及釣魚に適するを以て大連よりの來遊者多し。

營城子 Ying-cheng-tzu (一哩) 邑の西南里餘に高

勾麗時代の古城址あるを以て此の名を得たり。附近山地より印材に適する蠟石の産出あり。又此の邊一帯は鷓鴣等の好遊獵地なり。

龍頭 Lung-tou (四哩) 當驛より以南、線路は漸く我旅順攻圍戰當時の本舞臺に迫る。王家甸乃至團山子附近の丘背は我二十八棚榴彈砲の布陣せられし所にして、其の南方姜家屯の谷地は彼我慘戰半歳に亘れる修羅場の跡なり。窓外東天の彼方に聳ゆる一峯は我第十一師團の舊戰地たる大孤山にして、其の南面には東雞冠山、盤龍山等蜿蜒西走して二龍山、松樹山等の連脈と相抱き以て旅順東面の天嶮を成す。而して今我鐵路は略々此の山脈に沿うて其の外延を圍繞しつ、將に一轉左折南走せむる處、其の西北少距離を隔て、見ゆる一廓の村落は即ち乃木、ステツセル兩將が開城締約の際に相會せし水師營なり。

旅 順 Ryo-jun (Lu-shun) (三哩)

【到着】 車站は白玉山の西麓、新舊市街の中間に在り。【手荷物】 構内搬荷夫(賃金一個三錢)あり。其の他洗面所、自動電話等あり。又構内雜貨店には酒、煙草、飲料其の他土産物等を販賣せり。

【案内所】 ジャパン、ツーリスト、ビュローの戦蹟巡覽案内所あり。室内に地圖、案内記の類を備へ一般旅客の縦覽に供する外、内外人の需に應じて戦蹟地巡覽の案内(案内料一日一圓)をもなす。

【車馬賃】 馬車一時間三十錢、半日一圓十錢、一日二圓二十錢。人力車一時間二十錢、半日五十錢、一日九十錢なり。

旅館 旅順ヤマトホテル(新市街に在り、宿泊料歐式にして凡て大連ヤマトホテルに同じ)、其の他寶來館、福壽館、臺灣館等あり。宿泊料一圓半乃至三圓。

旅順概観 遼東半島の最南端に位し、四周丘山の別天地に在りて碧水深く湛ふる海灣に臨む。丘波一脈南に走りて海に盡くる處、是を老鐵山とし、其の脈端東より北に繞るもの即ち老虎尾半島にして、港口は恰も之と一葦水を隔つる黄金山の一角に據りて扼せられ、其の背面一帯は重疊たる連山に據り自然の牆壁を成し、諸砲臺の布置せらるゝ處、所謂易守難攻の要害地たり。

港は東西兩港に分かれ、【東港】は水深くして大艦巨舶を泊せしむるに足れども面積較々狹隘の憾あり。今や我旅順要港部の所管に屬し、船渠其の他の施設完備せり。【西港】は面積廣けれども概して水淺く、隨て大船を容るゝに便ならざりし



旅順附近略圖

も、近年一部の修港を経て普通商船の出入繫泊を許すに至れり。港灣の廣袤(兩港を通じて)東西二哩餘、南北一哩餘、又港口水道の直徑約三百碼なりとす。

【旅順市街】は新舊兩市街に區分せらる、即ち龍河々口の北岸なる車站を中心として其の以東を舊市街とし、以西を新市街とす。舊市街は東港に面する商業區にして日支兩國商家の湊るもの多く、修路長く行届き街衢八十餘町に分たる、就中乃木町、敦賀町界隈を最も繁華なる個所とす。此の附近は比較的邦人多くして、支那人は市の北方一廓をなす部分に多く居住す。邦人之を支那人町と呼び支那人は上溝と稱す。新市街は西港北岸一帯の地にして、露治時代の官衙及住宅區域たりしを繼承したるものなれば、輪奐宏壯なる建築物多く就中都督府民政部、陸軍部、工科學堂、其他文武官の官舎居然として四邊を拂ふが如し。街衢は分ちて五十餘町とす。現住戸數新舊市街を併せて三、六一九、人口一四、六九八、邦人其の六割餘を占め、支那人は四割弱に過ぎず。

官衙其他 關東都督府民政部、同陸軍部(新市街)、旅順要塞司令部、旅順要港部、海兵團、海軍工場等海軍諸官

衛(新市街)、高等法院、地方法院(舊市街)、陸軍衛戍病院(舊市街)、海軍病院、旅順民政署及旅順市役所(舊市街)、關東憲兵隊(新市街)、陸軍倉庫及兵器支廠(舊市街)、都督府監獄署及衛戍監獄(舊市街)、歩兵聯隊及重砲兵大隊(舊市街)、海務局出張所、大連海關支署、旅順工科學堂、中學校、高等女學校、小學校、幼稚園、東洋協會、旅順語學校、旅順公學堂、橫濱正金銀行出張、正隆銀行支店等。

戰蹟巡覽

旅順の地は海に陸に行くとして過去二大戦役の慘禍追憶の遺蹟ならざるなし。況して日露間約半世紀に亘る要塞戦は世界戦史に新記録を留めし程のものなるをや。されば其が戦蹟を尋ねむとも、之を詳悉せむは一朝夕にして果し得べくもあらず。而かも其の港口乃至海岸諸砲臺方面は現に我要塞地帯に屬し、常人の窺知すべからざる所に係れり。依て茲には唯其の他の著名なるものに就きて、略巡覽の序次を述べ、其の概要を記述するに止めむ。

【白玉山】 驛の前面に聳ゆる海拔四百餘尺の丘山にして頂上まで馬車を通ず。旅順要塞防禦陣地の中軸に位し、南は港口の水道を俯瞰し北は旅順街道を監視す。丘の中腹には



旅順表忠塔

當時露軍が十五冊加農砲を据付たる臨時砲臺の跡を望むべく、丘頂に達すれば高さ二百十八尺の表忠塔先づ眼に入るべし。是れ我旅順攻圍戦に陣歿したる將卒の英靈を慰め、其遺烈を千載に傳へんが爲東郷、乃木兩大將發起の下に建設せられたるものなり。塔に上りて彼我將卒苦戰の蹟を展望せんと欲せば、民政部又は旅順驛にて登上許可證(無料)を受くべきなり。山嶺別に納骨祠あり、社祠の下部は間口二間奥行一間半の窆室にして、戦死將卒一萬八千九百四十人の遺骨を納め、毎年五月、十一月の兩度に大祭を執行す。

【記念品陳列館】 車站の東方約二十六町馬車を通ず。旅順攻圍戦に於ける彼我の遺物並に要塞遺跡の模型等を陳列せる所にして、一般公衆の縦覽を許す。入場料は一般觀覽者五錢、軍人及學生二錢、二十名以上の團體は一人に付二錢とし、休館日は月曜日及大祭日翌日とす。

【東鷄冠山北堡壘】 車站の東北方一里十五町、馬車を通ず。我第十一師團が高價の犠牲を以て購ひ得し所のもの、即ち明治三十七年八月二十一日攻撃開始以來、孜孜營々坑道を掘進して有名なる地中戦をなし、十二月十八日大爆破を以て堡壘の東北角を崩壊せしめ、決死隊の突撃數次の後遂に之を占領するに至れり。當時我爆彈の爲に悲惨の最後を遂げし露將コンドラチェンコ戦死の跡は堡壘入口の右側に在り。東方前面の二丘嶺は大孤山、小孤山なり。

【望台】 東鷄冠山北堡壘の西に在り、驛の東北一里十五町馬車を通ず。是亦我第十一師團に依り明治三十七年八月二十四日を以て攻撃開始せられしも、露軍の防禦頗る頑強にして能く長時日の力攻に耐へし爲、其の占領を確めたるは實に開城の前日即ち明治三十八年一月一日なりき。頂上今

二 龍 山

尙敵の使用せし海軍砲二門を留む。其の前面にある一砲臺は當時一戸旅團長に依て占領せられしより一戸砲臺の稱あり。

【二龍山堡壘】 旅順驛の北方三十五町、馬車を通ず。明治三十七年十月十六日我第九師團の攻撃を受けし方面にして、永久砲臺中最大のものなれば我軍苦戰を以て其の外壕を占領したる後、二十五日にして漸く砲臺地下に至る三條の坑道を完成し、乃ち五個所に爆藥を裝填して大爆破を行ひ、以て其の占領を確實にしたり。敵の防戦亦克く力め、五百餘名の守兵殆ど此に全滅し、生殘者僅に三名に過ぎざりしといふ未曾有の惡戦なりしも、此の堡壘の陥落は旅順開城の運命を早むるに與て力大なりき。

【松樹山堡壘】 車站の西北方三十町馬車を通ず。我第一師團の奮戦力攻せし處にして、明治三十七年十月八日攻撃開始の時より占領に至る迄實に八十四日間に亘り、我軍の拂ひたる幾多の犠牲は有名なる白礮の決死隊を首め、二千有餘名の死傷者を出したる外、十八萬餘の土囊、三千八百貫の火藥、十餘萬發の小銃彈と其の他無數の砲彈を費せりと云ふ。以て其の慘狀を想ふべきなり。



松樹山の殘壘

【大、小案子山及椅子山堡壘】 車站の西北方一里内外の地に相隣接せり。何れも永久砲臺にして旅順西港即ち新市街背面の防禦區劃たり。戰時大に我軍の進路を妨けたるも、開城と共に我有に歸し、今尙完全に原形を留む。

【露國忠魂碑】 車站の西北方二十五町、小案子山の東麓に在りて馬車を通ず。露軍戰死者の墓地内に我帝國官民の建設せしものにして、明治四十一年六月竣工、乃木將軍、ゲルンゲロス將軍等臨場して除幕式を挙げ英魂を弔へり、「逝者敵なし」露軍の烈士亦以て瞑すべきなり。

【二〇三高地】 車站の西方一里二十五町に在り。其の途次通路の右手に大案子山を望むべし。二〇三高地は其名の米突に依て示さる、如く、海拔六七五尺にして旅順四圍の連轡中標高最も高く、之に登れば新市街、西港の全部及舊市街、東港の一部一眸の裡にあり。彼我爭奪戰の激烈なりしも亦以なきにあらず。即ち明治三十七年九月十九日以來、我第一師團及後備步兵第一旅團の苦戰せし所にして、十一月二十九日以後更に我第七師團の増援參加を以てして、尙且激戰九晝夜の後初めて其の占領を確實にし、港内

の敵艦隊に對し觀的射撃を肆にするを得、以て旅順の死命を制したり。乃木將軍會々此の地に臨み「爾靈山」と題して左の一絶を賦す、其の轉句は實に當時兩軍一萬四千の生靈を屠りし悽慘の狀を表し得て餘りあり。

爾靈山險豈難攀 男子功名期克艱
鐵血覆山山形改 萬人齊仰爾靈山

【水師營】 車站の西北一里二十町馬車を通ず。乃木、ステッセル兩將軍會見地として其の名を知らる。會見場として使用したる民家は現時水師營小學堂に充てらる。

公園其の他 【後樂園】 新市街の海岸に在り 規模小なれども胡藤繁茂し夏時の逍遙に佳なり。園の一隅に音樂堂あり、夏季には一週二回陸軍軍樂隊の吹奏あり。【新公園】 白玉山の南麓に在り。地は戰時曾て湯淺少佐以下三十一名が露人の手にて厚く葬られしと云ふ其の跡を下し、最近旅順在住有志者等の創設せし所にして、園内數千の櫻桃は年と共に美觀を呈すべく、市民行樂の好適地たり。【黃金臺】 港口の東側に當る高臺にして露治時代別莊地域と稱せられし處、頗る眺望に富み、又臺下は海水浴場として知らる。

路 15 營 口 Ying-kou

徑路の選擇 營口は遼東灣頭、遼河々口を扼せる一大商埠にして、貿易關係の視察上一營の價値あり。此に到るの道は別記海路汽船便(第一二七頁)の外、滿鐵及京奉兩鐵道本線より各支線の設けありて、其の車站は遼河の左右兩岸に相對し(連絡渡航汽艇便あり、河北車站の條下參照)、大連、奉天、北京の三地點よりして左の如き路系を成せり。

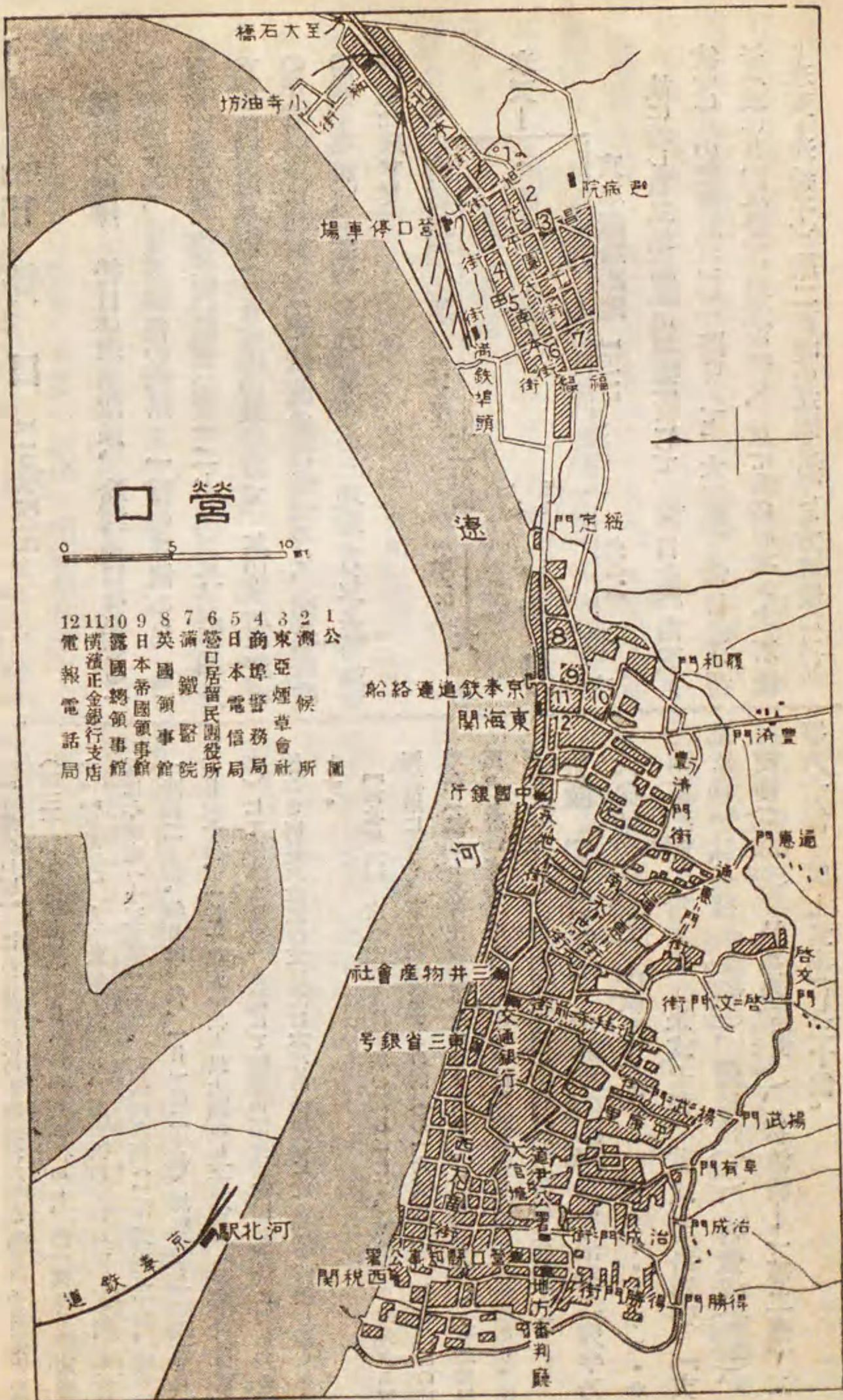


故に若し右三地點間の周遊客にして、營口を經由せむと欲せば其の往復孰れかの一路に於て、大石橋=營口=溝帮子(或は其の反路)の路途を採り、以て其の以北(大石橋=奉天=溝帮子)約二百哩の迂回を避くる方得策ならむ。

【滿鐵營口驛】 は營口新市街の東端遼河左岸に在り。大石橋との間(約三十五分を要す)毎日八回の列車便あり、内一回は長春迄直通す。【車馬賃】 人力車賃一驛より、新市街内十仙乃至十五仙、東營口又は牛家屯へ十五乃至二十仙、西營口各街へ二十乃至三十仙、時間備一時間二十仙、半日四十仙、一日一弗二十仙。馬車賃一時間三十仙、半日六十仙、一日一弗五十仙以上孰れも支那貨幣(總說通貨の頁參照)にて支拂を要す。當地にて所要の諸費用亦同じ。故に若し其の準備なき向は正金銀行支店又は本邦郵便局等に就き豫め兩換し置くを可とす。

【河北車站】 京奉支線營口車站の謂ひにして、西營口の對岸なる遼河右岸に在り。京奉線溝帮子との間(第一六五頁參照)毎日二回の列車便(孰れも本線主要列車に接續す)あり。【連絡小汽船】 車站前埠頭より營口市街の中央なる東海關埠頭迄毎日數回の渡航便あり。航程約二十五分、賃金階上(上等)十仙、階下(並等)五仙を要す。

旅館 【日本旅館】 清林館(新市街)、宿泊料二弗半乃至六弗。滿月(同花)、歐風旅館、スター・ハウス・ホテル(舊市街)、宿泊料一米式七弗、歐式室料四弗。【支那客棧】 祐長棧(舊市街元)、豐順棧(上)、裕豐棧(同永)、同茂棧(同南永)、怡昌和(同元神)、宿泊料一、二等二弗、二等八十仙、同上食事なし三十仙。



料理店 【日本料理店】 武藏野(新市街)。(歐風料理) アスター・ハウス・ホテル(舊市街) 【支那飯莊及茶樓】 滙海樓、大觀樓、富海樓、華盛樓、醉宜樓、以上孰れも舊市街太平康里に在り。

營口概観 營口は一に牛莊とも稱せらる。其の位置は遼河河口より約十四哩の上游左岸に在り。市街は其の彎曲せる河岸に沿ひ西より漸次東北に伸展して、東西里餘に互る一大長帯を成す。

其の東半部は【新市街】にして、其の東端に牛家屯滿鐵附屬地あり(當初の營口車站は此處にありしか、今は貨物支線あるのみ)。新市街は初め我軍政署の創開に係り、爾後我居留民團及滿鐵會社の經營、施設と相俟て、漸次面目を更め整然たる街衢を成せり。現下營口車站附近は邦人官公署を首め、居留商賈の店舗等相櫛比せる處とし、南本街の西端潮水溝(綏定橋のある所)に至り舊市街に接す。

【舊市街】 從來自然の發達に委せられし處として區劃雜然、加ふるに路面の凸凹甚し。有名なる老爺閣は恰も此の舊市街の中央に在り、自ら西營口と東營口との分界を爲せり。西

營口は純然たる支那人街なれど、東營口の東邊即ち東海關(東稅關)附近には外人居留地あり。新市街の西端綏定橋より老爺閣に至る一路は市内最殷賑の區にして、豪商巨賈連營し、百貨輻輳の狀流石に遼東の大商埠たる面目躍如たるものあり。【人口】全市在住支那人約六萬、邦人二千五百、其他諸外國人二百内外なり。

【沿革】 營口は遼河流域の沖積層より成れる地域にして、距今約八、九十年前沿海漁民の一集團を成せるに始まり、因て窩棚又營子の名ありしが、地形の利は自ら爾餘商賈の移住を促し、部落漸く大ならむとするの際、會々西紀一八五八年の天津條約に依り牛莊開港の約成るや、爛眼なる時の英國官憲は水路の利寧ろ營口に若かずと爲し、此に領事館を設けて之に牛莊の名を冠し、以て條約上の通商地と爲し了せり。乃ち一八六〇年清國政府も亦其の開港を認めて、此の地に鎮海營を置き營子口と稱しき(營口の名は蓋し其の略稱より出づ)。當時の營口は陰濕なる陋巷にして、間々無賴群民の跳梁を免れざりしが、後四、五年にして稅關の設置あり、次で又山海關道臺衙門の此地に移さる、や、秩序次第に整ひ、爾來逐年市況殷盛を加へ以て今日に及べり。

郵便電信 牛莊郵便局(日本所管局なり)、日本電信局(5 新市街)、支那郵政局(舊市街三義廟街)、同電報局(同上)、電話は營口南本街)

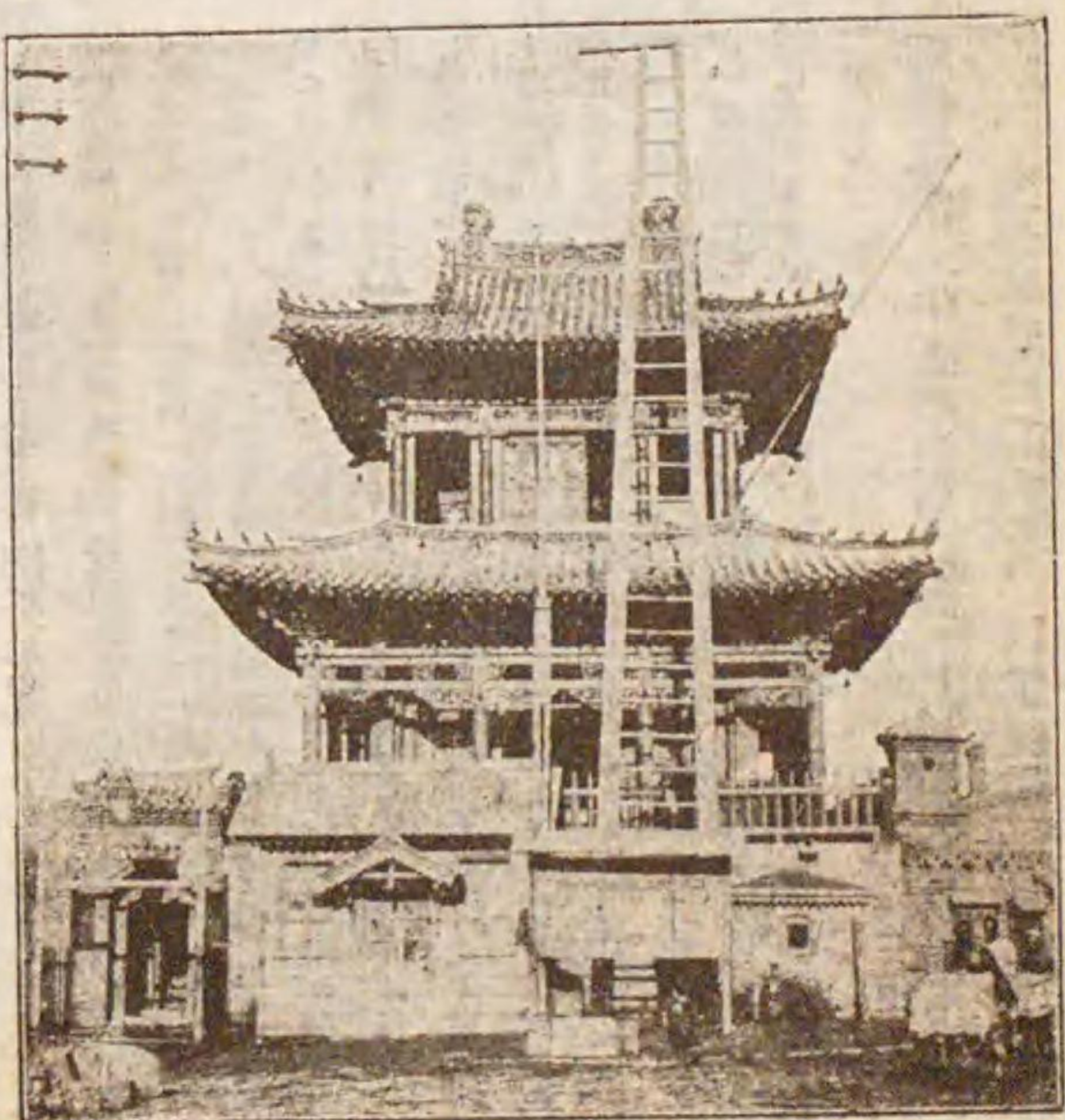
水道電氣株式會社の兼營に屬せり。

各國領事館 在牛莊帝國領事館(9 舊市三、善廟街)、英國領事館(8 舊市三、定門街)、露國總領事館(10 義廟街)、其他和蘭、瑞典、丁抹、諾威等各國の名譽領事館あり。

官公署 日本所管——營口居留民團役所(6 新市街、寶來街)、關東都督府警務署(4 南本街)、測候所(2 青柳街)、支那所管——遼瀋道尹公署(舊市街)、山海關監督公署(舊市元、東三省鹽運司公署(義廟街)、鹽務稽核分所(舊市豐、營口縣公署(舊市道)、警察廳(舊市老、東海關(東營口)、西稅關(關口西端河岸)其他營口審判廳、練軍營、漁業局、稅捐局等孰れも舊市街内に在り。

銀行其他 正金銀行(支(舊市街元)、朝鮮銀行(支(同上)、正隆銀行(支(同上)、道勝銀行 Russo Asiatic Bank (支(同上)、交通銀行(支(同上)、中國銀行(比(同上)、奉天官銀號(東大)、此の他票莊(爲替業即ビル)、銀莊、錢舖(共に兩替業)の類尙多し。

寺廟 日本寺院—本派本願寺(派出(新市街)、淨土宗布教所(花園街)、教會堂—天主堂(和門街)、天主教



營口老爺閣

安立教會 Church of English Mission (舊市街、後街)、耶穌長老會 Irish Presbyterian Mission (同上)、同分會堂(同上)、支那寺廟—天后宮(舊市街)、老爺閣即關帝廟(中央)、禮拜寺(舊市街老、元神廟(東營)、其他三義廟、火神廟、河神廟、清真寺(回教)等の諸寺廟尙多

埠頭

くして、皆舊市街内に在り。

學校 居留民團高等小學校(新市街、青柳街)、實業學校(邦人經營、東營口元街)、國民學校(支那官立、舊市街、雙廟子南)

娛樂場 【公園】營口旭公園(新市街)、營口公園(舊市街、定門街)。

【俱樂部】牛莊俱樂部、中央俱樂部、營口俱樂部(以上孰れも邦人及歐米人を會員とし、居留地或は新舊市街の中間に在り)。

【劇場】營口座(邦人經營、新市街)、裕仙茶園(舊市街、永世街)、群仙茶園(同小平、康里)、紅樓舞臺(同小紅、樓街)、平康茶園(同太平、康里)、德如茶園(同南、新街)。

埠頭 市街地沿岸一帶自ら埠頭を成し、隨處に船貨積卸場の設けあり。其の一般的に使用せらるるものは東營口の海關(外國貿易稅關)埠頭、西營口の鈔關(内地商品稅關)埠頭、滿鐵の營口車站構内及西埠頭等とす。此の邊一帶常水量に於ける水深三十尺内外なるも、下流に淺灘あるが爲、吃水十七尺以上の船舶は高潮時を待て出入するを例とす。一箇年出入港汽船約七百隻、七十五萬噸内外、其他沿海及河川航行戎克の出入數千隻を算すべし。

【汽船航路】 日本郵船の神戸及横濱、北支那線(每

月約八便)、印度支那航業及支那航業兩會社の大連、上海線(各每週便)等(總說交通の頁參照)の外、龍口、天津方面との間にも苦力輸送を主とする汽船便あり。【船舶代理店】太古洋行(支那航業代理)、旗昌洋行(日本郵船代理)、輪船招商營局(出張店)、怡和洋行(印度支那航業會社代理)、東和公司(龍口線汽船)、小寺船舶倉庫部等孰れも埠頭最寄の地に在り。

遼河の水運 遼河は其の本源を蒙古に發し、鄭家屯、三江口、通溝口を過ぎて行々幾多の支流を併せ、開原、鐵嶺、新民府より以下渾河、太子河流域の諸都邑を連ぬる一大水路にして、戎克通航の可能區域は鄭家屯以下の本流のみにて約五百哩、爾餘の支流を合せは約七百五十哩に達すべし。而して此等流域各地の産貨(豆、粟、高粱、豆油、豆粕、獸皮等)の一半は今尙此の水路に由て營口市場に運ばれ、其の代價の大部分は布疋其他の日用雜貨と代りて、各原産地方に分配せらるるを例とし、所用の戎克各地を通して約三千隻と算せらる(鐵道開通前には一萬内外を算せりと云ふ)。

【戎克貿易】 は一種の信用取引とも稱し得べきものにして、其の船

型、積量は通航區域に依り種々なれど、普通には牛船(ニウチユアン)、三十石乃至八、九十石積(ツァオチユアン)、槽船(ツァオチユアン)(五十石乃至百五十石)の二種とし、毎年開河期間(四月乃至十月)盛に流域各地の間を通航す。其の運航業は管船(船主)、把頭(船頭)、其の他の舟夫(掌舵)、掌篙、厨子等の別あり等に依て營まれ、營口への一往復最長區鄭家屯より約三十日、鐵嶺(馬蜂溝碼頭)より二十一日を要す。但し上航と下航とは略々六と四の比例なり。把頭(船頭)は船主に對し運航上一切の責に任ずる外、載貨の賣買に關する貨主の委託を荷み、著船地船店(問屋)に到り載貨を荷揚して、運賃諸掛りの支拂を受くるまで之が宰領たる役目を帯ぶ。斯くて載貨の賣買は經紀房(仲買)に依て處理せられ、更に戻荷を載せて上航す。載貨の危険に對しては鑿局と稱する保險業者あり、兼て上航船貨の周旋をも爲せり。此等の諸機關は奥地農村地方と營口市場との通商關係に一種抜くべからざる楔子を爲すものにして、鐵道開通以來遼河の水運較々衰へたりと雖、尙且營口市場の今日あるは主として此に因由せむはあらず。

【車運】 隨て冬期結氷中、水運不可能となれば戎克に代ふるに大車(即ち滿洲荷馬車)を以てし、各地の農産物を載せて營口に來市するもの多し。是れ亦別に大車店(問屋)ありて載貨の賣却、戻荷の周旋を爲し、以て地方と市場間の需給按排に貢獻する所尠からず。

油房 營口に於ける唯一の工業にして、現在製油工場十二、孰れも新式の機械製油法に依り、作業期間、(約八ヶ月)

を通し一日平均製造能力豆油約十五萬斤、豆粕三萬二千枚、之が原料たる大豆消費量毎日約五千石に達す。主たる油房左の如し。

小寺油房(鐵道附屬、地牛家屯)、源昌油房(舊市綴、定門街)、東榮茂油房(舊市綴、東二道街)、西義順油房(舊市老、爺閣街)、厚發合油房(同上)。其の他の製造工業としては東亞煙草製造所、製紙工場、硝子製造工場等あるに過ぎず。

商業 最近一ケ年の貿易總價額約五千七百七十萬(テール)にして、其の約八割は外國貿易に屬し、他の約二割は内地貿易に係るものなり。而して主なる輸出品は大豆、豆粕、豆油、高粱、粟、柞蠶糸等とし、輸入品は綿糸布類、毛製品、金屬器、麥粉、石油、燐寸、砂糖、石鹼、紙等なり。

主要店舖 三井洋行(舊市老、爺閣街)、小寺洋行(同上)、怡和洋行 *Jardine Matheson & Co.* (舊市綴、定門街)、太古洋行 *Bullterfield & Swire* (北街、西)、西義順(舊市西、大街)、東永茂(二道街)等。又商業機關としては商務總會(舊市南、二道街)、洋商總會(同三義、廟街)、日本實業會(新市、民廟役所内)等の外粵東、福建其の他各地方の支那會館あり。

途路 16 大連奉天間

本區間は南滿洲鐵道幹線の一部にして、大連より奉天迄二四六哩四(乗車賃金一等二圓三三、二等八圓六三)、毎日二回長奉行の直通旅客列車便(奉天迄十一時間餘、長春迄は四三三哩八、約二十時間半、賃金一等二圓七九、二等一五圓二六)の外毎週一回の一、二等急行列車便(奉天迄八時間餘、長春迄十六時間半、孰れも急行座席料一等八圓、二等五圓)あり。而して該急行列車は奉天に於て鮮滿直通急行列車に、長春に於て西伯利急行列車に夫々接續するの便あり。

又大石橋以北の區間には毎日一回營口長春間の直通旅客列車便もあれば途中適宜の地に下車の後、前途之に乗繼ぐことを得べし。本區間に於ける途中乘繼驛は臭水子、金州、普蘭店、瓦房店、熊岳城、蓋平、大石橋、海城、湯崗子、鞍山站、遼陽、煙臺、渾河等にして、其の多くは日露大戰當時著名の戰蹟地たると共に、沿線郡邑、産業地、探勝地、或は保養地としても亦夫々旅客の鑑賞に値すべきもの尠からず。就中湯崗子の温泉と千山の探勝は一般旅客に取りて最も興味多かるべし。

汽車大連を發して西走すること須臾、其の方向漸く西北に轉せむとす處、臭水子 *Chou-shui-tzu* (五哩以下準之) (大連驛より)あり。旅順に至る旅客の乗換驛にして、附近に【小野田セメ

ント製造工場】あり。滿洲唯一のセメント工場にして、年産額二十五萬樽と稱せらる。驛北三哩弱にして信號所のある處は即ち旅順支線の分岐點なり。之を過ぎて以往線路次第に北東に轉ずる處南關嶺 *Nan-kwan-ling* (九哩)あり。附近は南山陷落後我奧軍の急追撃を以て露軍後衛を惱ませし戰蹟地たり。又舊時李鴻章の築きしと云ふ【狼煙臺、大煙島砲壘】等の殘影も附近里許の間に在り。

是れより大房身 *Ta-fung-shen* (七哩)に至る七哩六の間は所謂金州地峽の最狹窄部にして、路程の一半は百分一の上り勾配を以て攀行しつ、金州、大連兩灣の海面を左右間近に展望するを得べし。大房身車站より東南に走る一支線は手押車に頼りて柳樹屯に至り(一人賃金一五錢)、以て本線旅客列車との連絡に便せらる。

金州 *Chin-chou* (三哩)、旅館—凱旋亭(宿泊料一圓) 明代以來遼東控制の重鎮を以て目せられし古城市にして、東に峨々たる大赫山(一名大和尚山)を控へ、西は渤海の金州灣に面し、南の方南山(別名扇子山)と相對して半島地峽の咽喉を扼するの位置を占む。

【金州城】驛の西北二十五町（幌馬車一人賃金十錢）にあり。明の洪武年間（約五三〇年前）古城を修め衛城と爲してより爾後久しく倭寇防備の首城たりしが、今の城廓は清朝乾隆三十九年（約一四四年前）の重修に係り、周圍三十餘町、四方各一門を通ず。過る二大戦役に際し、此の城亦我軍攻撃目標の一たりしかば、當時の慘劇を偲ぶべきもの尠からず。就中其の著しきは東西二門にして、門扉其の他に今猶彈痕・破壊の跡を認むべし。城内は整然たる街衢を爲し、今や我民政署の管下に在りて、民屋、商舖軒を連ね人口約九千、車站附近を合して一萬四千餘を算す。尙ほ城の内外には明代の遺蹟を存する寺廟等の外、大連民政署（金州城）、郵便局（城）、金州苗圃（關東都督（東門）府の直轄（外））、中國海關監視所（金州車站）其の他小學校、公學堂等あり。

【南山】驛西十餘町（馬車賃八錢、城内より十五錢）より南方に蜿蜒たる一帯の高地にして、旅大半島攻守策戦上の鎖鑰たるを以て又是れ日露役に於ける激戦地の一たり。丘上に我戦死將卒の鎮魂碑及露軍戦歿者の記念碑ありて、甲客常に絶えず。故乃木將軍「金州を過る」に際し一絶を賦す。

山川草木轉荒涼、十里腥風新戰場。

征馬不前人不語、金州城外立斜陽。

【大赫山】別名を大和尚山又老虎山と云ふ、驛の東方約二里に在り。鳳凰山、肖金山と共に一脈三峯を爲す。其の主峯即ち大赫山は海拔二、一〇〇尺、半島中の最高地にして、山上高勾麗時代の古城址あり。唐太宗が高麗征討の途次駐蹕の遺跡を以て名あり。肖金山は我南山攻撃の際奥軍司令部の置かれし處として知らる。又山中諸所に勝水寺（觀音閣）、石鼓寺（唐王廟）、響水寺、朝陽寺あり、孰れも明代以前の古刹にして相應の由緒あるもの、如し。山容景致の賞すべきは東北斜面に在り。

【三崎山】城北門外の高地にして、日清役の初頭我陸軍通譯鐘崎（三郎）、山崎（羔三郎）、藤崎（秀）等三志士殉節の跡に因る名なり。山上碑あり、展望濶くして城内外及金州灣の風光を一眸に收むべし。

金州より前途、我鐵路は大和尚山の尾脈相連なる隘路を縫ひ、其の二十里臺 Erh-shih-t'ai (二八哩) に至る間可なりの急勾配を上下する所あり。夫れより三十里堡 (三〇哩) 舊時の面目なく、現今我金州民政支署の管下に屬し製鹽業を以て著する。其海岸一帯の街衢を老龍廟街と稱し、人口八千二百餘を有す。鹽田の所在は東老灘、夾心子、碧流河等數箇所にありて其總面積約二千五百町歩、年産製鹽約九萬石を出せり。

汽車普蘭店を出で、其の背面丘陵を北に繞れば田家 Tien-chia (五六哩) あり。一寒村に過ぎざれども復州産鹽の搬出多きを以て支那鹽務局の設置あり。前途約七哩にして瓦房店に達す。

瓦房店 Wa-fang-tien (六五二) 森田旅館 (宿泊料一圓半乃至四圓)

西方約十里に復州あり、此の方面との交通捷路に當れるより、東清鐵道時代既に本線中三大驛の一として大規模に設計せられしが、滿鐵其の後を承けて經營を進め今や一新市街を形成せり。附屬地及隣接支那街を合して人口約三千を算す。市内に、警務支署、守備隊、郵便局、滿鐵醫院、地方事務所、保線係、電燈會社等の外、支那巡警分局、稅捐分局、鹽務局等あり。

【復州】隋唐以來高勾麗征旅の要路に衝る城市たりしも、土地偏僻にして今や市況甚だ振はず、人口約五千、知縣公署の所在地たり。唯城西七里餘に渤海東岸の海港娘々宮ありて、附近一帯の海濱地より天日鹽（年額三十萬石）の産出あるに由り其の名今に著る。

shih-li-pa (三四哩) へは百分一以内の下り勾配なり。此の邊沿線一帯は日露役の當年金州攻撃の準備戦ありし處にして、三十里堡の北約三哩なる龍口は我鹽大澳上陸軍の一部が旅順の後方連絡を斷絶せしむべく、第二回目的鐵道破壊を決行せし處なり。次に到る石河 Shih-ho (四五哩) は昔時倭寇警備に資せられしと云ふ古城址あり。

普蘭店 Pu-lan-tien (四四哩) 旅館一二島館、杉山館 (宿泊料一圓乃至四圓)

我關東州租借區の北端（其の境界は驛北二哩餘に在り）にして西はアデリース灣に由り渤海に通ずべく、又陸路復州と相對し、東は貔子窩に至る要路を占む。元一小村落に過ぎざりしが、近時我民政の下に著しく發展して、人口三千七百餘（近郊地を含む）の小市街を成せると共に製鹽、油房等の起業をさへ見るに至れり。金州民政支署（出張所）、郵便局、守備隊、中國海關（監視所）、大日本鹽業會社（製鹽工場）、遼東銀行支店等あり。

【貔子窩】車站の東方約十里の海岸に在り（乗合馬車賃八十錢、六時間餘にて達す）。黃海沿岸の或克貿易港として大東溝、大孤山等と並び稱せられ、曾て一時は年額百三十萬兩以上の輸出入ありしも今は

瓦房店以北線路は回頭河に沿ひ、王家 Wang-chia (七〇

里)を経て得利寺

Ta-li-szu (七五里)に至る間沿路最も平坦なり。

王家驛の北方龍王廟の所在を以て知らる、丘陵附近は曾て得利寺會戰の際、彼我兩軍の龍攘虎搏せし激戦地なり。

又得利寺背面の龍潭山は行樂、觀戰執れにも恰好の高地なれば、當時露軍の南部兵團司令長官スマケルベルグ將軍

が此の地に駐營せしも以なきにあらず。是より前途汽車は暫く復州河に沿つて北東走し、松樹 Sung-shu (八二里)を過ぐれば

左右丘山逶迤たる山路に入り、萬家嶺 Wan-chia-ling (九〇

里)より以往窓外別に一水の北流するものと相絡みつ、許家屯

Hsu-chia-tun (九四里)、九寨 Chiu-chai (一〇四里)を経て

熊岳城に至る。

熊岳城 Hsing-yao-cheng (一一〇里)、旅館—温泉ホテル

乃至四圍)車站の西方十餘町に高く壁廓を繞らせるもの

即ち其の【城市】にして、地は東南一帯山を負ひ、西は平野

を隔て、渤海に瀕し、一水其の南側を貫き海に入る、是を熊岳

河とす。城は遼金以來渤海防禦の重鎮として知られ、周圍二

十五町、東北の二門を通じ其の十字街を主要區とし、商賈櫛

比して較ぶ市街の體裁を爲せり。附屬地を合して人口約五千

五百を算す。附近住民は農業、果樹園等を營み、紅梨の産

出を以て名あり。又海濱漁業地には黄花魚、鮫魚等の漁獲

尠からず。官公署には守備隊、郵便局、滿鐵地方事務所

出張、産業試験場(以上附屬地)、税捐分局、漁業局(以上

城内)等あり。

【熊岳城温泉】驛の東南二十餘町、温泉旅館まで手押

輕便鐵道(十錢)あり。温泉場は俗塵を離れたる眺望秀麗の熊

岳河畔に位置し、或は釣し或は砂を穿ちて所謂砂浴を試み得

べし。ホテルは洋館にして和洋兩様の客室三十餘あり。泉質

は無色透明アルカリ性を帯び、泉源の溫度平均攝氏五十

度なり。入浴料一日五錢、貸間料一日二十錢乃至四十

錢、宿泊客には前記規定料の外、下宿料座敷料共三食付

一日金一圓の定めあり。

【成家の梨園】驛の南方十四五町(温泉ホテルより約一里)、梨樹林

を成すこと二千餘株、春は花雲簇々として雪を欺き、秋は紅果

枝頭に滿ちて美觀言はん方なし。遊覽客は梨園に逍遙して黃

旗山に登臨するを例とす。

【黄旗山】成家梨園に接する一小丘にして、寶泉山又は

松林とも呼べり。松樹參差恰も人工の庭園の如し。丘上關

帝廟あり。渤海の碧波漂茫たる間に漁舟の點々たるを望み得べ

し。【望兒山】驛の東方に孤峙し、山頂に一浮屠あり、其の狀

孤島の燈臺を望むに似たり。傳へ言ふ往昔一寡婦、其の兒渤

海を渡りて進京し月を経て還らず、寡婦晝夜思慕して忘る能は

ず、遂に此岩頭に悶死す。【望海寺】驛の東方二里青龍

山頂に在り。山は老松龍の如く蟠り、泉聲其間に咽び宛然

一仙境を爲す。山中又喇嘛洞、羅漢峰、將軍石等の奇勝

あり。

熊岳城以北線路の左側は渤海岸に沿ひ、小高き丘崗の處

々點綴するあれども路途極めて低平なり。蘆家屯 Lu-chia-tun

(二二五里)は往昔の所謂蘆州にして、附近に高勾麗時代の古塚

多く、埴輪類の發掘せらる、もの尠からず。沙崗 Sha-kang (三

三六里)亦一寒村に過ぐれば花崗石材の産出あり、建築用

材として各地に搬出せらる。次で到る處を蓋平と爲す。

蓋平 Kai-ping (一一〇里)古の蓋州の地にして、唐代以來

東征軍路の要衝たり。最近二大戦役に際しても亦多少の戦闘

あり。野獸の一種にして柞樹の嫩葉裡に放養せられ、其の産繭より

得たる絲は絹綉又は天鵝絨類の製織に好適す。柞蠶放養の適地は蓋

平、海城、岫巖等の附近山地に多く、蓋平界限にては蓋平河の流域諸

村より出づるもの約四千把剪子なり。一把剪子とは地積約二反乃至四

反歩に對する收繭量を指すものにして、之に植栽する柞樹は四千乃至

六千株とし、二十萬乃至三十萬の蠶兒を放ちて十萬顆内外の繭を得べ

きに因り、年産總收繭額約四億萬顆に上るべし。而して其の收繭は春秋

二期とし秋繭最佳良なり。繭は各産地にて製絲せらるゝを以て處々に

あり。斯くて其の生絲及屑絲は營口、大連を経て各地に輸出せらる。

蓋平の北方十一哩餘に太平山 Tai-ping-shan (一一〇里)

あり。車站の西方平野に孤立せる小丘にして、日清戦役の際

乃木旅團が清軍と激戦せし處なり。又驛北約一哩に在る牛

心山は日露役大石橋戦闘の際、敵軍團の一據點たりしを以て

ホアステーション

【黄旗山】

成家梨園に接する一小丘にして、寶泉山又は

松林とも呼べり。松樹參差恰も人工の庭園の如し。丘上關

帝廟あり。渤海の碧波漂茫たる間に漁舟の點々たるを望み得べ

し。【望兒山】驛の東方に孤峙し、山頂に一浮屠あり、其の狀

孤島の燈臺を望むに似たり。傳へ言ふ往昔一寡婦、其の兒渤

海を渡りて進京し月を経て還らず、寡婦晝夜思慕して忘る能は

ず、遂に此岩頭に悶死す。【望海寺】驛の東方二里青龍

山頂に在り。山は老松龍の如く蟠り、泉聲其間に咽び宛然

一仙境を爲す。山中又喇嘛洞、羅漢峰、將軍石等の奇勝

あり。

熊岳城以北線路の左側は渤海岸に沿ひ、小高き丘崗の處

々點綴するあれども路途極めて低平なり。蘆家屯 Lu-chia-tun

(二二五里)は往昔の所謂蘆州にして、附近に高勾麗時代の古塚

多く、埴輪類の發掘せらる、もの尠からず。沙崗 Sha-kang (三

三六里)亦一寒村に過ぐれば花崗石材の産出あり、建築用

材として各地に搬出せらる。次で到る處を蓋平と爲す。

蓋平 Kai-ping (一一〇里)古の蓋州の地にして、唐代以來

東征軍路の要衝たり。最近二大戦役に際しても亦多少の戦闘

名あり。驛の西方二里内外なる渤海岸は所謂營蓋鹽の産地にして藍旗、黄旗の二鹽廠あり。

大石橋 タシヒチヤオ Tashih-chiao (一四八哩)、旅館—梅廼家) 營口

支線(第一二三頁)への乗換驛にして、元は營口岫巖街道の一宿驛に過ぎざりしも鐵道開通後次第に殷賑を加へ、附屬地内人口約千六百、隣接村落を合すれば二萬一千餘を算すべし。

【官公署】 警務支署、守備隊、憲兵隊、郵便局、滿鐵地方事務所、滿鐵醫院、保線係、車輛係、小學校(以上附屬地)の外支那鹽務局^{出張}、郵政局等あり。

【手荷物】 車站構内に其運搬夫あり。【構内食堂】 和洋食、支那食の二部に分かれ隨時需めに應ずべく、又其の階上には寢室(日本間數室)あり、寢具料一人前五十錢を以て夜間休憩、宿泊に便す。

【娘々廟】 驛の西南三十町餘、迷鎮山上の古刹海雲寺内に在り。趙公明の三妹(雲霄、避霄、環霄)を福壽、治

眼、授兒の三女神として祀り、遠近土俗の歸依する者多く毎年陰曆四月十六、七、八の三日に亙る會式には參詣者數萬に上り、諸種の賣店與行物等、山腹山下に市を成すと云ふ。

大石橋を後にして北行四、五哩に分水 フオンシクワイ Fen-shui (一五哩

あり。東の方岫巖方面より蜿蜒西走せる丘脈は驛の北方

二哩餘にして渤海、遼河の兩斜面に分界せらる。之を越ゆれば

他山 タイヤン Tashan (一五八哩)にして、其の前途十哩の地は海城

なり。

海城 ハイチヤオ Hai-cheng (一六八哩)、旅館—翠香花壇、紅葉

宿(料八十錢) 遼代の所謂海州の地にして、岫巖を経て朝鮮に乃至二圓五〇) 遼代の所謂海州の地にして、岫巖を経て朝鮮に至る舊官道の要衝たり。【城市】 驛の東方十町許に在り。城壁は丘陵に據て繞らされ、海城河の流れを引て自然の壕となせり。四方各一門の外小南門あり。東邊丘陵の孔子廟附近を

公園とし四民行樂の地となす。城内及鐵道附屬地を合して人口約一萬五千を有せり。官公署の主なるものを擧ぐれば砲兵聯隊、守備隊、憲兵隊、陸軍衛戍病院、郵便局、滿鐵地方事務所^{出張}(以上附屬地)、海城知縣公署、警察署、郵政

電報局、税捐局(以上城内)等とす。

【柞木城】 城の東南數里に在り。日露役の際我第四軍が露軍二十八大隊を撃破せし處、當時露軍の據點たりし紅窰嶺は三陵(福陵、照陵、永陵—第一〇三、一〇四頁參照)瑠璃瓦の産地として有名なり。

次驛 ナシクタイ Nan-tai (一四四哩) を過ぐれば聽て湯崗子なり。
湯崗子 タウカウツ Tang-kang-tzu (一八一哩)、旅館—清林館溫泉場) 古來溫泉湧出地として知られ。又千山探勝の要路に當れるを以て漸次著名となれり。

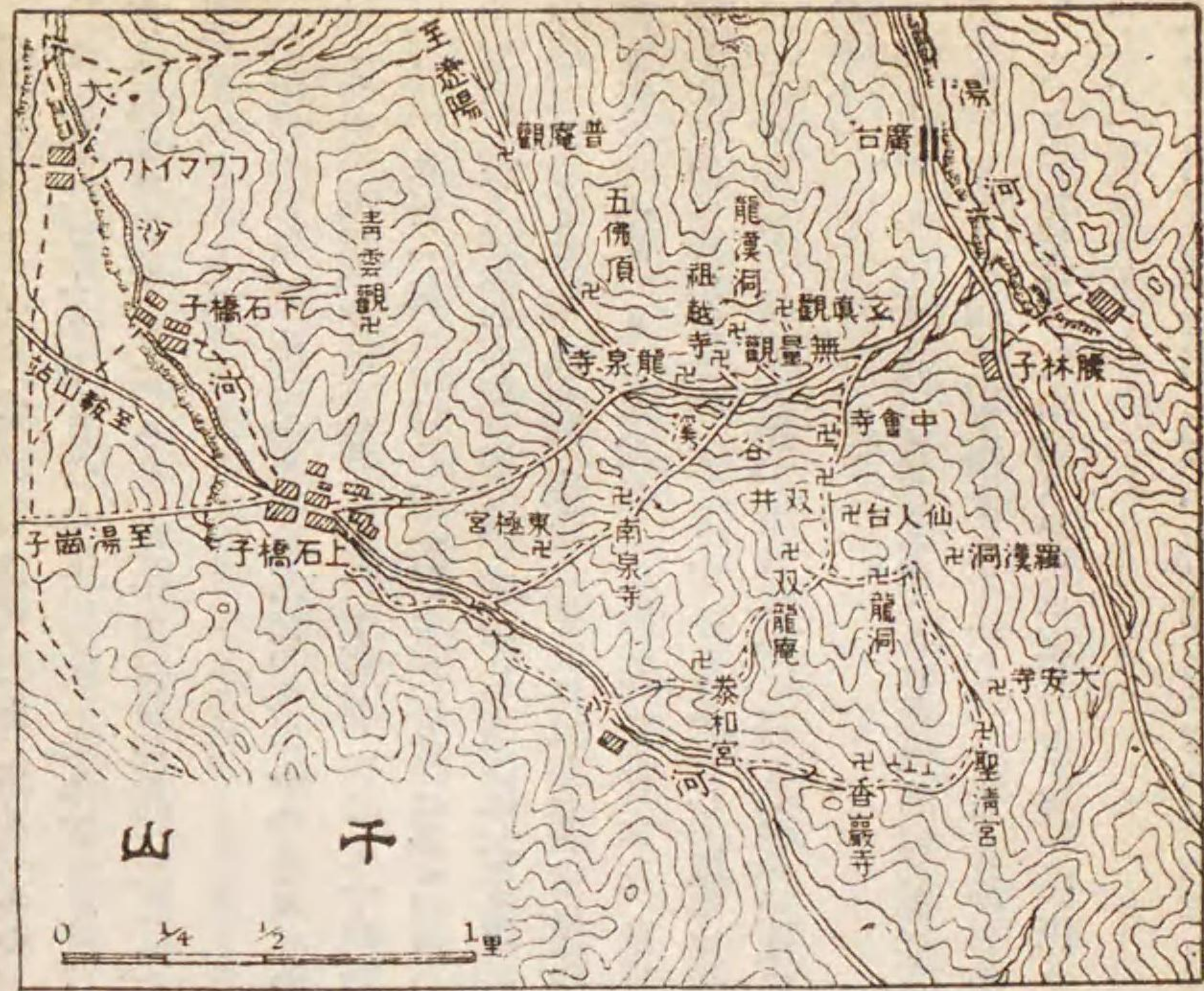
【湯崗子溫泉】 車站の東北約四町、徒歩十分時内外の地に在り。溫泉場は清林館(宿泊料—席料一日五十錢乃至五圓、食料一食三十錢乃至一圓半)の經營に係り四邊の眺望雄大なる地點を占む。浴室、客間とも瀟洒にして電燈其の他の設備よく整ひ、庭園、池塘の外或は溫室を設けて四時花卉妍を争ふ等、凡て内地の溫泉場に毫も遜色なし。泉質は無色透明の亞爾加里性にしてラヂウムを含有し、溫度は攝氏七十三度半、佝僂質斯、慢性濕疹、婦人病等諸症に效能あり。

【千山】 チエンシヤン 千山は遼西の醫巫闔山と共に滿洲名山の雙壁と稱せらるゝもの、湯崗子の東微北五里に在り。車馬行程五時間にして山麓に達す。鞍山站よりは正東四里と稱せと湯崗子より登山する旅客多し。

【探勝順路】 未明に湯崗子を發し、道を上石橋子(約四里)に採りて



千山無量觀



(此村の茶店に車馬を托し置き)夫れより一二の山嶺を越え、龍泉寺を
經て祖越寺、無量觀(累計約五里)に到りて歸路に就く(往復約十里)、
是を日歸りの行程とし、略々其一斑を窺ふすべし。馬車賃金二圓五十
錢、案内者一圓五十錢。

若し又山中一泊の覺悟ならば山麓の上石橋子村に至り、之より一二
の山嶺を越えて右に南泉庵、左に普安觀を巡り、龍泉寺を經て祖越寺、
無量觀に至り、更に中會寺(約五町)の溪谷に入り羅漢洞の嶮を攀ぢて
大安寺(中會寺より約一里四町)の背後に出で、通明天の山腹を繞りて
聖清宮を過ぎ、香巖寺(大安寺より約十五町)を訪うて歸途に就け
ば、千山の探勝略々盡せりと言ふべし。(累計往復約十四里)。

【河流と登山路】 千山に發源する三河流(鞍山河、大沙河、湯河)あ
り。鞍山店よりする者は鞍山河に沿うて溯り、遼陽よりする者は首山
の南麓より大沙河に沿ひ七嶺子を経て祖越寺に出づ。大安平よりする
者は湯河沿を經て大安寺に出づ。二河孰れも清淺洶すべく、且其の流
域各々温泉ありて、湯崗子最も著はれ、湯河沿之に亞ぎ、七嶺子は今
や湧泉乾涸して知る者稀なるも史上に名高きは此の七嶺子温泉なり。

千山の風光は四時佳ならざるなし。春は梨花霞の如く、夏は
新綠滴るが如く、秋は滿山錦に包まれ、冬の雪景亦畫圖の觀
あり。山中溪谷の數四十八、奇勝百景と稱す。溪壑羊腸と
して奇巖怪石樹根と相擁し神劍鬼削殆ど極りなく、巨刹僧
房翠微に倚り、松風蘿月眞に塵外の仙寰なり。

【溪山勝景】 中最も賞すべきは蓮花、月芽、獅子、彌勒、
淨瓶、孟鉢、海驪、漱瓊、松苔、上夾、下夾、筆架等の諸峰に
して每溪必ず寺觀あり。佛寺は概ね宋の景德年間(從一〇〇四年
の創建に係り、又他の道教宮觀二十餘基は清朝の乾隆年間
(從一七三六年至一七九五年)に至りて建立せられしものに係り、歷代皇帝の聖
壽無疆を祈願せしむる所及朔方鎮守の祭壇となす。

【五大禪林】 香巖、祖越、龍泉、中會、大安の五寺にして、
就中龍泉寺其の巨擘たり。但建築の古雅は大安、中會の二
寺を推すべく、此の兩者間の懸崖には羅漢洞の奇勝あり。又祖
越寺背後の斷崖には「獨鎮群嶽」の刻字あり。香巖寺畔には
唐の太宗建する所の古碑あれども其の文今は讀むべからず。同寺
畔千仞の斷崖上には仙人臺あり、是れ千山の最高頂にして神
仙傳中九仙圍棋の石秤あり。

【宮觀】 無量、圓通、青雲、普安、慈祥、鳳朝、雙龍、保
珍、三清、玄眞の十觀、洪谷、南泉、龍泉、木魚の四庵、五
龍、朝陽、太安、泰和、東極、斗姆、聖清の九宮あり。就中無
量觀は規模最も宏壯にして居然巖頭を覆壓し、且其の雄峻
奇拔なる山水の景致略々龍泉寺と相若けり。

其の他の名勝としては臥象、獻寶、鵝鷓、歇仙の四台、太
極、煉霓、鸚鵡の三石、石佛、斤名、花巖の三巖、玉皇、
萬佛、觀音の三閣、松門、西湖の靈井、濯纓、振衣、岡松、
石屏等の奇景、絶勝殆ど枚擧に遑あらず。山中の寺は皆數
頃の山林と若干の梨樹園とを有し、信徒の喜捨を仰がずして獨
立自營す。滿洲の名産たる醃梨は即ち千山寺領の産なり。

湯崗子より北向して間もなく、右側窓外に見ゆる鞍山河の
流れを逐ひつ、其の一支水を渡れば鞍山站 An-shan-eh-an
(一八七哩)あり。地は遼陽南面の天嶮として昔時關門のありし
處、驛の北方舊堡に其の古城址あり。日露遼陽戰の當時
露の前進陣地を此に置きしも亦以なきにあらず。今の鞍山站は
人口一千餘の小市邑にして、千山街道の一宿驛たるのみ。

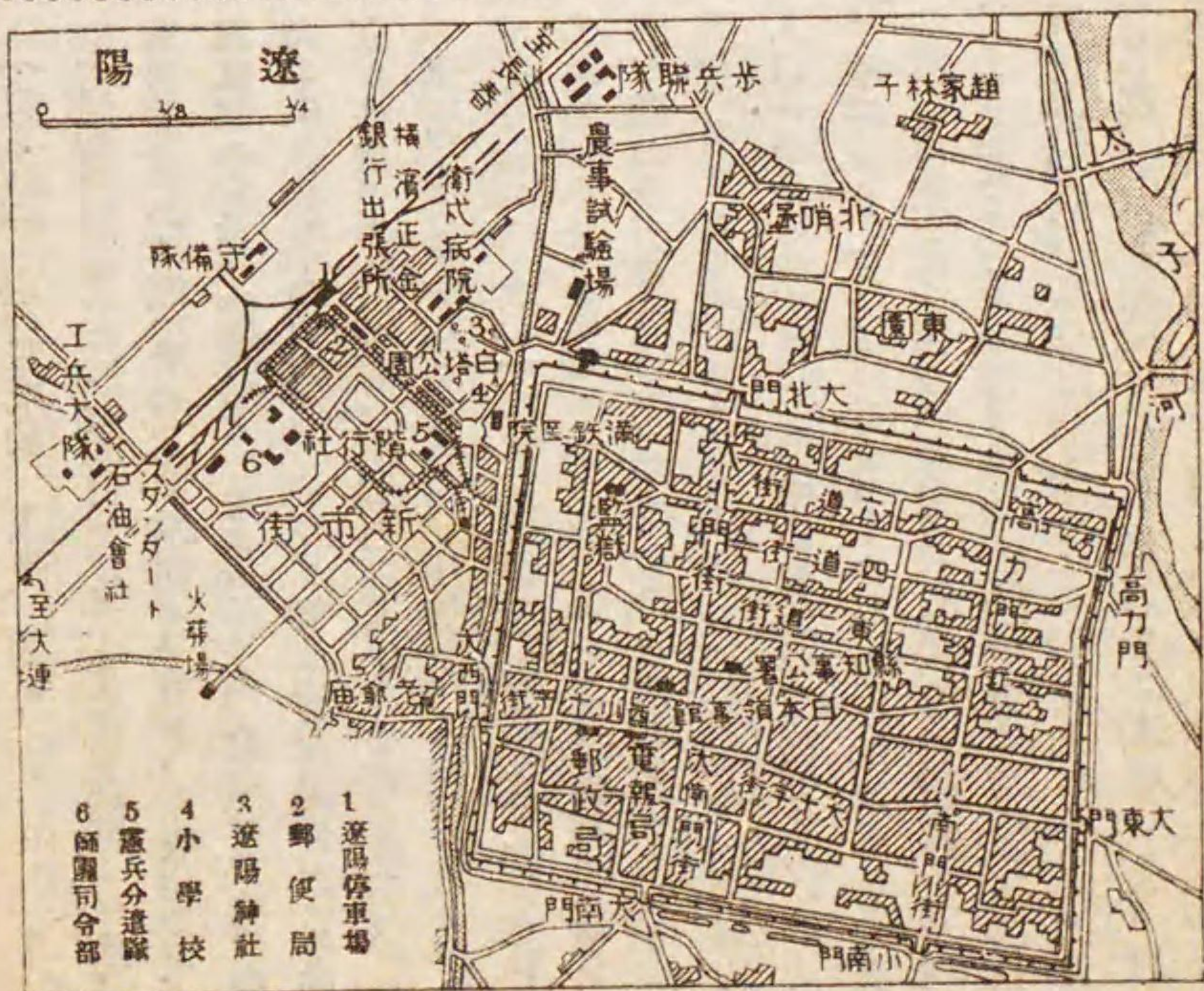
次で立山 Lishan (一九五哩)あり。驛西約二里半なる大
沙河右岸の大邑立山屯に至る通路に當れり。立山驛より北進
すること須臾にして大沙河を渡れば、驢て前方右側に首山の丘
頂を指顧すべし。是れ日露遼陽戰に於ける彼我攻防の鎖鑰地
たらし處、其の西南麓に馬伊屯 Ma-i-tun (一九七哩)あり。戰
塵の跡偲びもあへず驢て遼陽に到る。

遼陽 Liao-yang (110公里)

【到着】 大連より七時間乃至九時間半(賃金一等一〇圓三二、二等七圓二三)にて達す。【構内食堂】にては和洋食を調理し、列車の著發毎に酒菓煙草等を呼賣す。【手押輕便鐵道】車站と城内間延長五哩ありて隨時貨客の運搬に便す。賃金車站より城内領事館前(終點)までを二區に分ち一區四錢。【馬車賃】車站より附屬地内一輛(二人乃至三人乗)二十錢内外、同上附屬地外三十錢乃至四十錢。【人力車賃】車站より白塔附近迄五錢、日本町中央迄八錢、西門附近迄十錢、北門十五錢、南門二十錢、東門二十五錢とす。

旅館 遼塔ホテル(驛より五町)、油屋、富久屋等。宿泊料一圓半乃至四圓。

市街概観 城市は車站(1)を距る十町に在り。東西二十五町、南北十八町の城壁を廻らし、六門を開きて内外の通路とす。車站より城の西門に達する一帯地は鐵道附屬地にして邦人の市街を成し、城内も亦此の一路東西に亘り大小商賈櫛比し行客常に絡繹たり。由來此の地は大豆、高粱、豆粕、豆油、小麥、粟等の産額多く太子河の便によりて營口に輸出せしめ、今は鐵道の便開け大連に出づるもの少からず。木材は



太子河の流れを下りて此地に集散す。城内及城門外西關北關を合せて三千餘戸、人口三萬五千餘なり。

【沿革】 此地亦滿洲舊都城の一にして其の繁華奉天に亞けり。往古湯虞時代(紀元前千四、五百年)には禹貢青州の城と稱し、其後高句麗の版圖に歸し高麗城を築き、清朝に至りても都を此地に定めし事ありしが、後奉天所屬の州城となり以て今日に及べり。

官衙其他 附屬地には師團司令部(6)及兵營、憲兵隊(5)、衛戍病院、工兵隊等陸軍諸官衙、遼陽警務署、郵便局(2)、電報局、滿鐵醫院、各學校及日本帝國領事館、其他英人經營の基督教會、佛人經營の天主教會、橫濱正金銀行出張所等あり。

勝地 【白塔公園】 驛東五六町、附屬地内に在り。東漢時代の古刹廣祐寺の遺跡にして、有名なる遼陽の白塔は境内の異彩たり。高二百三十餘尺、八菱形の十六層塔にして周圍に佛像を刻せり。建築の年代詳ならずれど高勾麗以後の築造に係り、凡そ一千年以上を経たるものなるは疑ひを容れず。廣祐寺伽藍は過る戰役の兵火に罹り、今は唯大小二座の鑄銅佛空しく風雨に曝され、を見るのみ。其の境内一帯地は今や公園として經營せられ、樹石の安排漸く風致を加ふ。

遼陽

【東京陵】 驛の東北約一里半、新城の北に在り。清祖創業の際勳功多かりし莊親王以下數貝勒の塋域にして、丹壁丘を繞る處松翠鬱蒼たり。此に登れば太子河、其の脚下に流れ遼陽城を前方に俯瞰すべし。新城は今や廢墟を留むるに過ぎざれど是れ清祖經營の別城なり。其の他城外各處に互の關帝廟、東會寺、西會寺、孔子廟、玉皇廟、城隍廟等あり。此等は孰れも概して明代以前の建築物なりと云ふ。

汽車遼陽を出で、間もなく、太子河の鐵橋を渡れば張臺子(Chang-tai-zi) (三三三)あり。驛の南東半里の羅大臺は石材、石灰等の産地として知らる。同邑の西側一帯に蜿蜒たる丘陵は龍王頂山とて、遼陽會戰の當時我黒木軍の側背旋回運動に對し、露軍主力の退却掩護陣地と爲せし處、又當時の激戰地の一たる黒英臺も其の附近に在り。

次で到る煙臺(煙臺) Yen-tai (三三三)は往時警報用の狼煙臺ありしより此の名あり。又其の村落は日露兩軍の沙河對陣當時我滿洲軍總司令部の置かれし處なり。【煙臺炭坑】 驛の東方約十哩に在り、驛より運炭用支線ありて坑口磨臍山に達す。其の炭田は東西約十三町、南

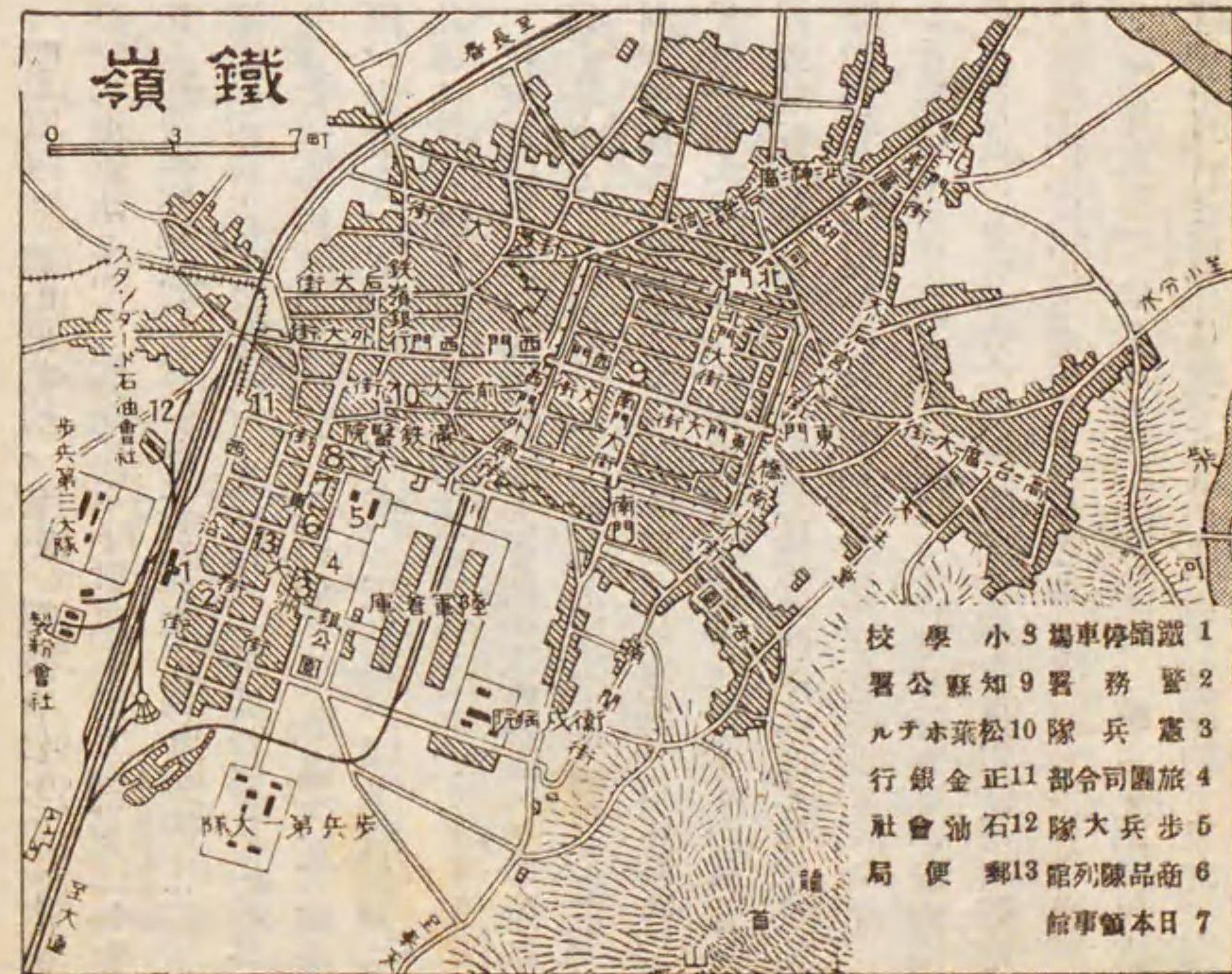
北五十町に互り、豫測炭量約二千萬噸、炭質は亞無煙炭にして毎日三百噸内外の出炭あり。此の炭坑は今を距る一千餘年前高勾麗人李某の發掘に係り、清朝以後其の子孫「龍票」を得て之を世襲せしが、曩に東清鐵道に買收せられ、後滿鐵に歸屬したるなり。坑口なる磨臍山と相並び石礪山、三塊山等の高地あり。孰れも沙河戰當時の戰蹟地として知らる。沙河(Shah-ho) (二三哩九) 日露兩軍の滿洲冬營中彼我戰線の中間に横はる天塹として知られし河流にして、驛北の鐵橋附近は互に襲撃を繰返し、處、又車站附近は敵砲火の集注點たりしを以て屢々敵彈を受け慘狀甚しかりきとぞ。萬寶山、十里河、黑溝臺等著名の戰蹟地尙此の附近に多し。蘇家屯(Su-chia-tun) (三六哩七) 撫順支線への分歧點(撫順行の旅客は當驛にて乗換を要す、第一〇四頁参照)にして沙河對陣中露軍は此の地を以て全軍の集合地と爲し、驛の西北渾河左岸なる莫家堡其他との間に軍用鐵道を敷きて、兵員其の他の輸送に便したりと云ふ。(現在の滿鐵本線は大連より當驛) (迄複線にして其の以北單線なり) 更に行くこと四哩餘にして渾河(Hun-ho) (四二哩)あり。又北行須臾にして渾河本流の鐵橋を渡れば間もなく奉天に達すべし。

途路 17 奉天長春間

附吉長沿線

奉天より長春迄一八九哩四、賃金一等九圓四七、二等六圓六三、八時間乃至十時間にて到達すべく、毎日二回(大連、營口よりの)直通列車便、又毎週一回(釜山、大連よりの)直通急行列車ありて、孰れも長春に於て東清線(哈爾濱行)、及吉長線(吉林行)列車に接続す。【途中乗繼驛】本區間中鐵嶺、開原、昌圖、四平街、公主嶺、范家屯の各驛にては途中下車して前途他列車に乗繼ぐことを得べし。

汽車奉天を出で、左に北陵、右に東陵よりの續く丘坡を見渡して、北行すれば程なく文官屯 Wen-kuan-tun (二五哩五—大連より)あり。是より以北沿線東側には尙ほ長白山脈尾の丘陵斷續起伏せる處あれど、其の西側一帯は所謂遼河の平原にして、茫漠たる草原或は農圃の間、處々支那部落の點綴せるを見る外殆ど眼界を遮るものなし。行々虎石臺 Hu-shih-tai (二三哩三)、新城子 Hsin-cheng-tzu (二六哩九)の兩驛を過ぎて、新臺子 Hsin-tai-tzu (二五哩二)に出れば驛東の丘脚に昔時軍路の要驛懿路市あり、日露の奉天戰以後較久しく我野津軍司令部の在りし所として知らる。更に北走七、



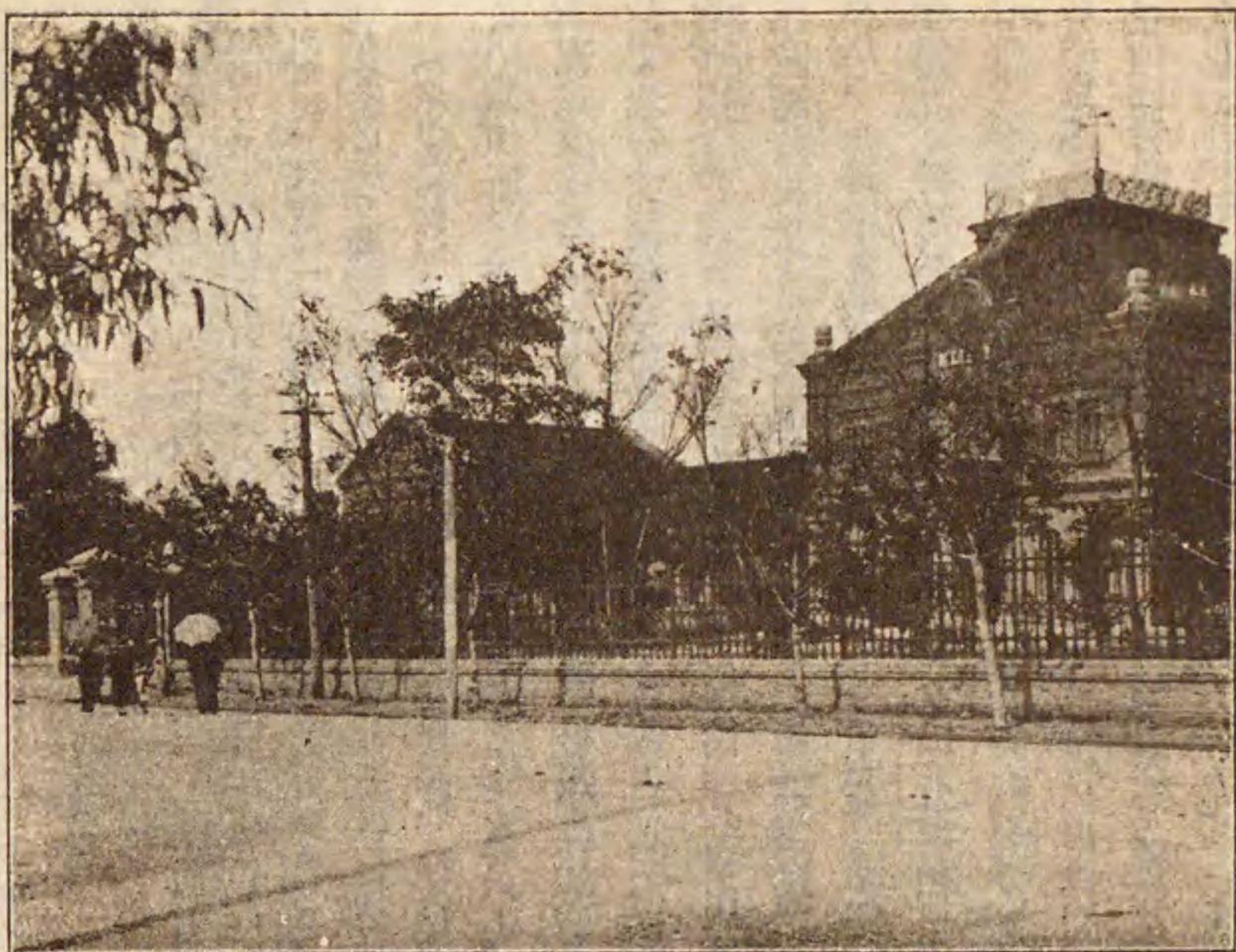
八哩にして、當時黒木軍の一枝隊が奉天より敗退せる露軍を此に急迫壓迫したりと云ふ大范河(大范河)を渡り、其の左岸なる得勝臺(Te-sheng-tai) (二八哩)を過れば聽て鐵嶺なり。

鐵嶺 T'ieh-ling (大連より二九〇哩八) (長春まで一四五哩〇)

【到着】車站(一)構内に【運荷夫】あり、毎個賃金三錢。【構内食堂】和洋食の需に應ずべく、又階上に簡易寢室(一泊五十錢)の設あり。【人力車】鐵道附屬地及居留地内賃金十錢、城内外へは遠近に依り十五錢乃至二十錢。

旅館 松華ホテル、近江屋等、宿泊料一圓半乃至五圓。

本區間沿道中最大の都城を擁せる鐵嶺は車站附近新設市街の規模亦奉天、長春に亞ぎ、磚壁嚴然たる城市其の東方に連なる。而して其の東背面には龍首山聳え、柴河の碧流其の北麓を繞りて遼河に合する處馬蜂溝碼頭あり。車站の西方視界に白帆の去來手に取るが如き觀あるもの、是れ遼河水運(第一二七頁参照)の戎克船にして、鐵嶺は實に水陸運貨の兩便を兼ねる隨一の市場たり。



鐵嶺商陳列館

鐵嶺城市 地は所謂渤海時代の富州、遼に至て銀州と

改む。城廓は周圍二十四町、高二丈、四方各、一門を通ず。明の洪武年間の築造に係り、清朝以後屢次重修を経て今日に及び。現在の市街は城内より溢れて東、西、北の各門外に伸展し、糧棧(雜穀問屋)、油房、布舖、その他雜貨舖等其の間に櫛比して市況殷賑なり。現住人口三萬餘、邦人居住者(千八百餘)は西門外一帶より新市街に多し。

官公署等 旅團司令部(4)、聯隊本部、陸軍倉庫、兵營、帝國領事館(7)、郵便局(13)、警務署(2)、憲兵隊(3)、滿鐵事務所(地方、保線、車輛等)、滿鐵醫院、商品陳列館(6)、製粉會社(以上附屬地内。居留民會、正金銀行出張(11)、三井物産會社出張、電燈公司、鐵嶺銀行、鐵嶺實業銀行、日語學堂(以上居留地内。知縣公署(9)、稅捐局、諸學堂等(以上城内)。

* 商品陳列館(6)は日貨紹介機關として設立せられ、本邦産の諸商品を展列し、縦覽自由なり。鄭家屯に其の分館あり。
** 滿洲製粉會社は哈爾濱に於ける露國製粉諸工場と相對して、滿洲製粉界に其の名を馳せたるもの、年産能力約一千六百萬斤にして長春に分工場あり。

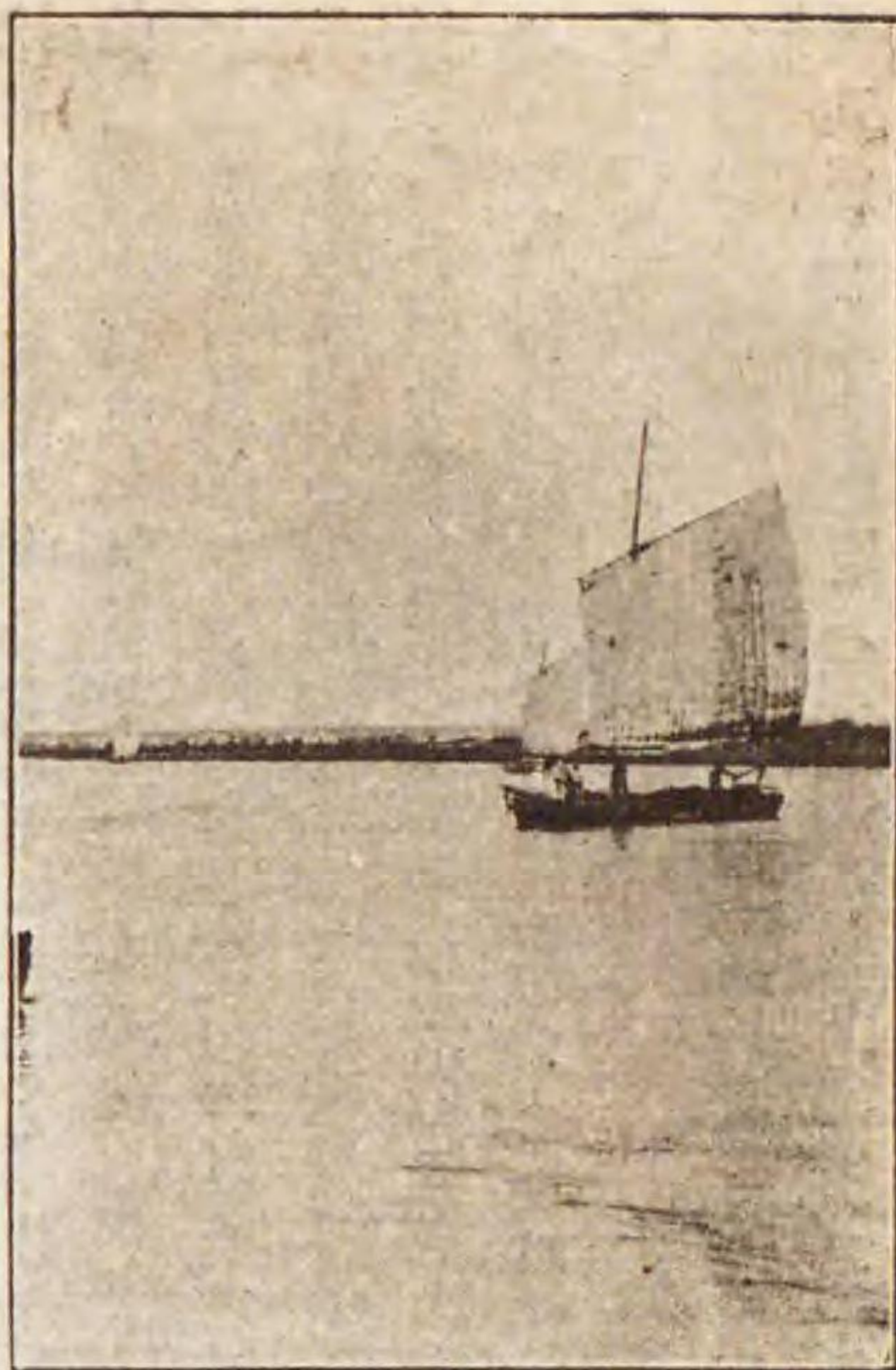
【龍首山】^{ロウシュウサン} 城東門外十二町に在り。當地第一の遊園地にして山上に三清觀又慈清寺と呼ぼる、古刹あり。一塔其の頂點に聳え古色蒼然たるもの景趣掬すべく、之に登れば全市脚下に基布し、柴河、遼水逶迤として遠く雲烟の裡に没し去るを見む。【圓通寺白塔】 城内西北隅の寺境に在り、十三層の白塔にして唐の太和二年(距今約一千九十年前)の創建に係り、鐵嶺最古の建造物と稱せらる。

【法庫門】^{フククイ} 驛の西北約三十哩に在り。所謂柳牆十二邊門(第九二頁參照)の一を其の名に冠せる城市にして、土壁を繞らせる城壘に四門を通じ、其の一端に邊門あり。住民は其の壘壁裡に市街を成し人口二萬餘を算す。清初八姓を戍戸として邊門を成らしめし處なれど、爾後漸く農商賈の領する所と爲り、日露戦後列國の爲に開市せられし以來滿蒙貿易の中心たりしが、近時鄭家屯の開市を見るに及び市況復舊時の如くならずと云ふ。知縣公署の外我警官派出所あり。又英佛宣教師及邦人四十餘名の居留者あり。

鐵嶺を後にして遼河の本流を左側窓外に望みつ、北進すれば平頂堡 Ping-ting-pu (一九七五)あり。其の南方二十餘町

に在る高力站^{カオリチヤン}は清代官符の驛傳地として知られし處なり。平頂堡以往遼河本流は西に折れて遠ざかり、纔に其の支水の鐵路に沿ふものを逐ひつ、北走す。次で到る中固^{チュウコ} Chung-ku (三〇四二)は明代の古城址にして昔時重要な地點たりしと謂はる、も今や一小村落に過ぎず。驛東里許の梅家寨は日露戦の當時野津軍司令部の駐留せし所、附近に梅樹多く花時杖を曳くに佳しと云ふ。

開原^{カイユアン} Kai-yuan (三二二六)、旅館一、二葉、戎屋、^{宿泊料}一圓乃至三圓)其の名は既に高勾麗、渤海の昔時に著はれ、明代に至りて三萬の衛を置き以て遼東最北の重鎮たらしむ。是れを開原城の由来と爲す。今車站の所在はもと城外草原の一寒村に過ぎざりしが、滿鐵繼承後附近農産商路の一變より逐年急速の發展を遂げ、以て現在の新市街を成すに至れり。戸數千三百餘、人口約一萬を算し、三條の大街路上到處に糧棧、山貨、其の他の商賈櫛比し殷賑を極む。【開原城】 車站の東北約二里半に在り。高三十五尺、周圍約二里の磚壁を繞らし、四方及中央の五門を通ず。其の北背には黃龍岡^{ホウロウカン} 峙ち、清河^ホの流れ南面を洗ひ山河襟帶の要害を占むれど、城外新市街



影帆の河遼

の發展に反比して市況振はず、但歸臥住居地として寧ろ好適なるべく、現下尙人口約二萬を算す。一基の白塔城の空際に聳ゆるもの鐵路行客の好目標たるべし。

【官公署等】陸軍諸官衙、守備隊兵營、警務支署、郵便局、滿鐵事務所、同醫院(以上附屬地)。知縣公署、稅捐分局、郵政局、電報局(以上城内)。橫濱正金銀行出張、正隆銀行支店、朝鮮銀行派出、奉天興業銀行、交通銀行、東三省銀行、中國銀行各派出所、開原重要物產取引所、信託株式會社、滿洲電氣株式會社(以上附屬地)等の外

門外は東蒙古領達爾罕王の旗界に屬す。邊寨の殘影は今尙高四、五尺の土牆透迤として左右視界外に連亘せるを見る。次で昌圖 Chang-tu (三四四九)あり。車站は馬踪河左岸に

位し、其の西方二里を隔て、昌圖市街(驛より手押輕便鐵路あり)と相對せり。是は元來蒙古博王旗界の首府たりしが、約百年前頃より漢人の來住漸増して人口約二萬を算し、鐵道開通の當初一時稍活況ありしも、農産商路の他に移動せしよの近來は甚だ振はず。

次に到る滿井 Man-ching (三五五五)は日露休戦前我滿洲軍の最前線たりし處、驛北二哩の線路東側に一塔塚の見ゆる邊は當時彼我休戦條件協定委員の會見せし地點なり。

行々相尋泉頭 Chuan-ton (三三三三)、雙廟子 Shuang-miao-tzu (三五五五)を過ぎ、更に桓勾子 Huan-kou-tzu (三五五五)、虹牛哨 Meng-niu-shao (三五五五)を経て四平街に至る間右側一帯は長柵蜿蜒たる丘岡に沿ひ、左側は漸次西方に陵夷する遼河平原にして、處々支水の横流せるあり。

四平街 Szu-ping-chieh (三五五五)、旅館—植半(宿泊料一圓)スツピスチエー

支那劇場興隆茶園あり。

【通江口】驛の西北約二十三哩、遼河左岸に在る戎克商埠にして、人口一萬餘を有す。其の碼頭附近には糧棧の巨鋪櫛比し、遼河水運に由る穀類雜貨の出入頻繁にして、殊に大豆の如きは一時年額百萬石を越ゆとの稱ありしも、近者上流三江口、鄭家屯等の開埠ありしと一面鐵道輸送の發達に因り商勢頓に衰へ、今や二十萬石内外を算するに過ぎず。

【開海鐵道豫定線】開原より東方約百二十哩、海龍城に至る沿道一帯豐沃なる農産地にして、其の途次陶鹿(開原より約四五哩、人口二萬)、大疙疸(同七五哩、人口六千)、大肚川(同一〇五哩、人口七千)等の市邑あり。終端海龍城(人口約一萬)の東方十二哩には朝陽城(人口約二萬)あり。而して此等各市邑附近の農産貨物は孰れも開原に車送せられ、其の市場を賑はず一大要素を爲せり。

開原車站を出で、北行約三哩に清河の鐵橋あり、河畔一帯は雁、鴨、雉子等の狩獵好適地として著はる。金溝子 Chin-kou-tzu (三八八三)を過ぎ、馬仲河 Ma-chung-ho (三四四六)に至る。即ち開原縣北境にして馬干臺邊門に近く、

同名の舊邑は驛の東南約五哩に在り。車站所在地は全然鐵道に依て導かれたる新市街にして、西北一帯には賣買街(舊奉化縣の首邑にして人口三萬五千)を首め、東遼河流域諸市邑に對し交通上絶好の地に在るより、今や人口六千餘を有し、所在農産物の一大市場たる盛觀を呈せり。

【官公署等】守備隊兵營、郵便局、滿鐵地方事務所出張、同保線係、滿鐵醫院分、朝鮮銀行派出、四鄭鐵路局、郵政分局、鹽務分局、商務會等あり。

【四鄭鐵路】日支借款契約の下に成立せる滿蒙五鐵道の一として、最近既に假營業を開始せり。

四平街(滿鐵構内及四鄭總局の二車站あり)より鄭家屯迄五四哩六、賃金一等四弗四〇。二等二弗六五。毎日二回の列車便あり、約三時間にて到達す。

沿線一帯農産豐饒の地にして途中八面城(一七五、人口一萬八千)、傅家屯(三三三)、三江口(三五五)を経て鄭家屯に至る。地は蒙古達爾罕王の旗界に屬し、老哈河の右岸に在り。遼河水運の最上流碼頭として近時著しき發達を遂げたる人口約五萬の大市街にして、東西約一里、南北約半里の

間前街、後街に分かれ、商賈櫛比して穀類及家畜等の取引旺盛なり。

四平街より北、十家堡 Shih-chia-pu (三七哩) に次で郭家店 Kuo-chia-tien (三〇哩) あり。西方約十三哩に在る賣買街(舊奉化)との通路に當り地方農産物の集散地からす。

更に北して蔡家 Tsai-chia (三六哩)、大榆樹 Ta-yu-shu (三五哩) を過れば公主嶺なり。

公主嶺 Kung-chu-ling (三元哩、旅館一丸福) 此地亦蒙古王領にして其の位置恰も南北滿の分水界に近く、西に遼河流域の朝陽堡を控へ、東は松花江上流の伊通州と相對せり。現在の市街は東清鐵道時代其の南部線三大驛の一として企畫せられしに創まり、爾後滿鐵其の緒を繼ぎて益々效を擧げ、以て今日見る如き一新市街を成せり。即ち市街は泰平橋なる架空橋に依て南北に分かれ、其の北街には官公署、兵營等あり。南街は商賈櫛比の區にして、之と隣接せる支那人街亦殷賑なり。附屬地に於ける人口二千五百餘を算す。

【官公署等】 陸軍諸官衙、兵營、郵便局、警務支署、滿鐵事務所、同醫院、車輛係、保線係、公主嶺銀行、

正金銀行(冬季中、支那稅捐分局、郵政分局、電報分局等の外、滿鐵經營の産業試驗場あり。十餘萬坪の敷地内に滿蒙適種の農牧林産等を養植して之を改良、増殖に關する試驗を行ひ以て一般生産業の發達を企圖して、あり。

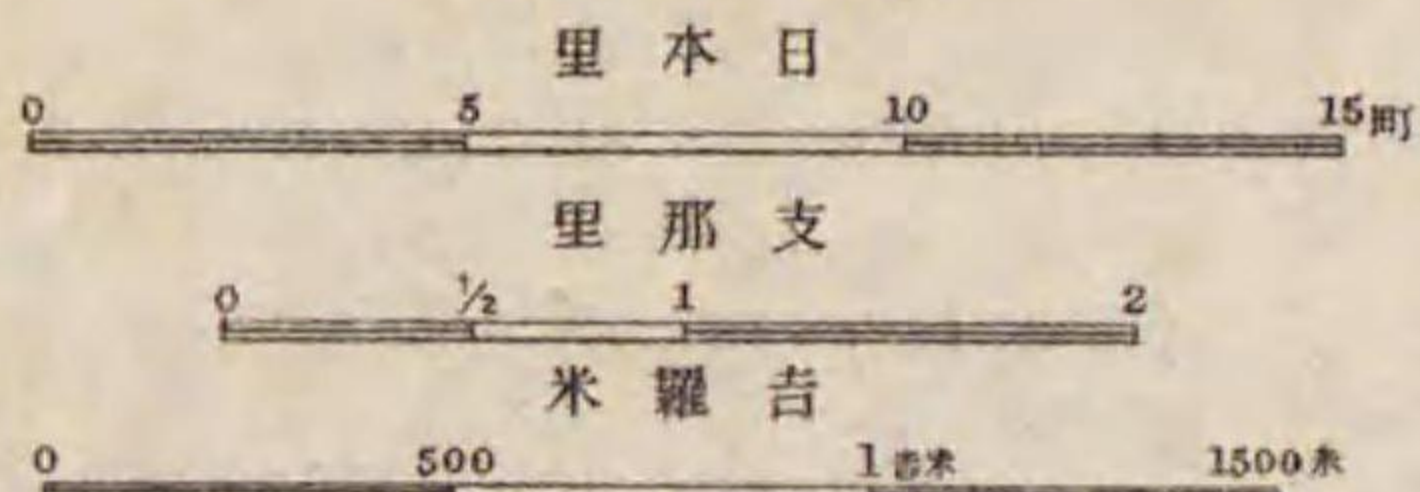
公主嶺以北、劉房子 Liu-fang-tzu (四〇哩)、陶家屯 Tao-chia-tun (四二哩) 附近は概ね近代の開墾農地に係り其の多くは山東人の移住者なり。范家屯 Fan-chia-tun (四一哩) 亦此の邊に於ける新興驛の一にして、近郷農村より穀類の出貨多く、當初微々たりし寒村も今や人口千六百餘の小市場となれり。【田中中尉の碑】驛北約三哩、鐵橋監視家屋の傍に在り。地は同中尉が日露奉天戰前、敵の後方退路切斷の任務を帯び、所屬挺進隊の一部を率ゐて深く敵地に潜入し、這個鐵橋破壊を圖りしも爆發效を奏せず、空しく敵手に罹り壯烈の最後を遂げし所にして、碑は戰後我獨立守備隊に依て建てられ、後藤男爵の撰書を刻せり。

次て至る大屯 Ta-tun (四三哩) 附近には白龍駒石山とて東清鐵道以來の碎石採取地あり。前途の一驛孟家屯 Meng-chia-tun (四四哩) を過れば總て本線の終端長春なり。



長春

縮尺四萬分之一



長春 Chang-chun (從大連四三哩八)

【到着】南滿鐵道の終端驛にして東清(哈爾濱へ一五〇哩)、吉林(吉林へ七九哩)等三線路の接続點なるを以て、其の孰れより來る者も一旦當車站に降り立ち、而る後前途の列車に乘換へざるべからず。而して此際特に各自の【時計調整】に注意を要す。東清鐵道より南行する者は二十分を後退せしめ、南滿方面よりの北行者は反對に同時分丈前進せしむべし。【構内食堂】當地ヤマトホテルよりの出張經營に保り洋食、茶菓の需に應ず。【兩替店】哈爾濱方面行の旅客は此處にて多少露貨を準備し行くを便とす。同様に該方面よりの南行客は剩餘の露貨を邦貨又は支那貨に交換する方得策ならむ。【馬車及人力車】車站前、其の他街路隨處に見出さるべし。馬車賃一附屬地及開墾地間十五仙乃至二十仙、城内迄二十五仙乃至三十五仙。人力車賃一附屬地及開墾地間十仙乃至十五仙、城内迄二十仙乃至二十五仙。

旅館 ヤマトホテル(C5前)、煉瓦造の壯麗なる純西洋式旅館にして、設備宿泊料其の他とも概ね大連ヤマトホテルに準ず(第一〇八頁参照)。名古屋館(C6前)半ば歐風

悦來棧、日升棧、大通棧等あり。料理店には八千代館(E7)、開花樓(D6)等著名なり。

郵便電信 日支露三國の各所屬局あり。【長春郵便局】(C6 附屬地長春) 城内にも亦其の分局(E6)あり。關東都督府の所管に屬し一般郵便事務及電信、電話の取扱を爲す。【支那郵便局】(E10 城内西)、同電報局(E9 北門外)。

【露國郵便電信局】二道溝なる寬城子車站に在り。

市街概観 長春は一に寬城子と呼ばれ、輓近百餘年間に於て著しき發達を遂げし所、其の地は恰も松花江及遼河兩流域に跨れる沃野の樞軸に位し、東に吉林、西に懷德あり、農安、伯都訥を北に受けて南、伊通州に接す。實に南滿洲北部最大の農産市場たり。殊に最近十數年以來此の地は日、支、露三國鐵道の折衝地點と爲れるより、其の市街區劃も亦次第に複雑となり、之を大別して新市街、開墾地、舊城市及寬城子の四部を成すに至れり。

各(17) 春 長

は、吉長
り来る者
からず。
より南行
對に同時
出張經營
は此處に
各は剩餘
【人力車】
兩埠地間
純西洋
トホテ
は歐風
【初

悦來棧、日升棧、大通棧等あり。料理店には八千代館(E
7)、開花樓(D6)等著名なり。
郵便電信 日支露三國の各所属局あり。【長春郵便局】
(C6 附屬地長春)、城内にも亦其の分局(E6)あり。關東都
督府の所管に屬し一般郵便事務及電信、電話の取扱を爲
す。【支那郵便局】(E10 城内西)、同電報局(E9 北門)、
【露國郵便電信局】 二道溝なる寛城子車站に在り。
市街概観 長春は一に寛城子と呼ばれ、輓近百餘年間に
於て著しき發達を遂げし所、其の地は恰も松花江及遼河兩流
域に跨れる沃野の樞軸に位し、東に吉林、西に懷德あり、農
安、伯都訥を北に受けて南、伊通州に接す。實に南滿洲北部
最大の農産市場たり。殊に最近十數年以來此の地は日、支、
露三國鐵道の折衝地點と爲れるより、其の市街區劃も亦次第
に複雑となり、之を大別して新市街、開埠地、舊城市及寛城
子の四部を成すに至れり。
【新市街】 滿鐵長春驛構内の周邊約百五十萬坪の地

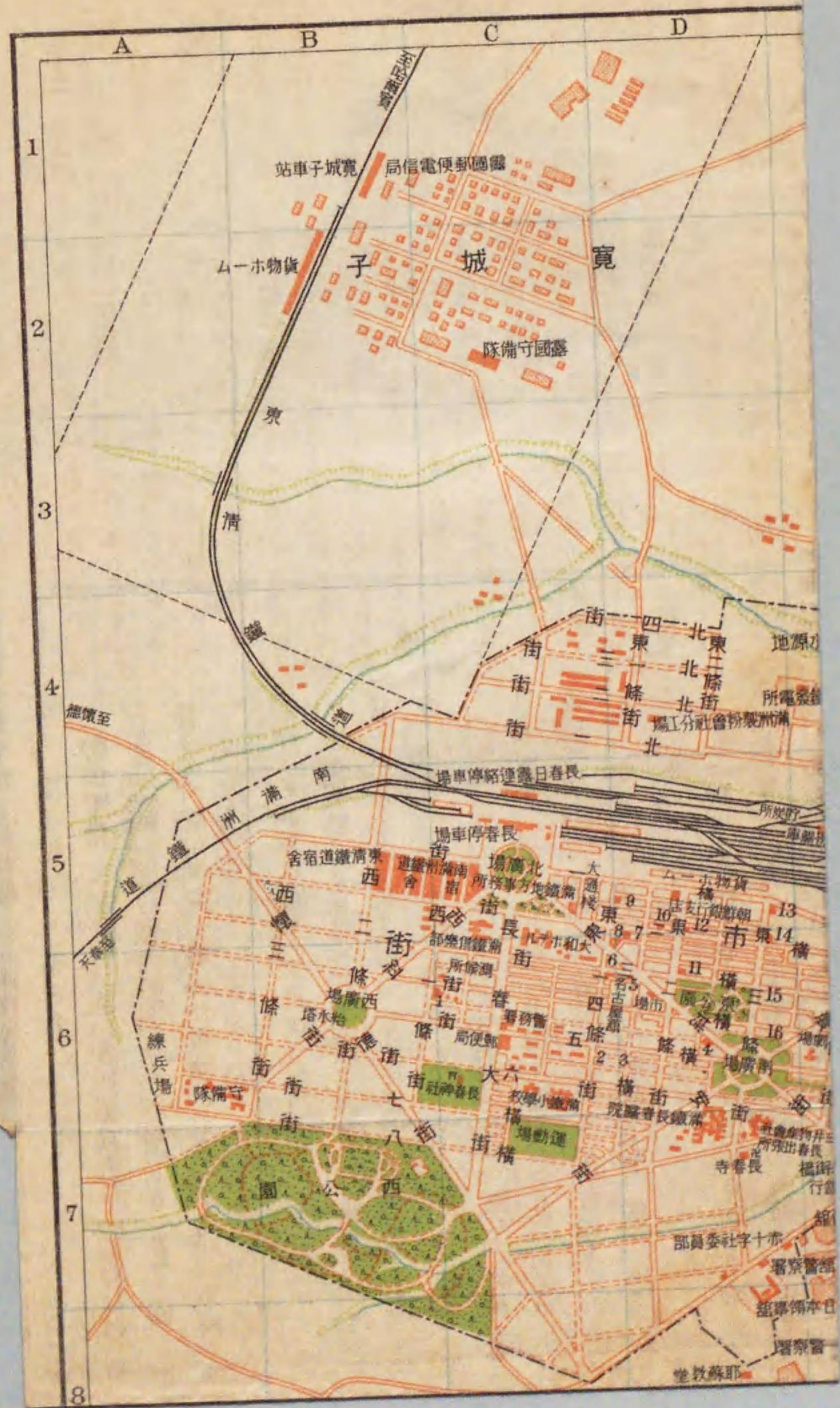


式旅館にして、設備宿泊料其の他とも概ね大連ヤマトホテルに準ず(第一〇八頁参照)。名古屋館(C6前)半ば歐風の建築にして階上に廣間あり。西村旅館(C6西門外、舊)初音館(D5前)、日清館(前)以上宿泊料は一圓五十錢以上五圓以内とす。外に支那旅館協和棧(E6)、福順棧、

【到着】南滿鐵道の終端驛にして東清(哈爾濱へ一五〇哩)、吉長(吉林へ七九哩)等三線路の接続點なるを以て、其の孰れより來る者も一旦當車站に降り立ち、而る後前途の列車に乘換へざるべからず。而して此際特に各自の【時計調整】に注意を要す。東清鐵道より南行する者は二十分時を後退せしめ、南滿方面よりの北行者は反對に同時分丈前進せしむべし。【構内食堂】當地ヤマトホテルよりの出張經營に係り洋食、茶菓の需に應ず。【兩替店】哈爾濱方面行の旅客は此處にて多少露貨を準備し行くを便とす。同様に該方面よりの南行客は剩餘の露貨を邦貨又は支那貨に交換する方得策ならむ。【馬車及人力車】車站前、其の他街路隨處に見出さるべし。馬車賃―附屬地及開墾地間十五仙乃至二十仙、城内迄二十五仙乃至三十五仙、人力車賃―附屬地及開墾地間十仙乃至十五仙、城内迄二十仙乃至二十五仙。

旅館 ヤマトホテル(C5前)、煉瓦造の壯麗なる純西洋

長 春 Chang-chun (從大連四三哩八)



悦來棧、日升棧、大通棧等あり。料理店には八千代館(E7)、開花樓(D6)等著名なり。

郵便電信 日支露三國の各所屬局あり。【長春郵便局】(C6 附屬地長春、大街東側)、城内にも亦其の分局(E6)あり。關東都督府の所管に屬し一般郵便事務及電信、電話の取扱を爲す。【支那郵便局】(E10 城内西)、同電報局(E9 北門外)、

【露國郵便電信局】二道溝なる寬城子車站に在り。市街概観 長春は一に寬城子と呼ばれ、輓近百餘年間に於て著しき發達を遂げし所、其の地は恰も松花江及遼河兩流域に跨れる沃野の樞軸に位し、東に吉林、西に懷德あり、農安、伯都訥を北に受けて南、伊通州に接す。實に南滿洲北部最大の農産市場たり。殊に最近十數年以來此の地は日、支、露三國鐵道の折衝地點と爲れるより、其の市街區劃も亦次第に複雑となり、之を大別して新市街、開墾地、舊城市及寬城子の四部を成すに至れり。

【新市街】 滿鐵長春驛構内の周邊約百五十萬坪の地積に互のりに建設せられたる市街にして、其の街路は車站前及東、西廣場の三中心點より放線形に走る大街を骨子として、爾

餘の中小路を縦横基盤形に之と交叉せしめたり。路面は凡てマカダム式に築造せられ、大街路には勿論歩、車道の別あり。附屬地西南隅一帯地に公園を設け、爾餘の廣場と共に花木の眺め清新なり。主なる建物は煉瓦造にして車站及ヤマトホテルは其の優なるもの、之と廣場を隔て、滿鐵共同事務所あり。同廣場より斜に開埠地及舊城市を指す東斜街は當所隨一の熱鬧地にして各種の店舗兩側に櫛比せり。官署、學校、住宅の類は長春大街又は其の以西に多し。最近現在戸數二千餘、人口約一萬二千なり。

【開埠地】 新市街と舊城市との中間に介在せる一帯地にして、明治三十八年以來條約上の各國互市場として開放せられし所、頭道溝なる一水路を隔て、我附屬地と南北相接す。乃ち東斜街南端の一橋を渡れば是ぞ北門外大街てふ目貫の場所にして、其の東側街頭には道尹公署、開埠局等の洋風巨館あり。是れより北門に至る間内外商賈の店舗兩側に打連なり往來絡繹たり。此の市區は當時の道尹顏氏の計畫に基き道路、諸建物等凡て洋式に依て施設せられ、煉瓦造の貸家を建てて又別に發電所を設けて電燈を點するなど、支那内地には

珍しき程清新なる市街を現出せり。此の地界現住人口三萬餘なり。

【舊城市】 近代の築造に係る磚城にして北東の一角より西北隅に互る廓壁を有し、伊通河其の南東邊を環流して背面天塹を爲せり。周圍に八門あり。市街は北門より南門に至る一直線の大街路を其中央十字街より分けて北大街、南大街と稱し城内最繁華の區たり。馬號門内西四道街の間を主なる官衙區とし、爾餘の各街到處に大棧巨舖打連なり、市況殷賑なり。人口六萬七千を算す。

【寛城子】 我長春驛の北方一哩餘、土俗の所謂二道溝に在り。今の東清南部線終端驛にして、曾て露治時代には當地唯一の鐵道車站として繁盛の區たむとするの氣勢ありしが、滿鐵長春驛の開設以來市場の重心漸く彼に遷りて、今や復昔日の觀なく、式ばかりの歐風市街に若干の露國官署、兵營、鐵道吏員住宅等あるのみ。

官公署 日本領事館(D 8)、露國領事館(F 7)、吉長道尹公署(E 7)―以上三國の代表的な主要官衙にして共に開埠地に在り。以下日支夫々の所屬官公署等次の如し。

【日本側】 守備隊(A 6)、憲兵隊分遣所(L C 6)、警務署(C 6)、測候所(C 6)、滿鐵地方事務所(C 5)、滿鐵醫院(D 7)、電燈營業所(C 5)―孰れも附屬地内に在り。【支那側】 知縣公署(D 9)、地方審判廳(D 9)、警察廳(E 9)、縣警察署(E 10)、稅捐總局(E 10)、吉長鐵路管理局(H 8)、電燈廠(E 7)等―城内及開埠地間に在り。

銀行會社 橫濱正金銀行出張所(F 10)、同上派出所(12 D 5)、朝鮮銀行支店(D 5)、正隆銀行支店(D 6)、北滿銀行(E 7)、交通銀行(E 10)、中國銀行(E 10)、長春重要物產取引所(13 D 5)、長春取引所信託會社(14 D 6)、滿鐵商品陳列所(5 D 6)、商務總會(E 9)、滿洲製粉會社分工場(D 4)、日清燐寸會社支店(E 11)、吉林燐寸會社支店(E 7)、三井物產會社出張所(F 6及D 7)、日本官煙專賣所(F 10)。

公園劇場等 【東公園及西公園】 共に附屬地内に在り。殊に後者は附屬地西南隅一帯の大地積を占め、頭道溝の流れを引入れて園内樹石の安排を整へたれば風致快適なり。

【劇場】 長春座(8 C 6)、其の他の一劇場(E 6)附屬地内に在り。燕春茶園(E 8)開埠地に在り。此の他尙ほ二、三の支那劇場(茶園)あり。【俱樂部】 滿鐵俱樂部(C 5)、長春俱樂部(11 D 5)共に附屬地内に在り。

教會寺廟 長春寺(D 7)、本願寺布教所(2 C 6)、高野山教會所(3 D 6)以上孰れも附屬地内に在り。天主堂(F 9)城内東三道街に在り、當地に於ける外國教會堂の最も古きものなり。耶穌教堂(D 8)開埠地に在る英國教會にして附屬病院の設けあり。清真寺(F 7)開埠地内に在る回教寺院にして、附屬地東斜街の東端に近く一塔高く聳ゆるものは是れなり。關帝廟(F 11)南門内東北側に壁廊高く繞らされた一構にして、朱門石狗の配置嚴めしく輪奐宏壯なり。其の他尙ほ城隍廟(F 11)、聖人廟(F 10)、九聖廟(E 11)等の類多し。

高句麗時代古墳文様



長春吉林間

日支間の借款契約の下に成立せる吉長鐵路の沿線にして、長春(滿鐵長春驛構内頭道溝車站)より吉林迄七九哩一、賃金一等五弗六〇、二等四弗。毎日三回の旅客列車便あり、約四時間にて達す。

頭道溝 Tou-tao-kou 吉長鐵道の起點にして、南滿長春驛構内に在り。南滿洲及東清線より來る者は當驛にて乗り繼ぐべし。線路は之より東行して長春城東を貫流せる伊通河を横切り長春驛に到る。

長春 Chang-chun (二五八) 伊通河の右岸に在り、遙に長春城東門と相對す。開埠地及城内よりする旅客は當車站に乘降するを便とす。此の驛には鐵路總局、工場、機關庫、其の他鐵道經營上必須の造營物及技師長以下應聘邦人の宿舍あり。

驛を出で、約四哩間は一望際限なき伊通河の平野にして、安隆泉と稱する村落より起伏せる丘陵の間を縫うて走ること約九哩餘、卡倫驛に達す。

卡倫 Kar-lun (二五五) 驛の東北一哩餘にあり。戸數約行くと少時にして馬鞍山舊驛あり。附近の山容宛かも馬鞍に似たるを以て此の名ありといふ。

土門嶺 Tu-men-ling (四五九) 當驛は吉林より三三哩二の處に在り。風光明媚、吉長間第一の遊覽地と稱せらる、馬廠に近きを以て、乗降客比較的多しと雖貨物の出入は寡きに似たり。

樺皮廠 Hua-pi-chang (五七五) 驛北二哩に同名の市街在り。車站附近は一帶の窪地にして時に水害の虞あり、現今僅に糧棧三、小飲食店一戸あるのみなれども、樺皮廠街は東西約六丁に亘る小市街を成し、統稅局、巡警局、吉垣權運局分銷處、陸軍特設捷驗所、國民普通學校等あり。戸數約七百五十、人口四千餘。

九站 Chin-chan (七〇八) 松花江の左岸に位置し、木材發送驛として著名なり。九站街は驛を距る二丁、鐵道線と並行して江に沿ひ東西に長き小市街にして、人口八百内外に過ぎざれども、毎年五月以降筏の流下期に至れば木挽職の入込むもの五百人の多きに達すといふ。巡警分局及統稅分局等あり。

二百七十、人口約千三百。吉長沿線中屈指の邑にして、巡警分局、統稅分局、初等高等小學堂等あり。當地附近は土地肥沃にして農産物豊富なるを以て、冬期は毎偶數日を市日と定め、各種物資の交易賣買盛に行はる。

列車は驛を出で、走ること里餘、東するに隨ひ一起一伏丘陵の間を縫うて飲馬河に達す。

飲馬河 Yin-ma-ho (二六六) 飲馬河一名驛馬河の西岸に在り。穀物の産出少からず。河は伊通河よりも幅稍々狭しと雖水深反て深く、夏時は小舟往來す。

下九臺 Hsia-chiu-tai (三三三) 德惠縣と吉林縣との境界に位す。現今戸數六十、人口二百五十に過ぎざれど、附近各地より穀類の來集するもの多額なるを以て年々殷盛を加へ、將來の發展刮目に値すべきものあり。主なる建築物は吉長鐵道下九臺工程處、樺皮廠統稅分局、同巡警分局及德惠縣巡警分局等なり。

營城子 Ying-cheng-tzu (三三六) 一寒村に過ぎざれども、附近の村落より豆、高粱等の産出尠からず。

吉林 Jilin (七九八)

【到着】吉長鐵路の東端にして其の車站は東門外に在り。吉林城朝陽門まで約十二町、人力車及馬車の便あり。

旅館 名古屋館支店及日清ホテルあり。孰れも宿泊料二圓以上五圓とす。

市街概観 吉林城市は松花江の左岸に在り。同江上流に産する良材搬出の基地として、古來「船廠」の別名あり。

城は東西に長く、南北に短く、西北面は山岳を負ひて南方江に瀆み、風光明媚なり。市街の周圍は繞らずに不正楕圓形の磚壁を以てし、街衢比較的清潔にして、吉林省中第一の都會たるに愧ぢず。人口は城の内外を合して約八萬と稱せらる。

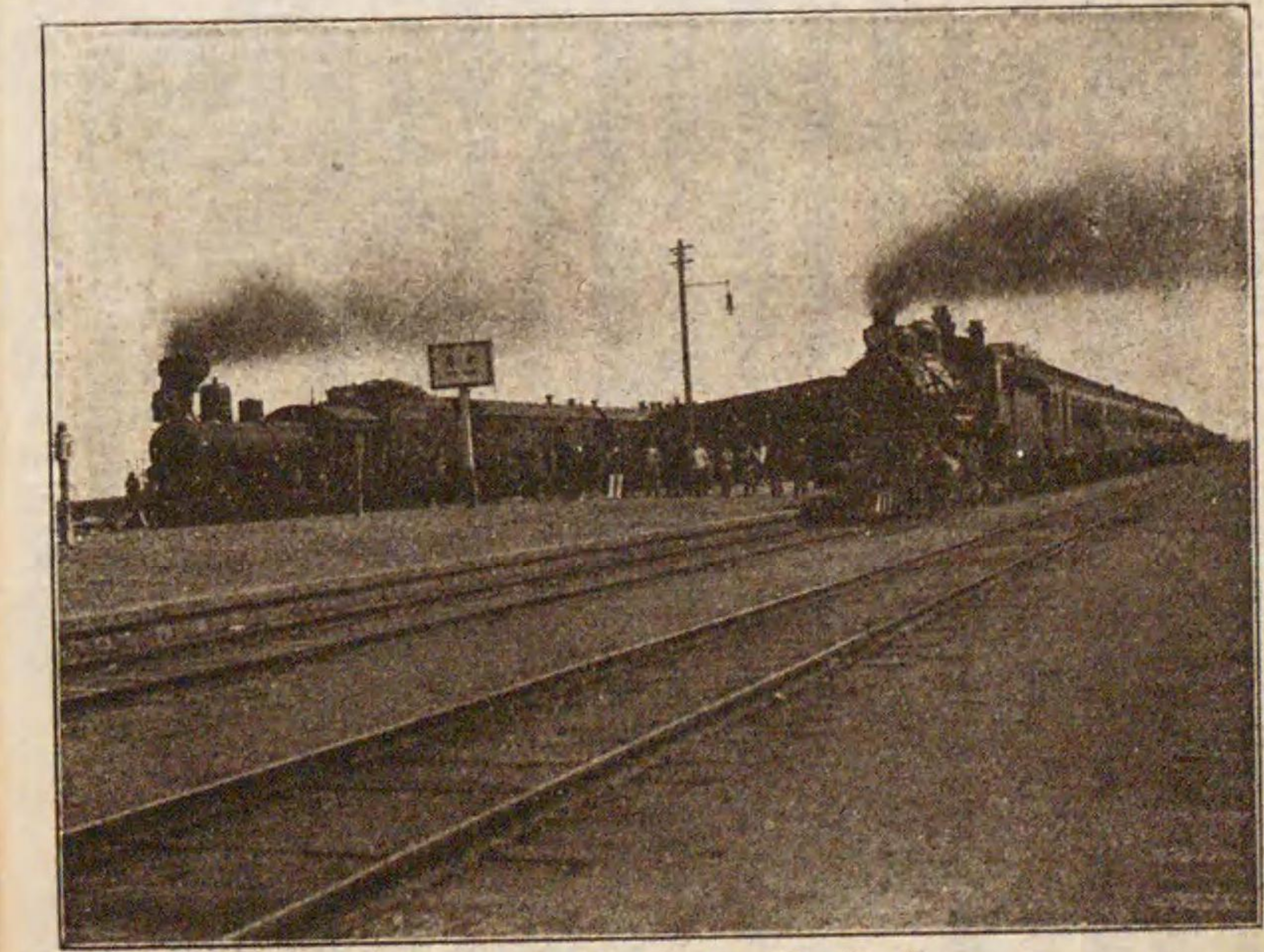
遊覽地としては關帝廟、吉林公園、孔子廟等あれども、松花江に舟を浮へて燕遊するの快には如かざるべし。

市場としての吉林は地勢上林産物の集散地を以て目すべく、即ち此の地方所産の貨物は松花江上流よりする木材を大宗とし、其の他には葉煙草、麻、藥材、毛皮等の類とし、孰れも松花江及其の支流域各地より一旦當市場に集まり、更に水陸二路に由り他へ輸出せらるゝの例にして、各種の間屋業者は江岸又は城内各處に夫々店舗を列ね、開河期に於ける商業殷

盛なり。但し冬期は一部交通の杜絶に因り市況自ら沈静を免れざれども、他日吉會鐵道の開通、或は海龍吉林間に鐵車の開行を以て各方面との交通至便となるに至らば當市場の發展亦必ずや刮目すべきものあらむ。

官公署其他 將軍公署、民政使公署、縣公署、第二十三師團司令部、巡警局、鹽務局、稅捐局、郵政局、電報局、中國銀行、示衡銀行、商務總會、公議會、小學校等。その他日本領事館(車站より七町、新開門外の商埠地)、露國領事館、加督利教及「プロテスタント」教會支部等あり。

交通 【陸路】 吉林を中心として四方に通ずる街道の重なるものを擧ぐれば、双陽、伊通及開原の三縣を経て鐵嶺(二二〇哩)、奉天(二六七哩)、營口(四〇四哩)に達するもの、額穆縣を経て寧古塔(二三五哩)に至るもの、額穆縣及延吉河を経て琿春(三五四哩)に向ふもの等あり。【水路】 松花江の水運にして上流下流共毎年四月乃至十一月の開江期には戎克船及汽船の交通頻繁なり。而して積貨の重なるものは材木にして、主として陶賴昭(二四哩、第一五三頁參照)、伯都訥(二七哩)方面に回漕せられ、又後者よりは粟綠豆及素麵等を輸入す。



長春春驛日露連絡列車

路 18 長春哈爾濱間

長春より哈爾濱迄二二五哩 ゾエルスト 里即約一五〇哩、毎週一回の急行列車、毎日一回の郵便列車便あり。六時間半乃至七時間半の行程とす。賃金一急行一等一六留二五、二等一〇留四五。郵便列車一等九留六〇、二等六留九五、此他戦時中は露國戦時稅として一等三留七四、二等二留二四を徴せらる。以上は平時の賃金にして、留相場の變動に因り異なるものとす。

【沿途概観】 本區間中寬城子以北の線路は東清鐵道會社の經營に係る五呎軌幅の露國式鐵道にして、我滿鐵線及吉長鐵路等の標準軌幅(四呎八吋半)に比し軌間較く廣く、彼此車輛の共通運轉不可能なるを以て、長春寬城子間には右兩様の軌道を敷設並行せしむ。斯くて東清線旅客列車は寬城子より長春驛まで入込來り、同處(北側歩廊)に於て南滿鐵道列車との接續を完うす。

長春驛連絡ホームより出發せる哈爾濱行の汽車は初め南西に向ひ、須臾にして西より漸次北方に轉向しつゝ、聽て寬城子 Kuang-cheng-tzu 車站に入る。其の右側窓外に展開せる露西亞市街は曾て東清鐵道の專管時代一時繁榮を極めしが、今や滿鐵附屬地の發展愈々盛なるに引代へ、衰兆轉々顯

然たるものあり。而かも其の車站は流石東清南岐線の終端驛として、機關車庫其他構内諸設備の規模較く整へるが如し。

寬城子を後にして更に北走すれば線路左側は伊通河流域の平野に連なり、右には呼蘭哈達山系の緩漫なる丘波を見渡し、没沙子 Mei-sha-tzu (一七哩、寬城子より) 卜海 Pu-hai (三五哩) 〇一驛を通過、次ハ審門 Yao-men (五六哩)、老燒鍋 Lao-shao-kuo (六三哩) に至る。前記卜海以北の三驛は近年長春縣より分離せられたる德惠縣(約十二萬平方支里、人口三十萬三千餘を包括す)の地界に屬し、審門は其の主要市場として人口約四千を有す。老燒鍋は之に亞ぐ松花江左岸の戎克碼頭にして、吉林又は伯都訥方面に對する水路通航の便あり。

陶賴昭 Tao-lai-chao (七二哩) 老燒鍋の北方七哩餘、第二松花江鐵橋を渡り間もなく到る車站にして、其の所在地は別名小城子として線路の西方に連なる人口約五百餘(其の三分一餘は露國鐵道關係者及守備隊員等)の小市街に過ぎざれども、驛の東西十五哩内外の地に五棵樹(人口約四、三〇〇)、五家站(戸數約七〇〇)等の農産地ありて、

附近所産の大豆、粟、小麥等の當驛に由て集散せらるゝもの多し。

【吉林行水路連絡便】 驛の東南約六哩の畢家店(附近戸數約二〇〇、機械製材所一あり)に其の埠頭を設け、車站構内より支線を延長して貨客の連絡輸送に便す。陶賴昭より吉林迄(水路一八七露里)毎年四月乃至開河期間に限り、毎月七回(約四日一回)東清鐵道河船部の經營に係る定期通航汽船便あり。上航二日、下航十二時間、賃金一等六留、二等四留を要す。此の他尙同區間には支那官民の經營に係る不定期船便あり。

石頭城子 Shih-tou-cheng-tzu (八三七) 別に三岔河

の驛名あり、又其の所在地支那人間には謝家崗子とも稱せらる。本線路中雙城堡に亞ぐ大驛にして、驛の東北二哩餘に土城を繞らせる市街は其の邑なり。戸數約七〇〇、巡警分局、陸軍馬隊分營、稅捐局、官鹽轉運局等あり。主なる商舖は燒鍋三、當舖(質屋)三、油房七、錢舖一〇等と、附近農村より大豆、雜穀の集散多きのみならず、東方三十哩餘に榆樹廳(人口一〇、〇五〇、縣廳、統稅局、巡

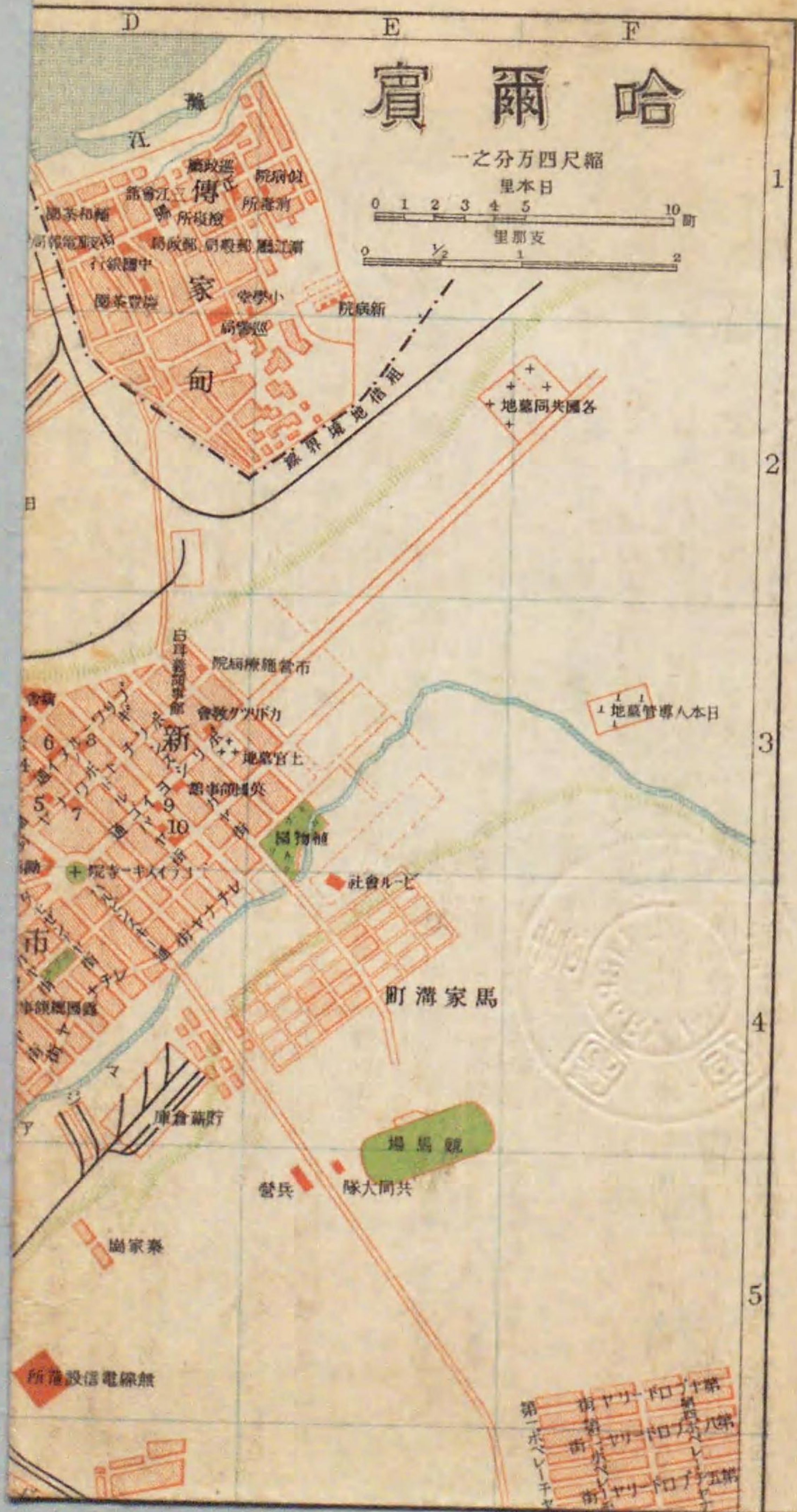
警總局、習藝所等)あり。西北四十餘哩には長春岑(人口約七、二〇〇、燒鍋、當舖、油房、雜貨等中流以上の商舖二十餘戸)ありて、各其の沿途農村所産の貨物を搬出し來るもの尠からず、隨て毎年出穀時には穀類買付商人の來往多し。

石頭城子を後にして十哩餘を北進すれば拉林河左岸に蔡家溝 Tsai-chia-kou (九五五) あり。拉林河の鐵橋を北に渡り、更に二十餘哩を進めば雙城堡なり。

雙城堡 Shuang-cheng-pu (二五五五)

【到着】 長春より急行四時間、郵便列車六時間、哈爾濱よりは三哩八、一時間十分乃至一時間五十分の行程なり。【馬車】 車站より城市北門外まで露式馬車に頼るを得べし。

雙城堡は本區間沿線第一の大都會にして、其の市街は縱橫約五支里四面に土城を繞らし、周圍に四門を開けり。車站の東南約一哩の彼方に聳ゆる一樓門は即ち其の北門にして、城内民家櫛比し各城門を貫く大街道には大棧、巨舖軒を列ね、就中殷賑の區を北大街、西大街とす。城内戸數約六千、人口三萬二千餘あり。



堡 城 雙

官公署 知縣公署、稅捐局、巡警總局、自治籌辦公所、糧業公司(穀物取引所)、鹽運公所、郵政局、電報局、醫學研究所、農事試驗所、蠶業總局等。

商工業 雙城堡の周邊一帶地は、晚近一世紀來、八旗屯田制の下に開墾せられたる大農地(面積大約一萬平方支里)にして、雙城堡は恰も其の中央に位し、各種商工機關と共に鐵道輸送の便備はれるを以て、農産物の集散範圍頗る廣く、東は拉林(三七哩)、五常縣(七〇哩)、西は長春岑(四七哩)の各方面に亙る沿途農村より來市する穀類莫大にして、其の一部當地方所在の油房、磨房、燒鍋等に消費せらるゝものを除き、尙且年々他へ輸出せらるゝ大豆、小麥、高粱、粟等通計少くも五十萬石(其の一石は我一石三斗餘に當る)内外に達すといふ。



夫 農

引旺盛にして、三井洋行其他二、三外商の如きは各出張所を常置して隨時買付に従事せり。製粉業亦盛にして露人經營の製粉所(一ヶ年小麥粉碎量約六萬石)の外、支那人各個經營に係る舊式磨房百五十餘戸ありと云ふ。

雙城堡を後にして十哩を北走すれば五家 Wuchia (二三哩)あり。是れより尙ほ行くこと二十哩餘にして哈爾濱に達すべく、汽車の北進に連れ線路左側に近く見らるゝ帆影の徂徠は松花江上の戎克船なり。



約六百戸にして、其の内主要なるもの
 石は我一石三斗餘に當る）内外に
 磨房、燒鍋等に消費せらるるものを除
 けらる、大豆、小麥、高粱、粟等通
 常縣（七〇哩）、西は長春岑（四七哩）
 五常縣（七〇哩）、西は長春岑（四七哩）
 周邊一帶地は晩近一世紀來、八旗
 たる大農地（面積大約一萬平方支
 も其の中央に位し、各種商工機關
 れるを以て、農産物の集散範圍頗る
 事試験所、蠶業總局等。
 引旺盛にして、三井洋行其他二、三外商の如きは各出張
 所を常置して隨時買付に従事せり。製粉業亦盛にして露人經
 營の製粉所（一ヶ年小麥粉碎量約六萬石）の外、支那人
 各個經營に係る舊式磨房百五十餘戸ありと云ふ。
 雙城堡を後にして十哩を北走すれば五家 Wuchia（二三哩
 あり。是れより尙ほ行くこと二十哩餘にして哈爾濱に達すべ
 く、汽車の北進に連れ線路左側に近く見らる、帆影の徂徠は
 松花江上の戎克船なり。



の夫農



堡 城 雙

官公署 知縣公署、稅捐局、巡警總局、自治籌辦公所、糧業公司(穀物取引所)、鹽運公所、郵政局、電報局、醫學研究所、農事試驗所、蠶業總局等。

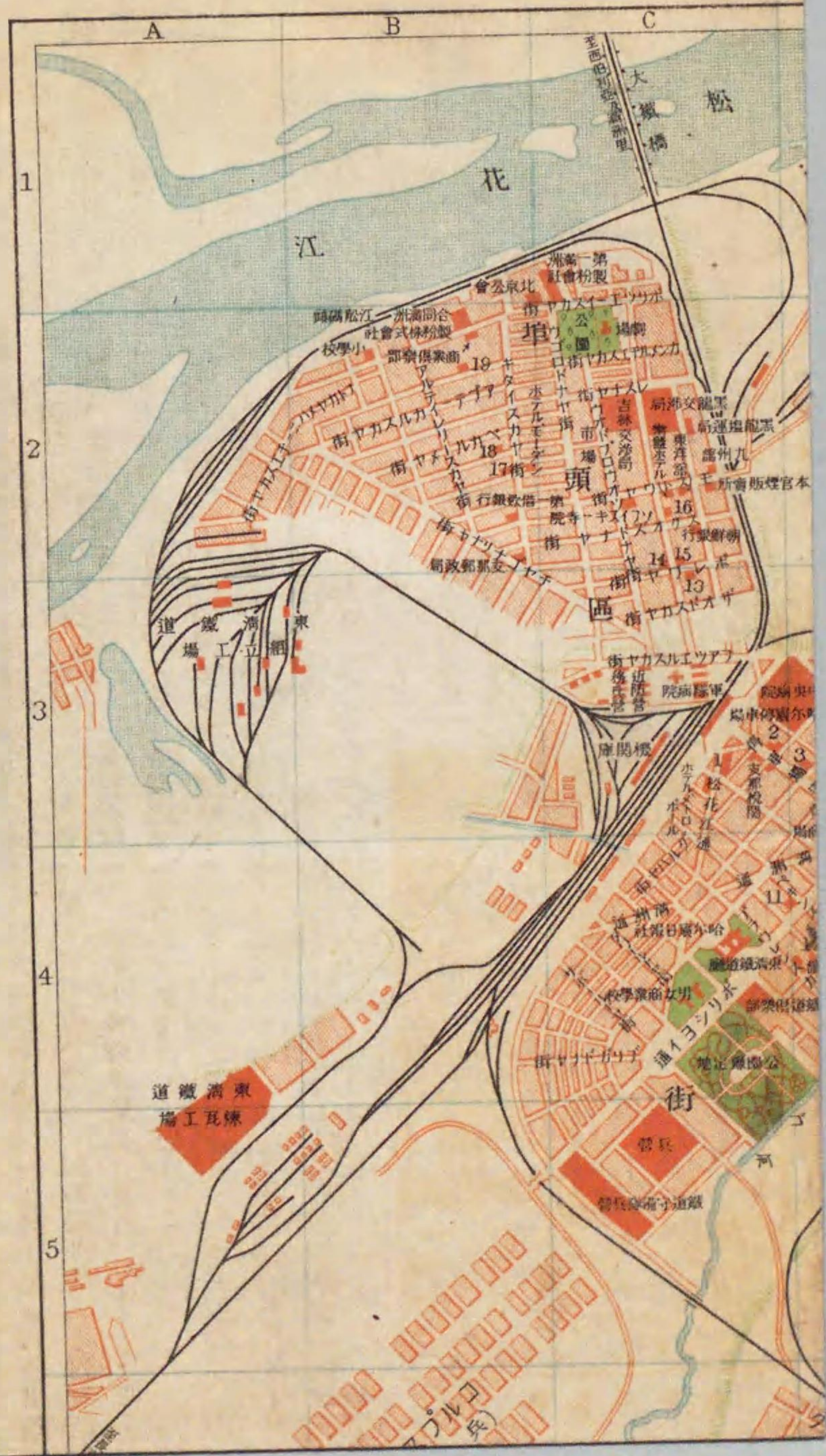
商工業 雙城堡の周邊一帯地は輓近一世紀來、八旗屯田制の下に開墾せられたる大農地(面積大約一萬平方支里)にして、雙城堡は恰も其の中央に位し、各種商工機關と共に鐵道輸送の便備はれるを以て、農産物の集散範圍頗る廣く、東は拉林(三七哩)、五常縣(七〇哩)、西は長春岑(四七哩)の各方面に互る沿途農村より來市する穀類莫大にして、其の一部當地方所在の油房、磨房、燒鍋等に消費せらるるものを除き、尙且年々他へ輸出せらるる大豆、小麥、高粱、粟等通計少くも五十萬石(其の一石は我一石三斗餘に當る)内外に達すと云ふ。

當地所在の商賈は總數約六百戸にして、其の内主要なるもの一當舖八、錢舖(一に差帖舖)一六、糧行二九、油房四五、燒鍋一〇、布疋雜貨一七等とし、中にも大商舖は一家にして上記の二、三種を兼ね、百人乃至百五十人の使用人を役するもの約十家あり。毎年出穀時には客商との穀物取

引旺盛にして、三井洋行其他二、三外商の如きは各出張所を常置して隨時買付に従事せり。製粉業亦盛にして露人經營の製粉所(一ヶ年小麥粉碎量約六萬石)の外、支那人各個經營に係る舊式磨房百五十餘戸ありと云ふ。雙城堡を後にして十哩を北走すれば五家 Wu-chia (三七哩)あり。是れより尙ほ行くこと二十哩餘にして哈爾濱に達すべく、汽車の北進に連れ線路左側に近く見らるる、帆影の徂徠は松花江上の戎克船なり。



途 歸 の 夫 農



ハルビン 哈爾濱 Harbin (長春三〇里)

【到着】長春方面よりする旅客の哈爾濱到着は新市街の西北端なる哈爾濱車站(C3、一名中央停車場)にして、歐露方面又は浦鹽方面より来る場合亦同じ。【荷運夫】停車場構内には白前掛を著し、胸部に番號入徽章を附したる荷運夫あり。賃金は一個に付十哥とす。

【馬車賃】時間極めの場合には最初の一時間一留、一時間を増す毎に四〇哥。その他中央停車場を基點として埠頭區迄七〇哥、新市街迄五〇哥、舊哈爾濱迄一留二〇、傳家甸迄九五哥位とし、祝日及夜間は五割増。但し以上の賃金は孰れも乗車前に取極め置くを可とす。

旅館 【歐風旅館】 グランド・ホテル Grand Hotel

1 C 3 中央停車場前、宿泊料—食料一食一留五〇以上。ホテル・メ

トロポール Hotel Metropole (C3上) 室料二留五〇以上、食料同

前。ホテル・モダン Hotel Modern (B2 埠頭區キタ)、

室料三留乃至一。ホテル・アストリア Hotel Astoria (18 B 2

同上コンメル)等。その他市内各所に露人經營の貸間あり、滯

在客の便に供す。室料一ヶ月普通二〇留内外。

【邦人旅館】 東洋館(C2 埠頭區モス)、和洋兩様の設

備あり、宿泊料(晝食は別—特等八圓、一等五圓、二等四圓)。常盤ホテル(C2上)、

朝日館(上同)、九州館(C2上同)等あり。宿泊料(三者孰れも三圓乃至六圓位(但以上の各種料金は平時を標準としたるものとす))。

料理店 歐風料理店は前記グランド・ホテル食堂、ホ

テル・モダン附屬酒場及停車場構内食堂を首め、露人

經營のもの市内各所に在り。日本料理店には大矢、丸花、

福の屋(以上埠頭區)、三日月、東京庵(以上埠頭區モス)、蓬萊

館、北むら(以上傳家甸)等あり。又支那料理店は傳家甸に多數あり。

郵便電信 露國郵便局(5 D 3 新市街ボル)、同上支(17 B

2 埠頭區キタ)、同上補助局(中央停車場構内)、支那郵便局(B2 埠頭

キタイス)、同上支(新市街スナガ)、郵便料金は地方、外國行

共均一にして、郵便葉書五哥、書狀は二〇瓦迄二〇哥、

以上二〇瓦毎に一二哥を加ふ。書留料二〇哥。

露國電信局(東清鐵道)、同上支(中央停車場構内)、支那電報

局(傳家甸)。電報料金は主なるものを擧ぐれば、東清鐵道沿線

各地一語に付一四哥、浦鹽斯德又はペトログラード二

四哥(以上は露國)。滿洲各地行一語に付九哥、北京又は上

海一八哥、日本各地及香港三五哥、紐育一留六〇等と

す(以上は支那電信に依る)。

市街概観 哈爾濱は北滿洲に於ける最重要の都市にして、又東洋に於ける露國の軍事上並に商業上の主腦地たり。

其の位置は北緯四五度五〇、東經一二六度四〇、清國

吉林省の北境、松花江の右岸東清鐵道租借地内にあり。

寬城子(長春)に達する東清鐵道南岐線を介して、歐亞聯絡

上の要衝を占め、一方松花江の水運を擁して交通至便なり。

現今の市街地附近は元荒涼たる一寒村に過ぎざりしが、一八

九六年東清鐵道の敷設と同時に忽然として一市街を現出

し、續て一八九八年哈爾濱より旅順に至る南部支線の建設

を見るや俄然長足の大發展を爲し、爾來或は團匪事件或は

日露戰爭等の爲多少の打撃を蒙りたれども、市況日々に進展

して以て今日の繁榮を來せり。目下人口十萬以上(内本邦

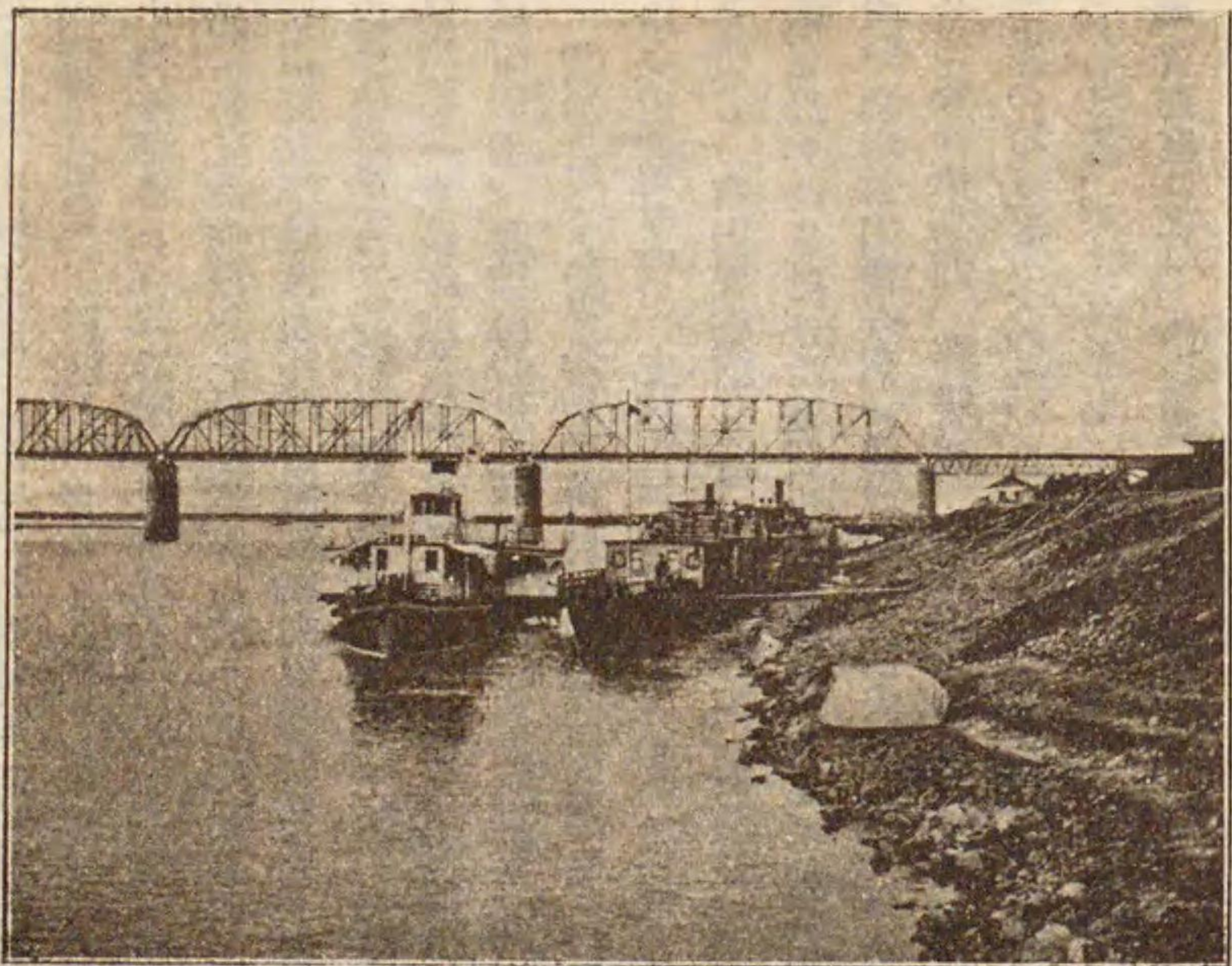
人二千二百、露國人四萬五千)と稱せらるゝも支那苦力等の

移動頻繁なるを以て正確なる數は擧げ難し。

哈爾濱市街はその面積五平方露里(五百二十町步)にし

て、之を舊市街 Old Town、新市街 New Town及埠頭

區 Pristan の三區に大別し、此外租借地外に在るは通俗



橋 鐵 江 花 松

に哈爾賓市街の一部と見做さる、傅家甸(支那市街)あり。
【舊哈爾賓】 露國人の Stal Harbin と稱する處にして、中央停車場より約二哩、新市街の東南方に一區を成す。元當市建設の楷梯として商業等も相當殷盛なりしが、後年新市街及埠頭區の完成と同時に在來の價値を失ひ、主要商店等は皆後者に移轉し、當今は纔に官舎、工場等の所在地に過ぎず。東清鐵道長官々舎及軍隊駐屯所、東清鐵道附屬印刷所、北滿製粉會社、油房等の大建築物あり。

【新市街】 は中央停車場より東南方に展開し、租借地中央の高地を占め、支那人は之を泰家崗 Chin-chia-kaang と稱せり。市街は純然たる歐風市街にして、街衢整然諸般の設備亦完全にして、哈爾賓中央停車場(C3)、東清鐵道廳、護境軍團司令部、露亞銀行等の宏壯なる大建築物を首の各國領事館、郵便局、鐵道附屬中央病院、支那稅關等の諸官衙、大寺院、重なる旅館、日滿商會、滿鐵公所(8D3)、ジャパン・ツーリスト・ビュロー案内所(同上)等皆此區に在り、哈爾賓市街の中樞たり。

【埠頭區】 は松花江に接する低地に位置し、哈爾賓の商

業區たり。該區は跨線道路橋によりて新市街と區別せられ、區内には大小の商舖櫛比し、各國商人雜居殷賑を極む。就中キタイスカヤ街を以て最繁榮の街衢となす。松花江埠頭にハ東清鐵道會社汽船部、黑龍汽船會社等の所有汽船及戎克船の發着頻繁にして、鐵道輸送と互に相俟て奥地貿易の門戸を成せり。商業會議所、正金銀行出張、松花銀行等の各銀行、三井洋行出張、各種工場、娛樂場、市公園、邦人居留民會、日本旅館等皆此區に集中し、殊に日本商人は多くモストロワヤ街を中心として集團せり。

【傅家甸】 Fu-chia-tien 松花江に面し、埠頭區第八區の東方に隣接する支那市街にして、露國の勢力外に在り。元來該市は哈爾賓市街の經營に隨伴して、自然的發達を遂げし處にして人口約四萬を有すと稱せらる。市内には支那官公署、銀行、電信局等を首の大小の商店軒を連ね、雜踏殷盛を極め、松花江流域に於ける支那貿易の中堅たり。邦人は重に北四道街を中心として居住し、年々増加の傾向あり。

【露國側】 後黑龍江護境軍團、東清鐵道守備隊、衛戍司令部、國境地方裁判所、警察署、哈爾賓

市會、東清鐵道廳(C4)等。【支那側】 吉林西北路觀察使、吉林省交涉局、支那稅關、巡警局等。

領事館 日本領事館(10D3 新市街ノボト)、米國(9D3 同上)、白耳義(D3チ、ハル)、佛國(7D3 バヤチ)、英國(D3 プルシヨイ)、露國(D4 プラブラン)。

銀行會社 橫濱正金銀行出張(16C2 埠頭區ヒル)、朝鮮

銀行(支) 松花銀行(埠頭)、露亞銀行(3D3 新市街ワク

クト街)、第一借款銀行(C2 埠頭區モス)、第二借款銀行

(17B2 同上キタイ)、香港上海銀行(14C2 同上ヒル)、中國

銀行(傳家) 交通銀行(同上)、殖邊銀行(同上)、滿鐵公所(8

D3 新市街ノボト)、三井洋行出張(15C2 埠頭區ウチアス)、

城戸寫眞館(同上)、合同滿洲製粉會社(B2 埠頭區)、日本

官煙販賣所(C2 同上モス)、松茂洋行(同上トル)、小寺洋行

(ウチアスト)、日滿商會(3D3 新市街)、萬國寢臺會社(1C

3 新市街)、竹内商會(埠頭區モス)、石山時計店(同上)等。

その他勸商場は新市街に二、舊市街に一、埠頭區に一あり、後者最も大なり。

病院 鐵道中央病院及附屬精神病院(CD3 中央停車場前)

鐵道職員は無料とし、一般患者は實費的診療を受くる事を得。護境軍團病院(D6イ、ゴロドツク)、赤十字病院(埠頭

チヤスト)、警察病院(埠頭區ボリツ)、キルチエフ私立病院

(埠頭區ボト)、市營施療病院(新市街ボチ)、共立日本醫院(埠頭

レバヤ街)、同仁醫院等。

學校俱樂部 東清鐵道附屬男女商業學校(C4 新市街)、

アンデルス私立學校(埠頭)、アクサコフスカヤ女學校、

ゲネローゾウアヤ女學校、日本人小學校(日本居留)等。

商業俱樂部(B2 埠頭區コムメル)、鐵道俱樂部(C4 新市街

ヨイ、プロ)、音樂俱樂部(埠頭)等。

娛樂場其他 【劇場】 シアター・モダーン(埠頭區キ

ヤ)、鐵道俱樂部附屬劇場(埠頭區)、商業俱樂部附屬劇場

(埠頭區)、公園劇場(C2 公園内)其他活動寫眞常設館(埠

頭區キタイスカヤ街及新市街ノボトルゴバヤ街)等あり。

【公園】 哈爾賓市内の公園は新市街(C4)、舊市街

(F67)及埠頭區(C2)の各區に在り。孰れも設備等の見

るべきものなしと雖も、園内樹林の間に曲折せる通路を設け、腰

掛を隨所に配置しあるを以て夏季夜間の逍遙納涼に適す。就

中埠頭區の北端に在るものは設備比較的完全にして當地唯一の遊樂場たり。即ち園内を二分して、其の一半を樹間の散策に充て入場料を徴せず、他の一半は特に入場料を徴して、活動寫眞、舞踊、演劇等を觀覽せしむるを以て、夏季は夕刻より美裝せる滿都の人士此處に蟠集す。

【露西亞風呂】は土耳其風呂と並び稱せらる、世界浴場の雙壁にして、家屋宏壯室内の設備亦善美を盡せるもの多く、普通に温湯浴室、蒸風呂室及休憩室(寢臺付)の三室より成り、客は随時入浴の快を得べし。料金は一留五〇乃至五留位にして、埠頭區ヒルコツフ街の中央浴場を第一とし、埠頭區トロゴバヤ街、アプテカルスカヤ街、デアゴナルナヤ街、新市街ポチトバヤ街等に點在す。

附近都市 【阿什河】^{アシヘ} A-shih-hé 東清鐵道阿什河驛を距る約三哩に在る北滿有數の商埠にして、吉林三姓間の通路に當り四面に平野を控ふ。哈爾濱へ西南約六〇哩、雙城堡へ陸路約八〇哩。人口約二萬と稱せられ、巡警總局、官運局、交涉局、硝磺分局、戒煙分局等の支那官衙を首め、露國製粉會社及精糖會社(阿什河驛^{附屬地内})の二大工場あり。

市街は城廓内に在りて、東西約六町、南北約十三町の面積を有し、東西、南北の十字街を商區と爲す。就中南北大街最も繁榮にして、宏壯なる商舖軒を連ね商況盛なり。城南約三十町にして【金の顯祖建都の古城】あり、俗に白城と稱し今や纔に土城を存するに過ぎざれども、附近の土中より古鏡古錢等の發掘せらる、もの尠からずと。

【呼蘭】^{フーラン} Hulan 松花江の支流呼蘭河の東岸に蒞み、哈爾濱へ約三〇哩、東清鐵道對青山驛へ約二〇哩にして達すべし。呼蘭は松花江第一の都府にして、現に呼蘭縣の所在地なり。市街は黑龍江省の大交通路たる松花江に近く水運至便なるを以て附近都市との貨物取引盛なり。

市街は不規則なる方形を成し、南北の大街を除けば餘は多く複雑なる小巷なり。市中最熱鬧の街衢を南北街となし、就中南北の牌樓間は大商店櫛比し商況殷賑なり。現下人口約二萬五千を算し、知縣公署、巡警總局、兩等學堂、工業學堂、商務分會等の官衙學校、當地第一の信廣公司外燒鍋二、當舖二、油房五十餘軒あり。



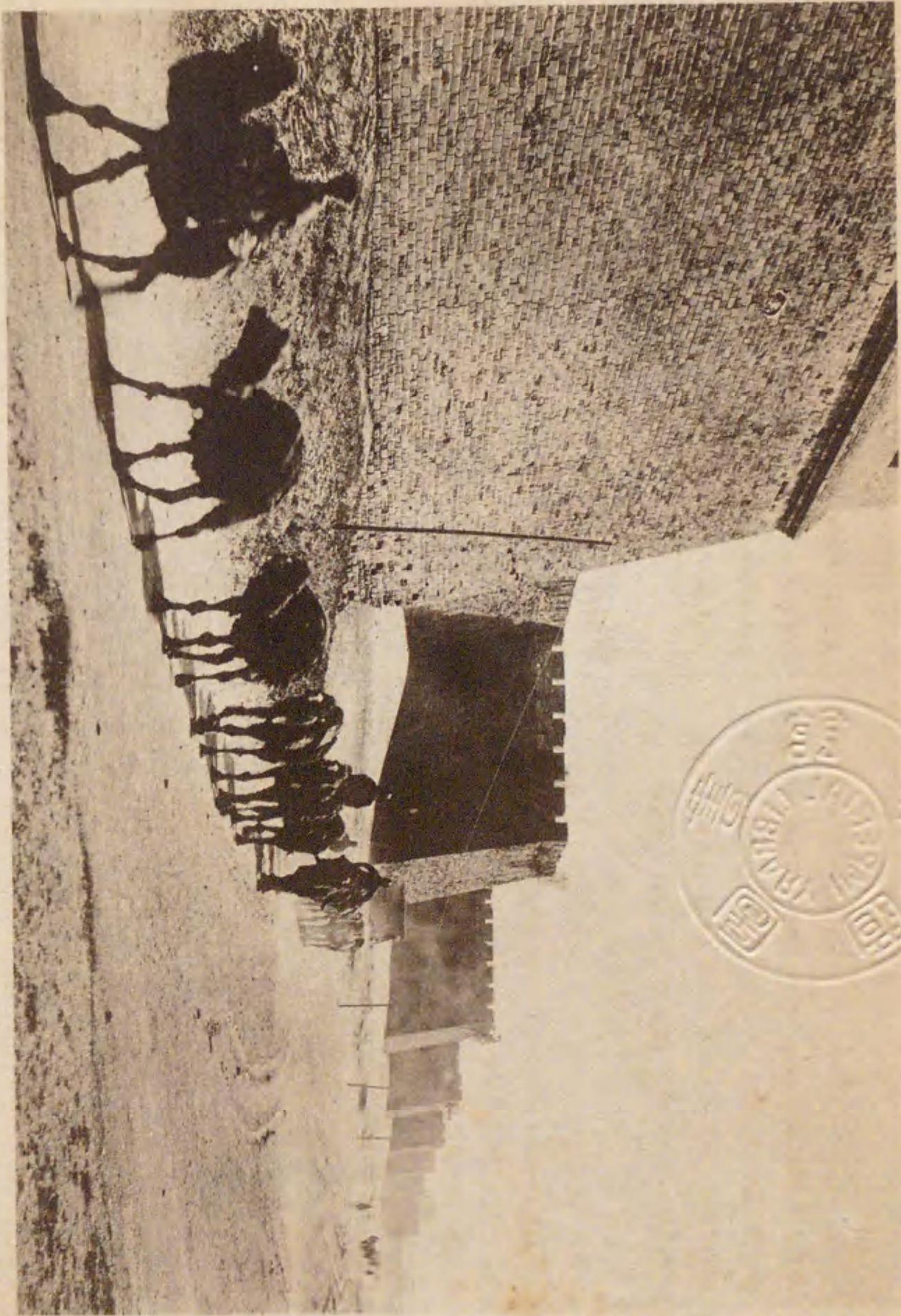
支那之部

途路 19 奉天北京間 (京奉線)

京奉鐵路 奉天(瀋陽站)より北京(正陽門車站)に至る五二二哩六(滿鐵車站よりは五三哩)を本線とする。民國官營鐵道にして、其の東端は南滿洲鐵道の奉天驛と直接連絡を保ち、該鐵道の本線及安奉線を介して、東清、西伯利、朝鮮、日本諸鐵道に連絡の便を有し、又奉天、北京間の沿途には溝帮子より營口(牛莊)支線、湯河より秦皇島支線、北京近郊通州分岐驛より通州支線等の分岐ある外、天津には津浦鐵路と、豐臺驛には京漢及京綏二鐵路とも接続す。但し京漢線との連絡旅客は北京正陽門車站にて乗換ふるを可とす。

【直通列車】 上記連絡諸鐵道と京奉鐵路との各主要驛相互間には、孰れも直通切符に依る連絡運輸の便ありて、各線間に夫々接続列車の運行あり。即ち西伯利、日本乃至滿鮮鐵道列車に連絡する特別急行列車毎週一便(戰時中時に休止することあり)、直通郵便列車毎日一回

貨來古蒙外城京北



等あり。孰れも食堂車及寢臺車を聯結し、奉天、北京間(又その反路)を二〇時間乃至二二時間半を以て馳行し、且此等の列車は天津車站に於て津浦線の同種の列車に接続す。而して津浦線終端驛浦口よりは、更に連絡渡江船便に由り南京下關車站に出で、滬寧線を介して上海に達するを得べし。奉天、上海間全行程約一、二六三哩、五五時間を要す。賃金急行料及寢臺料共一等八三弗六五仙、二等五二弗一〇仙。

【區間列車】 上記直通列車以外に、京奉線内各主要驛間を毎日往復する郵便列車(食堂車付)、旅客列車及混合列車等數回あり。多くは比較的緩速度のものなれども區間により夫々差異あり。就中天津北京兩地間(八六哩六)には毎日六回の列車便あり、約三時間の行程とす。

【旅客賃金】 京奉線に於ける旅客賃金は每一哩一等六仙、二等三³/₄仙、三等二仙の規定なるを以て、各乗車距離に之を乗じて計算する事を得べし。但し其の積が十仙未満の端數を生じたる時は、之を十仙として計算し、且最低賃金一等五〇仙、二等三〇仙、三等二〇仙とす。奉天北京間は一等三一弗四五仙、二等一九弗六五仙なり。その他急行料一等二弗、二等一弗、寢臺料一等五弗、二等二弗五〇仙とす。

【手荷物賃金】 旅客手荷物の無賃制限量は一等乗客一人に付一二〇斤、二等九〇斤、三等六〇斤とし、該制限超過の場合は、その超過重量に對し五〇斤を單位として、百斤一哩に付一仙の割合にて料金を徴せらる。

【沿革】西紀一八七八年開平炭山(直隸省深州唐山附近)の發見せらるゝや、當時創設を見たる開平炭礦會社は之が運炭用鐵道の必要上唐山、胥各莊間(約七哩)に馬車鐵道を布設せり。是れ即ち京奉鐵路の起原にして、爾來中國鐵路公司の經營に移りて蒸汽鐵道に改められ、一八八八年に至りては更に延長して天津に達し一八九〇年乃至一八九五年の間には唐山以東山海關間を完成し、名を津榆線と稱せり。次で一八九五年六月更に天津北京間の工事に著手し一ヶ年にして竣工し、同年中に之を複線となしたり。同時に又山海關より關外に延長して營口に至らしめ、更に途中驛溝帮子より分岐して新民府に達せしめ、名稱を關内外鐵路と改稱し、關内外鐵路總局の手に收めて官營とせり。其後一九〇〇年團匪の事變起るや一度は關内線は英國、關外線は露國の管理する所となりたるも、一九〇三年事件落著と同時に兩國孰れも之を清國に還附したり。又新民府より以東奉天に至る線路は一九〇五年日露戰役の當時我軍の手に依り假設し、戰後清國に讓與せしものに係り、爾來清國は之に依つて北京、奉天間に直通列車を運轉し、茲に始めて京奉鐵路の名稱を附するに至りたるものなり。

沿途概観 京奉線は所謂滿漢兩地の各首都を東西に連絡する北支那幹線の一系を成すものにして、その間新民府、錦州、寧遠州の如き都城、營口支線の分岐點たる溝帮子、

萬里長城の基點たる山海關、秦皇島支線分岐點たる湯河、北支居留外人の避暑地として名ある北戴河、炭坑の所在地たる古冶、開平、唐山、灤河、さては果實の産を以て名高き昌黎、塘沽附近なる長蘆鹽田等を連ねて雄大なる風光千變萬化して車窓に入り、旅客をして指顧應接に遑なからしむ。殊に線路の兩側には漢沽以西の澤地を除く外殆ど全線に互りて楊樹あり、枝幹繁茂して四月以降春夏の交翠陰車窓に迫り、涼味掬すべきものあり。

【奉天新民府間】汽車奉天(南滿車站沿線各站の哩程は、を發すれば、南滿鐵道の附屬地を通過して、皇姑屯車站に至る。皇姑屯は元京奉線が未だ小西邊門迄延長せられざる以前に、瀋陽驛の名を冠して奉天に於ける極端驛たらしめ、現今は炭水補給其他貨物の取扱に任ず。此附近鐵路局の官舎、倉庫等を散見す。皇姑屯を過れば左右渺茫たる綠野にして、鬱々たる楊樹林に圍まれたる大小村莊の間に馬三家 Ma-san-chia (10哩)あり。漸くにして小丘の現はる、處一大河あり、所謂遼河の上流巨流河にして一大鐵橋を架せり。河上には大小民船の白帆去來して、單調なる平野の景色を美化するもの

あり。鐵橋を渡り線路の東側に巨流縣城の儼然たる樓門を認め、巨流河 Chü-liu-ho (22哩)を過れば、平丘上孤山稀に出没して、牛馬の放牧を見ること宛然一幅の畫圖の如し。

新民府 Hsin-min-fu (三馬)市街は車站の南方約一哩の地に在り。一名新民屯と稱し今又改めて新民縣と呼べり。驛の南端に接續して四條の大街あり。就中車站の正面に通ずる街路及京奉大路に沿ひたる街路は最も殷賑の區たり。この地は曾て榆營線支路の終端驛たりしが、新瀋線の開通と同時に京奉鐵路幹線の一主要驛となれり。人口は支那人約二萬五千、外に日本人約百人を算す。

【旅館】日本旅館(料理店兼業)一石井館(新民府馬路街)、愛華館(同上)、宿泊料二弗乃。支那客棧一天慶(小高家胡同)、大祥(縣署)、宿泊料(飯錢及座料共)一弗三〇仙乃。其他中流以下のもの約十軒あり。【料理店】日本料理店一前記日本旅館兼營のもの、外清川館(馬路街)等あり。支那飯館一増盛園(西大街)、福徳園(東大街)、その他數軒あり。又回々教席館に馬家飯館(西泡)、茶樓に文明茶樓(老爺廟)等あり。【車馬賃】當地に於ける市内交通機關は轎車のみにして、其の賃金は一時

間二〇仙乃至三〇仙、半日一弗乃至一弗五〇仙位。

【領事館】奉天日本總領事館分館(紅樓胡同)。【郵便電信電話】關東都督府新民府郵便局(紅樓胡同)、一般郵便事務の外市内電話事務を取扱ふ。その他支那側の經營に係る新民府電報局(老爺廟)、二等郵政局(東大街)、新民縣公署電話局(縣公署前に在り支那各官署間の通話のみ取扱ふ)。

【官公署】新民縣公署(後街)、同警察事務所(同上)、稅捐局(西泡)、教養局(胡同)、貧民救濟を目的とす、勸學所(後街)、その他日本居留民會(馬路街)、農務分會(馬路街)、商務分會(後街)、衛生醫院(後街)等。【銀行】中國銀行支店(東大街)、零集銀行(胡同)、同源銀行(東大街)、奉天官銀號(出張所)等。【學校】官立師範學堂、英國基督教會學校(耶穌教堂と稱し中學校、簡易科、小學校を有す)。

【主要店舗】邦商一新和公司(石炭西)、三井洋行(後街)、吉備公司(雜貨馬路)、庄司洋行(賣藥馬路)、昌平堂藥房(賣藥大高家)、支那商一忠發號及德興店(以上東大街)、信和店(中街)、福增永(雜貨中街)、興順永(糸房大高家胡同)。【娛樂場所】同華舞臺(馬路街)、風月樓(西泡)。

【交通】 陸面に於ては京奉鐵道の外、奉天街道、法庫門街道の二路相通じて、車馬行客常に絡繹たり。又水面に於ては遼河の揖運ありて、北は蒙古方面に、南は營口に通ず。遼河の碼頭は大小數個所あり、常時民船の最も輻輳する場所は市街地を距る陸路約八哩餘の馬廠碼頭なりとす。

【製造業】 當地に於ける工業の主なるものは製油にして、忠發號機械油房(東後街)及德興店油房等大小約三十軒あり。生產品(豆粕及豆油)の輸出先は主として營口方面とす。其

の他焼鍋(燒酎製造)、磨房(製粉)等あり。【商業】新民縣の商業範圍は縣下一圓及營口を主とし、殊に營口は輸入品の仕入地たると同時に輸出品の仕向地たり。奉天とは接壤の域に在るも商業關係極めて薄く、寧ろ北方の法庫門方面とは相當密接なる取引行はる。

【新民府錦州間】 新民府より厲家窩舖 Li-chia-wo-pu (六哩五)に至る約三〇哩の沿途は風光平凡なるも、行々左窓遙に遠山を背景として茂林に包まれたる村落、又は赤土の牆壁中に抽出する古塔を或は遠く或は近く望みて進めば、聽て狹長なる平丘視野に入り來るあり。是れ即ち大虎山 Ta-hu-shan

營口支線

【營口支線】 溝帮子營口(河北車站)間五六哩六、毎日二往復の列車便あり京奉本線の列車に接續す。行程三、四時間を要す。賃金一等三弗四〇、二等二弗一五。該支線は當初關内外鐵路幹線の一部たりしも、其の後新民府、奉天間の開通と共に今や其の一支線として存せり。而かも滿洲に於ける主要貿易港の一たる營口を極端驛とし、遼河水運との連絡あり、又營口市街との間には連絡小汽艇の渡航便(第一二三頁)あるを以て幹線に對する主要營養線として、常に貨客の往來頻繁なり。殊に有名なる滿洲大豆の輸出期及山東苦力の出稼期節に至れば之が輸送に繁忙を極む。

營口支線沿途一帯地は遼河右岸に展開せる一望千里の平野にして、殆ど視界を遮るものなく中間驛には胡家窩舖 Hu-chia-wo-pu (溝帮子より二哩二)、双臺子 (Shuang-tai-tzu (二哩一))、大窪 Ta-wa (三哩九)、田莊臺 Tien-chuang-tai (四哩九)の各郷邑を點綴す。前二者は

(七五七)にして、此處に同名の一驛あり、放牧の馬匹三々伍伍山麓に嬉々たり。次で高山子驛 Kao-shan-tzu (八六四)附近に至れば又左窓に波状の小丘を見るも、現今線路用碎石の供給地たるを以て漸次その自然美を破壊せられつゝあり。夫れより車窓に入るは連綿たる大興嶺を背景としたる茂林、村莊の野景のみにして、やがて青堆子 Ching-tui-tzu (六哩六)と稱する小驛を過ぐれば、平常一滴の水も止めざれど、大雨一過忽ち濁流滔々として氾濫の暴威を逞うする河床を渡り、漸くにして溝帮子驛に達す。

溝帮子 Kou-pang-tzu (一〇六哩二、約五時間) 車站は線路の北側に在り、各列車皆此處に發着す。此地は鐵道開通當初微々たる一部落に過ぎざりしが、その後線路の擴張に伴ひ京奉線營口支線の分岐點となり、今や既に繁榮なる一市鎮たり。人口二千餘を算す。附近名勝地には【廣寧山】あり。車站を距る約一六哩、古廟數座山頂山麓に點在し、碑碣亦甚だ多し。若し夫れ陽春の候此處に杖を曳かんか芳草妍艶を競ひ、夏秋には諸果豐熟して客を待つべし。就中梨果の産を以て名あり。

雜穀の産に富み、後二者は春秋兩季に海鹽を産し、奉天、新民府方面へ移出せらる、額尠からず。

* * * * *

溝帮子を發すれば一條の小溪僅に水を湛ふる處、馬匹の好放牧地にして、漸く進めば乾燥したる赤土の荒野連らるること約三哩に及び、線路の兩側又一樹を見ず。羊圈子 Yang-chuan-tzu (二六哩四) 附近に至れば地味漸く肥えて耕地開け、路邊又楊樹林を見るべし。やがて石山站 Shi-shan-chan (三三哩六)を過ぐる邊は地味最も膏腴にして、耕作物の發育頗る佳良なり。右窓に映する平丘は遠く北西に走りて、雲烟の如き遠山の美容その上に相重疊して頭角を顯はし、丘坡全く盡くる處、所謂大興嶺の山系地平線上に參差たる曲線美を劃し、その眺望の雄大は征客をして快哉を叫びしむべし。前途に横はる大河の鐵橋を渡れば河名に同じ車站大凌河 Ta-ling-ho (三三哩四)はその右岸に在り。夫れより緩丘小巒の間或は深き切取の間を出發して、眼界漸く狭り風光全く一變す。双羊店 Shuang-yang-tien (三三哩三)を通過する頃より左邊は漸く

丘陵に遠ざかり溪水その山麓を流れて去り、右邊亦丘陵展開して線路を離るゝや、突如圓錐柱状の一大古塔を望むべく、塔下を凝視すれば門樓を視るべし。是れ即ち錦州城なり。

錦州府 Ching-chou-fu (一四五九、約六時間半) 城市は車站を距る約一哩、小凌河に沿ひ、人口約七萬を有し、實に奉天、山海關間に於ける最も繁華の地たり。その西北約五町の處に聳立するを蓮蓬山と呼び、正東の一村莊を唐家屯とす。

【車馬賃】 旅客の乗用としては、驛車あるのみ、その賃金は一哩に付銅貨約十五枚を要す。

【客棧】 車站附近の中流客棧には義和、双順、公義、永盛、魁升の五軒あり。宿食費は五〇仙位、その他魁發、公陸、成記、順源、德發等の大小二十軒の上等客棧は皆城内にあり。

【飯館】 (料理店) 福順樓、榮舛、萬福樓等城内に約六軒あり、その外車站附近には小飯館數軒あり。

【官公署等】 縣公署、師團司令部、警察署、中學校、天主堂、耶穌教堂等以上孰れも城内に在り。又稅捐局、厘金局は車站附近に在り。

府に隸屬する知州衙門の所在地たりし處、その東南約三里を距て、遼東灣に面す。車站より距離にして州城西門に達すべし。

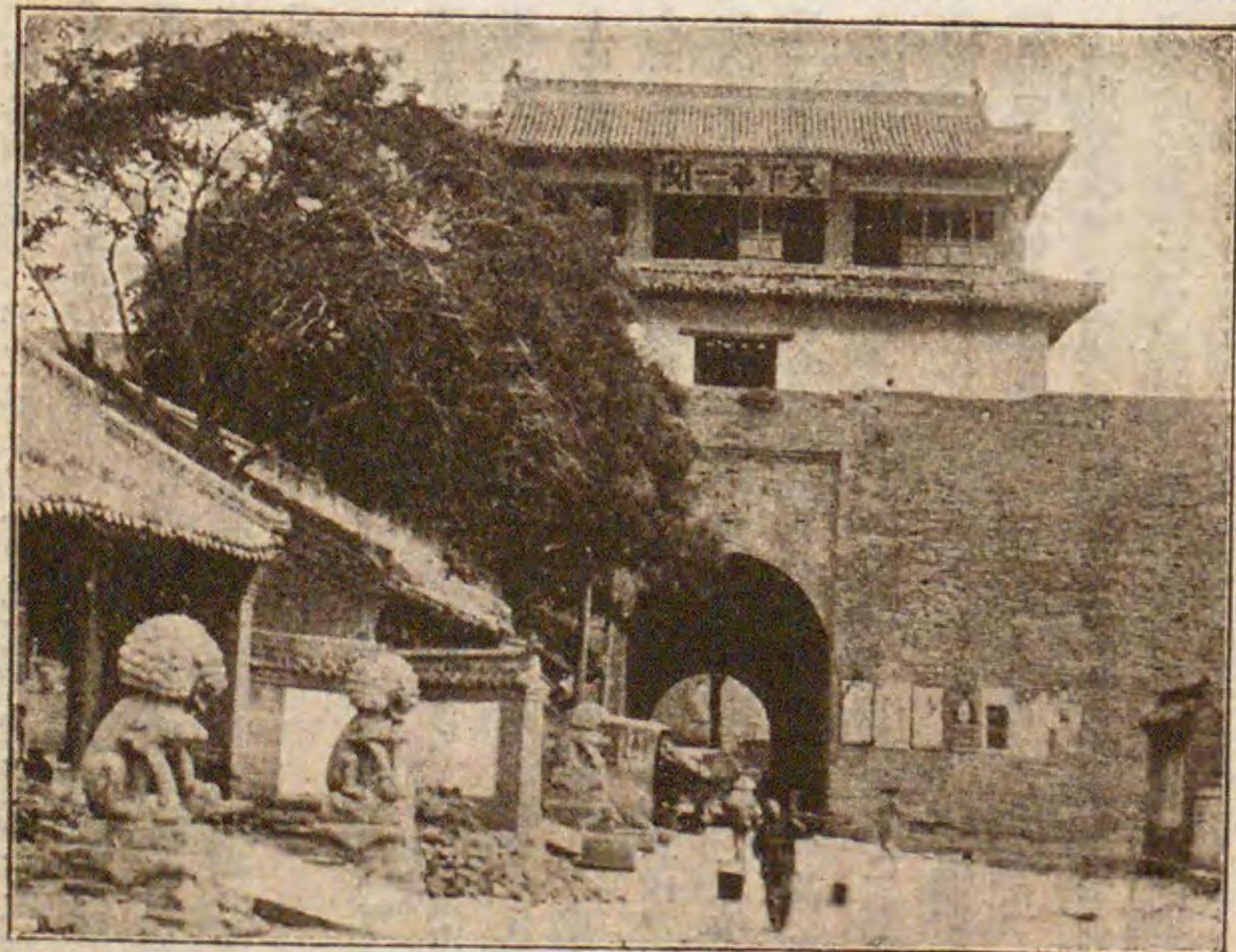
【車賃】 驛車一哩に付、銅貨約十五枚

【官公署】 縣公署、稅捐局、漁業公司、集寧兩等學堂、女學校等あり。

【名勝】 溫泉 寺は車站の東南約二哩、溫泉を以て名あり。東方約三哩に國初吳王の古墳あり。又城内には明代の建設に係る牌坊二基あり。

【物産】 穀類、大豆、梨子、猪毛等を産し、重に營口、芝罘、大連、奉天等に搬出せらる。

寧遠州を出づれば前程は園圃を隔て、巍々たる群峯を右窓に望み、左窓時に渤海の烟波と對し景致頗る雄大なり。沙後所 Sha-hou-so (1101里) 東新莊 Tung-hsin-chuang (1133里) の二小驛を過ぐ。右窓は依然平野を隔て、群峯を望みし、荒地 Huang-ti (1133里)、前衛 Chian-wei (1133里)、前所 Chien-so (1142里) 等の諸站を過ぐれば、亂峯漸く右窓に迫り壯觀いふべからず。斯かる間に列車はいつしか萬里長城の牆壁を突破して關内に入り山海關驛に達す。



山海關

【名勝】 車站を距る約五哩の地に觀音洞及金牛洞の勝地あり。又城内には大佛寺あり。

【物産】 豆油、豆粕、大豆、羊毛等を産し、就中大豆、豆粕を以て大宗とす。

【錦州山海關間】 錦州以西は右窓に再び連山を遠望し、左窓は平圃千里の外に連る。高橋 Kao-chiao (16里) 附近に至れば有名なる連山灣の景色を遙に認むべく、聽て連山 Lian-shan (177里) に達す。此處には一支路あり、驛の東端より分岐して平圃の間築堤を走ること約七哩にして連山灣に至るものなり。

【連山灣】 連山車站の東方約七哩の地點にあり。渤海の北部遼東灣に面して突出せる葫芦半島の突角より南北二方に灣入し、該半島の地峽部を形成せる沿岸一帶の總稱にして、灣内水深く且廣きを以て、灣の内外を通じて約三四十艘の大船を碇泊せしむるに足るべし。嘗て李鴻章此の地に築港して、一大商港たらしめむと計畫したるも果たさず。降つて一九〇六年我國が南滿鐵道及大連旅順を經營するに至るや、支那政府は又此地を開發して附近地方の物資を吸集せんとし、其の築港及連山驛との連絡鐵道工事に着手したるも、半途築港工事は中止せられ今日に至るも未だ竣成の運に至らず。

寧遠州 Ning-yuan-chou (120里) 此地元と錦州

山海關 Shan-hai-kuan (110里)

恰も本線の中央に位し、車站の北側前路は直に城の南門外市街(南關)に接す。巍峨たる亂峯は西北東の三面より海隅に攢集して、その餘勢方に渤海灣頭に迫り、山嘴僅に一斷する處、萬里長城の一端其の斜面を下し、更に平地を劃して海濱に及ぶ。其の一部緩斜の地を下して築造せられたるもの、是れ即ち山海關城(一名榆關城)にして、其の關外に通ずる東門樓上額して「天下第一關」と題せり。此地自然の天險にして、要害堅固、古來支那歷朝が遼西の咽喉を扼する最優勝の要塞地として、或は冀北の神臯、或は燕東の天嶮と稱したる蓋し偶然にあらざるなり。

旅館 鐵路飯店(線路の南側) 二層樓煉瓦造の歐風旅館にして客室約三十五を有し、宿泊料一等十弗、二等六弗、三等三弗、純日本式にして、宿料乃至五弗。支那客棧一車站附近に開店する貨物運送店之を兼業し、同豐公司、信成公司、同順棧、同義棧、同和棧等大小二十五軒餘あり、宿料特等一元、普通六角。

は工事中にして難に逢ひ、中止せられたるを以て廢積著し。城内現在人口約三萬と稱せられ、其の外各國駐屯軍を除き外國商人約百名内外を算すべし。

郵便局 支那郵政局(本局を城内に分局を停車場附近に設く)、日本郵便局(南關に在り、天津郵便局の分局なり)ありて一般郵便事務を取扱ふ。

遊覽地 【長城】 縣城の南關外、約四哩の海岸に在る第一砲臺(目下英兵駐屯)の所在地老龍頭より起り、縣城の東壁と相連なりて角山の巔を攀登し、亂峯の脊背を縫うて右曲左折し、三道關及九門口を連ねて北走し、直隸、山西の二省を貫き、更に陝西省と蒙古との境上を過ぎ長驅甘肅省嘉峪關に至りて止む。即ち東經百二十一度より九十七度に跨れる支那歷史上最も著名なる紀念物にして、世界稀有の一大建造物たり。其の起源は即ち今より二千餘年前秦の始皇が北方強胡の來襲に備ふるため將軍蒙恬をして築かしたる處、今や風餐雨蝕舊觀を存せずと雖、反つて幾多變遷の歴史を語るに似て、坐る行客をして當年の雄圖を偲はしむるものあらむ。

山海關概観 停車場より人力車を驅り、街路を北行すること約半哩にして城内に達すべし。即ち山海關城の南門にして、通過する處の市街は俗に南關と呼ばれ、我天津郵便局支店、旅館、雜貨店及菓子店等皆此間に點在せり。城は之を別ちて縣城、東羅城、西羅城の三となす。

【縣城】 は臨榆縣の所在地にして、高四十尺、厚二十尺、周圍約三哩に亘る堅牢なる城壁を繞らし、鎮東(東)、迎恩(西)、望洋(南)及威遠(北)の四門を有し、且各門上に宏壯なる門樓を見る。而して萬里長城はこの關の東方を南北に走り縣城の東廓を成す。若し夫れ樓上に登臨せば、關内外の風光一眸の下に在り壯觀を極む。城内中央に高二七尺、幅五〇尺、方形の鐘樓、鼓樓あり。樓上に文昌殿を設けて文昌君を祀る。又樓下の四孔門は城の四門に通ずる街路に連なり、その南西二街には豪商巨賈櫛比せり。臨榆縣署、警察署、高等學校等皆此内に在り。

【東羅城】 は縣城の東門外に突出せる城壁を以て別に一廓を成せる處にして、服遠と稱する西門を有す。【西羅城】 とは西門外を包む城牆の稱にして、其の西邊に拱震門あり。該城

【二郎廟】 西關外より西北約五哩、首山の巔に在り。廟を去る約二町山の麓迄は車馬を通ず。前面は海濱に瀆み、後は長城に據り、而して翠巒其の南に聳え、榆水北より來つて廟下を繞る處、山紫水明の景致實に愛すべく、殊に外人銷夏の仙境なり。

【樓賢寺】 一名角山寺と稱し、縣城の北門外約五哩角山(標高一、三〇〇尺)の巔にあり。山海關の一名刹にして、又第一の勝區たり。堂内には觀音大士を奉祀し、その西方に湧出する龍井は土人以此治病に效ありとなす。背後には居然たる層岩苔蒸して、矮松其の間に蟠屈す。若し夫れ山巔に立てば蕩漾たる渤海の碧波を俯瞰し、遙に白帆の走るを見れば、更に西方巉巖に登れば群巒悉く脚下に朝宗し、石河の上流はその峽谷の間を曲折して恰も藍を流せるが如く、首山の二郎廟亦眸中に入る等景趣眞に畫圖の如し。

【海水浴場】 停車場より南方約三哩を距る第一砲臺附近より石河の海に注ぐ邊迄、約一哩半の海濱は柳楊、青松、白砂と相映じ、北清稀に見るの景趣あり。殊に海水淺くして且清淨、波浪亦常に靜なるを以て夏期京津各地より來る内

關海山

外の避暑客極めて多し。その他海神廟(海岸に在り)、五泉寺(西門外、懸陽洞、北門外、約七哩)等又遊覽の價値あるべし。

【山海關唐山間】奉天、天津間に於て旅客の注意を惹くは實に此區間に於て。山海關を離るれば香魚の産を以て名ある石河の下流を渡り、萬里長城の蜿蜒長蛇の如く北方に走るを見つゝ進めば、左窓に平野を隔て、渤海の碧波を見る。而して海岸に近く砂丘の隱見するものは是れ即秦皇島なり。汽車はやがて湯河驛に著す。

湯河 Tang-ho (二七哩) 秦皇島棧橋に至る支線(延長約三哩)の分岐驛にして、該支線は開灤礦務局の經營に屬し、其主たる目的は運炭に在れども、尙京奉線の主要列車に接續する旅客列車もあり(賃金一等三十仙)。殊に冬季は北支那に於ける唯一の海陸連絡線として、旅客交通上の便に資する所甚大なり。【車馬賃】車站附近には顧客を待つ轎車及驢あり。賃金は各普通の場合一哩約十五仙位とす。

【溫泉寺】車站の北方約八哩、湯河の水源地なる茶盤山に在り。寺の附近に湧出する溫泉及附近の景色の美を以て知らる。車站より驢を驅れば約二時間半にして達すべし。

一九〇一年より之を實行せり。而して之が築港經營は一九〇〇年即ち北清事變當時列國協議の結果、海兵の上陸地點として假棧橋を築造せしに始まり、續て開平礦務局の改築せる處、今や鐵道線路の連絡と相俟て冬季結氷期間に於ける北支那の海運に多大の便益を與へつゝあり。

北戴河 Pei-tai-ho (二七哩) 車站は線路の北側に在りて、北戴河海岸車站に至る約七哩の支線此より分岐す。【北戴河海岸車站】北京より二四七哩、旅館には北戴河ホテル(夏季のみ營業)あり。宿泊料米式七弗以上。地は背後に聯峯山を負ひ前面渤海に瀆み、海邊の風光明媚なるを以て夏期納涼の好適地として近年其名益々著する。山腹傾斜地及數哩に亘る海濱には別荘、簡易宿泊所、運動場等の設備あり、夏時京津地方より來遊するもの多し。

北戴河を後にし、留守營 Liu-shou-ying (二八哩)を過ぎ右窓遙に一奇峯を望めば聽て昌黎なり。昌黎 Chang-li (二九哩) 車站の北方約一哩に聳ゆるは即ち觀音山として、その南麓に昌黎縣城あり。城壁の門樓古塔は構築古雅を極む。此地は夫の唐宋八大文豪の一人たる韓退之(傳記は第四二〇頁潮州の條下參照)の故郷にし

秦皇島 Chin-wang-tao (二七哩) 【旅館】レストハウス Peat House 當地唯一の歐風旅館にして、宿泊料米式五弗以上 【支那市街】その位置は丘阜の西北方に在り。戶數約三百を算し、市況は冬季繁榮なれども地方各港の解氷期に至れば衰ふるを常とし常住の富商なく、其の多くは出張店に止まり家屋の構造亦概して粗雑なり。【官公署等】警察署、天津海關出張所、郵政局、開灤礦務局及附屬舍宅、仁記洋行並に南阿殖民會社の支那苦力假泊所等皆丘阜に在り、又外國海兵駐屯所は海岸砂地に設けらる。

【埠頭の設備】半島の尖端より南西に向つて海橋あり。大棧橋は全長一、八六〇尺、幅員六〇尺、小棧橋は全長三五〇尺、幅員三〇尺を有し、一般の汽船は礦務局所定の料金を支拂ひて其の側面に繫留すべく、又棧橋上には構内貨物線を延長して海陸連絡に便せり。其他秦皇島の南山角には燈臺及信號所ありて、航洋船舶の出入に便す。

【輸出入品】輸入にありては上海より來る綿製織物、石油、紙卷煙草等を大宗とし、輸出に於ては開平炭その全額の約九割を占め、其の他落花生、豹皮、耐火煉瓦、牛肉等となす。【沿革】秦皇島が北支那唯一の不凍港として漸く世人の注目する所となるや、西紀一八九八年清國政府は自ら進んで之が開放を宣言し、

現に其遠孫は此處に住すと。昌黎以西灤州に至る一帯の地には葡萄、梨子、桃、柿、栗等の果樹の栽培盛にして其の成熟期には各地に移出せらるゝもの多く、又車站に於て之を賞味するを得べし。昌黎を出安山 An-shan (四〇哩)、石門 Shih-men (三五哩)の二驛を過ぐれば、高低參差たる丘陵車窓に入り、左方遙に高塔の山上に隱見するを見るべし。是れ灤州城の遠望にして、聽て一大鐵橋(二、六〇〇尺)を渡れば灤州なり。

灤州 Lan-chou (三〇哩) 【車馬賃】轎車一哩に付約二〇仙、驢一哩に付約一五仙。【客棧】德順店、裕和棧の二軒、孰れも車站附近に在り、宿泊料六〇仙内外。【官公署】郵政分局、電報分局、警察分局、商務分局(以上車站附近)。知縣公署、警察總局、鹽務總局、土藥局、諸學校(城内)等あり。

縣城は驛を距る約三哩、灤河の右岸に在り。古來真品の一たる灤河の紅鯉を以て名あり。近くは又開平炭礦に亞ぐ一大炭礦の發掘せらるゝありて、その名益々顯はる。當初該炭礦は支那土人の舊式なる經營に委せられしが、開平礦務局との間

に礦區の紛争を醸し、遂に兩者合併して開灤礦務局と成り、爾來百般の施設其の面目を一變せり。

【灤河の水運】 灤河は其の源を内蒙古に發し流域稍廣大なり。河口より灤州を経て永平、遷安、太平營、沙富橋、承德等を通じて灤平に至る約二三〇哩の間は常に舟楫を通ずべし。而して上航には雜貨、糧米を輸入し、下航には石材、木材、果實類を運搬するを例とす。灤州、灤平間上航十二日、下航四、五日を要す。

灤州以西唐山に至る間は、處々に開灤礦務局經營の炭坑を點綴する廣漠たる平野の間、小丘を縫うて走る。坨子嶺 To-tzu-ling (三三〇哩)を過れば、兩窓に古冶及林西二炭坑の黒煙を望むべし、古冶 Ku-yeh (三三九哩)此處より前記兩炭坑への支線あり、窪里 Wa-li (三四四哩)の二驛を過れば、再び開平炭坑の煤煙を見るべし。該炭坑は同名車站の北方約三哩に在りて支線分岐せり。開平 Kai-ping (三四八哩)以西は茫漠たる平原にして、行手に黒煙の漲るところ、やがて唐山驛なり。

唐山 Tang-shan (三五四哩) 市街は車站の北

西約一哩の間に連なる殷賑なる都會を成せり。【人力車賃】 通例の場合一哩以内約十五仙位。

【客棧】 車站附近に亨發、玉發、同發、天泰外六軒の上等客棧あり、(宿食費十五、六) 【飯館】 養正軒、慶合園、福合園の三飯館は南北の調味を料理し、屋内亦寛濶なり。

【官公署】 郵政分局、警察總局、斗秤局、官鹽局、土藥局、中國醫院、礦務局、養病院、女施醫院、衛生局、各種學校、天主堂、耶穌教會堂等あり。

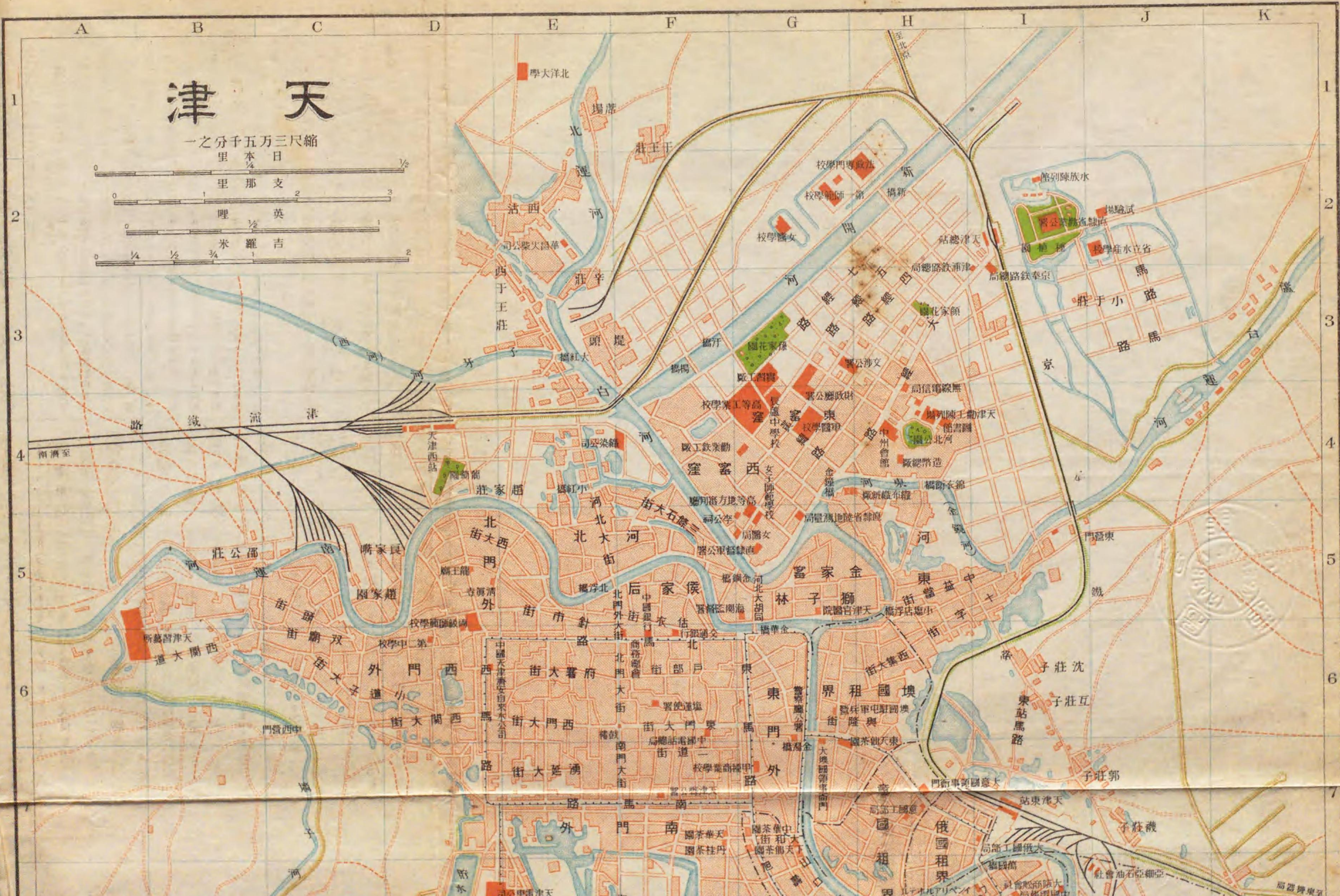
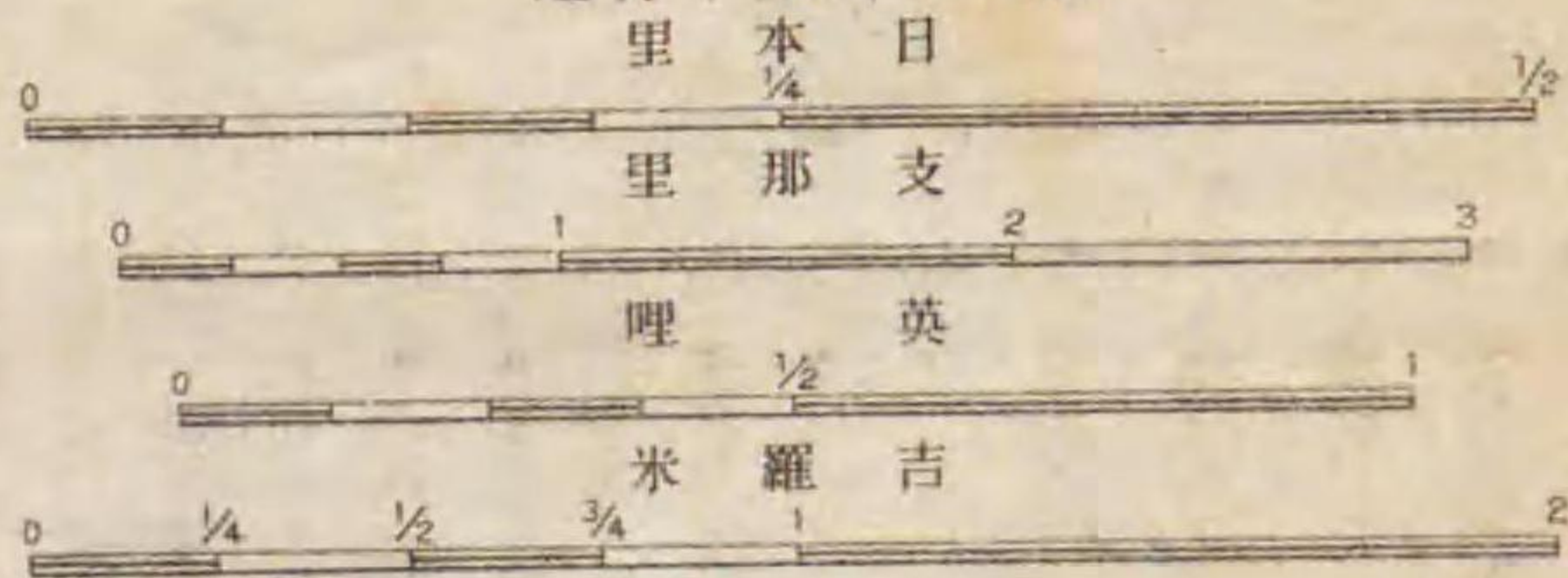
【勝地】 鳳凰山 (一名唐山) 一車站の北方約二哩に在り、山上に二座の廟宇を見る。興國寺及三太爺廟一鳳凰山の西に在り、二者孰れも境内に松柏蒼蒼として綠陰濃に、夏季納涼の好適地たり。

【炭坑】 此附近一帶に石炭の産に富み、従前開平炭坑と稱せられし開灤礦務局經營の炭坑所在地たり。現今は灤州方面の炭坑と併せて、一日約九千噸の出炭あり。其の主なる仕向地は上海、香港、新嘉坡、日本及京奉鐵路沿線各地等にして、秦皇島經由海路輸出せらる、年額約百四十萬噸に達す。其の内本邦に輸入するもの約六十萬噸を算す。由來

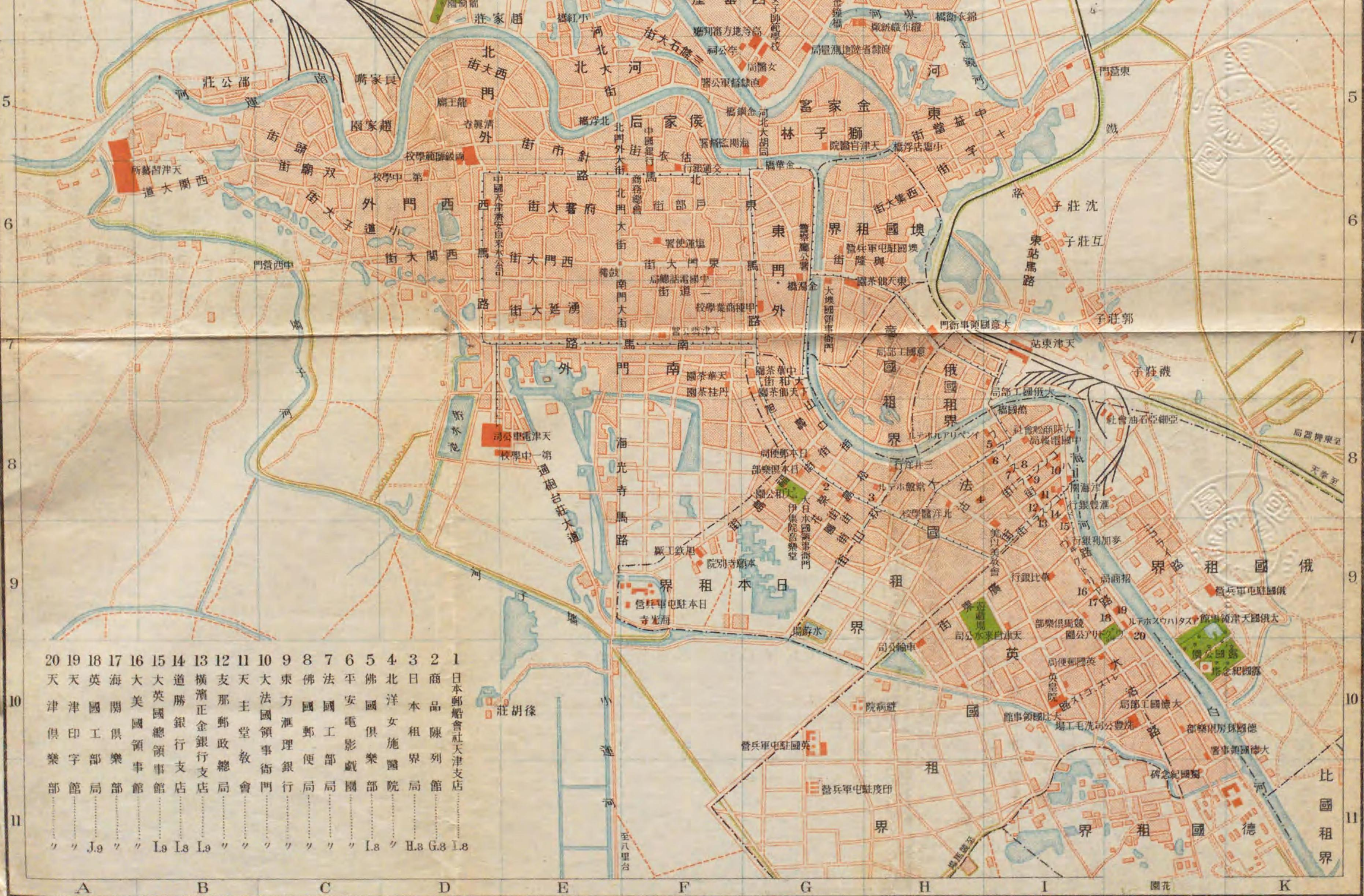


天津

縮尺三萬五千分之一



開採炭の品質は歴質にして、塊炭、粉炭共機關車、汽船、Pei-tang (四〇〇馬力)の帆檣林立の盛觀を眺め、更に有名なる



20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
天津俱樂部	天津印字館	英國工部局	海關俱樂部	大美國領事館	大英國領事館	道勝銀行支店	橫濱正金銀行支店	支那郵政總局	天主堂教會	大法國領事衙門	東方滙理銀行	佛國郵便局	法國工部局	平安電影戲園	佛國俱樂部	北洋女施醫院	日本租界局	商品陳列館	日本郵船會社天津支店
"	"	J.9	"	"	Ls	Ls	Ls	"	"	"	"	"	"	L.8	"	H.3	G.3	L.8	"
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T

連の、線路の北側には小舟を通ずる運河あり。塘坊 Tang-fang (三八三) 附近迄相並行し、帆影時に單調を破る。蘆臺 Lu-tai (三八三) 附近には楊槐の林影を見るべく、漢沽 Han-ku (三七七) を過ぎて進めば、やがて左窓に北塘

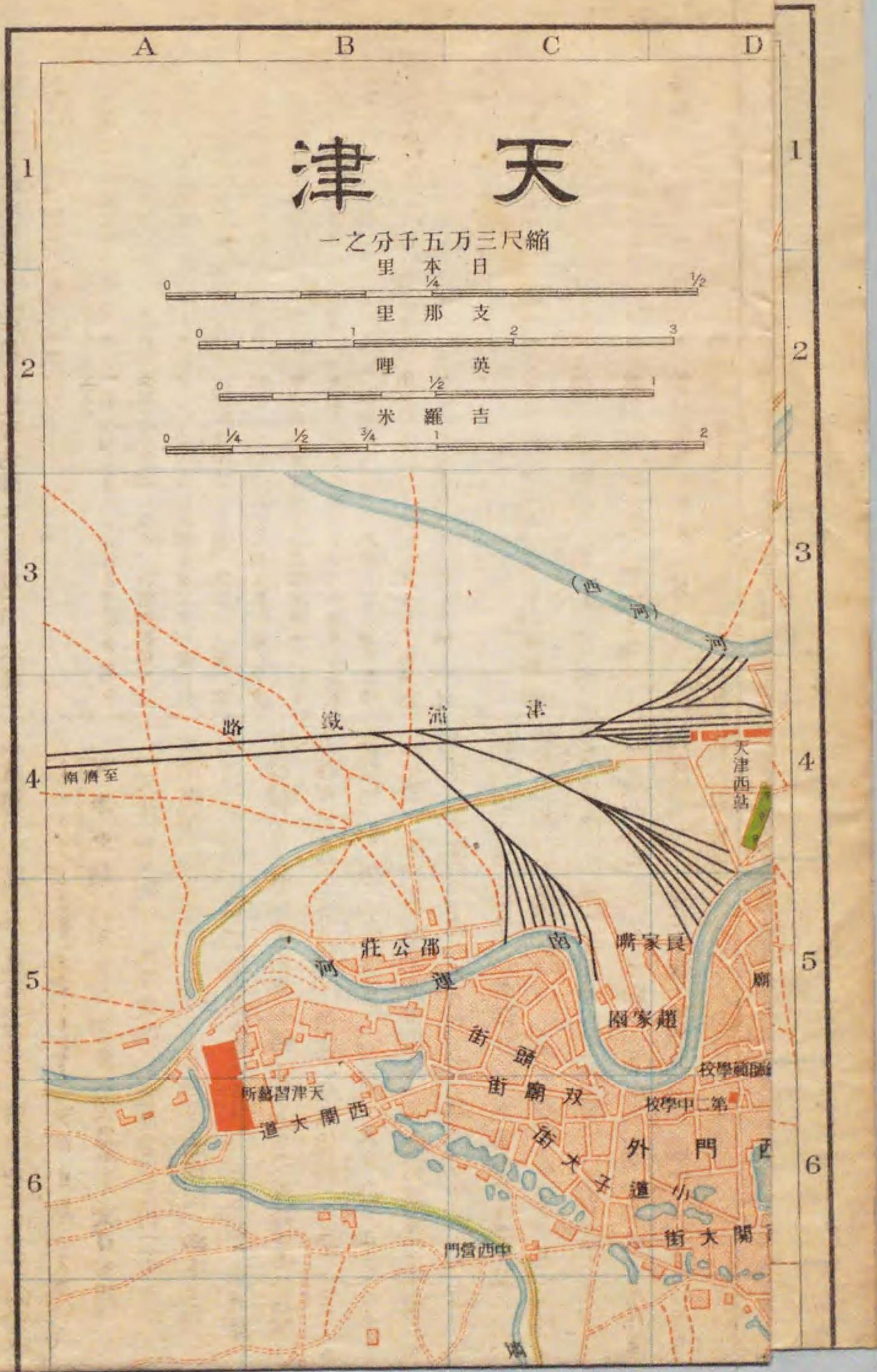
開灤炭の品質は瀝質にして、塊炭、粉炭共機關車、汽船、工場等の燃料に適し、價格亦比較的廉なるを以て、本邦に於ても前述の需要を見る次第なり。

開灤礦務局は元と開平礦務局 (Chinese Engineering & Mining Co.) と稱し、一八七八年支那人の創設に係り、各省機器局及支那招商局の需要に充つるを目的とし、資本金百萬圓を以て先づ唐山坑を開坑し、次で林西坑に及び、一面には唐沽、天津、芝罘、上海、香港、廣東等の各港に埠頭を築き汽船をも建造して其の運炭に資し、次第に販路を擴張せり。一八九九年の出炭量は七十五萬噸を計上したるが、拳匪の亂後該局の經營一度英國人の手に歸するや、一躍其の資本金を百萬磅に増加し、又一九一二年以來支那人の經營たりし灤州煤煙公司を併合し、その名稱を開灤礦務局と改め、更に資本金を二百萬磅に増加し、既募五百萬磅の社債を合して七百萬磅の大資本を擁し、社運駁々として隆盛に向ひつゝあり。

【唐山天津間】 唐山を發すれば以西は彌望千里の荒野相

開灤炭の品質は瀝質にして、塊炭、粉炭共機關車、汽船、工場等の燃料に適し、價格亦比較的廉なるを以て、本邦に於ても前述の需要を見る次第なり。

開灤礦務局は元と開平礦務局 (Chinese Engineering & Mining Co.) と稱し、一八七八年支那人の創設に係り、各省機器局及支



Pei-tang (四〇〇) の帆檣林立の盛觀を眺め、更に有名なる

長蘆鹽田の點々たる風車を望み、塘沽 Tang-ku (四〇八) 第一八六頁参照) を過ぐればやがて天津東站に入るべし。

天津東站 Tientsin East (四三五) 一頁参照。

【天津北京間】 天津東站より北進すること約二哩六にして天津總站 (四三八) あり。夫より程なく新開河の鐵橋を過ぐれば、別に一路の忽ち左折西走するを見む。是れ即ち津浦線の分岐路たり。既にして視界一轉すれば則ち我線路は概ね白河の左岸流域を縫うて北走す。沿途の驛站楊村 Yang-tsun (四三五)、郎房 Lang-fang (四七六) 及黃村 Huang-tsun (五〇〇) 等は孰れも北清事變後、一時列國派遣軍隊の駐屯地として知られし處、次び到る豐臺 Feng-tai (五〇三) は即ち京奉、京漢及京綏各鐵路の三叉會點たる連絡驛にして、蒙古と北、中支相互間の土貨貿易盛に行はる。更に一轉して永定門 Yung-ting-men (五二六) に至れば既に北京外城の南門外にして、我鐵路は之を左側に望み、城の南西隅角を迂回して、遂に本線の極端北京正陽門 Cheng-yang-men 車站に達す(第一八八頁以下参照)。

天津總站 (四三八) あり。夫より程なく新開河の鐵橋を過ぐれば、別に一路の忽ち左折西走するを見む。是れ即ち津浦線の分岐路たり。既にして視界一轉すれば則ち我線路は概ね白河の左岸流域を縫うて北走す。沿途の驛站楊村 Yang-tsun (四三五)、郎房 Lang-fang (四七六) 及黃村 Huang-tsun (五〇〇) 等は孰れも北清事變後、一時列國派遣軍隊の駐屯地として知られし處、次び到る豐臺 Feng-tai (五〇三) は即ち京奉、京漢及京綏各鐵路の三叉會點たる連絡驛にして、蒙古と北、中支相互間の土貨貿易盛に行はる。更に一轉して永定門 Yung-ting-men (五二六) に至れば既に北京外城の南門外にして、我鐵路は之を左側に望み、城の南西隅角を迂回して、遂に本線の極端北京正陽門 Cheng-yang-men 車站に達す(第一八八頁以下参照)。

途路 20 天津 Tien-tsin

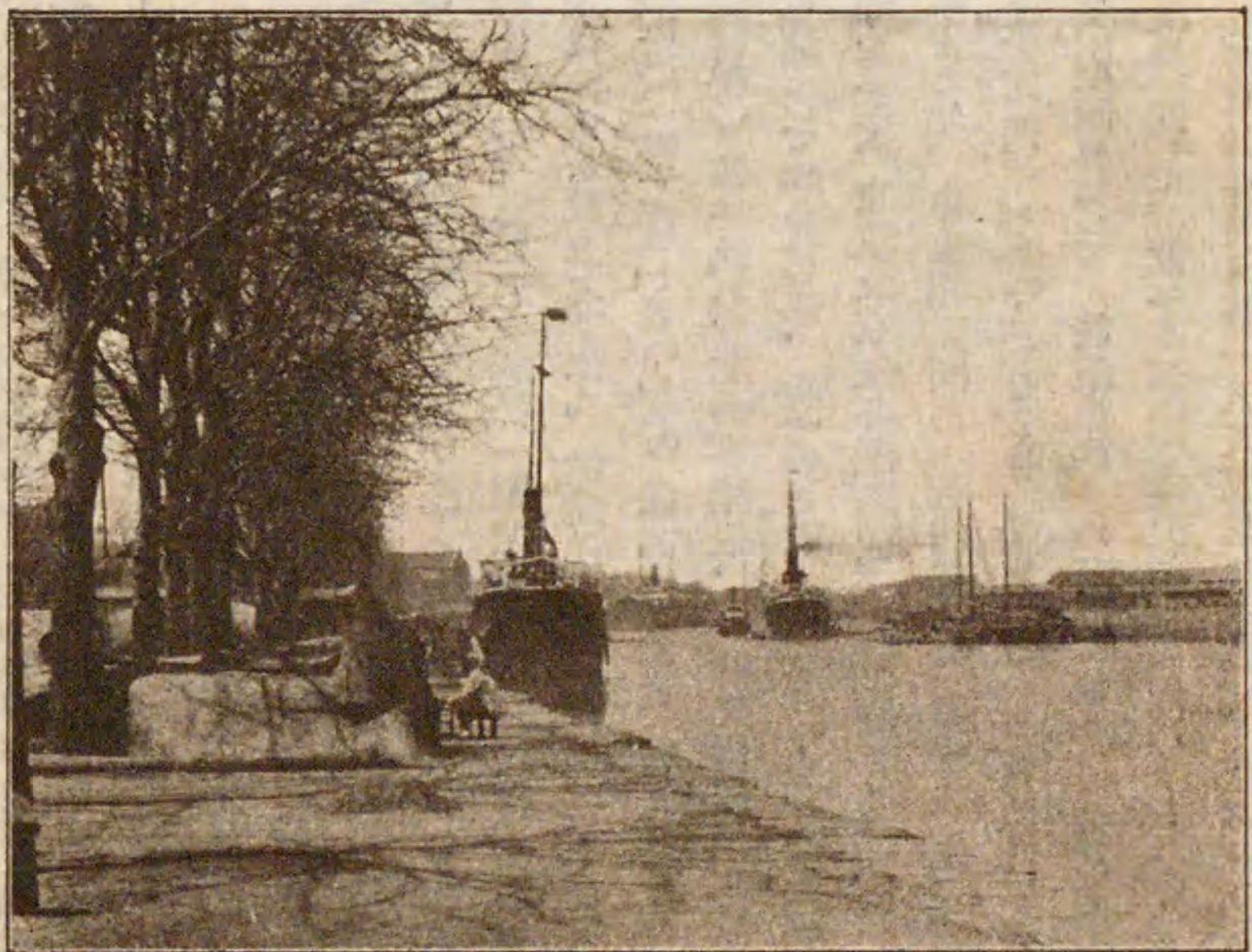
附塘沽及大沽

【到着】天津は京奉鐵路の主要驛たると同時に津浦鐵路の北端驛にして、奉天滿鐵車站より四五哩五(天津東站迄)、約二十時間にて達すべし。京奉線—奉天又は北京方面よりする旅客の天津到着は各國居留地に接近せる天津東站(一名老龍頭火車站—I7)又は城市との出入に便なる天津總站(I2)の二車站にして、兩者共津浦線列車に接續の便あり。津浦線—上海、南京、浦口又は青島方面より本線を介して來る旅客も亦前記二車站の一に下車するを可とすれども、此外市街の西郊に津浦線専用の天津西站(D4)あり。前記各車站には客待せる人力車、馬車あり。特に東站にありては數歩ならずして市内電車の便あり。

【車馬賃】各車站より外人居留地に至る賃金は普通人力車五仙乃至二〇仙、馬車五〇仙乃至一弗位とす。

【市内電車】北大關—國租界—伊國租界—東車站、北大關—法國租界—東車站、北大關—法國租界—海關附近、舊城外一周線の四線(附圖参照)あり。賃金城圍一周線は二仙、其の他は各線三仙宛とす。

【海路到着】海路よりする場合は大沽沖にて本船より汽艇に移乗し塘沽に上陸し以往汽車に頼るか、或はその儘白河を溯航して、天津紫竹林碼頭(I8)に上陸するものとす。



天津紫竹林碼頭

旅館 規模宏大にして設備整頓せる第一流の旅館は外國人の經營に係る歐風旅館にして、日本旅館之に亞ぎ、支那客棧は概ね設備不完全にして外人の投宿に適せず。左に其主なるものを擧ぐべし。

【歐風旅館】アスター・ハウス・ホテル Astor House

Hotel (J9 英國租界) 一名利順德と稱し、三層樓の大廈、客室大小六十餘個、前面にはグキクトリア公園ありて眺望佳、宿泊料米式一等八弗、二等七弗以、旅客送迎専用馬車あり。

インペリアル・ホテル Imperial Hotel (I8 法國租界) 一名裕中、その建築の壯麗正に前者に亞ぐ、宿泊料米式特等八弗、二等六弗。クキンス・ホテル Queen's Hotel (英國租界) 一名妃德飯店、客室三十餘、宿泊料米式五弗。オテル・ド・ラ・ペイ Hotel de la Paix (Wagons-lits) 一名大來飯店(租界)客室二十六個、宿泊料米式四弗、その他法國飯店 Hotel de France (東車站附近) 及中和飯店 Pension Goldau (法國租界)等あり。

【日本旅館】常盤ホテル(H8 日本租界壽街)客室大小十五、

内部の構造等は純日本式なるも、洋風食堂及應接室あり、宿泊料三食付特等五弗、一等四弗、二等三弗以上。芙蓉館(宮島街)、芝酒館、日新館(松島街)。

【支那客棧】佛照樓及長發棧(法國租界)、永和棧(俄國租界)、春興棧(英國租界)、德義樓及樂利館(日本租界)、華利館(日本租界)、福星棧(支那市街河)等あり。孰れも客室三十乃至五十を有し比較的設備完全、支那官紳の宿泊所たり。外國租界にあるものは三食付五十仙乃至一弗位、その他は室料のみ三二〇仙乃至五〇仙位なり。

料理店 【歐風料理店】前記「アスター・ハウス」及「インペリアル・ホテル」等に於て兼營するもの、外、支那人の經營に係る德義樓(日本租界)、華新飯店(市南)、廣隆泰(法國租界)等あり。一食料金普通一弗五十仙 【日本料理店】數島(日本租界)、天津第一流の日本料理店にして、日本式客室大小二十有餘あり。一食料金二弗。神戸館(日本租界)、前記數島に亞ぎ、料金一弗五。

【支那料理店】天津には天津料理、羊肉館(同々料

理)、山東料理、寧波料理、廣東料理等の各種料理あり、一卓料金五、六弗乃至、二十弗、其外に輕便料理あり、一人前一弗内外とす。以下同地に於て内外人間に著名なる支那料理店左の如し。

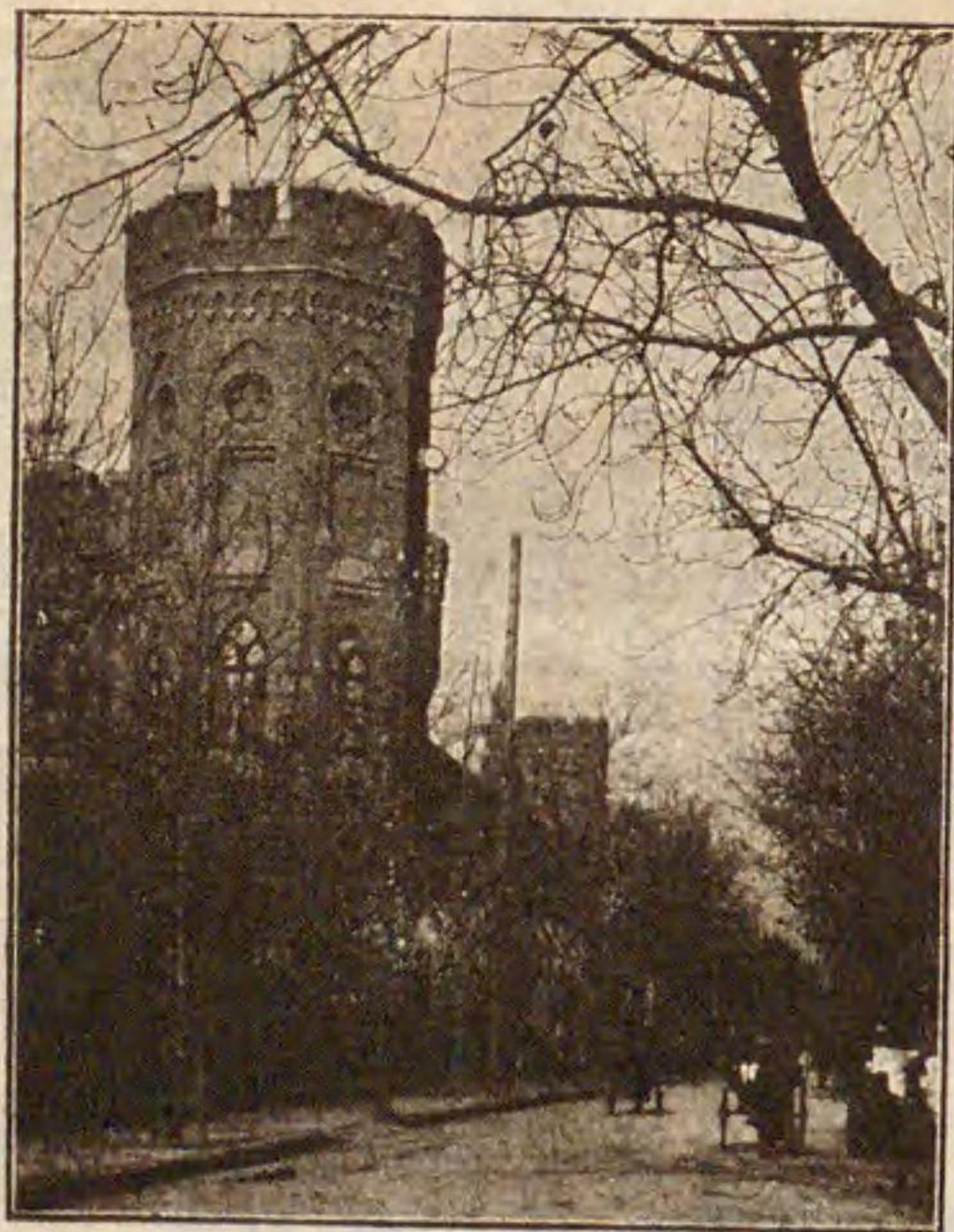
天津料理—義和成イホチオス市南、聚和成チユーホチオス市南、聚慶成チユーチオス市南、同々料理—鴻賓樓ホスビスロウ市南、賓宴樓ビスイエンロウ市南、寧波料理—聚園チユーオスエ市南、山東料理—全聚德チユエンチユエト市南、廣東料理—嶺南樓リスナンロウ市南。

領事館 日本總領事署(G 8 日本租界)、英國 British 總領事館(15 I 9 英國租界)、俄國 Russian 領事館(J 9 英國租界)、美國 American 領事館(16 I 9 英國租界)、法國 French 領事署(10 J 10 法國租界)、意國 Italian 領事署(H 7 意國租界)、丹國 Danish 領事署(事館内)、比國 Belgian 領事館(I 10 英國租界)、和國 Dutch 領事館(英國租界)、哪國 Norwegian 領事署(英國租界)、西國 Portuguese 領事署(事館内)、瑞國 Swedish 領事署(英國租界)、德國 German 領事署(德國租界)、奧國 Austro-Hungarian 領事署(奧國租界)、通信官署 【郵便局】 支那郵政總局(12 I 8 法國租界)の下

に十八個の分局ありて城の内外に分布せらる、外、私設信局十六箇所あり。外國側にては日本郵便局(G 8 日本租界)の發展最も著しく、支那人、其他諸外國人にして尙且之を利用する者多し。此他英國郵便局(I 10 英國租界)、佛國郵便局(8 I 8 法國租界)、露國郵便局(領事館内)、獨逸郵便局(英國租界)等あれども多くは專用運送機關を有せず、單に同國人間に受發するもの、區分配送を取扱ふに過ぎず。

【電信局】 中國電報局(I 8 法國租界)、目下陸上線又は大北電信會社の海底線を介して内外電報を取扱ふ。【電話局】 中國電話總局(F 6 城内東門大街)、外國租界にも交換局を設置し、内外人の便に供す。料金は市内一ヶ月四弗、市外電話一通話に付北京迄八〇仙、塘沽迄五〇仙とす。

天津概観 天津は渤海直隸灣の巨江、白河々口を溯ること約三十七哩に位せる北支那最大の商埠にして、其の市街は恰も白河と南運河との滙流する三岔口より其の上下流兩岸に亘り、總面積約一千三十餘萬坪の地を占めたり。周圍延長約十五哩、繞らずに斷續不整の土墻を以てせり。之を大別して外國租界及支那市街となす。



路アリトクキヅ界租英

【外國租界】 三岔口以下白河本流(一名海河)の左右兩岸一帯地を占め、其の面積通計約四百六十萬坪を算す。即ち其の右岸にては日本(約八十萬坪)、法國(約三十二萬坪)、英國(約百十六萬坪)の三租界北西より南東に亘りて次を爲し、而して德國租界(約六十萬坪)は其の偏南の一隅を領せり。又其の左岸にては三岔口直下より下流にかけて奧(約二十二萬坪)、意(十三萬坪)、俄(約百十萬坪)、比(約

二十七萬坪)の四租界あり。但し俄國租界南部の大半と比國租界とは未だ何等施設の痕を見ざれど、爾餘の各租界は孰れも整然たる區劃の下にマカダム式の大小街路を通じ、其の主なる街衢には層樓の洋風巨館を列せり。

俄國租界の北端が鐵道用地に依て一部中斷せらる、所は即ち天津東站の所在にして、市街電車線の一極端其の前面丁字街に在り。之を右に進めば意、奧租界の中心を貫き金湯橋を経て舊城市方面に達すべく、又左して萬國橋を渡れば則ち法國租界にして、日英の兩租界之と南北相隣り、共に當地目貫の商業區を爲せり。其の河岸地一帯は所謂紫竹林バンドにして、其處には各汽船會社の碼頭を首め税關、倉庫、船舶業者の店舗等あり。又其の前後に連なる街々には各國公館、貿易商、銀行其他諸會社の大厦巨舖櫛比して、行人車馬の來往絡繹たり。而して前記萬國橋より法國租界に入れる市街電路は更に日本租界の中央を斜に北西走して是亦舊城市方面に及べり。

【天津城市】 外國租界の西北面一帯に展開せる支那市街にして、面積通計五百七拾餘萬坪、之を分て城裡、城

外、河北、獅子林、金家窩、窩窪、河東其他四小區を合して都合十一市區とす。

城裡とは舊城廓内の謂ひにして、殆ど全市の中央に位し較、東西に長き方形の一劃を爲す。今や城壁及四方の關門は撤せられ、代ふるに大馬路を以てして之に電車を通じ周圍循環線を成せり。城内には支那官署、學校乃至官紳住宅の類多くして商賈稀なるも、中央十字街上の鼓樓の如き支那風建築の見るべきもの尠からず。而して街頭の繁華は寧ろ城外に在り。就中日本租界の北端に接する東門外、乃至南運河の右岸なる北門外は其の最たる區にして各種の支那商舖、銀行等皆其の界限に櫛比し行客常に熱鬧を極む。

北門外と相對する南運河の左岸は即ち河北にして、北大關より一路北走する河北大街は北郊西沽又は津浦線の天津西站に至る本道とす。獅子林、金家窩は河北の東端に斗出せる三岔河の中洲地にして、其の河北との區界に河北大胡同あり、金華橋、金鋼橋の二鐵橋に依り南北對岸地と連結せらる。窩窪は即ち其の北方對岸一帯地を占めたり。是は故袁世凱の直隸總督時代に創設せられし模範市街にして、金鋼橋北畔

て、春秋(西紀前一二〇〇年)には幽州の地に屬せり。その「天津」の稱あるは、明初(西紀一三六八年)天津三衛鎮を設置せしに始まり爾來(福建)、廣(廣東)、吳(江蘇)、齊(山東)各地の民此處に移住して漸く市街を形成し、永樂二年(西一四〇四年)城廓を築きて天津衛城と稱せり。降て清朝に至るや、雍正三年(西、一七二五年)改めて州となし、同九年(西紀一七三二年)更に天津府と稱し、最近又津海道下の天津縣となれり。

そも此地が外國互市場となるに至りしは西紀一八六〇年英佛聯合軍の北京攻略の結果締結せられたる條約に基くものにして、英佛二國は當時居留地を設けて、貿易に従事し居たるが、其後光緒二十六年(西紀一九〇〇年)義和團事件落著後、日、露、獨、澳、伊、白の各國皆此處に居留地を得てその經營に著手し、又軍隊を駐屯せしめて各住民の保護に備へたり。爾來各國は孰れも其居留地の經營に努力し、今や英、佛兩租界は完全の域に達し、日本租界亦銳意其整頓に努め、その他の各國租界も漸次發展の趨勢に在り。

主要官衙

- 直隸督軍公署 (G 5 西密窪、金鋼橋北首)
- 交涉公署 (G 3 東密窪)
- 天津縣公署 (F 7 南馬路)
- 鹽運使署 (F 6 城內倉門)
- 海關監督署 (G 5 河北金華橋西側)
- 財政廳公署 (G 4 東密窪五)
- 津海關 (I 8 法國租界河沿)
- 天津鈔關 (東馬路)
- 警察廳公署 (G 6 東門外金湯橋南首)
- 京奉鐵路總局及津浦鐵路總局 (I 3 天津總站)

より斜に東北走せる大經路を進めば天津總站に達すべく、其の北邊には尙一部未開の地區あれども、凡そ新時代の要求に應ずべき諸官署、工廠、學校、病院等の類多く此の地界に在り。又李公祠、河北公園、孫氏花園等の遊覽場もあり。

尚ほ窩窪の東南、金鐘河の對岸地に河東區あり。其の南端は奧國租界に接すれども、固より場末の支那人街にして、爾餘の四小區と共に多く語るに足らず。

之を要するに天津の面目は各國租界一特に法、英、日の三租界より城裡、城外乃至窩窪の各區を巡覽せば以て其の一斑を了すべし。

人口 正確なる統計の據るべきものなきも、最近の調査に依れば天津全市の人口は約七十五萬人内外と見て大差なかるべく、其内諸外國人約五千四百(内日本人約千八百人、英國人千五百人、米國人五百五十人、佛國人三百人、伊太利人百人)を算す。而して支那人は常住者以外に春季より各地方に出稼ぎし、冬季は當地に歸り越年する者約三萬人位ありと。

【沿革】 此の地夏(西紀前二二〇〇年)の時に於ける冀州の地にし

近、直隸省勸業公署 (I 2)、高等地方審判廳 (G 5 西密窪) 等。以上は支那側官公署の主なるものなるが、各國租界に於ける一般行政事務に關しては、日本租界局 (3 H 8)、英國工部局 (18 J 9)、大俄國工部局 (I 7)、法國工部局 (7 I 8)、大德國工部局 (J 10)、意國工部局 (H 7)、義國租界局、大比國租界局等々自治公會を設けて、之が整理に任じつゝあり。

銀行 【外國銀行】 橫濱正金銀行 (13 I 9 英國租界)、麥加利銀行 (一名渣打銀行) Chartered Bank of India Australia & China (I 6 英國租界 Victoria Rd.)、滙豐銀行 (一名香港上海銀行) Hongkong Shanghai Banking Corporation (I 8 英國租界 Bund)、華俄道勝銀行 (一名露亞銀行) Russo-Asiatic Bank (14 I 9 英國租界)、華比銀行 Banque Belge pour l'Etranger (I 9 英國租界)、東方滙理銀行 Banque de l'Indochine (6 I 8 法國租界)、獨亞銀行 Deutsch-Asiatische Bank (I 6 英國租界 Victoria Rd.)、中法實業銀行 Banque Industrielle de Chine。

而して橫濱正金銀行及麥加利銀行は兩銀及弗銀に對し

滙豐銀行及露亞銀行は弗銀に對し、一覽拂約束手形を發行して資金の運用に便せり。

【支那銀行】(一)泰西式銀行—北洋保商銀行、中國銀行(以上法租界)、交通銀行(F5路北馬)等にして、其の業務は各名稱の目的に準じ、官廳の金錢出納及資金の融通等に任し兼て一般業務を取扱ふ。(二)官銀號—裕源銀號及裕豐銀號—兩者共官營にして北洋元銀、香港弗銀及公砵平兩銀に對する一覽拂約束手形發行。(三)爐房—萬豐號、中裕厚、永康號、慶源瑞、滙大號、公信號等その主なるものにして、自家の資金を以て銀塊を購入し、之を天津元寶に改鑄の上、市場に賣るか又は銀號及錢舖に供給し、一方此等の業務をも兼營す。(四)滙票—一名票莊と稱へ、支那内地の爲替取組及一般銀行業務を取扱ふ。その主なるものは協成乾、蔚泰厚、裕源永、蔚豐厚等とす。(五)銀號及錢舖—兩者共貨幣の賣買及兩替を其業務とするも、前者は比較的大資本を以て弗、兩の賣買等をなし、後者はそれ以下の小額貨幣を取扱ふの差あり。瑞生祥、瑞林祥、瑞映祥(以上銀號)。恒裕厚、永利號、德承義、敦慶長(以上錢舖)。

(六)當舖—本邦の質屋營業者にして、天津市内に大小多數あり、當、典、押等の名稱あり。

通貨 現今天津市場に流通せる貨幣の種類は大略次の如し。【硬貨】元寶銀—爐房の鑄造に係る馬蹄銀にして、白寶銀、化寶銀の二種あり、一塊の重約五十匁、銀の純分は千分の九八五乃至九九二を標準とすれども、實際は其の品位區々なるを以て一般の取引には多く銀券を代用す。圓銀—或は大銀、日本圓銀等は共に同一單位(一元)貨として通用す。小銀貨—或は小洋銀とも呼ばる、補助貨にして、五角、二角、一角、半角(或五分)の四種あり。一角は恰も十仙に相當すれど其の交換率は大洋銀(一元一弗)に對し十一角乃至十二角位を例とし、市場在貨の多少に依り常に變動あり。銅貨—銅元又は銅子兒と稱し、二分(二仙)、一分(一仙)の二種あり、其の交換率は小洋銀十角(即一〇〇仙)に對し一分貨百八個内外を例とす。【兌換券】銀票—渣打銀行、露亞銀行等より發行せらる、兩銀票にして、元寶銀授受の繁を省く爲め主に大口の仲間取引に用ゐらる。票子—圓銀に代用せらる。

る、兌換券にして、正金、香上、渣打、露亞等の諸外國銀行を首め支那交通銀行、中國銀行等より夫々發行せらる。其の種類は一弗、五弗、十弗、其の以上五十弗、百弗位まであり。就中我正金銀行以下兩三行發行のもの通用廣くし、旅費等の爲にも便利なり。

主要店舖

【外國商】雜貨店—福利公司 Hall & Holtz Co. (英國租界)、公易公司 Jaque & Co. (上同)、西賓館 Travers Smith & Sons. (法國租界)、武齋洋行(一名武內商會界租)、山玉號(日本租界)、玉井洋行(上同)、澤洋行(上同)、加藤洋行(上同)。書籍印刷業—天津印字館 Tientsin Press Ltd. (G.J. 路透電報取扱店兼營)、中東石印局 Chung-tung Lithographic Works (日本租界)。時計店—亨達利 Vard & Co. (法國租界)、烏利文 Ullmann & Co. (法國租界)、樞村洋行(日本租界)。運輸業—太古洋行 Butterfield & Swire (英國租界)、怡和洋行 Jardine, Matheson & Co. (上同)、西比利鐵路公司 International Sleeping Car & Express Train Co. (法國租界)。大阪商船會社(I8租界)、日本郵船會社(I18上同)、輸出入業—仁記洋行 Forbes &

Co. (英國租界)、瑞記洋行 Arnhold, Korberg & Co. (上同)、阜商洋行 Molchanoff, Pechanoff & Co. (上同)、立興洋行 Racine Ackermann & Co. (法國租界)、三井洋行(H8租界)、大倉組(上同)、松昌洋行(上同)、武齋洋行(上同)、日信洋行(上同)。寫眞業—利華照像館 R. Gartner's Kodak Shop. (英國租界)、武齋照像館(法國租界)、山本照像館(英國租界)、河野照像館(聖蹟畫觀販賣—日本租界)、中裕照像館(上同)。藥種店—利亞藥房 Belines & Co. 天津回春大藥房 Tientsin Dispensary (北馬路)、屈臣氏藥房 Watson & Co. (英國租界)、丸二兄弟大藥房、濟生堂藥房、廣濟堂大藥房及博信堂大藥房(以上日本租界)。

【支那商】絹織物商—瑞林祥、瑞盛錦、敦慶陸、元隆、慶豐成(以上皆市街)、老九章(日本租界)、裝身具店—恒利金店、物華樓(日本租界)。藥種店—萬全堂、仁育堂(以上皆市街)、瑞芝堂、寶心堂、同心堂(以上皆市街)。茶商—大有號、義盛(以上皆市街)、裕昇號、天華太(以上皆市街)、西洋雜貨—范永和、慶豐成(以上皆市街)、獨慎王、功盛成、聚源成(以上皆市街)、文益成(北馬路)等。

病院 【支那病院】 天津官醫院(G5 金家窩舊地、水師營地)、北洋醫院(H8 租界)、女醫院(G5 官設病院にして、總督衙門附近)、【外國病院】北洋女施醫院(4H8 租界)、養病院、英皇院(I10)等あり、多くは教會堂の附屬事業として經營せらる。此外邦人經營に係る日本共立病院、共濟病院(以上皆日)等あり。

教會寺廟 公理教會(米國)、メソヂスト派(法國)、倫敦教會(英國)、美以美教會(北部)、天主教會(租界)、大悲廟(臨濟宗、城東)、天齊廟(曹洞宗、東門)、天后宮(道教、東門)、玉皇閣(同上)、清真寺(舊派回教、北門外及金家窩)等あり。中にも基督教各派は支那青年の教化に努め、學校、病院其の他の慈善的施設を經營しつゝあり。而かも中老以下の土民は尙未だ舊信仰の五里霧中に彷徨しつゝ、回教、道教等の寺觀に賽する者多々なるが如し。

學校 官立北洋大學校(E1 西沽、城北)、西紀一八九四年の創設に係り、目下法科、土木工科、礦科、師範科の四科あり、修業年限は四ヶ年とす。北洋政法專門學校(H2 河北新開)、西紀一九〇七年の設立にして、簡易科(一年)

豫科(三年)、正科(三年)の三科に分れ、寄宿舎の設備を有す。北洋醫學校(租界)、往年李鴻章が北洋大臣時代に佛國軍醫ムニエーをして經營せしめたるに創まり、學生は全部官費にして寄宿舎に收容す。修業年限は約五ヶ年とす。軍醫學校(G4 密窪、河北)、西紀一九〇二年の官設に係り、専ら北洋陸軍々醫の養成を目的とし、修業年限は四箇年とす。公立第一師範學校(G2 新開河、天津北郊)、中學校及初等師範學校の教員を養成す。天津兩級師範學校(C56 舊城外、北西隅)、及北洋女子師範學校(G5 密窪)、孰れも小學堂教員の養成を目的とす。第一官立中學校(E8 胡同、長苦官立中學校(G4 密窪、黃)、直隸高等工藝學校(G4 密窪、黃)、以上の外初等教育に關する學校は多數あり。

新聞 天津に於ける漢字新聞は、その種類約十二、三を數ふるも、その中最も有力なるは大公報及直隸公報の二とす。その他外國新聞としては天津日報(日刊、日本文、日本租界)、China Times (日刊、英文、租界)、Peking & Tientsin Times (英文、日刊及週刊)、L'Echo de Tientsin (佛文、日刊、租界)等とす。

商業 【貿易額】 天津は北部支那に於ける無二の大商埠にして、その背後に横はる貿易區域の廣大なること支那開港場中第一の稱あり。即ち直隸、山西の大部分及陝西、甘肅、内外蒙古、山東、河南の各一部に出入すべき内外貨物の集散に任ずる處にして、最近三年間の貿易額比較表左の如し

年次	輸入額	輸出額	貿易總額
大正三年	九一、四〇七、四三二 <small>兩</small>	三三、七〇一、七〇六 <small>兩</small>	一二六、一〇九、一五八 <small>兩</small>
大正四年	八〇、三六六、三六〇	四九、八五九、九六四	一二〇、三六六、三二四
大正五年	八八、三七七、一八四	四八、七二〇、二三三	一三三、六六六、四一七

【重要輸出入品】 天津に輸入せらる、内外貨物の主なるものは日常生活上必須なる衣食住の資料に外ならず。輸入外國品に在りては綿糸その他綿製品を第一とし、之に亞ぐものは石油、砂糖、木材、鐵道材料、紙卷煙草、麥粉等とす。更に輸出品に在りては棉花及羊毛を大宗とし、山羊生皮、豚毛、落花生、燒酎、藥品、駱駝毛、大豆、棗子等主なるものとす。

【商業機關】 天津商務總會(F5 城市北馬路)は當地富豪紳

商を網羅せる天津唯一の商業機關にして、天津商業の興廢を左右すべき實力を有す。その他閩粵會館(城市北馬路)、浙江會館(城)、江蘇會館(城)、廣東會館(城)、山西會館(城北候家後)等の同郷組合あり。

鹽業 天津塘沽間の白河左岸、桂甲寺附近一帯の地に恰も丘阜の如く堆積せる幾多の鹽層を見るべし。是れ即ち天津を中心として、直隸、河南兩省の各都邑に搬出せらる、鹽の產地として古來有名なる長蘆鹽場なり。その生産額は一年平均大約三百萬擔を算す。京奉鐵路塘沽車站(天津東車站より二七哩)の前面に展開せる、廣漠たる長蘆鹽場の一部を望見したる旅客は鹽田灌溉用の大小無數の風車及堆積せる鹽層の累々たるに一驚を喫すべく、又その規模の壯大なるを窺知し得べし。

工業 天津の工業は今尙ほ極めて幼稚にして、現在工場等も多くは西紀一九〇二年以降の建設に係れり、其の主なるもの左の如し。

【官設】 直隸實習工廠(G4 密窪、織布、染色、燐寸、木工、磁器、石鹼、洋蠟、刺繡等の各種工藝を課し、技術者を養成す。天津習藝所(A6 天津西郊茶園)、遊民習藝所及監

獄作業場の二部に分ち、前者は規模大にして貧民授産を目的とし織布、染色、製紙、裁縫等を主とし、又後者は規模小なり。

【民營】勸業鐵工場(G 4 河北)、もと銀元局附屬工場なりしも、西紀一九〇五年獨立して、工藝總局監督の下に民業となる。目下簡單なる機械類の製作に従事し、兼て塘沽

船渠工場を経営せり。天津鐵工場(河北宮)、軍刀、馬具、金具等各種軍用品の製作に従事す。德泰工廠(英租界、大沽路)、諸

機械の製作及修理に任じ、製作品中稍見るべきものあり。車輪公司(H 10 英租界、廣東街)、各種車輪、馬車用具、鐵柵等を製作

す。旭日鐵工廠(F 9 日本租界海、光寺附近)、邦人の經營にして、汽罐、電氣機械、その他各種の機械類を製作す。洗農公司洗毛

工場(J 10 英租界、大沽街)、武齋洗毛工場(德國租界の南方約三哩、白河右岸) 羊毛の洗滌及牛骨の粉碎を行ふ。

内河航路 現今天津附近に於て民船を通じ得る水路は白河本流、南運河、西河(一名子牙河)及東河(一名金鐘

河)の四條となす。

【白河本流】天津を中心として其の上流を北運河(一名北河)と呼び、更に其の下流河口に至る迄を海河と稱す。是れ

【東河】一名金鐘河は天津北塘間(鐵路約三哩)の運河にして、更に盧臺より北塘に至る蘆運河の水路と脈絡相通する

重要水路たり。その幅員約一〇〇呎内外、水深三呎乃至四呎を有し、特殊構造の戎克(牛舌船)常に輻輳す。

娛樂場 【外國劇場】ゴルドン・ホール・シアター(英國租界、公會堂内) 規模小にして、僅に二百人を容るゝに過ぎざれども、

内部の結構善美を極む。【支那劇場】下天仙茶園(G 7 日本租界、旭街)、建築宏壯、約千五百人の觀客を容るべし。東天仙茶園(G 7 大經路)その規模前者と伯仲す。丹桂茶園(F 7 市平安)

【日本劇場】浪花座(日本租界、昇壽街)、規模小にして僅に二百人位を容るゝに足るのみ。【活動寫眞】新權仙茶園(法國租界、平安電影戲園(6 I 8 法國租界) 【書館】俗に落子館と稱す。

毎日午後二時より六時迄、午後七時より十二時迄の二回、著名の藝妓登場、歌舞音曲を演ず。入場料二〇仙乃至三〇仙、

棧敷五、六十仙、その主なるものは中華茶園(G 7 日本租界、旭街)、天華茶園(F 7 市南) 【花茶館】日本の所謂寄席に類するものにして、喜劇、手品、講談、落語、音曲等各種の技藝

を演ず。天福茶園(日本租界、松島街)、恩成茶園(南門外)、華賓茶園(南市)

場 樂 娛

即ち白河の本流にして、輓近海運業の發達に伴ひ、中部支那地方より北京へ送致せらるべき貢糧海漕の要路に當り、各種船舶の往來頻繁なり。北運河は天津に於て南運河と相連なり、その天津より通州方面に達する水路は京奉鐵路開通以來昔日の如くならずと雖、尙相當頻繁なる交通あり。

【南運河】その名稱は前記北運河の對照にして、所謂大運河(第三五四頁參照)の水路の稱なり。而して天津以南山東省臨清州に至る水路はその源を遠く河南省衛輝府の北に發し、臨清州西門外に於て南方より來る運河と會流する衛河の本流に外ならざるを以て、一に又衛河の名あり。該水路は大小民船の往來常に繁く、殊に其の沿途德州府迄約百五十哩の間は幅員約一五〇呎乃至二〇〇呎、水深五呎以上を保ち淺吃水小汽艇の航駛自在なり。

【西河】その源を山西省に發する子牙河の本流が大小幾多の支流を合して流れ、天津に於て白河に朝宗するものにして、古來天津と保定との交通上至大の便益を與へ來りし關係上、兩地間に鐵路の開通を見たる今日に於ても大小民船の往來極めて多し。



(津 天) 祠 公 李

等。【外人俱樂部】天津俱樂部(20 J 10 英租界ウヰ街)、居留英米人の經營にして、諸般の設備完全せり。海關俱樂部(17 I 9 英租界ウヰ街)、天津稅關吏の組織する所たり。天津競馬俱樂部(I 9 上同)、毎年春秋二季に英租界の南郊なる競馬場にて於て競馬大會を開催す。【音樂堂其他】ヰキクタリア公園音樂堂、公園の中央なる支那風の堂宇にして、夏季は毎週二回夜間演奏を行ふ。英國遊戯場 Recreation Ground(H 9 英租界ウヰ街)、場内廣濶にして、毎月運動俱樂部、ロンドンテニス俱樂部、フットボール俱樂部の部員競技を行ひ、且春秋には大運動會を開催す。佛國水泳場(G 9 租界)、清淨なる水を湛へたる小池にして、夏季外人の游泳するもの多し。

李公祠(G 5) 審窪なる督軍公署の西北に在り。故北洋大臣李鴻章を祀る。光緒三十一年の勅建にして、宏壯且輪奐の美を極め、祠後に亭榭園池を設く。夏時荷花の勝ありて遊覽に適す。

河北公園(H 4) 一名勸業場と稱し、審窪大經路に在り。公園としては設備完全ならざるも、園内の陳列館には直隸全省の生産品を陳列し、且參考品として支那各地の主要物産

を蒐め、その他外國品殊に日本品を多く展列す。

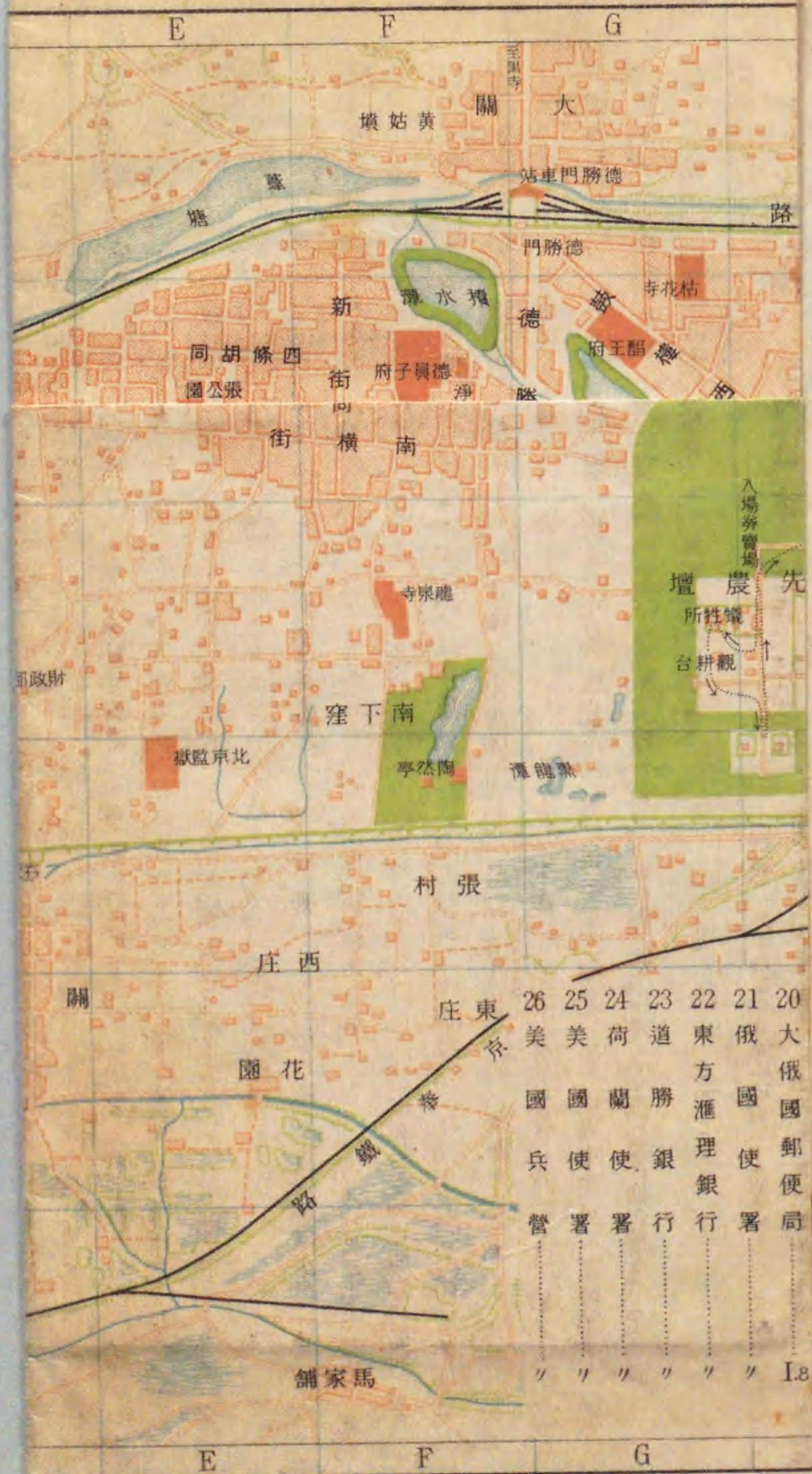
孫家花園(G 3) 審窪黃緯路西に在り。天津の素封家孫氏の庭園にして、境內廣濶、臺榭林景の雅致に富み、支那式庭園の數奇を凝らせり。平日公開せざれども、人の遊覽を欲するものあれば喜で之に應ず。

種植園(I 2) 植物園にして審窪總車站の東邊に在り。園内楊柳蘆荻多く、假山あり。亭を設け茗を取るに便し、園内の池水舟を泛ぶべし。景色の幽雅なる當地屈指の遊園地たり。

新河の桃林 京奉鐵路の新河車站(天津より約三四哩、行程約一時間)を距る約一哩、新河々沿に在り。天津より白河を介して小汽艇を通ず、行程約二時間とす。數萬株の桃林にして、毎年陽春開花の候には在津内外の富紳等或は鐵路に依り、或は船を泛べて此處に萬朶嬋妍の美を探るもの夥し。

塘沽 Tang-ku

【到著】此の地は京奉鐵路幹線の主要驛にして、停車場は市街の西北郊に在り、天津を距ること水路約三四哩、鐵路二七哩とす。海洋方面より來りて北部支那各地に入る旅客中、特に大沽沖より汽艇に轉乘し來るもの、上陸する處にして、海岸には貨客の出入に便する爲め、招







D E F G H I J K L M N

1
2
3
4
5
6
7

黃姑壩

大關

德勝門車站

環城枝路

五王寺

安定門外大街

地壇

松槐居

牛房

東牛房

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

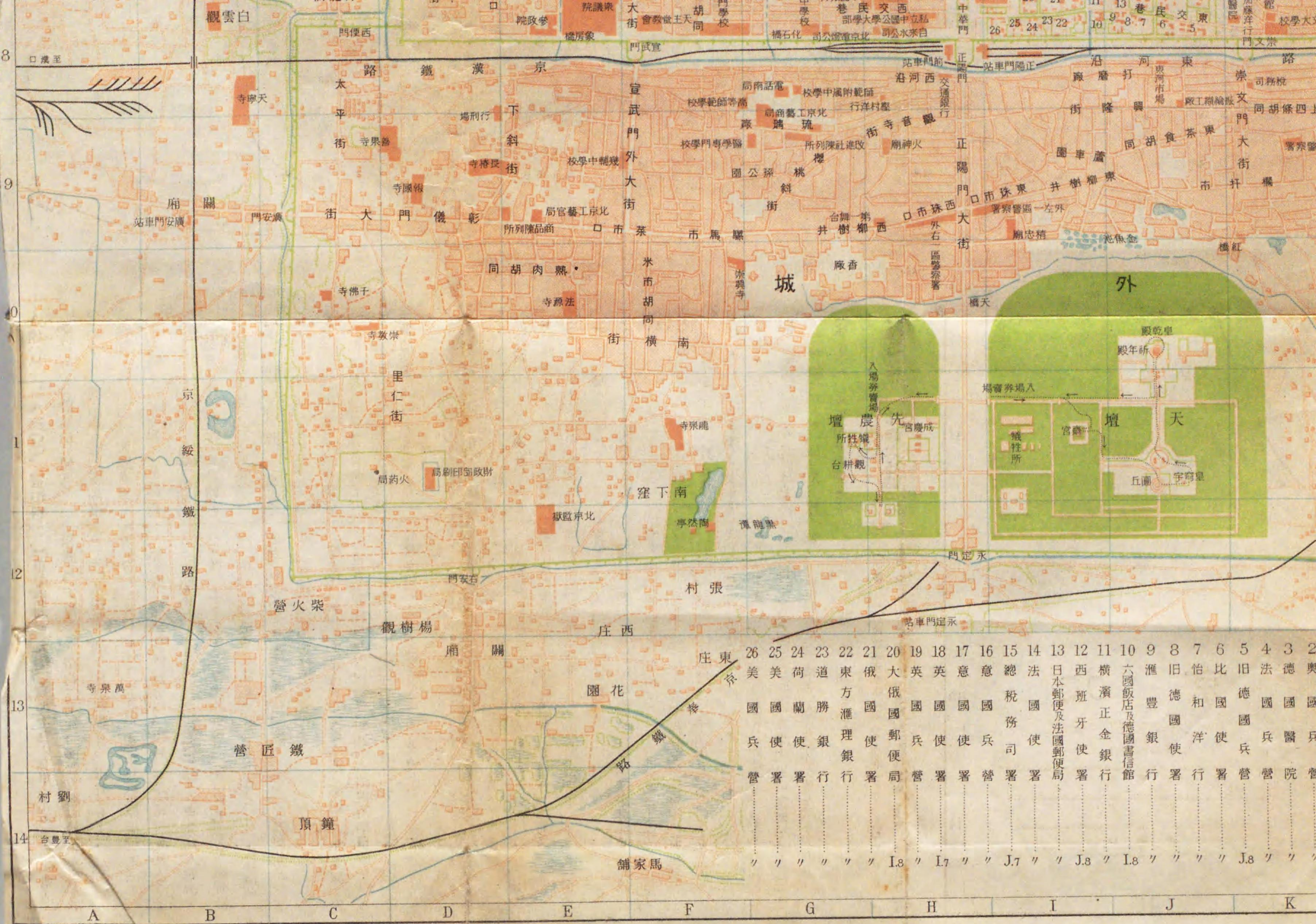
德勝門

德勝門

德勝門

德勝門

德勝門



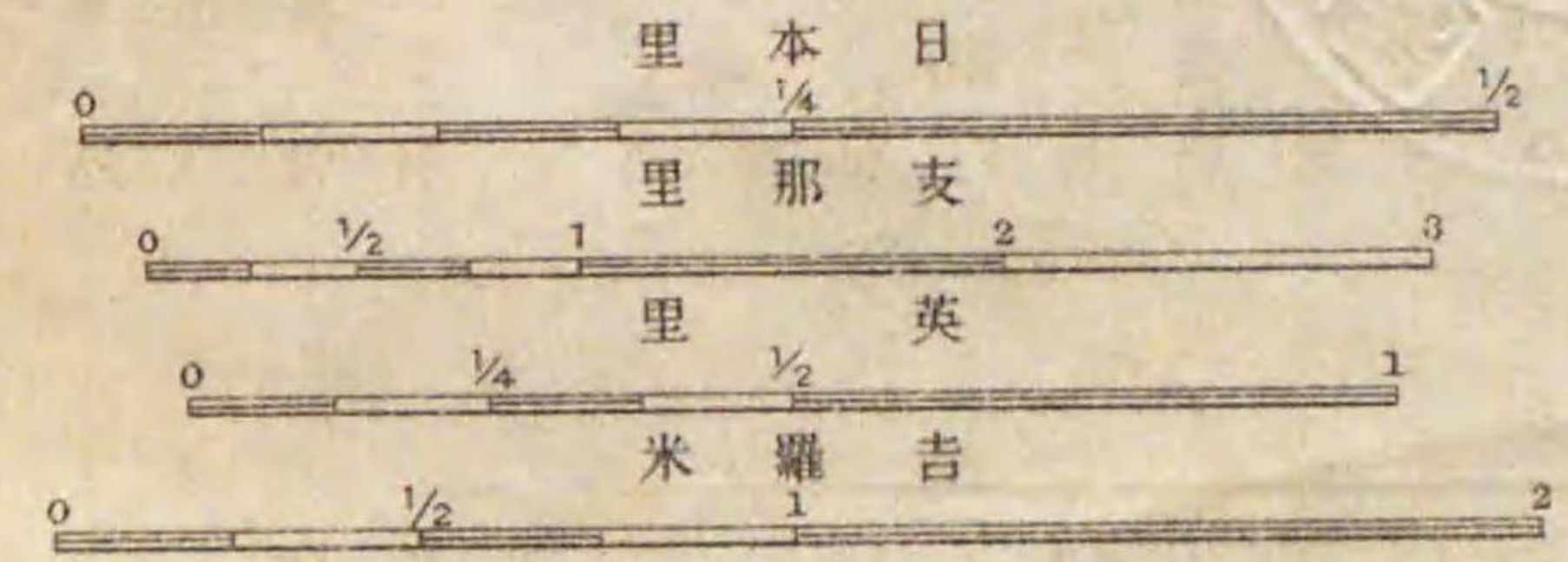
26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2
美	美	荷	道	東	俄	大	英	英	意	意	總	法	日	西	橫	六	滙	舊	怡	比	舊	法	德	奧
國	國	蘭	勝	方	國	俄	國	國	國	國	稅	國	本	班	濱	國	豐	德	和	國	德	德	德	國
兵	使	使	銀	理	使	國	兵	使	使	兵	務	使	郵	牙	正	飯店	銀	使	洋	使	兵	兵	醫	兵
營	署	署	行	銀	署	郵	營	署	署	營	司	署	局	使	金	及	行	署	行	署	營	營	院	營
台	台	台	台	台	台	I.8	I.7	J.7	J.8	I.8	J.8	I.8	J.8	I.8	J.8	J.8	J.8	J.8	J.8	J.8	J.8	J.8	J.8	J.8

A B C D E F G H I J K



北京

縮三尺六千分之一



26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
美	美	荷	道	東	俄	大	英	英	意	意	總	法	日	西	橫	六	滙	旧	怡	比	旧	法	德	奧	奧
國	國	蘭	勝	方	國	俄	國	國	國	國	稅	國	本	班	濱	國	豐	德	和	國	德	國	國	國	
兵	使	使	銀	理	使	國	兵	使	使	兵	司	使	及	牙	正	店	銀	使	洋	使	兵	醫	兵	使	
營	署	署	行	行	署	局	營	署	署	營	署	署	局	使	金	德	行	署	行	署	營	營	院	營	
署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	I.8	〃	I.7	〃	〃	J.7	〃	〃	J.8	〃	I.8	〃	〃	〃	〃	J.8	〃	〃	J.7	

D E F G H I J K L M N

沽 塘

商局、開業礦務局を首め日本郵船會社、怡和洋行等の棧橋倉庫等あり。

【旅館】 鐵道ホテル(歐風旅館 塘沽車站構内)、宿泊料六弗五〇仙。和清洋行及谷村旅館(以上日本旅館)、宿泊料約三弗五〇仙位、主に船舶乗降客の休憩宿泊に便す。

【船車連絡】 大沽沖投錨の本船と塘沽埠頭間には滿潮時毎に連絡小汽艇の通航(航程約二時間)あり。又陸面京奉車站には京津方面との上下各列車停車すべきを以て、此處より適宜の列車に乘繼ぐことを得べし。但し此の場合、日本郵船の一等船客にして天津行の切符所持者は本船發行の指圖切符に依り別段費用を要せずして天津迄乘行し得るものと知るべし。

【市街概観】 塘沽の市街は嘗て團匪事變の際、兵燹の慘害を蒙る事甚だかりしも、元來此地は水陸の要衝に當るを以て、一九〇二年北清事變平和議定書に基き外國駐屯軍營所の設置せられたるを首めとして、爾來漸く面目を新にしたり。塘沽車站附近には、電報分局、郵政分局、電話分局、通運公司、日本郵便局、天津新海關塘沽出張所等あり。人口は約二千五百餘を算す。

大沽 Ta-ku

【市街概観】 大沽は白河々口の右岸に在り。前記塘沽と相對し、天津より水路約三七哩、海洋方面に於ては芝罘を距ること一九四哩、約一日の航程とす。市街は東沽、西沽の二區に分れ、人口約七千を算し、東沽には警察局、大沽ホテル等あり。西沽には鈔關分局、税局、警察局、漁業公司、天主堂等あり。大沽港附近の海河に産する魚介は天津市民の食膳に上るもの多く、又郊外沿岸一帯は有名なる長蘆鹽場の一部にして、汲水用風車の林立せるを見るべく、或は清朝の末葉に於ける數次の對外事變に際し、外人の肝膽を寒からしめたる南北兩砲臺の舊址を見るべし。

【大沽錨地】 大沽港は白河の水運と關聯して北支那に於ける貨客の吞吐口なるが、航洋船舶の大沽碇泊は白河々口外八哩、天津市街より約三七哩の洋中にして、其の錨地には常設燈臺船ありて之が標示に任し、船舶と陸上との連絡は天津駁船公司の經營に係る小汽艇に依り最も安全に行はる。





北京正陽門

途路 21 北

京 Peking

附通州及西陵支線

【到着】 北京は京奉、京漢及京綏三鐵路の相會する處にして、前二鐵路の極端驛は北京内城の南面中央なる正陽門外に於て東西約百歩を隔て、相對せり。即ち京奉線—天津乃至奉天方面よりの旅客は其の東側なる正陽門車站(I 8)を、又京漢線—保定乃至漢口方面よりするものは西側なる前門車站(II 8)を到着地點と爲すべく、若し又京綏鐵路に依る張家口乃至大同府方面よりの旅客は城の西邊に沿うて分置せられたる西直門車站(D 2)又は廣安門車站(B 9)の二者中孰れか便宜の一站を擇むべく、尤も東交民巷(各國公使館所在地)に向ふものは後者に下車するを便とす。

【馬車】 豫め投宿旅館に命じて招致することを得べし。賃金一時間大洋五十仙位、午前中雇切(八時より正午迄)二弗、午後(正午より六時迄)三弗、一日雇切五弗位。【自働車】 時間雇の場合最初の一時五分、第二時間目四弗、第三時間目以後は一時間毎に三弗。雇切は半日(六時間)一五弗、一日(十二時間)二五弗。萬壽山行片道六弗。

【人力車】 各車站前に於て隨時乗用するを得べく、其の賃金は一時間小洋二十仙内外、一日雇切約一弗。但し六國飯店、北京飯店等特にその旅館の爲に準備せられたるものは車體比較的良好なるも、隨て賃金は普通辻車の二倍乃至三倍位。以上の自働車、馬車、人力車を一日雇切の場合又は食事時間に互る場合は、飯(食事代)普通一食小洋二〇仙位)及酒(酒代)を給與するを要す。

旅館 【歐風旅館】

六國飯店 Grand Hôtel des Wagons-Lits (10 I 8 東交民巷南、御河橋畔)、白耳義人の經營に係り、煉瓦三階建にして大小七十の客室あり。使用語—英、佛、支那語。宿泊料(茶付)、特等大洋一五弗、一等一二弗、二等一〇弗。夏期扇風機使用料一日五〇仙。長期滞在の場合は割引す。北京飯店 Grand Hôtel de Pékin (東長安街) 宿泊料米式—一等九弗乃至一〇弗、二等八弗、三等七弗。朝食一弗、午餐及晚餐各一弗五〇。月定めの場合は一等一八〇弗、二等一六〇弗。使用語前者に同じ。長安飯店 Astor House Hotel (J 7 王府井大街) 一泊大洋五弗、月定め一〇〇弗。使用語は英、支那語。德國順利飯店 Hôtel du Nord (崇文門大街) 宿料は長安飯店に同じ。使用語獨逸語及支那語。德昌飯店 Te-chang Hotel (燈市口) 華洋折衷式にして、洋食支那食共隨意。宿料(三食付) 一等五弗、二等三弗。東安飯店 Palace Hotel (東長安街) 支那人の經營にして宿料一日五弗、一ヶ月九〇弗及一二〇弗の二種。電報飯店 Telegraph Hotel

(同) 佛人の經營にして宿料一日四弗、一ヶ月八〇弗。

【日本旅館】 扶桑館(K 7 東單牌樓)、宿泊料(三食付) 一等五弗、並等四弗、朝食一弗、午食一弗二〇、晚食一弗五〇。華東飯店(林ホテルK 7 東單牌樓)、支那式日本旅館にして宿泊料一等五弗(洋食付)、二等三弗(支那食付)。一

聲館(K 8 崇文門内、般板胡同)、宿泊料一等三弗、以下二弗乃至二弗半。松尾屋(下宿兼營、東河沿)、一泊二弗、一ヶ月以上は割引あり學生等の團體宿泊に便なり。一二三館(東單牌樓、羊肉胡同) 上等四弗(一ヶ月九〇弗)、並等三弗(一ヶ月七五弗)。

【支那旅館】 金臺旅館(西河沿)、宿泊料一人前特等三弗(一名を増す毎に五〇仙増)、最優等二弗五〇(一名毎に五〇仙増)、優等二弗、頭等一弗。羣賢館(西河沿)、七〇仙乃至二弗四〇(各等共一名毎に二〇仙増)。中西旅館(同上)、一弗乃至二弗五〇。第一賓館(打磨廠)、特等(三人分)二弗四〇、最優等(二人分)一弗二〇。此外主なるもの十四、五軒あり。前記宿泊料は部屋代、飯代及電氣代にして、副食物は別に注文するを要し、一食大概五〇仙乃至一弗位とす。その他煖爐、寢具等は多く別計算とす。

料理店 【歐風料理】 專業のものなきも前記六國飯店、北京飯店等の歐風旅館の食堂にて食事するを得べく、朝餐一弗、午餐及晚餐は各一弗五〇乃至二弗位。【日本料理】 長春亭(東單羊、肉胡同)、朝日軒(東單羊、沿頭)、最も著名にして、仕出し兼業のものには石田(一名魚作、東單羊、寶胡同)、二葉(肉胡同)、萬歲屋(東單羊、寶胡同)等あり。【飯莊】 皆規模宏大にして専ら官紳の宴會及慶事に利用せらる、處、中には舞臺の設備を有するものありて、隨時演劇を催すことを得。その主なるものを擧ぐれば天壽堂(西珠、市口)、會賢堂(十利海、北沿)、福壽堂(打磨廠、金)、以上舞臺付。惠豐堂(觀音寺、北沿)、燕壽堂(總布、胡同)、來今雨軒(中央公、園内)等。【飯館子】 日本料理店に酷似せるものにして、會食に便なり。但し當今本飯莊との間に顯著なる差を認め難し。泰豐樓(橋、市)、天和玉(石頭、致美齋、橋)、正陽樓(前門外、肉市)、百景樓(橋、市)、都(胡同)、致美齋(橋)、新豐樓(菜、市)、東陞樓(前門外、一處、前門、大街)、東興樓(東華、門外)、新豐樓(口)、東陞樓(肉、市)、同福館(西四牌、樓路西)、會食料金一卓の値段は十二弗以上二十四弗位迄なるも普通は十六、七弗なり。一卓は十二人前位あり。飲料代其他給仕の心付(一卓一弗位)は別に支出を要す。但し以上の飯莊及飯館は共に一品料理の注文にも應ず

べし。【同々教席館】 同々教徒の爲に造られたる料理店にして、料金其他は前記飯莊、飯館等と大差なきも、料理の材料として豚肉を使用せず、羊肉牛肉を用ふるを特色とし、元興堂(王廣福、斜街)、又一邦(石頭、胡同)、同城樓(糧、店)、西域館(上)等あり。【茶樓】 北京には茶樓、茶軒、清茶館等の別あり、孰れも喫茶店なるが其内茶樓最も高尚にして、茶代一人前五、六仙、外に客の希望により菓子等の食物を提供す。此等は市内各所に多數散在す、茶樓の主なるもの左の如し。第一樓(廊房勸業、場内)、荔香茶社(上)、春明館(中央公、園内)、中興茶樓(東安、場内)、沁芳樓(上)、青雲閣(觀音、寺街)等。

公使館 當地に於ける各國公使館は悉く正陽門内東側一帯の地を占むる東交民巷に集れり。館名左の如し。
 日本使署(17)、英國 British 使署(18 I 7)、美國 American 使署(25 I 8)、法國 French 使署(14 J 8)、俄國 Russian 使署(21 I 8)、意國 Italian 使署(17 J 7)、荷蘭 Dutch 使署(24 I 8)、比國 Belgian 使署(J 8)、葡萄牙 Portuguese 使署(J 7 霞公)、德國 German 使署(8 J 8)、埃國 Austro-Hungarian 使署(1 J 7)。

旅行代理業 日本國際觀光局北京案内所(J 7 府王井大)、内外旅客の爲種々斡旋の勞を執る。萬國寢臺列車會社 International Sleeping Car Co. (東交、民巷)、トーマス・クック社 Thomas Cook & Sons (東清鐵、道廳内)等。

通信官署 【郵便】 外國局—日本郵便局(13 J 8 東交、民巷)、普通一般郵便事務を取扱ふ。佛蘭西郵便局(13 J 8 東交、民巷)、露國郵便局(20 I 8 東交、民巷)、獨逸郵便局(10 I 8 東交、民巷)、支那局—北京一等郵政局(17 東長、安街)、同第一支局(崇文門内、小報胡同)、同第二支局(東交、民巷)、同第三支局(前門外、東車站)、第六支局(西長、安街)、その他市内各所に約十六の分局を設置す。取扱時間は一樣ならざるも大抵午前九時乃至午後五時迄とす。

【電信】 電報總局(J 7 東長、安街)、電報南分局(打磨、廠)、電報西分局(六部、口)、電報西南分局(賈家、胡同)、電報北分局(後、門)等あり。料金は一語十字とし、英國一弗四〇、米國(華府及紐約宛)一弗九五、露國六五仙、日本四〇仙、支那内地一省內九仙、二省以上に亙るもの一八仙とす。【電話】 電話東局(K 6 燈市、口)、電話南局(G 8 東疏、瑞廠)、電話第二分局(甸、海)、電話南苑分局(苑、南)等あり。



(京 北) 廟 子 孔

市街概観 【位置】 北京は支那全土の首都にして、北緯三九度五四分、東經一一六度二七分に位し、支那本部の東北隅なる直隸省の中央、所謂直隸平野の一角に介在し、その西南方には北支隨一の大商埠天津を控へて最も形勝の位置を占めたり。

【城廓】 北京に到著したる外客が劈頭第一に其の眼を驚かすものは内城及外城を圍繞する磚造城廓の壯觀なるべし。城は明代創築以來清朝の重修を経たるものにして、内城はその周圍約四十清里、城壁の高三丈五尺五寸、不整長方形を成し各面を通じて九門（南面—正陽門、崇文門一名哈達門、宣武門一名順治門、北面—安定門、德勝門、西面—西直門、阜成門一名平則門、東面—東直門、朝陽門一名齊化門）を有す。外城は内城の南面を抱擁して東西に長く、南北に短き長方形を成し、其周圍約二十八清里、城壁の高二丈、七門（南面—永定門、左安門及右安門、東面—廣梁門、東便門、西面—廣安門、西便門）を有す。城壁の四隅には角櫓あり、各門上の華麗なる門樓は其傍に立てる五本宛の旗桿と共に此の宏壯雄大なる城

牆に輪奐の美を添へ、正に此の大國の都城たるに恥ぢざるの偉觀を呈す。その他城壁には大小無數の銃眼を穿ち且城の外周には護城河を繞らせり。

【市街】 北京市街の全面積は約五方里にして、我東京市の面積と略伯仲の間にあり。之を別ちて内城及外城の二となす。由來内城の地は歷朝の紫禁城を中心として發達したるものにして、近々清朝に在りては八旗の居住地に充てたる處なれば、商業の繁榮は固より外城の其れに及ばずと雖、城内各門に通ずる大街路縱横に走り、無數の胡同（小路）之と交叉して通行に便し、街衢の整然たること恰も我京都の如きものあり、官府、宮廟、第邸等の壯大なる建築物多し。先づ内城南面なる正陽門（日8）を入れば、前面紫禁城の表門なる中華門を経て正門天安門（日7）に通ずる道路あり。その西側稍西に入りたる所には司法部、大理院、高等審判廳、地方審判廳等の各司法官衙一廓をなし、東側直前には宗人府、警察廳等牆壁を接して並列す。而してその背面即ち城壁と東長安街との中間に介在する一帯の地域は之を東交民巷と稱し、列國公使館、兵營を首め郵便局、銀行、

雜貨店、旅館等の歐風家屋軒を連ねて整然たる一街衢を形成す。又東長安街を隔て、之と相對する所には郵政總局、京漢鐵路管理局、電報總局等の建築物あり。次に崇文門を發して北方に走る東單牌樓及之と垂直に交る前記東長安街は共に城中最も繁榮なる街路にして、外人の店舖日に増加し、在住邦人の住宅、雜貨店、旅館、飲食店等多く此附近に蟠集せり。東單牌樓より約十町北方に於て之と交叉する東四牌樓も亦殷賑なる街區の一にして、宮城の西側に於て前記東單牌樓及東四牌樓と相似の位置を占むる西單牌樓及西四牌樓と共に宮城隣接地に於ける商業の中心地にして、支那豪商の店舖多きを見る。夫れより宮城の背後に出づれば鐘樓及鼓樓の二大塔雲表に聳立して全市を壓す。宮城は内城の中央稍西南に偏したる地域に於て、その周圍の街區と共に牆壁を繞らしたる一廓を成し、南に天安門、東に東安門、北に地安門、西に西安門の四門を有す。而してその内部西方には北海、中海及南海の三湖連續して北より南に横はり、中海の中央なる小島中には大總統府あり。

若しそれ外城に在りては有名なる天壇及先農壇を首め其の

他の寺院、墳墓、園圃、荒地等全面積の略三分の二以上を占め、市街を形成する部分極めて狭小なれども、正陽門外なる前門大街一帯の地は北京商業の中心地點として百貨の輻輳する處、隨て豪商巨賈の店舖櫛比し車馬の往來織るが如し。又大街の西なる大柵欄、觀音寺街には規模較々大なる勸業場を首め劇場（茶園）、料理店（飯館）、絹織物店（綢緞店）、藥店、首飾店、雜貨店等頗る多く、その金碧燦爛たる店頭の裝飾人目を眩せんとす。又觀音寺街の西隣琉璃廠には書籍、骨董、文房具類を販賣する店舖軒を並べ、附近に電話總局、高等師範學校、醫學校等あり。更に東に轉ずれば數條の横街に家具店、嫁裝品店其他各種の商店比隣相接して、行客常に絡繹の盛觀を呈せり。

【市内人口】 最近支那警察廳の調査に據れば戸數約十五萬八千餘、人口七十九萬一千餘にして、此外に日本人約三千五百人、其他の各國人約四千人を算すと。

【沿革】 此地は往古夏の幽州、周代に於ける燕の故地にして、現今は直隸省順天府の管轄に屬せり。而して其の帝都となりたるは遼（西紀九三六年）に始まり、金（西紀一一五三年）、元（西紀一二七三年）



北 京 鐘 樓

の二朝亦その舊城に據て臺鼎を定めたり。降て明初(西紀一四〇二年)の帝都を應天府に定むるや、此の地は單に北平府なる一地方衙門の所在地に過ぎざりき。隨て前朝の王城も一時その偉觀を失ひ、山河落莫の光景を呈せしが、其の後明の永樂帝の時に至り再び都を此處に遷すや、從來の土壘は堂々たる磚壁に改築せられて、王城の盛觀寧ろ舊に倍せり。爾後清朝亦此處に奠都して、明の舊址を襲ひ、更に重修補飾して以て今日に及べり。蓋しその位置を禹城より見れば東北隅に偏在すれども、進で南方九州の野を抑へ、退て祖宗發祥の地を守らんとする意、金、元、清各朝の如き滿蒙の北人に取ては實に絶好の要衝たればなり。而して明の永樂帝が此處に都を定めしも亦龍興の地に重きを置き、併せて北人制御の利に鑑みたるに因らずんばあらざるなり。

東交民巷の地が外國使節の駐紮地たるに至りしは康熙二十七年(西紀一六八八年)ネルチンスク條約に基き露國貿易事務官を此處に派遣し俄羅斯館を建設せしに始まり、次で、咸豐十一年(西紀一八六一年)英、佛二國此處に公使館を設置し、米、露二國亦その聲に倣へり。降て同治二年(西紀一八六三年)以後には和蘭、西班牙、伊太利、獨逸、日本、澳太利、白耳義等諸外國使館相尋で設置せられしが、光緒二六年(西紀一九〇〇年)團匪事變に際し、界限一帶は實に匪徒の重圍に陥り未嘗有の修羅場を現出したるより、列國會議の結果將來再び斯の如き慘禍なからしめむが爲特に各國使館區域を擴張して、常備衛兵を駐

地せしむる事となり、今や東交民巷一帯の地は外人の所謂「リゲーション、クォーター」なる特殊區域を形成するに至れるなり。

主要官衙

- 總統府 (G 6 新華門内)
- 國務院 (G 5 西安門内)
- 衆議院 (E 8 象房橋)
- 參政院 (象房橋)
- 審計院 (化石橋)
- 外交部 (K 6 東堂子胡同)
- 内務部 (K 6 燈市口)
- 財政部 (G 7 西長安街)
- 陸軍部及海軍部 (J K 3 鐵獅子胡同)
- 參謀本部 (G 5 西長安門内)
- 交通部 (F 7 西長安街)
- 司法部 (H 7 刑部街)
- 教育部 (F 7 東鐵匠胡同)
- 農商部 (粉子胡同)
- 稅務處 (西堂子胡同)
- 鹽務署 (西長安街)
- 大理院 (H 7 刑部街)
- 蒙藏院 (八旗廟)
- 少軍統領衙門 (I 3 帽兒胡同)
- 京兆尹公署 (J 2 交道口)
- 京師警察廳 (I 7 戶部街)
- 全國水利局 (盛胡)
- 經界局 (舊戶部衙門)
- 高等審判廳 (H 8 刑部街)
- 高等檢察廳 (H 7 同)
- 地方審判廳 (上)
- 地方檢察廳 (上)
- 大興縣署 (安定門大街)
- 宛平縣署 (G 3 皇城根)
- 京漢鐵路管理局 (J 7 霞公府)
- 京綏鐵路管理局 (E 5 西四牌樓)

- 銀行 【外國銀行】 華俄道勝銀行 (Russo-Asiatic Bank (23 I 8))
- 匯豐銀行 (一名香港上海銀行) (Hongkong & Shanghai Banking Corporation (G J 8))
- 德華銀行 (Deutsch-Asiatische Bank)
- 東方匯理銀行 (Pan-

- que de l'Indochine (21 I 8) 花旗銀行
- International Banking Corporation 橫濱正金銀行
- Yokohama Specie Bank (11 I 8) 華比銀行
- Banque Sin-Belge 中法實業銀行
- Banque Industrielle de Chine 麥加利銀行
- Chartered Bank of India, Australia and China 中英公司
- British Chinese Corporation Ltd 美國惠東銀公司
- National Mercantile Corporation of New York 以上は皆東交民巷に在り。

- 【支那銀行】 中國銀行 (H 8 西長安街)
- 交通銀行 (H 8 西河沿)
- 新華儲蓄銀行 (廊房頭胡同)
- 保商銀行 (打勝街)
- 濬川源銀行 (小蔣家胡同)
- 殖邊銀行 (施家胡同)
- 崇華殖業銀行 (虎坊橋)
- 華充銀行 (珠寶街)
- 直隸省分銀行 (長巷)
- 中國實業銀行 (西長安街)
- 北京金城銀行 (西河沿)
- 北京中孚銀行 (施家胡同)
- 蔚豐商業銀行 (崇文門外)
- 中華匯業銀行 (東交民巷)

- 主要店舖 北京三菱公司 (東單牌樓)
- 三井洋行 (東單牌樓)
- 泰平公司 (新開路)
- 【綢緞及皮貨】 瑞祥東記、瑞祥祥
- 鴻記、祥義號、慶和祥棧、慶盛祥 (以上皆大柵欄に在り)
- 謙祥益

【廊房頭】。【古玩舖】論文齋、延古齋、韵古齋、博韻齋、延清堂、茄古齋(以上皆車琉璃廠在在)。【琴局】同昌琴茸莊(楊梅竹斜街)、同和琴局(同上)、その他主なるもの約十軒。【陶磁器】清華齋(琉璃廠)、王德昌(宣武門前街)、西和豐(前門大街)等。【貴金屬】老天利售品所(王府井大街)、利喊洋行(同上)、臨記洋行(西交民巷)、烏利文洋行(西交民巷)、三陽金球店(廊房頭)、天寶號(同上)。【支那文具】靜文齋(琉璃廠)、靜秘閣(琉璃廠)、秀文齋(琉璃廠)、賀蓮青(琉璃廠)、李文通(琉璃廠)等。

【書舖】天津印字館 Tientsin Press(東交民巷)、漢英圖書館(同上)、以上洋書店。中華書局(西交民巷)、商務印書館(同上)。【西洋文具雜貨】佛來地 Aux Nouveautés、增茂洋行(以上東交民巷)、福隆洋行 Gillard & Co.(王府井大街)。【食品】勝茂洋行(崇文門大街)、加藤洋行(同上)、日清洋行(以上東交民巷)、川崎洋行(蘇州胡同)、青林堂(八角廟胡同)、北京堂(菓子肉胡同)、華東洋行(東單牌樓)。【洋服舖】麓記西服莊 Stranch & Co.(王府井大街)、增茂洋行(東交民巷)、謙發號西服莊(東單牌樓)、利華洋行(西單牌樓)、福榮洋行(蘇州胡同)、【日本雜貨及藥品】太田洋行、

加藤洋行、信義洋行(以上東單牌樓)、信昌洋行(霞公府前門大街)、東亞公司(車單牌樓)、川崎洋行(蘇州胡同)、【寫真】山本照相館(王府井大街)、【自働車】飛龍公司(王府井大街)、飛燕公司(東長街霞公府)、【馬車】前記飛龍公司及飛燕公司の外高大大公司(修府夾道)、【勸商場】東安市場(東安門外丁字街)、東河市場(丁字街)、西河市場(西河沿路)、西單市場(西單牌樓)、新豐市場(西四牌樓)、廣安市場(菜子口)、地安市場(地安門)、天橋市場(前門外天橋)、勸業場(前門外廊房頭)、首善第一樓(同上)、青雲閣(前門外觀音寺街)、集雲樓(前門外、煤市街)、望園(前門外、鑼柵街)。

市場 銀錢市(前門外)、珠寶市(前門外)、玉器市(前門外、西河沿路)、米市(東四牌樓)、肉市(西河沿路、東四牌樓、房胡同)、魚市(前門外、西河沿路)、果物市(前門外、果子店、德勝門內、蓮東)、估衣市(前門外、轉東)、皮衣市(同上)、棉花市(東直門、子胡同)。

病院 【外人經營】法國醫院 Hôpital International St. Michel(東交民巷)、美華同仁醫院 Methodist Hospital(崇文門內)、施醫院 Union Medical College and Hospital(K 8 門內)、美國醫院 Peking Hospital(K 4 新開路、石大人胡同、石牌坊及帥府胡同の四個所)。

寺廟 北京に於ける寺觀の主なるものを擧ぐれば、喇嘛教に屬する雍和宮、俗稱喇嘛寺(安定門內)、回教に屬する勅建清真寺(東四牌樓)、勅建法明寺(安定門內)、勅建普壽寺(早成門內)等あり。

佛刹としては妙應寺(早成門內)、隆福寺(東四牌樓、西西北)、憫忠寺(菜市口)、天寧寺(外城西便門外)、護國寺(德勝門大街、西發祥坊)等を擧ぐべし、又廟觀の著名なるものには東嶽廟(朝陽門外)、文廟(安定門內、東便門外)、白雲觀(西便門外)、蟠桃宮(一名太平宮、東便門內、大橋南)等の類甚だ多し。

學校 【外人經營】匯文大學校 Peking University Peking College and Peking Hospital(K 7 東單三條胡同)、清華學校 Tsing-Hua College(京西本路、清華園)、俄文專修館 Russian College(T 9 東總布胡同)、耶蘇聖心女學堂 L'Institution du Sacré Coeur(東單三條胡同)等。

【支那人經營】北京大學(後門內、馬神廟)、文科、理科、法科、工科の四分科を含む。北京大學預科(I 6 東安門內)、陸軍大學校(D 2 西直門)、私立朝陽大學(I 3 汪家胡同)、私立中華大學(E 7 石駱馬大街)、私立明德大學(乾面胡同)、私立中國公學大學部(H 8 前門內)、以上は大學校。高等師範學校(G 8 西城根)。

【支那人經營】內城官醫院(錦繡園)、外城官醫院(梁家園)、城南醫院(宣武門大街)、京漢鐵路醫院(東單二條胡同)、中和醫院(西長安門)、新華醫院(西安門外)、北京醫院(頭條胡同)、普仁醫院(外城大柵欄)、教會堂 天主堂(G 4 西安門內、西什庫大街)、福音堂(新教)、前門大街路西、磁器口路北、東單牌樓路東、西單牌樓、崇文門外花市路北の五個所に在り。その他俄國教會 Russian Orthodox Mission in China(東直門內)、廣學會 Christian Literature Society(燈市口)、公理堂 American Board Mission(燈市口)、美國聖經會 American Bible Society(同上)、美以美會 Methodist Society(孝順胡同)、基督教青年會 Young Men's Christian Association(米市街、魚胡同)。

(J 2 安定門內、二條胡同) 婦嬰醫院 Steeple Davis Memorial Hospital for Women and Children(孝順胡同)、德國醫院 German Hospital(東交民巷)、日華同仁醫院(J 7 東單牌樓三條胡同)、東亞醫院(驛馬市)、川田醫院(東單二條胡同)、石原醫院(娘々胡同)、倉田醫院(西城兵部街)、原田醫院(西草廠胡同)、池田醫院(石駱馬大街)、普濟醫院(一名田中醫院、南橫街)、回春醫院(一名春名醫院、取燈胡同)、村上齒科醫院(東單二條胡同)、伊藤齒科醫院(東單八取燈胡同)。

琉璃廠、工業專門學校(E3 祖家街)、農業專門學校(西直門外、駝駱莊)、醫學專門學校(G9 八角琉璃井)、法政專門學校(F6 大佛寺街)、石橋法政專門學校(F8 北石橋)、中央法政專門學校(E7 盤磨院)、新華商業學校(西安門外)、協和醫學學校(坊南)、交通部交通傳習所(李閣老胡同)、農商部農林傳習所(西直門外)、蠶業講習所(E6 二龍坑)、稅務學校(L6 藏米倉)、陸軍々需學校(K6 炸藥胡同)、陸軍々官學校(上同)、航空學校(苑南)、高等巡警學校(J2 北新橋)、以上專門學校程度のもの。此の外中學校程度の學校は約二十五校あり、その主なるものを擧ぐれば師範學校(E4 祖家街)、女子師範學校(E7 石駱馬大街)、第一中學校(I2 胡家胡同)、第二中學校(K6 史家胡同)、第三中學校(E4 祖家街)、同第四(F4 西什庫)、崇實女學校(寶福寺街)、女子職業學校(L7 東單方、中卷)、女子第一中學校(G7 南橫街)、幾輔中學校(F9 宣武門、順天中學校(H3 地安門外)等。

報館 北京に於ける新聞社は三十有餘を算し、其大部分は漢字新聞にして英字新聞一あるのみなり。その主なるものを擧ぐれば左の如し。英文北京日報 Peking Daily News (鎮江胡同)、政府公報(王府井)、北京日報(鎮江胡同)、中國日報(道五

廟) 順天時報(北石橋)、京話日報(粉房琉璃街)、北京時報(蘇州胡同)、新支那(東單牌樓、後橋胡同)等。

工業 北京に於ける新式工業の見べきものは北京工藝官局、北京工藝商局、京師丹鳳火柴(燐寸)有限公司、北京電燈公司(東交民巷)、自來水(水道)公司(北石橋)、其他五六の工場なるべし。【北京工藝官局】(E9 宣武門外、儀門大街)は商工部の直營にして、玻璃科、羊絨毯科、皮箱科、藤工科、印書科、鑿井科(以上六科は全然官辦とす)、畫塗科、雕漆科、肥皂科、西器科、華器科、織工科、金工科、鑄磁科、繡工科(以上九科は官助商辦にして民間より職工等を工藝局に派遣して製作に従事せしむ)の十五科に分ち、工匠徒弟約五百人を有す。【北京工藝商局】(G9 前門外、琉璃廠)は支那商民の經營に成り景泰藍料、羊絨緞通科、木器科、雕刻科、銅鐵科、電器科、染工科、洋胰科、化學各器科、畫工科の十一科を分置し、本局内に陳列所を併置して製作品を販賣す。職工約三百餘名を役使す。その外に祥聚織布廠(崇文門外、福盛織布廠(交道)、德善織布廠(花市、上三條)、振倫織工廠(崇文門外、堂子胡同)、振倫織工廠(王廟前、堂子胡同)、振倫織工廠(王廟前、堂子胡同)等あり。

老天利瑛瑯工廠(東單新開路)等あり。

商業 北京は支那の首都にして禹域滿蒙各地の支那人多く此處に來住せるは勿論、更に各國使臣及軍隊の駐紮するあり、隨て此等住民の需要は日用品乃至内外各地産の各種奢侈品に及び、その消費力頗る偉大なり。即ち北京は消費地として存在するに過ぎざれども、近來鐵道運輸の發達に伴ひ各種工業勃興の趨勢あるを以て、將來商業發展の餘地尙ほ多かるべし。

【各種商業機關】 商務總會は前門外西柳樹井に在り。その他各商人の同業組合なる行會館を擧ぐれば左の如し。顏料會館(前門外北、蘆草園)、藥行會館(前門外、廣安門大街)、綢緞行會館(三里、靛行會館(西半、隆慶街)、當行會館(西柳樹井)、玉行會館(小沙、金行會館(西河沿、皮行會館(大寶、整容行公會館(土園、神廟)等あり。

娛樂場 【劇場】 第一舞臺(H9 西柳樹井、支那劇場中最も設備完全す、觀覽料三五仙乃至九〇仙位。文明茶園(西珠、廣德樓(大柵、三慶園(上、慶樂園(上)等。【書館】 藝妓が扮装せしめて歌舞する寄席の如きものにして、



(頁〇一二) 塔石理大寺黃西

四海昇平樓(石頭)等その主なるものなり。【妓館】清吟小班(一等)、茶室(二等)及下處(三等)の三階級あり。前二者は主に八大胡同一帯に散在し、後者は香廠、前營、後營、黃花苑等に在り。【活動寫眞】平安電影(東長、安街)、電影公司(大柵欄、東長、安街)、慶樂茶園(大柵欄)。【俱樂部】北京西紳公會(東交、民巷)、中法協會、Cercle Sino-français (同)、大和俱樂部(J7 東單牌樓、三條胡同)。

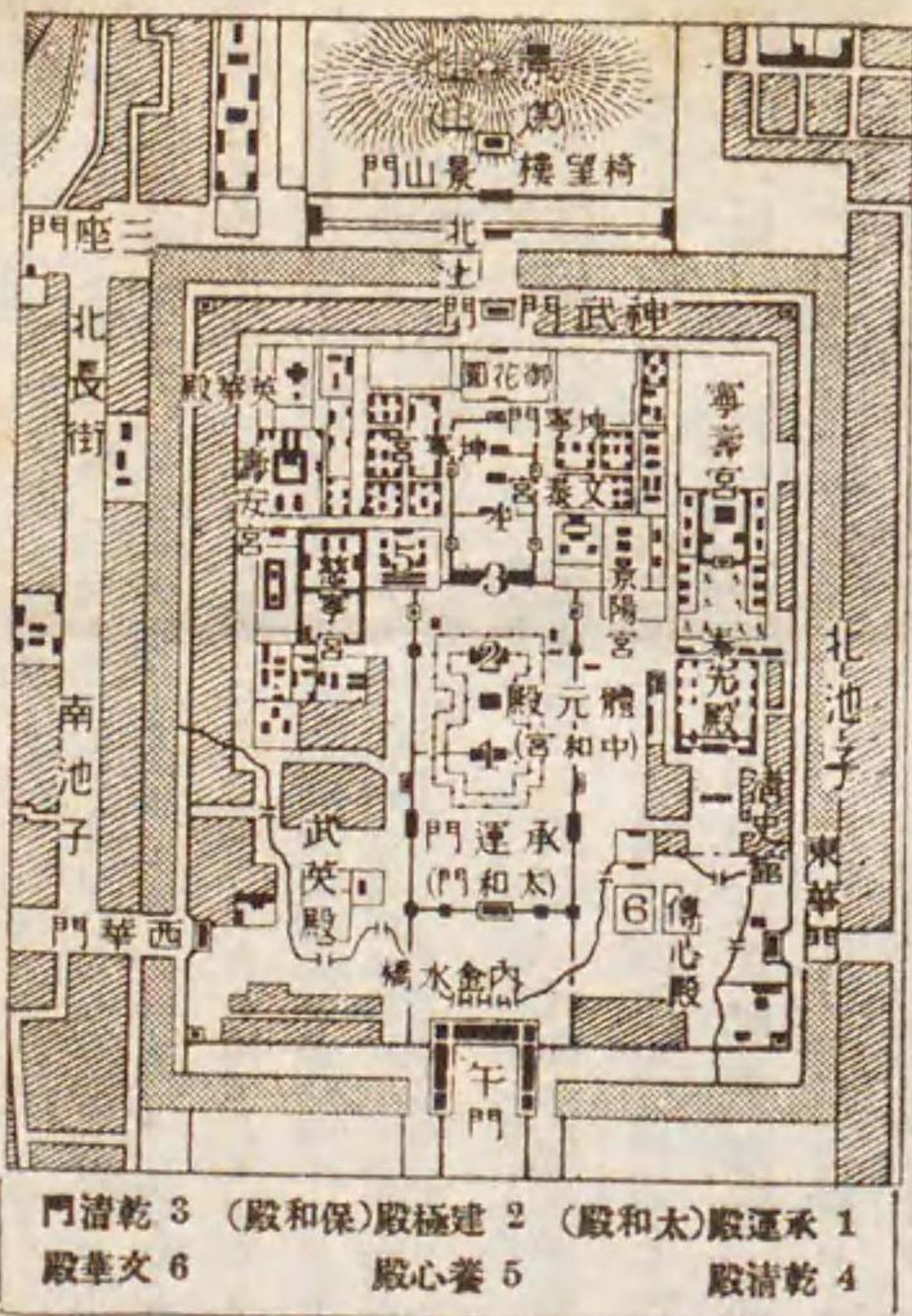
公園其他 【公園】中央公園(H7 舊宮城社稷壇内、先農壇公園(GH11 永定門内、第二〇七頁参照)。【博物館】武英殿内及文華殿内古物陳列所(舊宮城内、第二〇一頁参照)、交通博物館(胡同)、歷史博物館(西直門外三、監内)。【動植物園】中央農業試驗場内(B2 貝子花園)。【商品陳列館】工商業改進會陳列所(G9 琉璃廠)、商品陳列所(E9 彰儀門、大街)。【圖書館】京師圖書館(安定門内)、同上分館(宣武門外西、茶食胡同)、第一通俗圖書館(西便門外)、第二通俗圖書館(正陽門外)、第三通俗圖書館(東安門外)、第四通俗圖書館(西單牌樓、南門外)。

宮城 所謂内城の中央に在りて別に一廓を築くもの即ち是なり。その城廓は正方形にして、甃磚黄色に塗られ、四面に城門を設く。即ち南面なるは正門にして天安門と稱し、東なるを東安門、西なるを西安門、北なるを地安門(俗稱後門)と稱す。而して南面のみは特に外廓を設けて一門を開き、是よりして内城の正陽門に直達すべし。

宮城の南隅には南華園あり、西部には西苑あり。苑中南より北に横はる【大液池】(北海、中海及南海)は波光澄碧にして、池中青螺の如き瓊島(G4)の艶麗最も鮮かなり。【瀛臺】の勝はその南方にあり、鬱蒼として翠綠正に滴むとするの風趣を添へ、地上九竅を有する石橋恰も虹の如く横はり、風致極めて幽邃閑雅なり。又北に【景山】(H5)あり、山頭五峰に岐かれ各小亭を設けて以て登臨の便に供せらる、滿都の風光歴然として一眸の中に收むべし。

紫禁城 觀覽希望者は先づ東華門又は西華門なる售票所に就き三十仙の入門料を支拂うて城内に入るべし。宮城の内部中央より南東に偏したる處に更に一廓を爲すもの、是れ即ち紫禁城にして、内裏宮殿の在る處、牆壁は南北に短く、東西に長き方形にして、宮城の廓壁と同じく黄色瓦を以て之を葺

き、周圍に四門あり、南方は正門にして午門と言ひ、東方を東華門、西方を西華門、北方を神武門と言ふ。若し夫れ紫禁城内の内容に就き典籍載する所の一端を擧ぐれば、その午門の内面には太和門(現承運門)、門前には内金水橋あり。



正中の殿を太和殿(現承運殿)と稱し元且、萬壽節其他大朝會、燕饗殿試等に際し皇上的出御せられし處なり。その北に中和殿(現體元殿)あり、祭祀に當り祝詞奏聞の處と

云ふ。中和殿の後に保和殿(現健極殿)あり、毎歲除夜に外藩の使臣を饗應せられし處、更にその後乾清門あり。門内の乾清宮は親王に宴を賜ひ、大官を引見せられし處、又その北に寶璽を藏する文、泰殿あり、更にその北に坤寧宮あり西太后の便殿たりし處なりと云ふ。光緒帝及皇后宮の便殿たりし養心殿は瓊園門外に在り。その他文華殿、武英殿、傳心殿等の大宮殿その周圍に甃を並べ結構輪奐の美を極む。

【武英殿及文華殿】紫禁城觀覽者は別に一券を投じて入觀券を購へば、兩殿内の陳列品を觀賞することを得べし。武英殿は西華門内、文華殿は東華門内に在り、太和門(現承運門)の兩側に相對せり。前者は國寶陳列所にして周代以來の銅器を首め、各朝の陶器、漆器、寶玉、黄金細工等多數陳列せられ、就中康熙、乾隆時代の蒐集、製作に係る古珍重寶その大部分を占め、觀者をして低徊顧望去る能はざらしむるものあり。此等は皆清朝の御物にして熱河、奉天の兩離宮に珍藏せられしものなり。武英殿の西側には浴德殿と稱せらる、小浴殿あり。紀念日、祝日等には一般人の縦覽に供せらる。該浴殿の内部は白色煉瓦を以て作られ、純土耳其式浴場に

して往古乾隆帝がその寵妾のため營造せしめたる所と傳へらる。次に文華殿は支那各朝の有名なる書畫を陳列し、漢人の外滿蒙人の勞作に成れる畫もあり、書は比較的妙きも孰れも有識者の興味を惹くに足る。

【景山】一名煤山と稱し、元の世祖都を北京に定むるや築城に先ち北京包圍の危機に際し燃料の不足を豫想して石炭を山積し、之を蔽ふに土壤を以てし、更に樹木を移植して、萬歲山と稱せしものなりと。奚ぞ知らむ、明末李自成の北京を侵すや莊烈帝痛憤自盡して此に悲慘の最後を遂げむとは。而かも其の山容は今尚ほ舊に依て蒼翠參差たり、這個史實と相照し感傳し深し。

中央公園 (H7) 天安門の西側、元の社稷壇シニチヤンの

(入場料十仙、園内茶代二十仙)。民國四年先農壇と共に公園地に指定せられしもの、目下園内には運動場、餐館、茶社、球房等の娛樂機關あり。先づ入口より音樂堂前を通り北折すれば老柏鬱蒼たる別天地にして、聽て廣潤なる一廓の門内に入れば社稷壇あり。其の壯大なる建物も往時の森嚴を語るのみにして、今は遊覽者の攀登に任せり。又附近に牡丹園あり、花時遊覽者多し。壇後亦老柏繁茂し幽靜雅趣あり、濠を隔て、宮城と相對す。將來設備完成せば市内第一の大公園たるべし。

石頭牌樓 (K7) 一名克林德牌樓 Ketteler Pai-lou

と稱し、内城崇文門内東單牌樓と東四牌樓との中間に在り。大理石を以て築造せられたる牌樓にして、光緒二十六年(西紀一九〇〇年)義和團の變に際し清國官兵の爲めに殺害せられたる獨逸公使ケツトレル男に對し清國政府が謝罪の意を表する爲、國際條約に基き建設せし紀念碑なり。その碑文は清國皇帝が獨逸公使の遭難を悼惜せしものにして、羅甸語、獨逸語及清語を以てせり。

精忠廟 (I9) 宋の忠臣岳飛の塑像を奉祀す。塑像

は甲冑武裝し、その狀極めて威嚴に富む。毎年陰曆正月一日乃至十三日間開廟し、その期間殿階に紗燈を陳列し、佞臣縛伏の狀を作せり。

雍和宮 (K2) 觀覽料五〇仙) 内城に於ける著名の喇

嘛寺にして、清の世宗雍正帝(西紀一七二三—一七三五年)が其の潜邸を喜捨して、此の靈場を置かれしに因り此の名あり。宮は安定門内北新橋の東北栢林寺の西に在り。第一門を昭泰門、中門を雍和門と稱し、之を入れれば内に雍和宮、永佑殿、法輪殿等あり。今や多少頽廢の狀あるも、黃瓦紅壁輪奐の美

觀象臺 (L7) 内城の南東角樓北側に在り。城牆より

高さ一丈一尺餘、元の至元十六年(西紀一二七九年)の建設に係り、臺上には元朝の欽天監郭守敬の製作に成れる渾天儀、銅球、量天尺等の諸器ありしも、爾來年を経るに従ひ、多く其の用を爲さざるより、清朝康熙十二年(西紀一六七二年)新に天體儀、赤道儀、黃道儀、地平經儀、地平緯儀、紀限儀等を作りて舊儀に易へ、その後更に地平經緯儀及格辰儀をも増製して以て天文、曆數の研究に資したり。然るに會々光緒二十六年拳匪の亂起るや臺は佛國軍隊の占領する處となり、一切の器具は一旦佛本國に送致せられしが、佛蘭西國民は「學問に敵國なし」との公義心より此等を擧げて送還し來りしかば、清國政府亦荒廢せる舊址を修理して臺上の測天諸儀器を原狀に復せしめ、毎土曜日之を開放して衆人の觀覽に供せり。

隆福寺 (J5) 内城東四牌樓西北に在り。明代の建

立にしてその當時は壯觀人目を驚かすものありしと云へど、今は大半焼失或は頽破し終れり。毎月陰曆九、十の日に廟市開かれ、古玩珍器或は花卉、日用品等の賣店多し。

尙ほ觀るべきものありて存し、之を一覽せば正に西藏蒙古式に粉飾せられたる佛寺を髣髴せしめ、兼て親王府第の結構をも窺知するを得べし。現在喇嘛僧約三百、圓頂黃衣の偉大漢が日々勤經に勵めるも殊勝なり。

孔子廟 (K2) 一名文廟と稱し、北京内城安定門の

東南、崇教坊成賢街にあり。境内には千秋の古栢偃蓋して雲梯を拂ひ、森々たる綠葉霜雪に傲るものありて自ら人をして襟を正さしむ。廟の正門を先師廟門と言ひ、その通用門を持教門と稱し、廟廊の西面に設けらる。其の門内には元朝以來登第せし幾多の進士顯名碑あり。進みて大成門に至れば左右に石鼓各五個を排置せり。大成門と相對する南向の大堂宇は即ち大成殿にして、其の前面内庭に鬱蒼たる老栢樹は元朝國子監祭酒許衡の手植に係り、既に六百餘年の星霜を経過せしものなりと言ふ。大成殿と大成門とを相連ぬる東西兩廡中には歷朝の先賢を從祀し、庭内老栢の間には清朝歷代帝王の撰修に係る幾多の碑亭あり。大成殿は民國三年重修塗飾せられ、結構極めて壯麗なり。殿内には質素なる三個の香爐と祭机とを備へ、正面に至聖先師孔子の神位を奉安し、左右に四聖(顔

子、子思子、曾子、孟子、十哲(闕子、冉子、端木子、仲子、有子、冉子求、冉子雍、言子、卜子、顓孫子)の神位を配祀しあり。又楹間には清朝康熙帝以下歴代皇帝の勅獻に係る扁額あり。再び大成門に至れば門内左右に威儀の表徴たる各十二の戟を備へ、之と相並びて周代の遺物たる真正の石鼓左右五個宛を配せり(門外の石鼓は其の模造品なり)。注意—本廟觀覽の際は一門一殿毎に門錢を要求するを以て、豫め銅貨を準備し一門毎に四、五枚を與ふべし。

*【石鼓】 其の質は石にして(高約一尺、徑約一尺二寸)形狀鼓に相似たるを以て此の名あり。周の宣王(西紀前八二七—七八〇年)群臣を率ゐて岐陽に獵せし時、騎射に秀でし者の功を勅し以て後世に傳へしめしもの、即ち距今約二千八百年前の古物にして、爾來幾度か方處を轉移せられ且多年風鑽雨蝕の結果、現存の文字は僅々三百有餘に過ぎずと雖、周代古文の筆致を窺ふべき天下唯一の資料たり。

孔子廟 (J2—門錢を要すること前例に同じ) 孔子廟の西隣に在り。支那の舊大學にして、元、明以來數百年間の最高學府として、天下俊秀の淵藪たりし處、輓近新學の勃興に連れて國立大學は別に創設せられ今は唯歴史博物館として保存せらる。先づ其の外廓に集賢、大學の二門あり。門内には

大學堂、彝倫堂あり。堂の正面に「大學」の二字を刻せる石標は康熙帝の御筆なりと云ふ。其他堂の内外には歴代皇帝震筆の扁額、碑碣等多く、又庭内には石製の日時計あり。更に東西兩廡には率性、誠心、崇志、修道、正義、廣業の六堂ありて、堂内には漢代石經の制に倣ひ乾隆帝の勅建に係る十三經の立てるあり。四邊の光景轉々寂寥たれども亦以て騷客の史的感興を唆るに足るべし。

*【石經】 とは十三經を石碑に正傳せしものなり。抑々十三經と稱するは三經(周易、尚書、毛詩)、三禮(周禮、儀禮、禮記)、三傳(春秋左氏傳、公羊傳、穀梁傳)及論語、爾雅、孝經、孟子にして、後世十三經の文字に疑義を生ぜしときは、石經の文字に據りてその正否を決するを支那讀書士の通有觀念なりとせり。

鼓樓 (H2) 宮城後門(地安門)の正北部にあり。元の世祖(忽必烈)の建設に係り、當時齊政樓と稱せり。明代(西紀一四二〇年)大修理を加へ、清朝に至りても逐次修理を施したる處、樓址は長約一六八尺、幅員約一二二尺、樓の全高約一〇〇尺、即ち城壁より高きこと六十五尺餘にして、磚瓦、巨石及大木材を用ゐて造られたる堅牢巨大の建物なり。

樓下の門扉を潛り、石階六十九級を登れば宮城の内外を一眸の下に蒐めて遐邇の眺望を擅にすべきなり。初め樓上に銅製の刻漏壺四個を置きて時刻を測るの用に備へ、その製法極めて精妙にして、古代時針儀の一種として珍重すべきものなりしが明末の火災にて焼失したりと云ふ。鼓樓上には從來二十四鼓を備へ一年を二十四節に分ち、一節一鼓を用ふるの制なりしも、北清事變の際其の多くは破壊せられたり。而して現下は徑約六尺の大鼓一個、約三尺五寸の小鼓二個を備へ、毎夜八時及正子の刻に百八聲を打て市街夜警の合圖となせり。元來此鼓樓は鐘樓と等しく清朝歴代宮内官廳の一たる鑾儀衛に直屬し、國家事變の際急を城外に告ぐる警報機關となし、平時は城内夜警の司令塔と爲せるものにして、その規模の宏大なる、今尙ほ城中の一偉觀たり。

鐘樓 (H2) 鼓樓の北約百歩の所に相對せり。是れ亦元の世祖の創設に係ると云ふも其の地跡詳ならず。其後明の永樂十八年(西紀一二二〇年)、即ち北京遷都の前年に至り元の遺制に倣ひて再造せられし鐘樓、亦火災の爲灰燼に歸したり。現存のものは清朝乾隆十二年の築造に係り、樓上の巨



(頁六〇二) 壇 天

鐘は明代の遺物にして、永樂年月吉日製の銘あるを見るべし。建築の規模は前記鼓樓に比し稍小なるも、石階八十段、樓上環らずに石廊を以てし頗る雅致に富めり。

積水灘

德勝門内大街の一路を隔て、十利海と東西に

列なれり。流水環抱する處、楊柳の曲堤に沿ふあり。或は小橋を通じ、或は假山を築く。山上に祠あり、ホイトヌミ 滙通廟と名く。又後

垣に一怪石あり、之を望めば或は鷄の如く或は獅子に似たり。毎年夏季に至れば祠前の荷花嬋妍を競ひ、附近の人此處に來つて釣魚避暑の快を貪る等景趣恰も畫圖の如し。

淨業寺

德勝門内積水灘の南岸に在りて、朱

垣内に平軒幽敞を構ふるものは即ち淨業寺なり。その後閣は京中の士大夫夏日讌會を開く處、庭前芭蕉の綠影婆娑として涼味掬すべきものあり。

護國寺

德勝門内大街の西、發祥坊に在り。元

の宰相托克托の故宅地と傳へられ、當初壯大なる伽藍ありしも、今や殘影を止むるに過ぎず。毎月陰曆七、八の日を以て廟市を開き、前記隆福寺に亞きて名あり。

天壇

外城永定門内東、正陽門大街路を隔

て、先農壇と相對せり。一觀覽希望者は公使館經由外交部に申請して入觀券を携ふるを要す。天壇は明朝永樂十八年(西紀一四二〇年)の創設に係り、天子親しく皇天上帝を奉祀せらる、祭壇にして、周圍約三哩の廓壁を繞らし、廓内更に塀を築きて齋宮、圍丘、皇乾殿、祈年殿等の設けあり。何人も先づ其の規模の宏大なるに一驚を吃すべし。一觀覽順路は附圖に示す所の如し。【齋宮】左右二門を有し、内外二重の高牆を繞らし、外牆は約一二四〇尺、環らずに深濠を以てし、牆に沿うて一六三〇尺の廻廊あり。内牆は方約九八二尺とし、その内外兩牆の中間は皇帝齋宮に在るの日禁衛兵の屯所たりきとあり。階前の左方に齋戒銅人、石亭、右方に石碑及石亭各一を設く。皇帝は此にて祭服に更へられしなり。

圍丘

天壇の主體にして、其の形圓く天に象れるが故に

此の稱あり。壇は總て白色大理石を以て上中下三層に疊み上げ、各層の周圍及四方階段の兩側に勾欄を付したり。下層直徑二百十尺、高五尺、中層直徑百五十尺、高五尺、上層直徑九十尺、高五尺五寸にして、上層の中央に皇穹宇あり

壇

り。圓塔形の木造建物にして毎年冬至の日出前、皇帝躬ら三拜九拜して親祭を行はる、所とす。【皇乾宮】天壇の北門外に在り。琉璃色瓦を以て蔽はれ、殿側には四十七間の長廊あり。又正殿には皇天上帝及歷代皇帝の神位、天地、風雷、雲雨等の諸神位を奉安し、天壇親祭の際には此等諸神位を此處より壇上の皇穹宇に奉遷するを例とす。又殿側の長廊は祭時雨雪の際俎豆及祭器を收むる處、外人の參觀を許さるは此等諸神位を奉安せるに因ると言ふ。【祈年殿】皇乾殿の正南數歩に聳ゆる高殿即ち是れなり。三級の段上に築かれたる高壯の大殿堂にして、歷代皇帝の五穀豐穰を祈られし處、祭神は天壇と同じく皇天上帝にして兼ねて歷代皇帝を配祀せり。因に天壇の境内樹木芝生の間に龍鬚菜と稱する植物あり。其の狀薔薇に似て夏時甚だ多く生ず。風味頗る美にして俗稱天壇菜と呼び、文人雅客争うて之を賞味すと云ふ。又天壇の井泉は甚だ甘冽にして毫も鹹味なし。

先農壇

外城永定門内天壇の西に在り。四

圍繞らずに垣牆を以てすること天壇と同じく、その廓内には先農壇の外に天神、地祇、太歳等の各壇あり。先農壇は方形にして南向に造られ、その東南に觀耕臺あり、前面は耕田とす。又天神地祇二壇は先農壇の垣外に重垣を繞らして東西に建てられ、太歳壇はその東北に位置す。民國四年之を公園地に指定し目下その施設に忙し。——朝陽門外の日壇、阜成門外の月壇、安定門外の地壇、並に前記二壇を併稱して北京五壇と言ふ。

陶然亭

右安門内東北に在り、或は遼金の創建なりと言ひ、或は清朝康熙年間重修に係ると傳ふ。冬季蘆花の候此處に登臨すれば一望一白清趣饒なり。

火神廟

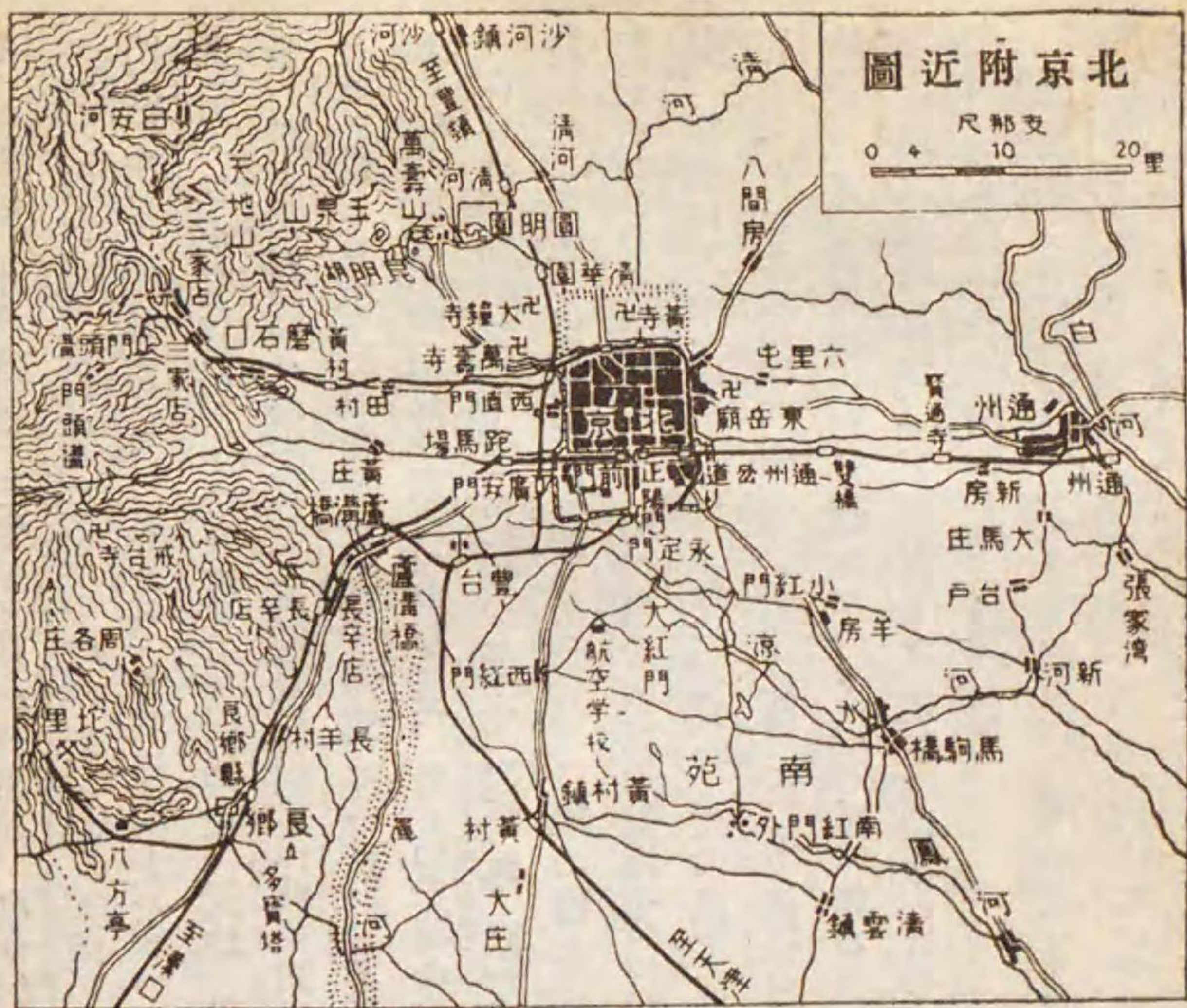
琉璃廠東門内に在り。毎年陰曆正月一日より十五日迄開廟す。書畫字帖、骨董古金銀等を陳列し、名流顯官の往觀するもの頗多し。

臥佛寺

崇文門外花兒市の東南に在り。山門に額して臥佛寺の三字を刻す。明代の創建にして清朝乾隆年間重修せられしものなり。後殿に安置せらる、本尊佛は臥像にして、顔を西に、脚を東にし、肘を曲げて枕す。臥榻下の塑像亦精妙なり。

法源寺

外城宣武門外爛麵胡同に在り。唐代創建の古刹、所謂憫忠寺にして、太宗征遼の際陣歿將士の英靈を吊



北京附近圖

尺 卽 支
0 10 20 里

はむ爲に建つる所、爾來宋、明、清各朝の重修を経たり。所藏什物中には遼代の遺物竝に爾後各朝勅建の碑石等多く、又境内には牡丹花の勝あり。宋末の名臣謝枋得（文章軌範の撰者）元主の召を却けて捕へらるゝや此處に幽閉せられ、自ら食を斷て致死せりと云ふ。

法塔寺 (L 10) 崇文門外東南約二哩の地に在り。金朝創建の巨刹にして本名は法藏寺と稱す。境内に塔あり高さ約百尺、石座磚身八面七級より成り、毎級各面に窓を開き、各窓内佛像一個宛を安置せり。之に塔門の正面及塔頂の各一佛を合すれば五十八體を算す。此塔亦盤梯登臨の勝あり。

城外諸勝

城外近郊諸勝の遊覽地は概ね先づ阜成門外より始めて、其の順路を南、東、北に進め漸次城邊を一周して西直門方面に終るが如く排列したり——但し次項中「日壇」の記事は第二〇九頁東嶽廟の前に入るべき管の處記述の便宜上此に併記せり。

月壇及日壇

前記天壇と地壇とが南北相對するが如く日月兩壇亦北京城外に在りて東西相對す。即ち日壇 (N 6) は朝陽門外に、月壇 (C 5) は阜成門外の西郊に在り。壇の形

狀は各方形にして前者は西に向ひ正面に三門、その他の各面に一門、後者は東面して三門を有し、他の三面には各一門を有す。今や孰れも荒廢甚だしきも、その境内の幽邃閑雅なる亦以て遊觀の價値なしとせず。

倒影寺

阜成門外十町餘に在り。本來の寺號は慈慧寺なり。明太監が施茶の爲に創建せし所、後乾隆年間山門の勅修ありて、高宗御書「妙三明地」の賜額を掲ぐ。境内に蜘蛛塔碑、賜勅藏經碑等あり。寺殿の後門に一奇隙ありて光を容れ、物之に映すれば必ず倒影す。乃ち此の俗稱ある以所なり。

白雲觀

(B 8) 西便門外に在り。元朝太極宮の故址にして道教の本山たり。殿堂宏壯、假山花卉の景趣に富み、内外縉紳の馬車を驅りて清遊を試むるもの尠からず、實に近京の勝區なり。その眞寂堂中に奉安せる開祖邱眞人の塑像二體中、大なるものは雙瞳漆を點し、精彩生けるが如し。像前に木屨を以て刳造せる木鉢あり、上方廣く、下方狭く水五斗を入るに足るべく、内部は金を以て塗り外部には御製の詩を刻せり。毎年陰曆正月一日より十九日の間開廟し、之を

識邱會と名けて男女の賽するもの夥しく、その沿道にあたる

琉璃廠附近は屋臺店軒を並べ喧噪を極む。

天寧寺

(B 8) 廣安門外に在りて、前記白雲觀を距る遠からず。隋代の建立に係り、宏業寺と稱せり。今や寺閣は廢頽に委せらるゝも、境内の十三層塔 (高二七五尺) は當時の建築手法を味ふべき優秀のものにして、實に北京郊外の一美觀

なり。毎年陰曆九月九日滿都の士人來て登臨する者多し。

南苑

永定門外約七哩に在り。春蒐冬狩兼ねて民情を講ずるの意を以て設けられし處、即ち他の園圃と異なり地域廣潤にして宮殿少し。傳に據れば明代に於ける此園の周垣百二十清里 (約四哩)、清朝の初に及び綠垣二萬九千八十丈 (約五

五) 九門を設く。大紅門内に更衣殿、小紅門内の西南に行宮あり。南紅門内に南行宮、鎮國寺門内に新衙門、黃村門内に團河行宮あり。又苑中に南海あり、その岸に瞭鷹臺ありしと稱せらるゝ、其の盛時の結構偉大なりしこと今尙ほ想見すべきなり。

東嶽廟

(N 5) 朝陽門外大街路北に在り。南宋の時に創設せられ、元代の重建に係ると云ふ。廟前の大牌樓頗る精巧にして、境内廟宇の結構亦善美を極めたり。廟内七十

二司の塑像は名匠劉蘭、劉鑾の作にして手法精妙なり。又東廡下の道教碑は宋代の能筆趙孟頫(子昂)の書なり。廟の左右にも幾多の殿閣あり、就中菩薩殿内の紙幅菩薩像は唐の吳道子の畫く所なりと傳ふ。廟會は毎年陰曆三月十五日以後の二週間とし來賽者頗る多し。

鐵塔寺 テエターヌー トスチン 東直門外東行五町餘にあり。周圍環牆を以て圓城の如き一廓を成し、廓内半空に一基の鐵塔聳ゆるに因り此の名あり。堂内古來此處に座化せしものと傳ふる一胡頭陀ホウトト(寶頭臚の類)を安置す、後人或は以て明の建文太子の遺像と爲せども固より採るに足らず。

地壇 テイタン (K1) 安定門外に在り。一名方澤壇と言ふ。方形にして地に象り土を穿ちて澤となし、又二段の方丘を作り、黄色の琉璃瓦を用ひたり。その構造は大體天壇と相似たるもの規模は彼の大に及ばざること遠し。

黃寺 ホアヌー 安定門外大街の西北に在り。喇嘛の駐錫道場にして其の本坊は東西二寺に分る。トスホアヌー 東黃寺は舊稱普靜禪林の謂にして境内東邊を占め、シホアヌー 西黃寺は其の西隣に在り。其の堂宇孰れも黄色の琉璃瓦を以て覆はるゝに因り此の名あり。蓋し清の世

祖(順治帝)以來西域懷柔の一方便として敕建せし所、境内規模廣大にして老柏鬱蒼たり。東黃寺内には康熙帝御筆の碑記及雍正帝の重修碑等あり。又西黃寺内には乾隆帝の敕建に係る大理石造の白塔あり、西僧班禪額爾德尼の德を頌する爲なりと云ふ。

黑寺 ヘイスー トーシヨヌメン 德勝門外約一哩の地に在る慈度寺の俗名にして、殿宇は覆ふに紺碧の琉璃瓦を以てせり。毎年陰曆正月二十三日跳舞佈札の舉行あり。俗に之を演鬼と稱す。寺側の演兵場には此日跑車競馬の演技あり。

大鐘寺 タイチオヌー 本名を覺生寺と稱し、德勝門外西北部に在り。西直門より萬壽山に至る途上に近きを以て、同地觀光の序に觀るも可なり。寺後の一樓内には明朝永樂年間(西紀一四〇三—二四年)の鑄造に係る大鐘懸れるを以て俗に之を大鐘寺と稱す。鐘の高さ約十五尺、口径約十四尺、重量八萬七千斤即ち約五二噸ありと云ふ。

農事試驗場 (B2) 入場料は大人十六仙、小兒半額、開場時間は午前七時乃至午後六時とす。西直門外西方約一哩の地に在り。二貝子花園(一名樂善園)の舊址にして、

車行又は舟行の便あり。場内東方に萬性園あり、珍禽奇獸を搜集して遺すなく、西すれば温室ありて内外各種の草花を培養せり。此の外場内各所に種々なる植物を區分排植す。又建築物としては行宮の設備あり、西洋式樓房あり、日本式亭榭あり、又喫茶店には翹風堂、觀稼軒、卍字樓等あり。その他内外各種の飲食店等備はらざるなく、遊目騁懷實に北京第一の遊歩地たり。園内又塘池あり夏季の舟遊に興趣あり。

五塔寺 ウイターヌー (A2) 西直門外に在り。寺號を大正覺寺と呼び、明朝永樂年間の創建に係る。今や寺門殿宇皆荒廢して殆ど見るに堪へずと雖、堂の背後に五座金剛寶座の巋然として存せるあり。黄緑の琉璃瓦を以て約五十六尺の高臺を築き、臺上に均しく梵字を篆刻せる五座の寶塔を列せり。因て五塔寺の名あり。

萬壽寺 ワンシヨウヌー 西直門外約三哩、廣源園の西南水流に面する一刹にして、明朝萬曆五年の創建に係り、年處久しきを経るも清朝に至り重修三次に及び今尙廟宇煥然たり。

* * * * *



(頁二一) 宮 離 山 壽 萬

萬壽山

附 玉泉山

一名頤和園と稱し、從來禁苑として一般人の觀覽を許さざりしも、民國三年五月以降玉泉山と共に之を開放して公衆の觀覽に供するに至れり。【遊覽券】は大人大洋一弗二〇仙、小兒半額、軍人及軍屬は大洋六〇仙とし、その他園内更に蟠雲殿（大洋五〇仙）、南湖（大洋三〇仙）、諧趣園（大洋二〇仙）、玉泉山（大洋五〇仙）は觀覽料を要す。但し既記以外は假令金錢を要求するも與ふるの要なし。

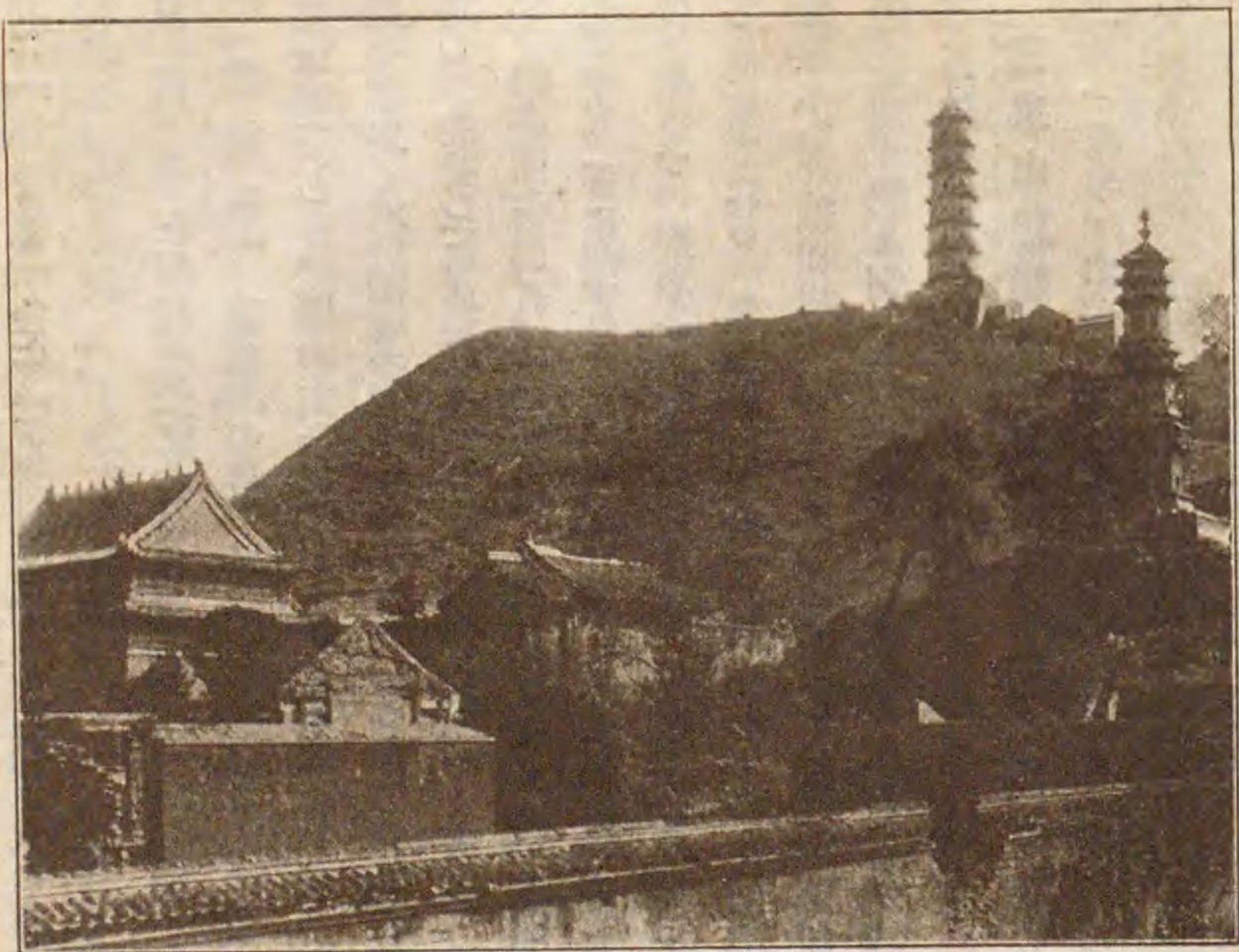
沿途概観

北京より頤和園に至る道路は坦々砥の如く約十一哩を算し、此間馬車、自動車を馳するに便なり。北京より自動車賃片道六弗、約二時間にして達すべし。乃ち車上の人となつて西直門を出て右折西行すれば、已に郷關の風色掬すべきものあり、胸襟爲に自から爽快を覺ゆ。疾走時餘にして聽て藍精廠に達す。此地は戸數約三百、殷富の一小市街にして、萬壽山及玉泉山遊覽者の休憩に便なる處、支那料理店等あり。藍精廠を過ぐれば遙に紅牆迤々たるを望見すべし。是れ即ち有名な圓明園の遺址にして、今は禁衛軍營房あり。それより數十歩の處更に崇峻峻宇の雲表に聳立して、煌輝掩映す

るものは萬壽山なり。

萬壽山 乾隆以來の離宮所在地にして曩に英佛聯合軍の侵入に際し多大の損害を蒙り、其の慘狀轉々痛惜に禁へざるものありしが、其の後西太后垂簾の當時大に修築の工を起し或は池塘を浚渫して清流を通じ、或は山腹を削りて徑路を穿ち、或は樓閣を起し亭榭を設け、或は木石を移し花卉を植うる等孜孜經營の結果、山上輪奐の美を盡したる樓閣殿堂は彫欄畫廊一高一低參差として、或は丘に倚り或は溪を踰え倒影水に映じて池中更に樓閣を見るの偉觀を呈す。改修の工成りて壯觀舊に復し結構更に前代を凌駕せんとするに及び、乃ち頤和園と命名せらる。

先づ宮門に至れば照壁前に一牌樓あり、構築壯麗を極め傍に銅獅二個あり。入觀券を購うて北旁門を入れば園中の人先導をなし説明に任すべし。但し客若し支那語又は英語を解せざるべきは通譯を要すべし。門内數十歩にして再び一門を潛れば【仁壽殿】に至る。殿は西太后垂簾聽政の處にして、九楹、雕梁畫棟に成り、宏壯艷麗を極む。殿前亦銅龍、銅鳳各一對あり。既にして仁壽殿を過ぎ南折すれば【昆明湖】なり。



玉泉山靜明園

湖は周圍約十哩清冽なる水を漾へ、乾隆帝の命名する所なりと。湖の東岸に【玉欄堂】あり、清の徳宗の居殿たらし處。更に北岸に【樂壽堂】あり、西太后駐蹕の地にして額に「丹樓映日」の句あり、階下に白玉の日圭、銅鶴、銅鹿等あり。それよの金魚池を過ぐれば養雲軒あり、門前石坊内には乾隆帝の御書を鑄む。樂壽堂西方に長廊あり、大理石造【石舫】に直達す。石舫は二百八十餘楹を有し、西太后時代には行幸の際毎楹燈を掲げしと、廊中扁額甚だ多し。西すれば【中雲殿】あり、門宇煥然、階上奇石十二種を置く。附近に【蟠雲殿】及【十丈亭】あり、更に西すれば【清晏舫】に至る。即ち謂ふ所の石舫にして湖中に在り、周圍大理石を以て船形に築造し舫中樓あり、樓上の遠望は園中の全景を双眸に蒐む。石舫を去つて北行すれば西太后習字の場所たる【延清堂樓】あり、更にその北に一城樓を見る、名けて宿雲簷と稱す。此處より東方に山路通じて山坡に亭あり、殿あり、石坊あり、名づけて【畫中游石坊】と云ひ乾隆御筆の坊額あり。坊は西方に玉泉山を望み南に昆明湖を俯瞰し、北は山麓を展望し東都城に對す。山路を辿り山頂に出づれば

前に【佛香閣】、後に【智慧海】、【萬佛殿】あり、皆周圍に琉璃製の佛像を置く。山頂を東に降れば山下に【琉璃塔】あり、塔上覆ふに銅鐘を以てし古色蒼然たり。

【諧趣園】 琉璃塔の東方に在り、西太后茶餘酒後の逍遙地たりし處、園中山あり水あり、或は曲廊幽亭あり、以て釣を垂るべく或は濤聲を聞くに適す。若しそれ澗流峽谷と相纏絡し、曲折して蓮塘に入るが如き風致の幽雅殆ど名狀すべからず。諧趣園を出れば一樓を過ぐ、門額に「赤城霞起」の四字を題せり。更に南すれば【徳和園】にして前面斜に仁壽殿の北側と相對す。園中一戲臺あり規模極めて宏壯、建築の技巧亦他に傑出せり。臺の正面なるを【頤樂園】と稱し、殿内亦扁額多し。徳和門を出で、仁壽殿に歸著し、更に十七空橋を渡れば龍王廟及銅牛等を見るべく、或は又南海に一遊を試むるなど幽趣盡くるを知らず。

玉泉山靜明園 (觀覽料大洋五〇仙)。萬壽山の西方約一哩半、山頂に高塔聳立し山麓に森々たる綠林を見るもの即是れなり。金朝の行宮芙蓉殿の遺址にして、爾後元明二朝を經、清の康熙年間更に離宮を設けて、初め澄心園の名

あり、後今の靜明園と改めらる。

門内右折すれば正面に勤政殿あり、臨幸の際政を聽かれし處、更に柏樹の間青苔を踏みて幽雅なる石徑を進めば裂帛湖畔に出づ。湖を左に望み、玉峯塔を右に仰ぎて行けば龍王廟あり、石階を降れば清泉の岩罅より噴出する處、岸頭に「天下第一泉」の五字を刻せるを見る。其の水清冽にして掬すべく、東流して萬壽山昆明湖に入り、更に北京十利海より宮城太液池に注ぎ運河となり通州を経て白河に入ると云ふ。又南に觀音洞、清以禪窟、呂祖廟あり。廟の西北面は西山一帶の連巒を目睫の間に望み、南面は北京城外の郊野を一眸に收めて眼下に昆明湖の幽景を窺ふ等風光絶佳なり。廟後には呂公洞あり、洞上華藏海と稱する石造七級の塔立ち佛像の彫刻巧緻を極む。更に頂上に達すれば亦七級の磚塔あり、玉峯塔影と言ふ。その北に麗囑軒、妙高塔等あり。

西山の勝

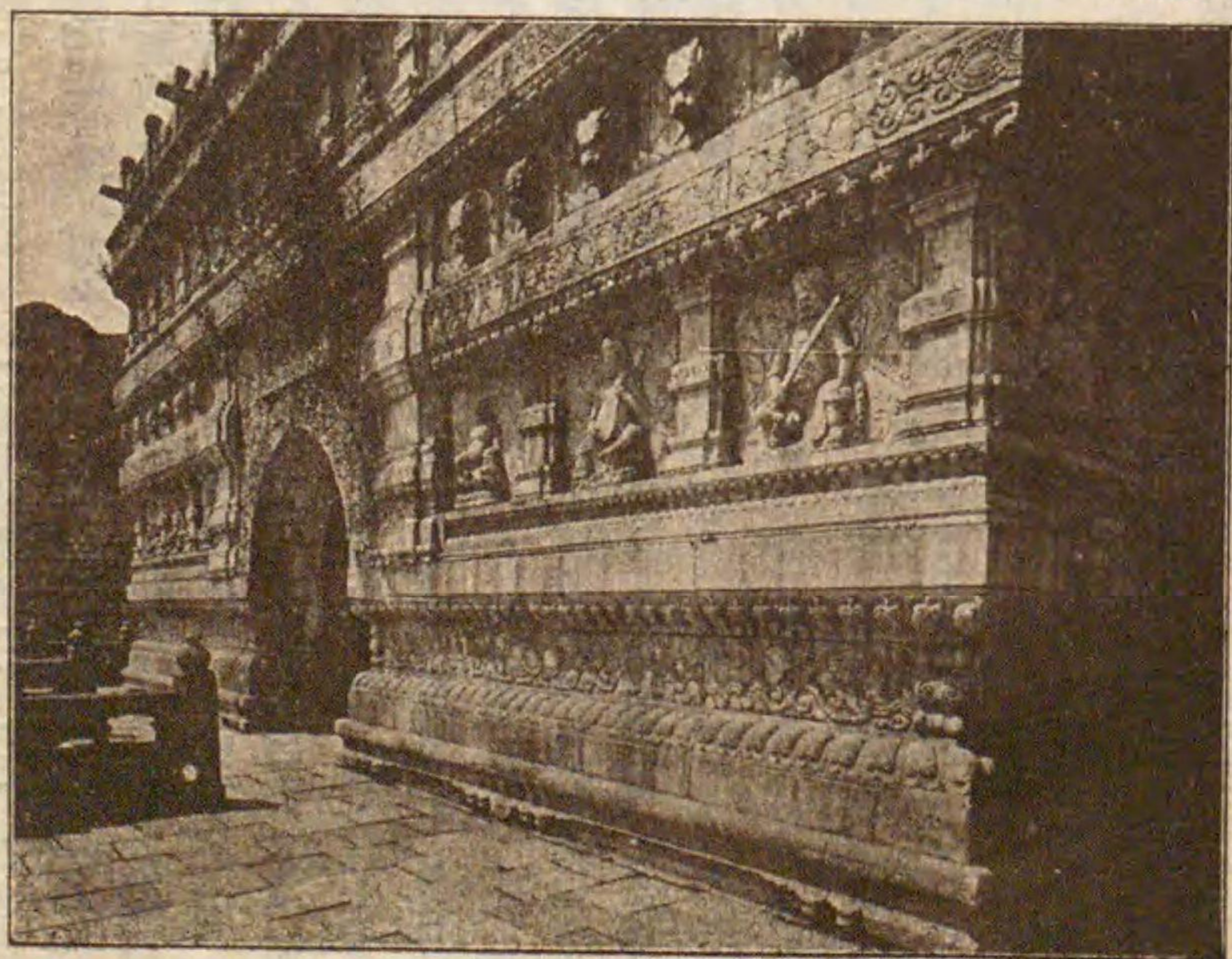
北京の西郊一帶、連巒疊嶂の迤々環繞する處、是を西山と總稱す。萬壽山、玉泉山と共に北京近郊の勝區として著はれ、山中寺觀の見るべきもの夥からずして、避暑遊覽の好適地なり。【順路】 京綏鐵路西直

門車站より京門支線の列車(毎日三回)に頼り、黃村(西直門より約八哩、夏季探勝客の爲に臨時開站す)又は三家店(同上約十四哩、賃金一等一弗二〇仙、二等八〇仙)に下車するを可とす。

八大寺 黃村站の西北1/3哩に平陂山あり、覺山、盧師山其の側背に鼎峙し、翠巒雲翳を破るの處、山門寺塔の其の間を點綴するもの凡て八あり。即ち長安、證果、靈光、香界、三山、大悲、龍泉の各寺に寶珠洞を加へて所謂八大寺の稱を得たり。此等寺院の多くは明代の創建に係り、康熙乾隆年間の重修を經たるものにして、寶珠洞其の最高所を占め、長安寺は最低所に在り。各々山勢に依て均しく形勝の地を領せり。都人士一日の清遊を試むるに宜しく、又近時外客の避暑山莊を營む者多しと云ふ。

香山 黃村站の北約二哩に在り。山中の靜宜園最も風致に富み、有名なる瑛珞巖(鐘乳石の類)は時に雲霧を嘘くの奇象を呈すと。山西に金代の古刹甘露寺あり。林壑錯綜の幽境に在りて、殿堂樓閣の樹間に隱顯する様雅趣云ふべからず。

碧雲寺 香山の東麓に在り。寺域は元代に創開せられ、明



碧雲寺金剛寶塔

の正徳、天啓中(西紀一五〇六年乃至一六二七年)追次重修を経たるもの、規模雄大にして殿宇漸く頽廢の状あれども、結構輪奐の美尙當時の倂を偲ぶに足る。寺中羅漢堂内五百羅漢の塑像は體容、手法の見るべきもの尠からず。本堂の後方には大理石造の五座金剛寶塔あり。乾隆十三年(西紀一七四八年)西藏僧の印度須彌山より齋せらるる模型に倣ひて建造せられしもの、見上ぐる高臺は總て大理石の巨材より成り、其の四側壁間は種々の文様、天部人像、獅子頭等を以て巧みに彫飾せられ、背面の大龕内には黒玉の佛像を安置せるなど實に秀麗壯嚴を極む。正面の下部中央に穹窿狀の入口あり。是より階段を登れば五座寶塔の下に至るべく、上には乾隆帝の震筆「現舍利光」の篆額あり。臺上の展望頗る廣く、玉泉山、昆明湖さては香山の絶勝等皆一瞬に收まる。

湯山温泉

北京(安定門)を距る北方約十五哩、昌平州管内に在り、北京と十三陵所在地(第二二〇頁参照)との中間に位す。茫茫たる平野の中に二の岩山あり、一を大湯山他を小湯山と

稱す。前者は標高約二百尺周圍約二哩にして、山頂及山腹に觀音堂、娘々廟、普泉廟、西大歡廟等の廟宇點在し、戸數約二百の一部落を爲す。後者は高さ僅に三十尺餘周圍約半哩、山頂に佛爺廟、北麓に老爺廟、東南に關帝廟、東に龍王廟等ありて戸數約一百を算す。湯山とは實に此二部落を合稱せるものにして、隨所に温泉湧出し、土人の之を引きて浴槽を設け旅館を兼營するものあり、浴客の來遊多し。支那人は多く土人經營の客棧に入り、外人は關帝廟に滞在して小湯山行宮内の温泉に浴することを默許せらる。地は四面稻田を以て圍繞せられ、夏秋の候此處に遊べは嘉禾秋穫の雅趣亦掬すべきものあり。

*【小湯山行宮】清の世宗雍正帝の創設に係り、行宮内に左の諸設備あり。「漱瓊」の額を掲げたるは浴室にして「澡雪心神」と題したるは浴後の休憩所なり。飛鳳亭は八角形の亭榭にして、其の頂に飛鳳の置物ありしも亭の廢頽に因り今は倉庫内に收容せらる。開襟樓は演劇を天覽に供せし處、又滙澤閣には龍王を祭る。温泉井は大理石を以て築かれたる二個の大湯池にして、行宮廣庭の左右に並列せらる。左方の湯池は周圍約六十四尺の長方八角形にして、深約三十尺温度沐浴に適し游泳亦可なり。右方なるは周圍約百五十尺、深約三十尺、温度頗る高く沐浴に堪へず。又外人等の入浴するは前記大湯池の傍なる小

湯池にして、自由に冷水を調和するの設備あり。以上の外北京の北郊には明朝十三陵、居庸關、八達嶺等遊覽の價値あるもの尠からざれども、此等は孰れも京綏鐵路沿線(第二一九頁以下参照)の條下に記述したれば、就て参照せらるべし。

京通支線

北京正陽門車站より通州に至る延長一五哩三の支線にして、毎日三回の旅客列車あり。汽車行程約五十分、賃金一等九〇仙、二等五五仙。但し此の區間列車は豐臺を起點とし、永定門及通州岔道の二車站を経て一旦正陽門車站に入り、更に通州岔道に引返して通州に向ふを例とすれど、北京よりの旅客は正陽門若は通州岔道より乗行して可なり。

沿途概観 汽車北京正陽門(俗稱前門)車站を發し通州岔道站(一哩八)に至る迄は北京内城の城根に沿うて走り、

左窓高く北京城の角櫓を仰視すべし。更に進むと少時外城の東廓を出づれば前途に一望千里の耕野連なり、左窓に大運河(一名通糧河)及通州大路あり。園圃村落の間に白帆又は行客車馬の去來隱顯する様景趣掬すべきものあり。聽て

雙橋 Shuang-chiao (九哩二) 及寶通寺 Pao-tung-szu (一三哩七)の二站を過ぎ通州に達す。

通州 Tung-chow (一五哩三正陽門車站よりなり) 通州と北京朝陽

門との間には坦々砥の如き良道(幅三十尺の鋪石道)通じ、一方又大運河の水運を擁し白河を介して天津にも通航の便あるを以て、往時の通州は中部支那方面の貢糧中樞所として北京の咽喉を扼する要衝たりしも、近時鐵道開通の結果形勢一變して其地位を失ひ、更に北清事變の際兵燹に罹り今尙舊態に復せざるものあり。【城市】明初の創建に係り、更に清朝の増築せる處なるも城垣今や廢頽を極め、滿目荒寥たるものあり。城垣には通運、朝天、迎薰、凝翠の四門あり。各門に通ずる十字街頭に立てる鼓樓の殘影は往時の繁榮を語るに足る。【燃燈舍利佛塔】凝翠門内に在り。塔は十三級より成り、その下部に蓮華臺あり。後周宇文氏の創建にして、康熙三十年僧照感の重修に係ると。

【八里橋】通州の東北約三哩に在る石橋にして、幅約四十八尺長百九十尺、冠するに長橋映月の勝を以てし、前記舍利佛塔等と共に通州八景の尤なるものと誇稱す。

西陵支線 (新易支路)

京漢鐵路幹線の一車站たる高碑店 (從北京五十二哩二) より分岐し、來水 Tai-sui (六十二哩一)、易州 Y-chow (七十三哩二) の二站を連ねて梁格莊 Liang-ko-chuang (七十九哩) に至る延長二六哩七の支線にして、當初は西陵參詣の爲清朝帝室専用の鐵道なりしも、西紀一九〇六年鐵路總局の所管に移り、爾來京漢鐵路の支線として一般公衆の乗用に供せらる。毎日一往復の列車便あり、片道約二時間、賃金一等一弗五〇仙、二等一弗とす。

【西陵參拜路】 北京より西陵に至るには北京前門車站より京漢鐵路本線に頼り、高碑店車站 (第二三頁參照) にて西陵支線列車に移乗し、その極端驛梁格莊車站 (北京より約五時間、賃金一等四弗五〇仙、二等三弗) に下車し、それより溪山の幽景を探りつゝ驢背 (約一時間、賃金約五〇仙) 又は轎車 (賃金一弗位) にて達すべし。

西陵 直隸省易州の西約十哩、梁格莊車站より約八哩、山紫水明の勝地太平峪一名永寧山に在り。清朝東西二陵の一にして四區に分たる。即ち世宗 (雍正帝) の泰陵、仁宗 (嘉慶帝) の昌陵、宣宗 (道光帝) の慕陵、德宗 (光緒帝) の崇陵とし、その他世宗皇妃の泰東陵、仁宗皇后の昌西陵、宣宗皇后の慕東陵亦此處に在り。更に妃嬪の墳塋に至ては其

數頗る多し。陵域の地は山を襟とし野を帶とし、蔚蒼たる樹林、幽邃なる石徑、潺々たる溪流等正に仙境に在るの感を起さむ。附近に未だ完全なる旅館の設備なきも支那客棧ありて宿泊に便す。宿泊料は食費共一弗五〇仙位なり。

【西陵の沿革】 西陵は前清世宗の陵寢を此地に設けられたるを以て起原とす。即ち西紀一七三〇年雍正帝は怡親王及兩江總督高其倬の二人に勅して、京師の西南山中に萬年の吉地を下する事を命ず。此に於て兩人は欽命を奉じて實地踏査を爲し、易州の西三十清里なる太平峪を撰して之を奏す。帝直に其議を納れて同年八月慕陵造營の工を此に起せり。續いて高宗 (乾隆帝) 即位後恒例に依り陵地を定むるに當りて、朕亦陵寢を西陵に撰ば、朕の子孫代々朕と地を同うして墓陵を定め、東陵なる孝陵、景陵等先皇の墓陵を閉却し祖先敬慕の念を失ふの虞ありとなし、特に己が陵寢を東陵に撰び、且子孫に對し一代交代に東陵又は西陵に墓陵を置くべきを命じたりと。

* * * * *

路 22 北京大同府間 (京綏線)

本鐵路は京張及張綏延長線の稱ある支那官營鐵道にして、目下既成の線路は北京 (豐臺車站) より張家口及大同府を経て豐鎮に至る本線 (二六哩) 及西直門車站より城の北東邊を経て正陽門に至る所謂環城枝路 (九哩) 並に西直門よの西方郊外門頭溝に至る所謂京門枝路 (一六哩) とす。

【列車便】 本線 (豐臺、豐鎮間) 北京大同府間急行列車毎週二回 (二三八哩、所要時間十二時間二十分、賃金一等八弗六〇仙、二等二弗四〇仙) あり。その他豐臺張家口間直通列車毎日一回、豐臺康莊間及西直門康莊間、康莊張家口間及張家口豐鎮間各一回等の區間列車便あり。

【沿革】 本鐵道はもと京張、張綏二路の起業を合同せしものにして就中京張鐵路は支那に於ける純官辦鐵路の嚆矢として知らる。即ち由來支那に於ける鐵道は其の資本及經營上外人の協力に俟つもの多きを例とするも、此鐵道のみは當初より全然支那の獨力經營を以て起り、一九〇五年八月以來約四ヶ年にして完成し、工費約八、八二八、〇〇〇兩を要せりと言ふ。張綏鐵路は所謂蒙古橫斷線の一部に屬し、將來內蒙古庫倫に達せしむべき希望の下に先づ張家口、綏遠間 (約二七六哩) を敷設する計畫にて、一九一〇年九月起工後最近大同府を経て豐鎮迄竣工開通を見るに至れるなり。

本線沿道は北支那乃至蒙古界に通ずる要路に衝るところとて、凡百の風物悉く特殊の色調を帯ぶるが上に、京郊を距る甚だ遠からざる範圍内に明朝十三陵、居庸關の故址、八達嶺、內長城等の如き觀光の適地亦尠からず

西直門車站 Hsi-chih-men (九哩、豐臺車站より也) 北京内城の西北隅なる同名の門外に在り。本線南端主要驛にして、是より南の方廣安門車站を経て豐臺に至る線路は京奉京漢二線との連絡貨客、又は沿途地方住民の交通に資せらるものなり。隨て本線運行列車は凡て豐臺を以て始發 (又は終著) 地點とすれども、北京城内よりする乗降客は當車站に就くを便とす。

清河鎮 Ching-ho-chen (六哩、從西直門也) 戶數約百の小市鎮にして一條の溪流に沿ふ。清河と稱せられ萬壽山の西方玉泉山の清泉を水源とし、架するに石橋を以てせり。該石橋は明の永樂年間此地が十三陵の通路に當るの故を以て特に架設せられしものにして、建築の壯麗今尙ほ人目を驚かすに足るものあり。

沙河鎮 Sha-ho-chen (一哩) 戶數約二百、安濟

京綏線

朝宗の二橋あり、市街は此等二橋の中間に位置せり。此地には明代の行在所あり、古來十三陵に行幸ある毎に此處に駐蹕せられし處、西紀一五四〇年の重修に係る行宮は方約十町の周圍に四門を穿てる鞏華城の中央に在りしも、今や纔にその舊址を存するのみなり。

【北京南口間】 北京より南口に至る沿途は所謂直隸大平野の極北部にして、春夏季には楊柳、檜槐等の綠陰水村、里路の間に點綴するを見るへし。沙河鎮以北に及んで地勢漸く緩斜を呈し、其の東北約七哩を距て、湯山(第二一六頁參照)を遠望すべく、行くこと少時線路右側に昌平州城(昌平縣 Chang-ping-hsien 一九哩)を望見すれば間もなく南口に達すべし。

南口 Nan-kou (三哩三、約二時間半、旅館—南口ホテル 宿泊料五弗) 八達嶺山脈の南麓に位し、本線中張家口に亞ぐべき要站にして、附近穀物果實等の産出多く殊に柿實は其の名高し。又古來「居庸」三關の一として著名なる史蹟を有す。明朝十三陵、湯山温泉場若は内長城等の觀光客は概して一旦此處に下車するを便とす。

【南口城】 は城壁高からずと雖北は山に據り、南は溪谷に臨める要害の地たり。山腹各所に狼煙墩と呼はるゝ烽火臺點在し、宛ながら往時の陣形を語るが如し。一帶の山地樹木に乏しきも溪水潺々として氣清く山靜なり。

明十三陵

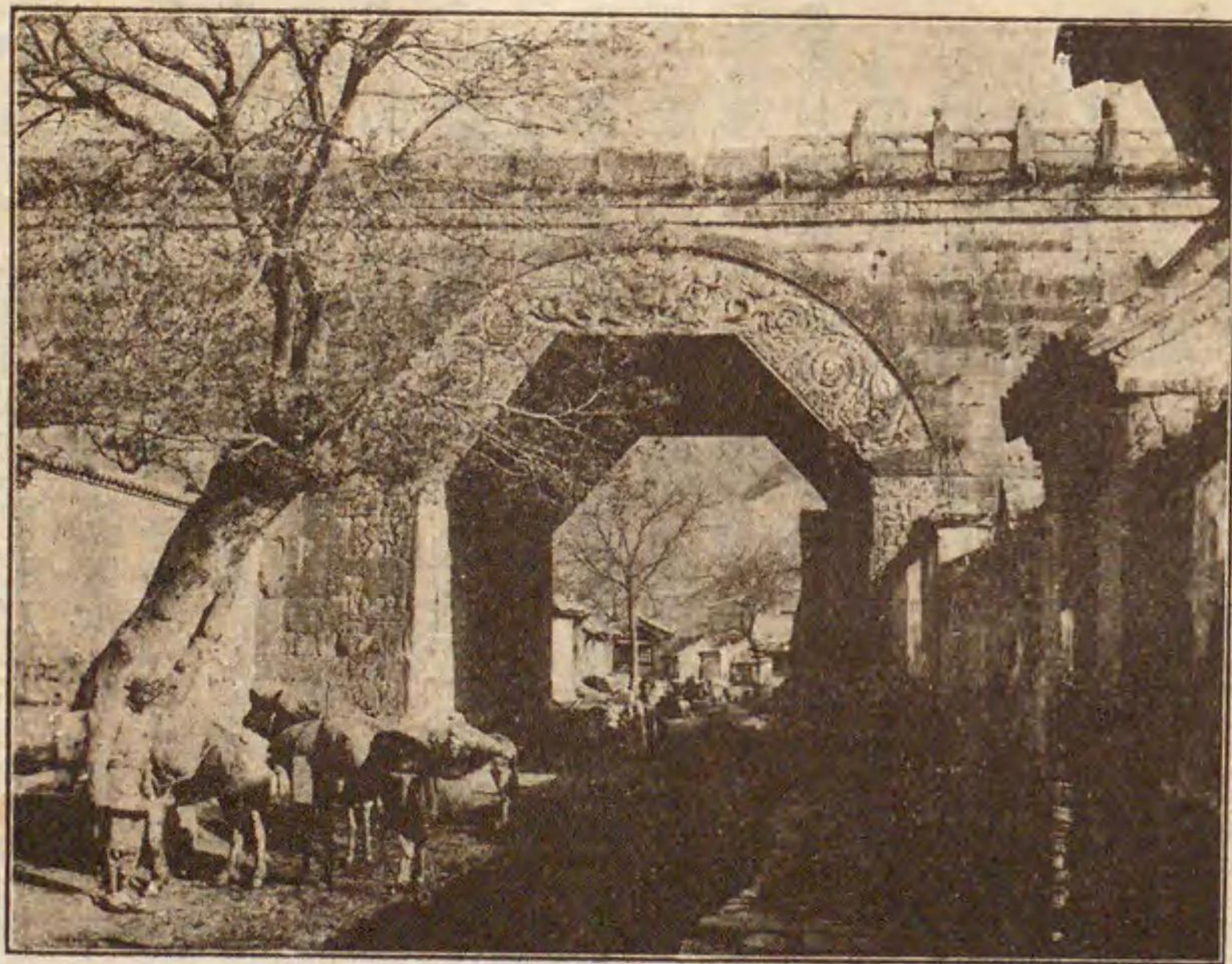
【通路】 (1)南口より十三陵まで、山路直往約八哩、昌平州經由約一哩、往復約七時間を要す。此間騎驢(賃、一弗乃至一弗半)、轎子(賃、四弗乃至五弗)等の便あり、孰れもホテル或は車站前にて雇用するを得べし。(2)北京德勝門より清河、沙河鎮及昌平縣を経て十三陵迄約二六哩は從來北京よりの參陵道として知られし處、昌平縣までは車路にして轎車又は馬車を通すべし。(3)北京安定門より湯山(約一六哩)及昌平縣城東(約二五哩)を経て十三陵まで約三十哩。但し此の道は主として途中湯山温泉に立寄る旅客の利用に限らるべし。以上(2)及(3)路とも夫々別様の趣味あるべきも往返孰れか片道は(1)路を採るもの多し。

陵域概観 十三陵とは明朝第三世永樂帝以下第十七世壯烈帝に至る十三皇山陵の謂にして、昌平縣城の北郊約五哩の地に在り。先づ陵域入口に至れば精巧なる彫刻を施せる大理石造の大碑樓あり。之を潛りて約2/3哩を進めば大紅門に



明 十 三 陵 の 石 人

達す。門外兩側に石碑あり、「官員人等至此下馬」と刻せり。更に進むこと約1/3哩の處に「大明長陵神功聖德碑」と題せる碑亭あり、是れ第四世仁宗帝御製にして、碑の裏面には清朝乾隆帝の御製に係る哀明陵三十韻の詩を刻せり。更に2/3哩前方に櫺星門あり、俗に龍鳳門と稱し門前に十二の石人あり、即ち四勳臣、四文臣、四武臣是れなり。別に石獸二十四個、即ち馬、麒麟、象、囊駝、獅子等各二對宛ありて、一對は立ち一對は蹲まり。昌平山水記に曰く「明の宣德十年(西紀一四三五年)四月長陵及獻陵を修むるの時に初めて石人、石獸を置く」と、又曰く「大紅門内蒼松翠柏無數數十萬本」とあり。憶ふに石人、石獸は當時綠陰風靜なる地上に眠りしならむも、今や株を去り根を抜きてその附近一樹を存せず、空しく草野の間天日に曝露しつゝあり。此附近よりは前方遙に天山一帯の山脈を背景とせる松林の間に隱顯する各陵の黃瓦朱壁門樓等の參差たるを望むべし。行々路上墜落のまゝに委せられたる大理石橋材の隨處に散在せるを見ては、其の曾て松柏鬱茂たりし陵道の如何に森嚴なりしかを追想するに餘あり。一直長陵の陵門に至りて仰視すれば、その建築宏壯雄大



居庸關過街塔

家約百戸、税關あり。關城と稱する圓形の堡壘は山脚相迫り纔に一條の溪流を通ずる最狹地點に築かれ、左右の山頂に其の羽翼を延ばせり。又關城の中央には過街塔あり、南北の大路に臨み石を疊むで大道上に架し、車馬その下を通ず。高約三十尺、厚五十尺、土俗之を塔坐兒と呼ぶ。塔の内部兩側はに佛像及佛經を刻せり。居庸關を距る約三哩にして一小城あり、上關と稱し亦居庸關の三字を題せり。俗に居庸の三關と稱するは南口、居庸、上關を指すものなり。

【彈琴峽】居庸關を距る約六哩の地點に在り。山勢相迫りて一小峽を爲し、往昔清泉石罅に流れて彈琴の響を發せしと、因て此名あり。されど今や土砂石罅を填充して琴聲を聞くに由なく單に雅名を存するのみ。峽上斷崖の間に佛閣あり、規模小なれども頗る雅趣あり、旅客は之を車窓北側に認むべし。

青龍橋 Ching-ling-chieh (三哩) 八達嶺の東南面頂界外に接する車站にして、山峽の風光自ら別様の趣あり、殊に長城への觀光者は當車站に下車するを順路とす。又前記居庸關、彈琴峽等への探勝にも南口よりの攀登路に比し、此地より下降路を採るの容易なるに如かざるべし。

にして門内東側に神厨五間、西側に神庫五間あり。更に進めば又一門あり、題して稜恩門と言ふ。東西に神帛爐各一を見らる。次なるは稜思殿にして、北部支那に於ては稀に見る巨材を用ひ、建築頗る壯大なり。殿側は白石欄を以て之を繞らし、長陵中の最偉觀たり。殿後に出づれば白石房、白石臺等あり、尙進みて寶城に至れば是即ち御陵にして城下に隧道あり。之を登れば歩路東西に岐れて城上に達すべし。城上には一樓あり『長陵』と題し、内に大碑あり尺大の隸書にて『大明成祖文皇帝之陵』と刻せり。その他の各陵は皆長陵の四周に散在し、其構造等亦大同小異なるを以て之を省略し、左に陵名及其の位置を記すに止む。

各陵の位置 その十三陵は前記永樂帝の『長陵』を濫觴とし其の位置自ら全陵域の中央正面に在り。今長陵を中心として歴代の御陵を數ふれば次の如し。【獻陵】四世仁宗(洪熙)の陵、長陵の西北約1/3哩。【景陵】五世宣宗(宣德)、長陵の東北約1/2哩。【裕陵】六世英宗(正統)、獻陵の西約一哩。【茂陵】九世憲宗(成化)、裕陵の西約1/3哩。【泰陵】十世孝宗(弘治)、茂陵の西北約1/3哩。【康陵】十一世武宗

(正徳)、泰陵の西南約2/3哩。【永陵】十二世世宗(嘉靖)、長陵の東南約一哩。【昭陵】十三世穆宗(隆慶)、長陵の西南1/3哩。【定陵】十四世神宗(萬曆)、昭陵の北約1/3哩。【慶陵】十五世光宗(泰昌)、獻陵の西北1/2哩。【德陵】十六世熹宗(天啓)、定陵の東北1/3哩。【思陵】十七世懷宗(崇禎)、昭陵の西方。

【南口康莊間】所謂八達嶺山脈を横ぎる處にして南口峠の最高所は標高一、九〇〇尺と註せられ京張線中最峻峻の地たるを以て、隨て溪山の風光頗る雅趣に富む。即ち南口を出で、北進すること暫時にして、谿谷益相迫り逶迤曲折次第に山腹を攀登す。馳て居庸關、五橋頭、石佛寺等の隧道を潛りて青龍橋驛に達し、更に約五分時を要する最長の八達嶺隧道を通過すれば漸次稍下り勾配となりて康莊に達す。

居庸關 Chü-yung-kuan (三哩待避) 南口より北進すること約五哩にして、兩山屏立の間一峽道を通じ一夫路に當れば萬卒進む能はざるが如き險隘あり、是れ所謂『居庸關』にして、現今は張家口に通ずる要路に當り馬車の往來絡繹たり。人

【八達嶺】青龍橋車站の西約一哩に在り。山中蜿蜒たる城墻は下石上磚、殆ど北京城壁に一步を譲るのみ、その建築の雄大なる實に驚嘆に値す。乃ち八達嶺よの長城を望めば西方は重疊たる連山と共に遙に雲際に没し、東方は削れるが如き山勢を急下して深谷に落ち、更に急傾斜の山腹を一直線に走りて山頂に延互する等溪山の間に隠顯し、綿々として盡きざるの状寔に一大偉觀たり（長城の記事第一六九頁参照）。

康莊 Kang-chuang (四哩七) 車站附近に小旅店數軒あり、騾馬を雇ふの便あり。此地鐵道開通以前は一寒村に過ぎざりしも、今や八達嶺北麓の重要驛にして人口次第に稠密ならむとす。附近に奇泉寺(站北約十町)、大翻山(站北約九哩)、佛峪口(站北約七哩)等の名勝古蹟あり。

【康莊宣化府間】此區間は永定河孟の地にして、左右連山綿互の間廣きは十數哩、狭きも二三哩の幅員を有する高原延長三、四十哩に達し、其間懷來、沙城 Sha-cheng (六哩八)、新保安、下花園及辛莊子 Hsin-chuang-tzu (八哩)の五驛あり。就中懷來縣 Huai-lai-hsien (五哩八)は該高原の最廣部に位し、京綏線沿途大都邑の一

たり。縣城は周圍約七哩の廓壁を繞らし、東西南の三門を備ふ。人口約一萬を算し、葡萄の産を以て著る。新保安 Hsin-pao-an (七哩三)は人口約五千、站北約五哩の地に有名なる八寶山炭坑あり。下花園 Hsia-hua-yuan (八哩二)は人口約四千、附近に炭田ありて石炭の産に富む。

宣化府 Hsuan-hua-fu (九哩九) 宣化府高原の中央に位し、永定河に蒞む京張線沿途中第一の大都市にして、府城方形の牆垣を以て圍繞せられ廣大なる地積を包含す。人口約三萬と稱せらる。【旅館】には天元棧(食料自辨)、【飯莊】には朝陽樓、南樓、東樓等あり。その他主なる建築物には口北道尹公署、宣化縣知事公署、直隸第五路巡防統領辦公處、工務局、宣化中學校、宣化農業學校、省立第五師範學校、中國銀行支店、郵政局、電報局、教會堂、宣化商務總會等あり。此地の主要物産は外國輸出向の羊皮にして年産額大約一百万枚と稱せられ、土産の葡萄亦有名なり。宣化府より西北に折れ一望曠野千里の間を走り、沙嶺子 Sha-ling-tzu (10哩八)に至れば、再び左右の山脚相迫りて隘路を形成す、是を正北に進めば驪て張家口に達すべし。

沙嶺子は人口千餘の小邑なれどもその天主堂は沿線中の一異彩なり。

張家口 Chang-ai-kou (11哩)

【到着】北京西直門車站より約六時間にて達す。賃金は一等八弗七〇仙、二等五弗八〇仙とす。【車馬賃】馬車、自動車はなく、人力車も十臺内外に過ぎざるを以て市内外の交通は主に轎車に依る。賃金一時間二〇仙、半日六〇仙、一日一弗位なり。

旅館 金臺旅館、迎賓樓、廣仁棧、東華棧、新華棧等あり。以上孰れも宿泊料(二食付)上等一弗、中等五〇仙位(但菜代又は暖爐代等は別計算とす)。【飯莊】萬福春、福金館、泰平春、德亨樓あり。

市街概観 張家口市街は永定河に蒞み、長城外北微西の庫倫及西微北の綏遠に通ずる二大道路の關門に當り、北京以北に於ける唯一の商業市たり。市街の形状は東西に狭く、南北に長く上堡及下堡の二區に分たる。車站は市街の南端に在りて、市内樞要區と河を隔て、相對す。車站附近には鐵道關係の張綏總工程局を首めその他の工場、倉庫等あり、又西南に大同市場、東北に東安市場あり。車站より橋東大道

を経て通橋を渡り北行すれば左側に廓壁を繞らせる一廓あり、裡に中國銀行及交通銀行支店等あり。市街は尙ほ北方に長く延び官衙學校等點在せり。人口約六萬五千(其の内外國人四十餘名)と稱せらる。

官公署等 察哈爾都統衙門、察區交涉局、察區與和道公署、察區張北縣公署、財政廳、警察廳、張北縣監獄、郵政管理局、車駄捐局、張家口國稅徵收局、蒙古兵營等。【銀行】中國銀行、交通銀行、殖邊銀行、直隸銀行、晉勝銀行、察哈爾興業銀行。【郵便局】一等郵政局、電報局、無線電信所。【學校】鐵路學堂、中學校、師範學校、蒙古法官養成所。その他利業病院、電燈會社、戲園等あり。

商業 張家口に出入する貨物の主なるものは家畜、羊皮類等の輸出品及綿布、紙、鐵器、日用雜貨等の輸入品にして、殊に蒙古を経て露領西比利方面に再輸出せらる、南方製の磚茶及茶葉の年額は莫大なりと。

【張家口、大同府間】本區間約一二三哩の線路は所謂永定河の上流なる洋河の流域に沿うて走るものにして、張家

口以往は次第に上り勾配をなし聚樂堡に至りて最高地點に達す、此間萬全縣の南境なる孔家莊 Kung-chia-chuang (二六哩九)より郭磊莊 Kuo-lei-chuang (三三哩二)を経て柴溝堡 Chai-kou-pu (四五哩七)に出で、それより概ね南洋河 (洋河上流南枝)に沿ひ次第に西南に轉じ、西灣堡 Hsi-wan-pu (一五哩)、永嘉堡 Yung-chia-pu (一六哩八)、天鎮 Tien-chen (一五哩)、陽高縣 Yang-kaohsien (一九哩二)の各驛を連ぬ。陽高縣以往は線路俄に南折して洋河の流域を離れ山岳地帯に入り、聽て京綏線中の最高車站聚樂堡 Chü-lo-pu (標高三、九二八尺)に達し、更に西走すると暫時玉河大鐵橋(約一、八〇〇尺)を渡れば大同府なり。

大同府 Ta-tung-fu (三九哩三)

【到著】北京西直門車站より約十時間1/4を要し、北京より一週二回の急行列車ある外、張家口より毎日一回の直通旅客列車便あり。
 【輜車】一時間約二〇仙、一日大洋一弗二〇仙。
 旅館 高陞棧、東華棧(以上城外)、通順棧、慶華棧、泰安棧(以上城内)、宿泊料は各大洋五〇仙位にして副食物代は別とす。【飯莊】には濟南村、杏花村、久勝樓、第一樓等あり。

一樓等あり。

大同府概観 大同府は秦、漢時代以來陞北の重鎮として朔平府と併稱せられし處、南は恒山を望み、北は陰山を負ひて地勢自然に高く標高三、五〇〇尺に達す。府城は御河即ち桑乾河(永定河の上流二大支流の一)の右岸に瀕し、四方牆壁を繞らして殷賑なる街衢を形成せり。人口三萬と稱せられ、婦人の纏足最も小なるは此地方の特色なり。物産の主なるものは梨子、葡萄等の果實を首め羊、馬、駱駝、毛皮、石炭、綠礬、花斑石等とす。

官衙其の他 晋北鎮守使署、雁門道尹公署、大同縣知事公署、郵政局、電報局、中國銀行、交通銀行、晋勝銀行、裕豐銀行、山西省立師範學校、山西省立中學校、吉慶茶園、天桂茶園等。

【石佛寺】大同府車站の西方郊外七哩なる雲崗山一名武州寨に在り。支那古代美術の粹として本線遊覽客の見脱すべからざる名所たり。

【探勝路】大同府よりは一日行程にして、朝輜車を賃して大同を發すれば約四時間にして達すべく、同行者ある場合は半數は驢馬を雇ひ

輜車と交互に乘用せば最も妙なり。輜車は二人乗一臺往復二弗乃至二弗半、驢馬一頭一日六、七十仙。又晝食は大同府の旅館より人を派して調理せしむ。

石佛寺は北魏時代(西紀三八六—五三二年)の遺物にして、寺後には天然の岩石に彫刻を施せる大小無數の佛像あり、孰れも精妙巧緻を極めて稀有の偉觀を呈す。就中その最も大なるは高約七十尺の座像にして、像は四層樓殿堂の背後自然石の斷崖を抉りて造られたる龍洞の内部に刻まる。此外二十尺内外のもの數個あり。此等彫刻の手法は當時盛に輸入せられし印度西域式の影響を受けしものにして、河南府城外なる龍門の石佛と共に支那古代美術の鑑賞上極めて貴重なる代表的作物なりと言ふ。

【大同府豐鎮間】大同府以往は單に綏遠に向ふ豫定線中の既成部分たるに過ぎず。線路は大同府より正北に屈折し御河の流域に沿うて走り、途中弧山 Ku-shan (三七哩五)、堡子灣 Pu-tzu-wan (二四哩五)の二小驛を連ねて現在本線の終端豐鎮 Feng-chen (五三哩〇)に達す。綏遠は豐鎮の西微北約九十哩に在り。



雲崗大石佛



同窟の一都

途路 23 北京漢口間 (京漢鐵路沿線)

【京漢鐵路】支那官辦鐵路に屬する主要幹線の一にして、北京(前門車站)より漢口(玉帶門車站)まで一、二二三基米七七五三哩七を本線とし、其の間四、五の支線を分岐して、兩端双方より毎日左記の列車便あり。

【直行列車】北京(前門車站)より漢口(大智門車站)迄一、二〇八基米七七五〇哩六の間、毎日双方より各一回發車、全區間行程約三十三時間、各列車とも一、二、三等ボギー客車、二等寢臺車及食堂車等より成れるが上に、尙其の月、水、金曜日北京發のもの及日、水、金曜日漢口發のものには二等寢臺車の聯結あり。賃金一等四三弗五〇仙、寢臺料六弗、二等賃二九弗、同寢臺料四弗とす。又食堂車内の食事は毎時一定の献立に依るを例とし、朝食七五仙、晝食一弗、晚餐一弗半なり。

【區間列車】北京漢口間を順德府(二四二哩三)と鄭城(五一八哩二)とに依て一京順、順鄭、鄭漢の三區間を畫し、其の各區間を約十二、三時間内に駛行すべき各等旅客列車毎日双方より各一回あり。孰れも各驛停車にして、主に晝間の運轉なれば窓外の展望に宜しく、且簡易食堂の設さへありて、行々地方物情を視察する場合等に好都合なり。其の他局部區間に在ては北京保定府間(九〇哩七、約四時間半)、漢口蕭家港間(五四哩、約二時間半)等にも亦各毎日一回の旅客列車

便あり。

【支線及連絡鐵路】本鐵路所屬の支線としては豐臺、長辛店間(六哩二)、良鄉縣、坨里間(一〇哩四)、琉璃河、周口店間(九哩三)、高碑店、梁格莊間(二六哩七、所謂西陵線なり)、鴨鶴營臨城間(一〇哩)等の五支路ありて、孰れも毎日一回乃至四回の二三等混合列車を通ず。其の他連絡鐵路としては石家莊に於ける正太鐵路、新鄉縣に於ける道清鐵路鄭州に於ける汴洛鐵路等あり。尙ほ其の詳細は以下各地方區分の下に記述すべし。

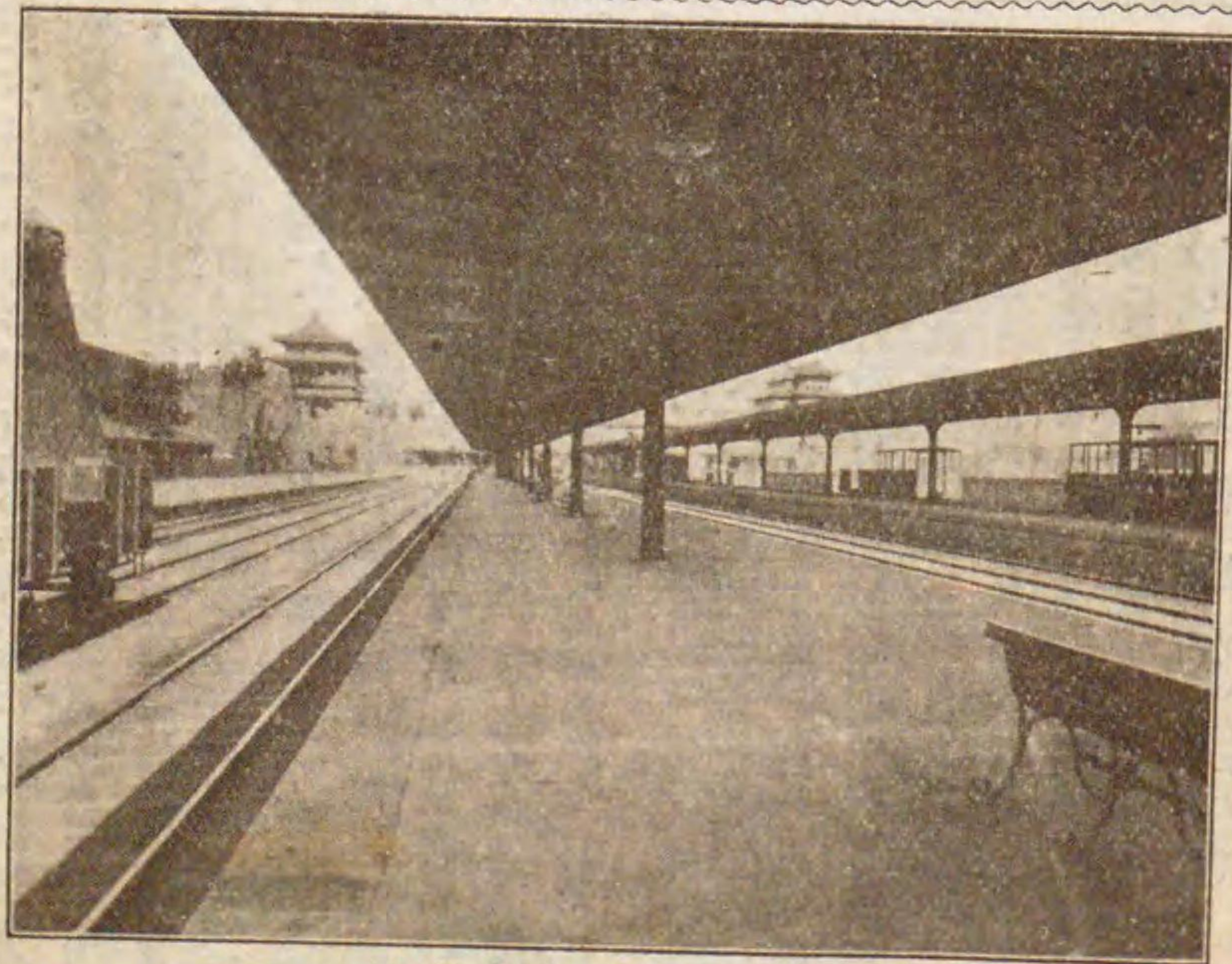
沿途概観 京漢鐵路の經過地は直隸省の西南部より河南省の中部乃至湖北省の東部に亘り、沿線一帶概ね廣漠たる平野にして山岳丘陵の環合起伏する處は纔に河南、湖北の兩省界に於て之を見るのみ。隨て山姿水態の幽趣甚だ乏しきの感あるも、直隸河南兩省に於けるこの平野は白河黄河及淮河本支流の灌域、即ち支那有名なる黃土地方にして、曾て漢人の祖先が西方荒廢せる山地より出で來りて此地方を侵略し、爾來三千年の歴史を閱せし處、支那興亡史上、政治上且は産業上重要な地位を占むるを以て、その史蹟を點檢しつゝ之を過ぐれば山河自然の風光轉々今昔の感に堪へざるもの尠からざるべし。以下北京を起點として沿線地方の狀況を略記すべし。

【沿革】本鐵路は初め蘆漢鐵路と稱し、蘆溝橋(北京前門より約一〇哩の南方)より漢口間に布設せらるべき計畫なりしも、其後北京内城前門外迄延長するに至りて京漢鐵路と改稱せらる。西紀一八九七年其工を起し西紀一九〇五年九月十五日を以て開通式を舉げたり。當初白耳義シンゲートより借款して布設せしも、後政府の買収する所となり、今は交通部の直營に係る。線路は四呎八吋半の廣軌式に依り、レールは専ら瀋陽鐵工廠の製作に係る八十五封度のものを使用せり。

汽車北京前門 Chien-men 車站を發し外城の西廓を出、京綏鐵路を横切り西南に走り西便門 Si-pien-men (三哩七 北京より也 以下準之) 車站に出れば、附近一帶巨商軒を並べ、貨物積卸の多數なること北京各車站中第一なり。次に到る跑馬場 Pao-ma-chang (四哩四) 附近には外人の經營に係る競馬場あり。

蘆溝橋 Lu-kow-kiao (九哩三) 此地は本線が蘆漢鐵路と稱せし時代の北端驛たるし處、站南鐵橋附近の本線より京奉線豐臺に至る支線の分岐せらるゝあり。

【蘆溝橋】城の西門外なる永定河に架せられたる石橋即ち是れなり。往昔伊國人マルコポーロ此地を過り、其の旅行記中に誌せしより外人之を呼んでマルコポーロ橋とも云ふ。長九百尺、巾二十四尺、橋上一面に板石を布き、兩側の石欄



(路鐵漢京) 站車門前京北

凡そ三百四十本の柱頭に各々名匠の手に成れる獅子像を置きたり。兩岸橋畔に琉璃瓦葺の碑亭ありて、碑面には康熙乾隆二帝の御製に係る蘆溝橋修築の沿革を刻せり。

長辛店 Chang-sin-tien (三哩) 附近に京漢鐵路北段の車庫、修理工場、材料庫及従業員見習所等設置せられ、本線操業上重要な一地點たり。

【戒臺寺】車站の西方約一哩にあり。後方山を負ひ堂宇宏壯、毎夏避暑客の來集する處一遊を試みんとせば先づ其の旨を寺僧に通知するを要す。寺内に轎子を備へ遊客送迎の用に供す。賃金往復三弗乃至四弗。

【豐臺支線】長辛店より本線に沿ひ、蘆溝橋附近に於て東方に分岐し豐臺に至り京奉線に接続するもの、兩車站間(六哩二、行程二十五分) 毎日四回二、三等旅客列車便あり、以て京奉、京漢相互行客の連絡に便す。

良郷縣 Liang-siang-sien (一哩二) 春秋時代燕の中都たりの地にして、其の後幾度か變遷し、明、清に至り良郷縣を置き順天府に屬せしむ。【多寶塔】一名旻天塔とも呼ばれ、縣の東一哩にあり。高百五十尺、塔内螺旋狀の階梯ありて登

【周口店支線】琉璃河の周口店 Chow-kow-tien に至る間九哩三、毎日一回の二、三等混合列車便あり。是れ亦石炭搬出の爲に設けられしものなり。

涿州 Cho-chow (三哩) 古史に所謂涿鹿の野なり。漢、三國、唐、宋代には各所屬名稱を更へ、元、明、清は共に涿州として順天府に屬せしむ。城垣の周回三哩強、明の景泰年間造築せる處、車站の西北約一哩の地に在り。

【永濟橋】州城外拒馬河に架せる石橋にして、長約三百呎、清の乾隆帝御製に成る涿州石橋の記碑あり。【西域寺】州城の西方約二〇哩、經山の麓に在り。山腹に又數個の石洞ありて、洞内石刻の各種佛經を藏す、共に唐代のものなりと云ふ。

【督亢陂】州城の東南に方膏腴の地にして、往昔燕の太子丹が臣荊軻を遣して秦に獻せし處なりと傳ふ。【樓桑村】車站の東南四哩に在り。漢の昭烈帝出生の地なり。帝及關羽、張飛、諸葛亮を祀れる祠あり。

【昭烈帝】諱は劉備字は玄德、前漢の景帝の子中山靖王勝が後なり。帝少時孤となり、母と共に履を賣り蓆を織りて業と爲す。舍東に大なる桑樹あり、高五十尺に及ぶ、遙に望見すれば宛も小車の如し。往來

攀すべし。【八方亭】車站の西南二哩にあり。乾隆帝の建立に係り、帝が出征將卒を勞ひたる碑文亭の中央にありしも、今は頽廢して僅に柱石を存するのみ。其他【臨溝河、廣陽故城、龍泉山、伏龍岡】等幾多の歴史を有する勝地あり。

【坨里支線】良郷縣より分岐し坨里 To-li に至る一〇哩四の支線にして、長辛店より坨里間毎日一回の二、三等混合列車便あり。元來主として石炭輸送の爲に敷設せられたるもの、坨里より其の炭坑の西境まで約二十三哩間は架空鐵索裝置を以て運炭に供す。所謂長蘆高線鐵路是れなり。毎年の出炭量十萬噸を下らざり云ふ。

琉璃河 Liu-li-ho (三哩) 車站は琉璃河畔に在り。車站の西南少許にして河上に鐵橋(長約七百五十呎)あり。又上流遙に架せる石橋あり。是れ明の永樂年間の建造に係る國道にして、爾後數次修理を加へて今日に及べり。

【琉璃河】其の源を房山縣の黑龍潭、孔水洞に發す。里俗に古聖水なりと云ふ。金史には劉李二族此地に聚居せしより名くとも傳ふ。附近の名勝には龍門臺(房山縣)、白球石塘泉(房山縣の西南)、雲水洞(車站西)、甘泉水(房山縣の西北)等あり。

高碑店 Kao-peï-tien (五哩) 古の督亢の地にして燕趙の分界に當り「燕南趙北」の四字を刻せる高碑のありし處、今は唯其の名を留むるのみ。

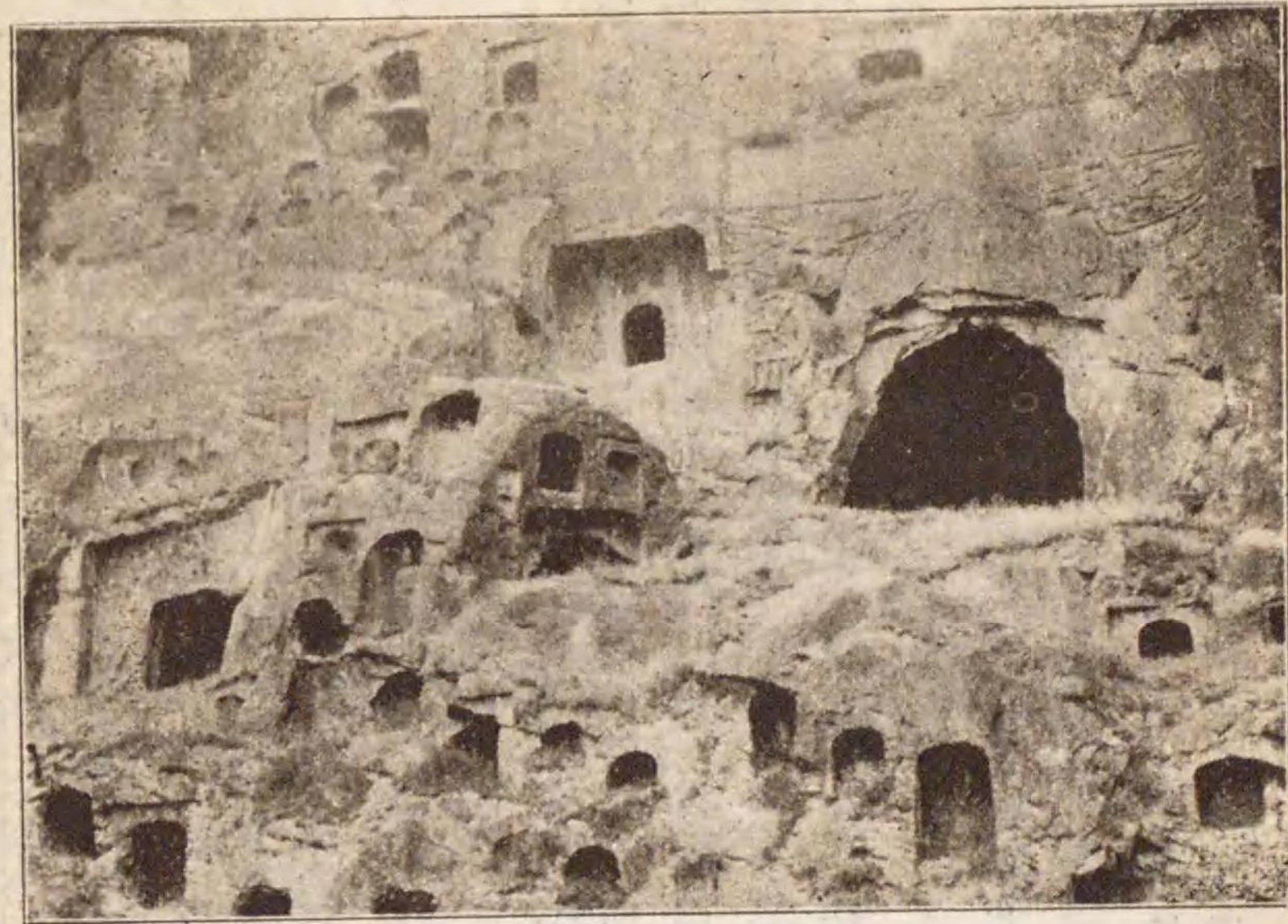
【西陵支線】高碑店より分岐して梁格莊に至る二六哩七の間、毎日一回の二、三等混合列車あり、二時間弱にして達す(第二一八頁参照)。

高碑店を後にし、定興 Ting-hing (五哩) を過ぎ、固城鎮 Ku-cheng-chen (六哩) に至れば、附近に觀音寺、鐵瓦寺あり、後者は其の名の如く鐵瓦を以て葺かれたる寺院にして又珍とすべし。次に安肅縣 An-su-hsien (七哩) 漕河 Tsao-ho (八哩) を過ぎ保定府に至る。

保定府 Pao-ting-fu (九哩) 客棧一晉義、春元、福祿等、宿食費大洋五角) 直隸省內北京天津に亞げる大都會なり。

【府城】車站の東方四哩に在り。易水、唐河の諸流に潤

の者皆此樹の異常なるを怪み、是れ必ず貴人先生を出すの處ならんとせり。帝少時常に此樹下に遊び、或時戯れに吾必ず旗羽葆を立て龍車に乗る可しと言へり。而して後遂に帝位に即けり。故に世人今に至る迄樓桑村の故事を喧傳す。



龍門千佛崖の第一 (二五二頁)

ほされたる沃野を控へ、周圍約四哩の城壁を繞らし、四門を通ず。城は明代の建造に係り、各門に通ずる大街路を基幹として整然たる街衢を成し、現在人口二十五萬を包有す。地方行政及陸軍諸官署の外、軍官學校、中學校、師範學校、高等女學校等あり。近時又各種工業の勃興に連れ、清苑縣實習工廠、模範監獄工廠等の工場建設を見るに至れり。

【南關支線】保定車站橋内より府城南門外に至る約三哩の支線にして、其の終點南關車站は清苑河の支流、俗稱府河の碼頭に在り。府河は附近所在の諸水路と連なり更に下流子牙河を經て天津に達すべく、隨て戎克貨物の集散多く、本線貨物運輸上好個の培養線なり。

【蓮花池】城内府署前街に在り。前清高宗南巡の際駐蹕の所、當時の行宮、園池の後を修めて公園と爲し、今や一般人の入觀を許せり(入觀料三銅子)。池は城外より河水を引き園内樹石の間を環流して復城外に流出す。夏日荷葉漣漪に浮び千紅妍を競ふの盛觀最も賞するに堪へたり。池邊に長生館、濯錦亭、藏經閣、六幢亭等ありて、夫々庭樹を配し又名家の手になる碑碣、題聯の類多し。尚ほ園内の一隅に圖書館、師範學校あり。

其他勝地—大慈閣(東門内)、廉頗將軍廟、靈雨寺、忠愍祠(城西)、永寧寺、百花嶼(城南)等あり。

保定府を發し于家莊 Yu-kia-chwang (六哩)、方順橋 Fang-shun-kiao (10哩)を經し望都 Wang-tu (一二哩)に至る。地は戰國時代趙の慶都たりし處にして、堯母陵、鷄鳴井(共に城東青陽)、帝堯廟、丹朱墓、藥王廟、(以上城外數哩に在り)等の古蹟あり。次で清風店

Tsing-feng-tien (二九哩)を過り定州 Ting-chow (二六哩)に達す。州城極めて大、周圍約七哩に及び、明の洪武年間の修築に係る。城外近郊古蹟に富み、漢の中靖王墓を首め陽城墓、韓魏公祠、開元寺等あり。

定州以往ゆるく車窓に迫り來るは沙河河畔に逶迤連亘せる沙丘(平)、寨西店 Chai-si-tien (一三哩)、新樂 Sir-lo (11哩)の二車站其の間に横はる。次で長壽 Chang-chow (18哩)、新安 Sin-an (15哩)を過り正定府 Cheng-ting-fu (二四哩、客棧—會豐、聚

興、永升等、宿食費大洋五角) 府城は車站より車馬行程約一時間内に在り。城周約八哩、四門を通ず。城南に漳沱河の流れ(河幅約一五〇〇尺)あり、城西に恒山の連脈を負ひ、頗る形勝の地を占めたり。

【隆興寺】城東門外に在り。隋代の創建に係り、寺内に鑄銅の大佛(高七十三尺の立像)あるを以て一に大佛寺とも稱す。尚ほ境内には隋の張公禮龍藏寺碑及大悲閣内太祖像前に趙孟頫(子昂)書碑銘等あり。【天寧寺】城内南隅に在り。九層の高塔雲表に矗立す。

石家莊 Shih-kia-chwang (17哩) 正定府獲鹿縣の所轄にして往昔趙の石邑の地なり。一名枕頭と稱す。車站北方に有名なる吳祿貞の墓碑あり。

【吳祿貞】は夙に日本に留學して當世の諸學に通じ、歸國後重用せられて燕晉聯軍の大將軍に任ぜられしが、西紀一九一二年第一革命動亂に際し、此地車站の一室に於て部下の爲めに刺さる。時に吳健に三十三歳なりきと云ふ。

正太鐵路

石家莊より起り、平定州内平潭地方の諸炭山を經て山西

省太原府に至る全長一五一哩五、石炭運搬を主とする軌幅一米突の狭軌鐵道にして、毎日二回兩端より混合列車便あり。賃金一等一五弗六〇仙、二等七弗八〇仙。

【沿革】本鐵路は初め西紀一九〇三年露國の資本を以て著手せしが、後佛國資本家に依りて繼承せられ一九〇七年竣工せしもの、一九一三年に至りて支那神董の買収に歸し、今や私設鐵路として經營せらる。

本線の沿道は海拔二千乃至三千呎の高原にして、即ち直隸省の西南部及山西省の東部に當り、滹沱河に沿ひ又は山間溪谷の間を過ぎ、頗る山水の眺望に富めり。

太原府 Tai-yuan-fu 山西省の首府にして、往古春秋及北漢の首都たりし處。府城は海拔二千六百呎の高臺に位し、繞らざる鞏固の城壁を以てす。人口約二十三萬、城内には省行政、軍務、教育の諸機關完備せり。

太原府下に於ける【炭礦】は炭層の厚さ普通一呎乃至二〇呎、時に三〇呎以上に達するものあり。而も其の炭床は深さ二三百呎に及ぶを以て、其の有望なるを推知すべし。

石家莊を去り高遷村 Kao-tsieh-tsun (一七哩三)、寶高 郷 Tow-yu (一七哩三)、元氏 Yuan-shih (一九哩)、高

邑縣 Kao-yih-sien (一〇哩二) の諸車站を經れば鴨鶴營 Ya-ko-ling (一〇哩二) あり。【臨城支路】は當車站より臨城 Lin-cheng-hsien に通ずる全長一〇哩の支線にして運炭の用に供せらる。次で鎮内 Chen-wei (三哩一)、内邱 Nei-kiu (三哩二) を過ぎて順德府に著す。

順德府 Shun-teh-fu (二四哩三、客棧一公益、天滙、天豐等、宿費制錢四) 往時殷の邢都、秦の鉅鹿の地たり、順德府の稱は元以降に屬す。西方遙に太行山脈に據り、大小の諸流之より發して大陸澤に注ぐ。府城は周圍約四哩半、宋代の創建に係り、今の磚壁は明萬曆年間重修せられし處、市街殷盛にして北京漢口間三大區の一分界地點を爲し、本線直行列車の停車ある外、北京及鄭城の双方に對し毎日、日著きの區間列車便あり。【勝地】鼓樓(城南)豫讓祠、(廟後)開元寺(城北)等。

順德府より以南沙河縣 Sha-ho-hsien (二五〇哩)、臨洛關 Lin-ming-kwan (三三哩八) 外二車站を過れば聽て邯鄲縣 Han-tan-hsien (一七哩二) 是れ昔時趙の

及故宅、魏徵及曹洪の故宅(以上、大寺(城)等。彰德府を後に湯陰縣 Tang-yin-hsien (三三哩二) に至れば文王廟(縣北)、岳忠武王廟(縣南)、曹操蓋糧塚三座(車站)等あり。滑縣 Sun-hsien (三〇哩五) 外一站の前途淇縣 Chi-hsien (三三哩二) には摘星樓、殷三仁祠(城南)門、軒轅墓、秦極仙翁脫骨碑(北門外)等の古蹟あり。次で衛輝府 Wei-hwei-fu (三六哩) に入る。府城は站東約

敬侯國都と爲せし所、其の故城址は縣城の西四哩に在り。【叢臺】城壁を抽(る)と約二十尺の高臺にして、趙武靈王の造築に係る。其他邯鄲宮、呂仙祠(一名盧生祠)、樂毅故宅、藺相如同車巷等の古蹟多し。

次で馬頭鎮 Ma-tow-chen (二八哩六) を越え、磁州 Tze-chow (一七哩二) に至れば附近に有名なる【疑塚】七十二の累々たるあり。北魏武帝時代の古墳なりと傳ふ。宋の王安石詩あり「青山如浪入漳州、銅雀臺西八里邱、蟻蟻往還空隴畝、麒麟埋沒幾春秋」と。而して今窓外に之を目睹するもの、感懷果して如何ぞや。

豐樂鎮 Feng-lo-chen (一〇哩三) 本鐵路の直隸省境よりの河南省界に移る第一車站にして、同名の市鎮まで約四哩あり。當站より安陽縣六河溝まで約二二哩の間、運炭用の輕便鐵路を通ず。【韓陵山】車站の東北約六哩に在り、北魏末期の史蹟に緣故深き所なり。

彰德府 Chang-te-ho (三三哩七、客棧一名利、泰安、迎賓館等) 河南省中屈指の城市にして、農商共に殷盛なり。交通至便の爲め比年繁榮に向ふ。【名勝地】韓忠獻公祠



像巨の中崖佛千門龍

二哩に在り。許衛河の上流其の西關外を洗ひ、橋上人馬絡繹たり。此處にも亦比干壘、孔子擊磬處等の古蹟を存す。更に潞王墳 Lu-wang-fen (三三三哩) 附近には明朝潞王の古墳あり、白石の大牌樓其の前面に聳え、陵道左右兩側に幾多の石獸列を爲す等規模頗る堂々たり。やがて新郷縣に達す。

新郷縣 Sin-siang-sien (三八哩五) 車站を距る約二哩に縣城あり。附近は農産豐饒にして、商業亦盛大に赴きつゝあり。城内には京漢鐵路局の倉庫、機關庫、機械修理所、舍宅等宏壯なる建築物軒を列ね、又英國シンヂケート(舊道清鐵路の資本主にして福公司と稱す)の支店あり。【岳忠武廟】、城東^{2/3}哩に在り。岳飛新郷平定の功を録せる古蹟なり。【道清鐵路】一名澤道鐵路と稱す。衛河より大運河に通ずる舟楫の便最も多き道口鎮 Taou-kou-chen 及び清化鎮 Chin-hua-chen に至る九三哩の廣軌線あり、全線直通列車毎日一回(約六時間を要す)の外一二の區間列車あり。將來清化鎮より山西省澤州 Tse-chou に延長せらるゝものなり。本鐵路も亦河南及山西省内に於ける炭礦運搬の爲めに

布設せられし處、即ち道口鎮より水運によりて天津地方及沿域各地に之を供給しつゝあり。

新郷縣に次で他の一中間驛を過ぎ凡村驛 Kang-tsun-^{カスツンサイ} (三九哩) 外一車站を経て詹店 Chan-tien (四〇七哩六) 差蒐れば、附近一帶は砂洲にして線路は高約三〇呎の築堤上を走り、間もなく黄河北岸 Hwang-ho-nord (四三哩六) に至る。

【黄河】は陝西省より河南省に入り、包頭鎮より潼關を過ぎ、函谷關の北を東流し河南府に入り孟津縣に至る。其の對岸に孟縣あり(周武王が殷を討ちし時、諸侯を孟津に會すと云へるは此地方なり)。孟津より鞏縣に至り、洛水を合せて開封府内に入り、蘭陽縣にて東北に折れ直隸省に入る。省内に於ける黄河の兩岸は水面より低き處多く、古來民力を盡して堤防を築き纔に其の氾濫を防げり。抑黄河流域は其の高低の差最甚だしき處にして、例令へは潼關にて海拔一千三百呎、河南府にて五百呎、懷慶府城にて四百二十五呎なるが如し。【黄河大鐵橋】は全長三〇一〇米突(約二哩)、榮澤口渡より右岸高武山脚に向つて架せらる。西紀一九〇三年之を起工し、最も精良なる材料及最新の學術を應用して築造せられしもの。一朝河水の氾濫に際しても更に破壊の虞なし。夜間之を過れば橋上の電燈燦爛として河水に反映し、頗る偉觀を呈す。

鐵橋を渡過すれば即ち黄河南岸 Hwang-ho-Sud (四一哩) にて、附近に高武山、麓山の蟠屈せるもの、山上に漁夫農民の穴居するを見るべし。次に榮澤 Jung-tseh (四八哩八) 外一站を過れば鄭州なり。鄭州 Cheng-chow (五三哩二) 客棧一金臺、第一賓館、泰安、中賓館等。宿食費^{小洋四角}。州城は車站を距る一^{2/3}哩に在り。驟車及人力車を通ず。此地昔時は禹貢豫州の域、宋以後に至り鄭州と爲る。輓近本鐵路の開通に次で、汴洛鐵路との接続地點となり、市況愈々殷盛を加へたり。【汴洛鐵路】即ち海蘭鐵路の一部にして、當車站より河南、開封及津浦線徐州方面に通じ、夫々連絡列車便あり洋細は第二五〇頁参照。鄭州以南一站を隔り、謝莊 Siel-chwang (五七哩五) あり、又一站を過ぎ新鄭 Sin-cheng (六〇哩) 和尚橋 Ho-shang-kiao (六二哩) の諸站を経て許州 Hsu-chow (六八哩七) に至る。車站北方より小支線を出り、硯山 Ching-shan に通ず。【硯山】は石材に富み、黄河鐵橋用石材は多く此の地に採りたりと云ふ。その他關帝廟(鄆城西門)、太節亭(内城)等は共に三國當時の史蹟に緣故ある處なり。

次に臨潁 Lin-ying (五〇哩八) 外三站を過ぎ鄆城に入る。鄆城 Yen-cheng (五八哩一) 客棧一迎賓館、華洋賓館

外二、三十家) 縣城は車站を距る約三哩、淮河に注げる沙河の左岸に在りて、上流は栗縣地方、下流は約五〇哩の周家口を経て南北の運河及洛水に連絡し、舟楫の便多し。當站は又北京漢口間三大區の一分界點に當り、此より順德府、漢口の双方へ毎日、日着の區間列車便あり。【農産物】大豆、小麥、胡麻、鷄、豚、羊皮等、就中胡麻の産出最も多大にして、鐵路便により毎年漢口に輸出せられ、又遠く内外の市場に販賣せらる。【輸入品】官鹽、紙貨、煤炭、竹木、内外雜貨等當車站より鐵道便により出入するもの巨額に達し、黄河以南の各車站中常に第一位を占む。城内には行政官公署の外官立習藝所あり。又孔子思歸碑(城東門外)、岳忠武王廟(内城)等の古蹟あり。鄆城を後にし、西平 Si-ping (五三哩九)、遂平 Sui-ping (五九哩) 外三站に次で來るは駐馬店 Tehou-ma-tien (五九哩二) なり。當車站の南一帶は山勢崎嶇、道路險惡にして曾て往々賊徒出沒の區たりし爲行旅極めて稀なりしが、京



雞 公 山 第 一 塞 門

漢線開通以來狀況一變し、現時は商客の來往繁く、物貨蟻集して頗る盛況を呈す。且車站の北方東方は平野連亘し農産豐饒なり。又車站附近には京漢鐵路局の舎宅、車庫、材料庫、給水槽の設備ありて殷賑を極む。

確山縣 Kio-shan-hsien (五七哩七) に至れば近郊の名勝に【金頂山、朗陵山、蟠山】等あり。此を去れば新安店 Sin-an-tien (五六哩一)、明港 Ming-kiang (五九哩七)、長臺關 Chang-tai-kwan (六〇哩二) 等の諸站に次で信陽州あり。

信陽州 Sin-yang-show (六八哩、客棧一萬福樓、人和昌、劉順興等) 河南省内に於ける最南の主要車站にして、州城は車站外約一哩に在り。大豆、豆油、豆粕等の産地として知らる。城内市況殷賑にして附近に子貢祠(二哩)、古申伯國遺址(北方)、賢首山(城西南) 等あり。

信陽州よりの柳林 Liu-jin (六三哩六) を過ぎ、四周皆山嶺の間を走る、李家寨 Li-kia-chai (六三哩二) を経れば、新店 Sin-tien (六四哩五) 河南省最南端の車站にして、

山間の一小驛に過ぎざりしも、近年漢口附近より避暑客の往來頻繁なるに至り、其の名頓に著はる。【武勝關】當車站の西南約五哩に在りて河南湖北兩省の咽喉を扼せり。附近は重山疊嶂の地にして實に本線中唯一の隧道區間なり。往昔南北兩朝分治の境界も亦此の自然の地勢に據りしなり。【龍跑山】車站の西方に在り。巨岩大石山背に蹲伏し、宛然龍の騰驤せんとする觀を呈す、故に此の稱あり。

【鷄公山】當車站の東方約五哩に在り。此の地は外人教會用の名義の下に支那政府より租借せし所、山嶺に百餘棟の洋風山莊あり。夏日漢口方面より避暑客の來往多くして、臨時郵便局開設せらる。

新店を去り、四顧悉く山谿の間を縫うて走れば、東筮店 Tong-hwang-tien (六三哩二)、廣水 Kwang-shui (六五哩三) を經り楊家寨 Yang-kia-chai (六六哩) に至る。此の地は昔楚の武王中原を經略せんとせし時戍守を置きし所、附近到處に古寨の址あり。夫よりの王家店 Wang-kia-tien (六七哩三) 背後の磨山よりの質堅緻なる砥石を産す。次で到る花園 Houa-yuen (六八哩二) は明末の富室萬氏

花園を開き、四時の花木を植ゑ周圍約二哩に及びたりし處、今は荒廢し只名のみ存す。更に蕭家港 Siao-kia-kang (六九哩一) に至れば車站外約半哩に【白湖】あり。舟楫を通じ、貨客の漢口玉帶門に來往することを得。孝感 Siao-kan (七〇哩四) には東漢末の孝子董永の故里あり。夫よりの二漢埠 Sa-chia-fow (七二哩四)、祁家灣 Chu-kia-wan (七三哩) を經り漢口 She-kou (七四哩一) に至れば長江の水域近く日晷の間に在り。かくて譙家磯 Shen-kia-ki (七四哩四) を越れば本鐵路の南端漢口なり。

漢口 Han-kow (第三一七頁參照) 漢口に四車站あり。即ち江岸 Kiang-an (七四哩三) は長江水運との貨物連絡驛にて、他日粵漢鐵路(第三二〇頁參照) 全通の曉には彼此相互の接續地點たるべき要衝たり。大智門 Ta-chi-men (七四哩六) は漢口市街の中央車站を以て目すべく、急直行列車の始發又は終著する所たり。順禮門 Sun-li-men (七五哩九) 及玉帶門 Yü-tai-men (七五哩七) は共に區間列車の停車する處、而して其の極端驛は主として支那市街の出入客及漢水に由て集散する貨物連絡の爲なり。

天津浦口間 (津浦線)

附海蘭線

【津浦鐵路】支那官營鐵路の一にして、天津(東站)より浦口迄六三
一哩一を本線とし、其の途中兗州、濟寧間一九哩七、臨城
棗莊間一九哩一の兩支線を分岐す。而して線路は孰れも四呎八吋
半の標準軌幅なり。

【列車便】直通郵便列車—兩端驛より毎日一回發車、各等客車の外
食堂車及一等寢臺車の聯結あり。全線行程約二五時間半兩端驛に於て
京奉、滬寧兩線に接續すべく、且濟南に於ける山東鐵路、徐州に於ける
海蘭鐵路とも亦夫々連絡の便あり。區間列車—天津濟南間、濟南徐州
間その他二、三主要區間に各一、二回の旅客列車便あり。【旅客賃金】
天津車站より浦口迄一等三八弗二五(寢臺料五弗)、二等二五弗五〇、三
等一二弗七五。【手荷物】無賃制限量は一等一二〇斤、二等九〇斤、三
等六〇斤とす。

沿途概観

天津を起點とし直隸、山東、江蘇及安徽の
四省を貫通して浦口に至る本線沿途は支那内地中最も歴史
的興味に富む地方にして、支那五山の一として有名なる泰山、
孔子墳塋の所在地として著名なる曲阜等觀光客の見脱すべ

からざる名所舊蹟頗る多し。但し爾餘の沿線地は概ね廣漠たる
平野にして其の北段(直隸及山東省界)は黄河下流一帯の
沃野を含み、南段(安徽及江蘇省界)は即ち舊黄河及淮
河の流域に屬し、沿途風光の勝を以て目すべきもの多からざれど
も、各種の農、礦産物豊富なるか上に、夙に水路通航の便
開けし地方として各地方間物資の集散饒多にして、寧ろ産業經
濟上の活力に於て見るべきもの尠からざるを特色とす。

【沿革】本鐵道は最初津鎮鐵道と稱し、西紀一八九七年清國政府が
國人容某に天津鎮江間の鐵道敷設を許可せしに始まる。容某は當時米
國の資本を以て建設を試みむとせしも、時恰も米西戰爭の勃發に逢著
し、金融の敏活を缺きたる爲計畫に頓挫を來せり。その後幾多の變遷
を経て遂に國有鐵道豫定線に編入せられ、續て英、獨二國は各自國の投
資に依り是が建設を引受け、同時に名稱を津浦鐵路と改めたり。獨逸
は一九〇八年六月中天津韓庄間(三八九哩七)に對し、又英國は一九
〇九年一月中に韓庄浦口間(二三八哩六)に對し天れ、起工式を舉
げて著々工を進め、全線中の最難工事黃河鐵橋(第二四二頁參照)の
竣工と共に一九一三年を以て全線の開通を見たり。

汽車天津東站を發して市街の東邊に沿うて走り、右に種
植園左に河北公園を認むれば驛で天津總站(二哩七、車站以

下皆)に入る。天津總站—線路の西側に在り三個の『プラ
ット、ホーム』を有す。即東端は天津山海關間の區間列
車、中央は京奉線直通列車、西端は津浦線列車の昇降
橋を渡れば別に一線此處より岐かれて南西に轉じ、間もなく天
津西站(六哩一)に達す。

其れよの列車は運河の左岸を走り、河上白帆の去來を眺め
て、楊柳青 Yang-liu-tsing (一五哩一)を經、鐵橋を渡りて運
河の右岸に出れば驛は王莊 Liang-wang-chuang
(二四哩一)に至る。當驛よは白河の下流陳唐莊に通ず
る鹽運支線あり。其の以往德州に至る迄線路は大運河の
右岸を行走するものなり。獨流 Tu-liu (二五哩七)、靜海縣
Tsing-hai-hsien (三三哩三)、陳官屯 Chen-kuan-tun (三
九哩八)、唐官屯 Tang-kuan-tun (四四哩三)、馬廠 Ma-
chang (五三哩)の各驛を過りて青縣 Tsing-hsien (五八哩三)
に至れば東方遙に直隸灣を望み、茫々たる耕地の間部落樹
林等の點々たるを見る。それよの興濟 Hing-tsi (六七哩)、
姚官屯 Yao-kuan-tun (七三哩)を經り滄州に達す。

滄州 Tsang-chow (七三哩九) 滄縣の所在地にして、往
年減河の水運を介して民船貿易の發達を促し、山東省北部
の物資集散市場として天津濟南間有數の都邑たりしも、軌近
減河の游塞鐵道開通に伴ひ逐年市況衰退の狀あり。

滄州よの磚河 Chuan-ho (八哩八)、馮家口 Feng-
chia-kou (九哩五)、泊頭鎮 Po-tou-chen (一〇哩九)等
の小驛を過りて東光縣 Tung-kuang-hsien (一一哩三)
に達し、更に連鎮 Lien-chen (一三哩一)、安陵鎮 An-
ling-chen (一四哩九)、桑園 Sang-yuan (一五哩七)の各驛
を運んで德州に至る。桑園は山東省最北端の驛にして、車
站の北方に兩省境界線あり。

德州 Te-chou (一八哩一) 德縣の所在地にして山東省北
部有數の工業地たると同時に、大運河に於ける大商埠たり。縣
城は車站の北方約六町にあつ、東西二支里南北三支里の
面積を占め、城内商賈軒を並べ來往頻繁にして活氣旺盛、
人口二萬と稱せらる。此地は恰も天津と濟南との中間に位し、
古來水路の便を藉りて天津方面との民船貿易盛なりしも、鐵
道の開通以來稍不振に陥れり。城内には彼の著名なる北洋機

器局、舊漕米督糧道衙門、知縣公署、郵政局、電報局等あり。輸入品の主なるものは石炭、火油、綿等にして、輸出品は落花生、皮類、棗等を擧ぐべし。

德州より前途線路は著しく南東に曲折し、全然運河を離れて高粱、落花生、麥等の大耕地帯を横斷し、黄河崖 Huang-ho-ya (一五五哩) を經つ平原縣 Ping-yuan-hsien (一六哩) に出づ。縣の首邑にして人口約七千を算し、顔神廟、樊將軍墳墓、東岳廟 (東門)、淳熙寺 (西門) 等の舊蹟多し。次に張莊 Chang-chuang (一八〇哩) を過ぐれば禹城 Yu-cheng-hsien (一八哩) なり。縣城は車站を距る三哩弱なる五里廟に在り、人口約五千を算す。此の地禹王の故地にして驛東約二哩に其の廟宇あり。

更に東南向つて晏城 Yen-cheng (一〇〇哩)、桑梓店 Sang-tse-tien (一〇三哩) を過ぐれば、漸く右窓に鵲山 (標高百餘米突に過ぎたるも古來人口に膾炙せる名山なり) を望み、聽て黄河鐵橋を渡過すれば深口 Lo-kow (一三六哩) あり。濟南を距る約四哩、黄河の右岸に位置し、濟南

市場の咽喉たる黄河の水運を扼する要津にして、人口約一萬を算す。深口黃臺橋間の貨物支線は此より分岐して小清河江岸に至り、同處に於て山東鐵路の黃臺車站に至る貨物支線と接続す。

*【黄河大鐵橋】 東洋第一の稱ある大鐵橋にして、全長約四一五〇尺、一九〇九年八月の起工に係り爾來四ヶ年の歳月を経て一九二二年十二月に竣工せり。總工費約六百萬圓と稱せられ、その橋脚基礎工事は技術上の最善を盡したるものなりと。

濟南府 Tsi-nan-fu (一三〇哩、約九時間) 津浦線の濟南車站は山東鐵道の濟南停車場と商埠の北側に相對せり。山東鐵道に乘繼ぐ旅客は此處にて乗換へを要す。(市街の記事は第二五三頁以下参照)。

濟南を後にして漸次南行しつゝ、黄河々孟の平原を來路に見送れば、行手は次第に泰山々系に接近して地勢隨處に起伏し、窓外の風景行くに隨て變化を呈し來る處、正に濟南以北の平凡單調を償ふに足る。かくて黨家莊 Tang-chia-chuang (一三三哩)、固山 Ku-shan (一三三哩)、張夏 Chang-hsia (一四一哩)、萬德 Wan-te (一四〇哩)、界首

Chieh-shu (一五七哩) の諸驛を過ぎ泰安府に入る。泰安府 Tai-an-fu (一三六哩) 泰安縣の所在地にして恰も山東省の中央に位し、東北に泰山を負ひ西に洋河を帶する處山水明媚の一幽境たり。縣城は車站の東南二哩弱に在り。城内には有名なる泰廟あり、又泰山登山の基地として知らる、所、人口二萬を有し物資の集散頻繁にして、車站より城内に至る間商家櫛比し行客車馬絡繹たり。

【泰廟】 廟は泰安縣城の西北隅に在り、舜帝を祀る。高三丈、周圍三支里の堞城を繞らし六門を設く。先づ南面正門たる嶽廟門を潛れば、廟庭内には老檜古柏鬱蒼として天を蔽ひ、通路兩側には唐、宋以下各時代の碑碣林立せるを見る。續て配天門、仁安門を過ぐれば東嶽大帝を祀れる峻極殿あり。殿は間口九間、奥行六間、碧琉璃瓦を以て葺きたる宏壯なる殿堂にして、殿内四壁には明代名匠の手に成ると傳へらる、帝王封禪儀の圖あり。峻極殿の東に炳靈殿あり、殿前に漢武帝の手植に係ると傳へらる、漢柏六株あり、乾隆帝の漢柏圖碑亦此處に存す。尙ほ西方に延禧殿あり、殿前に唐槐の老樹あり、明の甘一驥題して「唐槐」と言ふ。



泰廟の門前

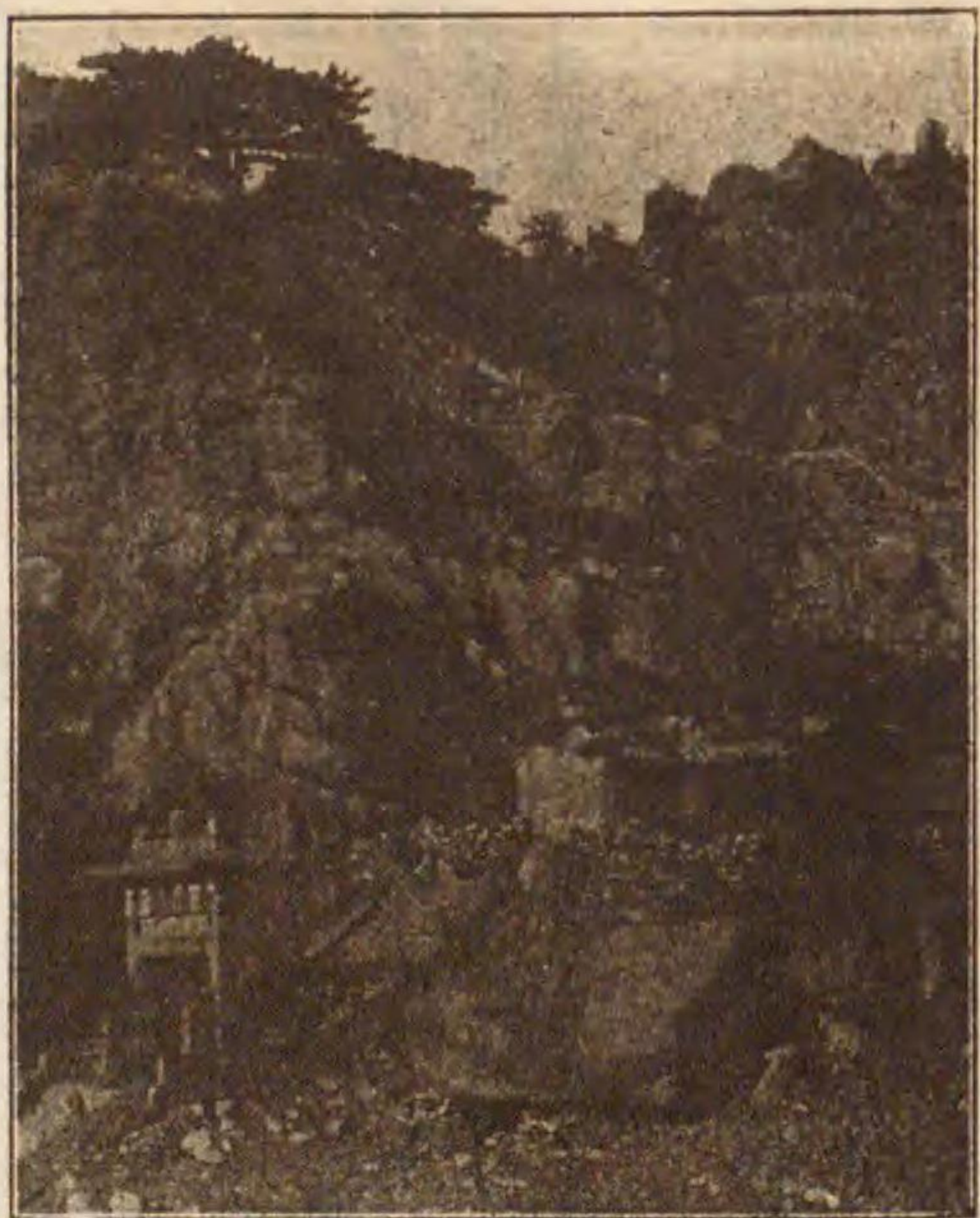
泰山の遊覽

【遊覽計畫】 泰山に遊覽を試みんとする旅客は天津乃至濟南より孰れの列車に依るも早朝泰安府に到着せざるを以て、當日は當地に一泊を要すべし。車站構内には津浦鐵路の經營に係る簡易寢室(食堂付)あり、宿泊希望者は最寄驛長を介して豫め申込み置くを可とす。但し泰山々頂にも雨露を凌ぐに足る殿堂あるを以て、旅程の都合に依り山頂に一泊するも可なり。

泰山は陝西の華山、湖南の衡山、河南の嵩山、山西の恒山と併せて支那五嶽と唱へらる、名山にして、海拔約五、一〇〇呎と註せられ、泰安よりその絶頂迄約十五哩、内登山道約六哩、此間山 轎 子(一名竹兜子)の便あり。賃金往復約三冊にして、上道は六時間、下山は三時間位なるを以て泰安より一日行程なり。毎年二月乃至三月の候には登山者毎日一萬人を算すと。

早朝泰安府の北門を發し、北方に山道を辿れば聽て岱宗坊に至る。登山道は概ね坂路にして其の勾配稍急なる個所は悉く石階となし、山麓より南天門に到る迄石階總て六千七百餘級を算すべく段盡くれば坦路あり、路盡れば復段起る。岱宗坊より都廟、升元觀、三皇廟、朝元觀、玉皇閣、青帝觀、關帝廟等を巡覽し石段一度盡くれば【一天門】

に達す。一石門にして「孔子登臨處」の五字を勒す。石門の北丹碧の穹窿門簾ゆ、是れ紅門にして門内紅門宮あり。又紅門の北に觀音閣、萬仙樓、桃花澗あり後者には桃李樹林多し。萬仙樓より長段一路王母神を祀れる【斗母宮】に通ず丹碧の殿閣懸崖に在り、深溪に臨みて一幽境をなす。その北に高老橋 坊あり、山谿を下ること四、五町にして平板千疊敷の如き、岩面には尺大の隸書を以て金剛經を刻す、由て【經石峪】と稱せらる。字體古蒼遒勁にして王羲之の書なりと傳ふ、惜しむべし字劃大半磨滅して僅に二百餘字を存するのみ。岩上に一小瀑布あり恰も短簾を懸垂したるが如く、水簾洞の稱あり。傍に高山流水亭あり、山水の景致極めて幽邃なり。更に登山道に出で、北行暫時登 仙 橋に至る。次で危段を登り盡せば壺天閣あり、北側石門には「廻馬嶺」と題せり。此附近より山漸く深く峯愈々高くて山景益々佳境に入る。行くこと約三十町にして【中天門】に達す、即ち全登山路の一半を了せるものにして、前途遙に南天門を望み、左に月觀峯、右に日觀峯中央に玉皇頂と一々指顧の間にあり。中天門の左方幽徑を西北に辿れば廣潤なる谿谷の間數十の新造家屋



松 夫 大 五

を見る、是れ即ち山東各地の外人布教師等の別墅たり。中天門より尙も石徑を辿ること數次、朱欄の雲 歩 橋を渡れば、巨巖屹立する處涼々たる飛瀑懸崖より落ち、橋北稍平坦なる處に宋の眞宗駐蹕の遺蹟あり。その傍に五松亭あり、亭前に【五大夫松】の稱ある三株の古松存す。尙ほ進むこと數町、路は石壁谿に入り東に飛 龍峯、西に翔 鳳 嶺の二峯相對峙する處、老松數百株蒼翠相掩ひ、煙雲縹渺たり。更に

昇 仙 房(石門)を過れば峭徑嶮岩の下を行き、崖角を廻りて石徑盡くる處幾百階の長段面を壓して直立す。鐵鎖に頼つて之を攀登すれば即ち南天門に達す。【南天門】の山頂入口には聯句を刻せる紅聖の門あり。道を東に採れば程なく岩窟内に宿舍十數戸あるに會す。更に行くこと數町にして丹碧燦爛たる一廓の殿堂に達すべし。是れ即ち【泰山本廟】にして碧霞元宮とも稱す。本廟の東北に東嶽廟あり、廟後懸崖削壁に所謂磨崖碑あり、唐玄宗の「紀泰山銘」を刻せり。附近に孔子廟あり、孔子登臨の際「天下を小にす」と大觀せる舊蹟とす。孔子廟の東北に巍峨として聳立する一峯は即ち泰山の絶頂【天柱峯】にして、俗に玉皇頂と稱す。山上に玉皇廟あり、廟内長十有一尺、厚十四尺の巨岩地上に突出し、泰山天柱の尖頭と稱せらる。玉皇頂の北丈 人 峯を降り溪澗を行くと數町にして蓮花洞に達す。洞は三面絶壁に圍まれ、裡に丹碧の樓閣松翠に浮ぶ處幽邃なる一勝區を爲す。再び道を南天門に採り山轎に乗じて下山すれば約三時間にして城の北門に歸着すべし。泰安を出で、小驛東北堡 Tung-pei-pu (二七哩)を過

ぎ、落花生の産に富む大汶口 Ta-wen-kou (二八三哩六) を送れば、縣城はその東南七哩餘に在り大聖孔子の闕里として其の名著はる。縣城は一名魯城と稱し、周圍五支里五門を有し、孔子廟を中心として廟東、廟西の二區に別る人口約七千、その多くは聖廟の賽者に依り衣食するもの、如し。

【孔廟巡覽】 曲阜の地に孔子の聖廟を訪はんとする旅客は天津よりの郵便直通列車(夜間着)又は濟南よりの區間列車(正午着)に頼るべし。車站構内には鐵路局經營の簡易寢室(食堂付)あり、宿泊希望者は最寄驛長を経て豫め申込み置くを可とす。車站より縣城迄轎車賃約一弗五〇仙とす。

【孔子廟】 俗に至聖廟又は孔廟と唱へ、曲阜城内の中央孔子の故邸址に在り。廟は周圍に石垣を繞らし、境内老樹多し。先づ正面入口より參進し橋を渡りて數門を潜れば奎文

閣あり、道士等が春秋二季の祭典に關する諸禮を練習する處にして、高七五尺、間口九〇尺、奥行五五尺を有し、建築の雄大壯麗觀者をして恍惚たらしむ。閣前歷代帝王の碑碣十餘座あり、更に大成門を潜れば右方に孔子手植の槐樹、左方に杏壇あり。壇は四棟二層樓にして孔子の道を講じたる處なりと。壇後に本殿なる大成殿あり、孔子の聖像を奉安し、結構壯麗を極む。蓋し我邦日光廟の輪奐は精巧緻密を以て顯はれ、聖廟の結構は雄大宏壯を以て誇ると言ふ又至言なり。前廊に周圍約一丈の石柱十本あり悉く盤龍を刻す。その技精妙將に雲を起し土を捲くの概あり。殿内中央の聖像は高一丈餘、衰冕の服を纏ひ、玉圭を持して立つ。又その左右には四聖十哲の像を配祀し、像前の牌に「至聖先師孔子神位」と記せるを見る。

該廟創建の起原は魯の哀帝十七年(西紀元前四七八年)に始まり、當時僅に三間の祠宇に過ぎざりしも、唐の開元二十七年(西紀七三九年)孔子を封じて文宣王となし廟制を宏大にせり。爾來歷朝改修を施して今日に至る。

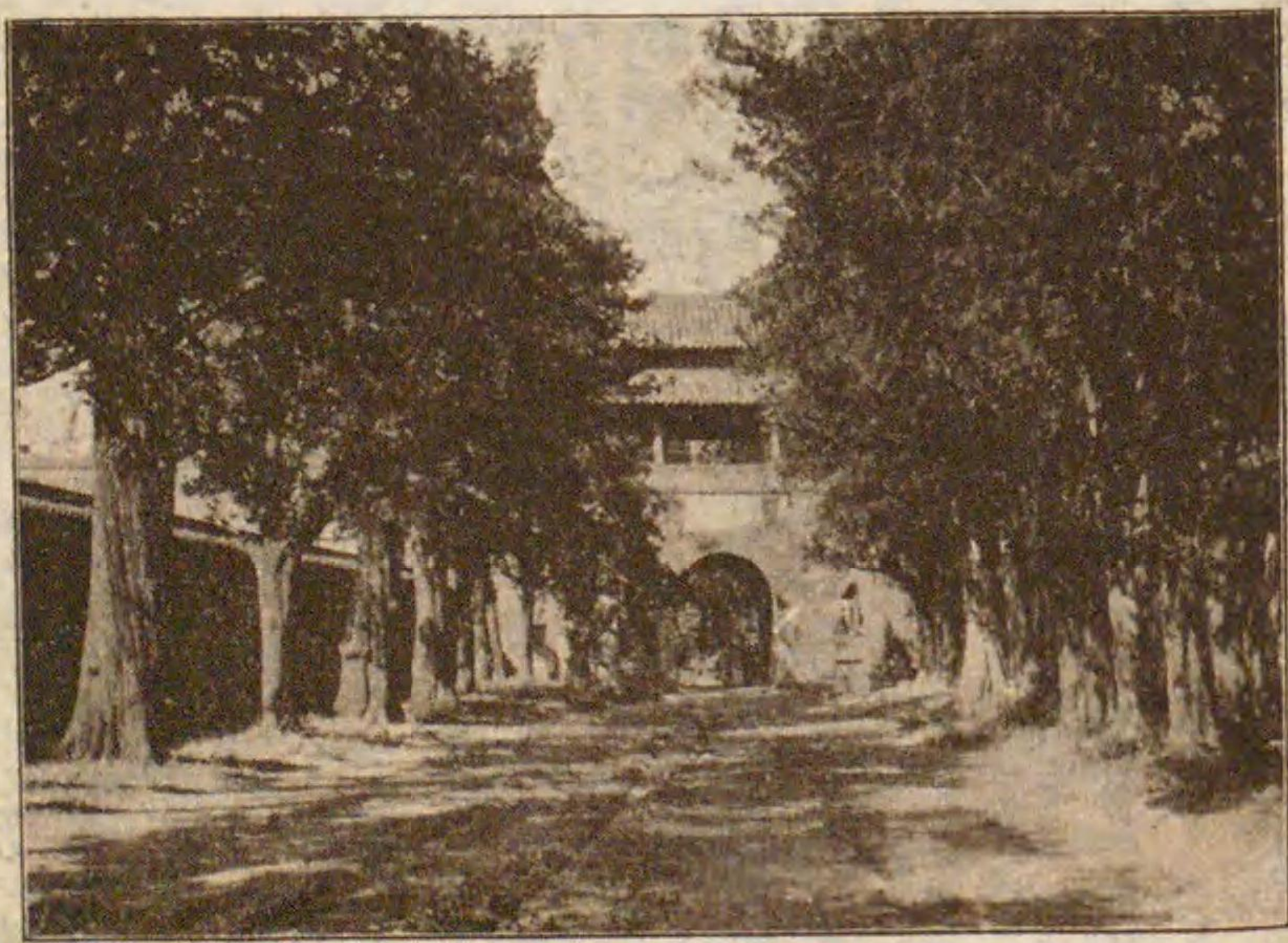
【衍聖公府】 孔子の正裔の居宅にして前記孔子廟に隣

接す當主衍聖公は七十三代の孫孔令貽にして、巨萬の富と聲望とを擁して、孔子の末裔(城内孔姓を名乗る者六十餘戸あり)を統卒し専ら先賢の道を治むと。邸内一隅に道士の詰所あり、内に周時代の銅器、各時代の禮服等を藏す。

【顔子廟】 孔子廟の北東近距離に在り。孔子の高弟顔回は學識博く德望高く、孔子に亞ぐ聖人として其の名著はる。廟の構造孔子廟に髣髴すれども規模小なり。本殿中央に顔子の像を安置し、左右の廊には彼の一千外八人の像あり。

【至聖林】 俗に孔子林又は孔林と稱し、縣城北門外約一哩に在り、孔子及其の子孫代々の塋域なり。通路の兩側には漢柏の大樹枝を連ね、中に枝幹巨大幾千の樹齡を思はしむるものあり。廳て墓域の外廓に至れば、「萬古長春」の四字を刻せる高二丈餘の石造牌樓あり、又其の北方に「至聖林」と題せる木造門ありて、此處に墳塋監守人の詰所あり。(此門以内は知名の士の紹介狀所持者以外は出入を許さざるも、) 地方長官番人に若干金を附與すれば觀覽を默許すべし。

門を潜り樹林の間小徑を辿れば須臾にして至聖林と題せる石門あり、是墳塋の前門にして附近一帶老樹鬱蒼たり。聖林を過り洙水の清流に架したる石橋を渡れば亨殿門なり。門内に



至 聖 林 前 路

亨殿(距今一七六〇年前の建立)あり、殿前磚道兩側に翁仲(石人)、石麟、石虎、華表柱各一對宛相對す。殿内は孔子三代の塋域にして、正面は孔子の墓、東は泗水侯(孔子の子伯魚)、南は沂國侯(孫子思)の墓となす。孔子の墓碑は高一丈二尺、上部に螭首を彫み篆書を以て「大成至聖文宣王墓」とあり、青苔滑にして古木之を掩ひ坐るに森嚴崇敬の念を禁せしむ。

兗州府 Yen-chow-fu (三八哩) 周代の舊都にして、もと兗州府治の主腦地たりしも改制後滋陽縣と改む。縣城は車站を距る約二哩半泗水の北岸に在り、人口約三萬と號す。市街は久しく衰頹に傾き商業不振なりしも、近來兗濟支線の開通に因り漸次恢復の模様あり。地方物産は胡桃を大宗とし、煙草、高粱、大豆、落花生等之に亞ぶ。

【兗濟支線】 兗州車站より分岐して濟寧州に至る一九哩の支線にして、兗濟兩端より毎日三回の混合列車便あり。(行程約一時間、賃金一等一弗二〇、二等八〇仙)。途中孫氏店 Sun-sze-tien (二三哩)の一站を経て、濟寧州 Tsi-ning-chow に達す。地は大運河流域の要津にして、北は黃河より南は安徽江蘇の

諸水域に互る水運の便を有し戎克貿易の中心たり。城内人口十五萬、商工業殷盛にして鐵物及竹器等の製造行はれ、其他食鹽、布帛、棗及各種蔬菜類の集散多し。

線路は兗州より更に東南に彎曲し平原を過ぎて鄒縣 Zhou-hsien (三〇哩、人口約一萬)に入り、それより龍山々脈の丘陵地帯を經り兩下店 Liang-hsia-tien (三三哩) 界河 Chieh-ho (四六哩五)、滕縣 Teng-hsien (四五哩、人口一萬) 南沙河 Nan-sha-ho (三三哩二)、官橋 Kwan-chiao (三七哩八)の各驛を連ねて臨城に達す。

臨城 Ling-cheng (三七哩) 臨棗支線の分岐驛にして、該支線は更に棗莊に於て嶧縣炭田に通ずる棗臺運炭線に連絡し、以て嶧縣地方産出の石炭を臨城に集中し、後南北各地に輸送すること恰も山鐵博山支線の張店に於けるが如く鑛山政策上重要な一地點たり。

【臨棗支線】 臨城より棗莊 Tsaio-chuang に至る一九哩餘の支線にして、兩端驛より毎日三回旅客列車便あり。(行程約一時間、賃金一等一弗二〇、二等八〇仙)。途中鄒塢 Chow-wu (一一哩八)、齊村 Chee-tsun (一七哩八)の二車站を経て棗莊に達す。

*【棗臺鐵路】 棗莊より臺兒莊 Tai-erh-chuang に至る三十二哩、廣軌輕便鐵道にして、中興煤礦公司の經營に係り運炭を主とす。兩端より毎日四回の列車便あり、(二等賃金八四仙)、途中嶧縣、泥溝の二車站あり。臺兒莊にて運河航行の民船に連絡す。

臨城よりは透迤たる丘阜の斜面及平野を走りて沙溝 Sha-kow (三六哩二)、韓莊 Han-chuang (四九哩)を過ぐ、それより一大築堤上を進み聽利國驛 Li-kuo-yi (五七哩八)附近に差蒐れば、德州以來暫く見失ひたる大運河上の白帆の去來夥しきを見るべし。利國驛以南は波狀の丘崗遠く連なり、其の間柳泉 Liu-chuan (四〇哩八)を過ぐれば茅村 Mao-tsun (四二哩八)より更に舊黃河の河床を越れば間もなく徐州なり。

徐州府 Hsu-chow-fu (四〇哩一) 江蘇省北部に於ける大市鎮にして、春秋時代には宋の彭城邑、後に項羽西楚の霸王を稱し此に都せし處、徐州の名は蓋し唐以後に始まる。前清以來徐州兵備道臺の駐留地として附近七縣の地方政治を管轄したり。城内人口約四萬、市況殷賑にして麥、豆、高粱、落花生等の集散多し。城の東門層樓は蘇東坡の詩賦に所謂

黃樓にして城北の九里山は楚の項羽が漢の高祖と武を争ひし古戰場として知らる。

【海蘭鐵路】 當車站より西の方開封、鄭州、河南府を経て觀音堂に至る三四五哩の鐵路あり(第二五〇頁參照)

徐州を發し三舖 San-pu (四九哩六)、曹村 Tsaio-tsun (四九哩)の二驛を過ぐれば安徽省内第一站夾溝 Chia-kou (四七哩八)に出づ。次で西瓜の産を以て名ある福履集 Fu-li-chi (四七哩八)を經り、南宿州 Nan-hsu-chow (四六哩八)に至る。線路は當驛より西南に彎曲し、任橋 Jen-chiao (四八哩三)、固鎮 Ku-chen (四九哩八)、新橋 Hsin-chiao (五〇哩八)及曹老集 Tsaio-lao-chi (五二哩八)等の各驛を數へし蚌埠に及ぶ。

蚌埠 Peng-pu (五三哩六) 河水洋洋たる淮河の沿岸に蒞み、古來水運の便を有するに拘はらず微々振はず一農村に過ぎざりしが、輓近鐵道の開通と同時に四圍の狀況一變し、民船貿易と相俟て市況の殷賑を致し、今や淮河流域地方物資集散の中心地たり。此地出入貨物の主なるものは河南、安徽地方の豆、麥、高粱等にして、又往年淮河稅關の所在地

として著名なりし臨淮關はその下流數哩に在り。

蚌埠より更に東南向し淮河の流域に沿うて進めば門臺子
Men-tai-tzu (五三哩)、臨淮關 Lin-huai-kuan (五三
哩)、板橋 Pan-chao (五五哩)、小溪河 Hsiao-hsi-ho
(五九哩) の各驛を點綴して明光 Ming-kuang (五〇哩)
に至る。當車站以南は地勢俄に一變し、丘崗處々に起伏
つて眼界を遮り、殊に管店 Kuan-tien (五十四哩)、三界
San-chieh (五七哩)、張八嶺 Chang-pa-ling (五八五哩)
の三驛間は線路高數丈の土間に扼せらる。聽て沙河集
Sha-ho-chi (五九哩) 附近に至れば再び展開せる平野の間を
駛走し滁州 Chu-chow (六〇哩)、人口二萬餘、烏衣
Wu-i (六一哩) を送れば再度江蘇省内に入り、東葛
Tung-ko (六一哩)、花旗營 Hua-chi-ying (六三哩) の
二小驛を経て浦鎮 Pu-chen (六六哩) に出づ。當驛より
浦口迄は僅に二哩半にして、其間湖水、沼澤點在し夏季
蓮花を賞すべし。
浦口 Pu-kow (六三哩) 津浦鐵路の終端驛にして、揚
子江の左岸に在り。車站は三層煉瓦造の大建築にして、その

規模の壯大なる正に本線中に冠たり。附近一帯は元低濕なる
荒蕪地なりしが、本鐵路の開通以來江岸埠頭の修築と相
俟て次第に新市街の面目を呈し來り大棧巨舖軒を連ね市況
愈々殷盛ならむとするの状あり。當驛前埠頭と對岸南京下關
との間には津浦鐵路の經營に係る連絡小汽艇便(津浦線一等
每日約二十四回あり、旅客は之に頼て下關埠頭に到着すべし。
滬寧線急行列車に乗繼ぐ旅客は直に南京江邊 Nanking
Ferry 車站に連絡すべく、其他の旅客は南京車站に赴くを
要す。

海 蘭 鐵 路

徐州府(津浦站)より開封、河南府(以上兩站間は元の汴洛鐵路)を
經て河南省觀音堂に至る三四五哩の廣軌線にして、鄭州に於て京漢鐵
路と接続の便あり。支那本部縱貫鐵道として將來重要のものたるべく
期待せらる。
【列車便】 徐州鄭州間(約十三時間半、京奉京漢兩鐵路連絡便)、開
封河南府間(約九時間)及河南府觀音堂間(約五時間)に毎日一往復の旅
客列車便又は混合列車便あるのみにて、全線直通の列車なし。【賃金】
徐州鄭州間一等二弗二七、二等八弗一八、三等四弗〇九。鄭州河南
府間一等四弗二八、二等二弗八六、三等一弗四三。【手荷物】無賃制
限量は一等百斤、二等七五斤、三等五〇斤とす。

本鐵道は官辦白耳義借款組織にして、江蘇省海州より徐
州、歸德、開封、鄭州及河南を經て甘肅省蘭州に達すべき
豫定總哩數實に八百哩餘の一大縱斷鐵道なれども、目下の
既成線は前記の徐州觀音堂間三百四十五哩とし、京漢、
津浦兩鐵路の中間地帯を東西に連絡すべき唯一の線路なり。
徐州府 Hsi-chow-fu 津浦車站(第一四九頁參照)
を現在の起點とし、此處にて津浦鐵路との連絡を保つ。而し
て海蘭線の徐州府車站は津浦站の西方約二基に在り、府城
より約百客の發著に資す。

其れより線路は概ね舊黄河々床の右岸に沿うて西走し、
郝寨 Ho-sai (一一基 從津浦站也 以下皆準之)、楊樓 Yang-lou (三
三基)、黄口 Huang-kou (四八基)、李莊 Li-chang
chuang (六八基) 等を經、江蘇最北境の縣治たる陽山
Tang-shan (八二基) に出づ。更に楊集 Yang-chi (九
五基)、馬收集 Ma-shou-chi (一一五基) 等を過ぎ
河南省界歸德府に入る。
歸德府 Kuei-te-fu (一四五基、約九〇哩) 城市は車站
の南方約五哩に在り。開封を東に距る約八十二哩、河南省

内屈指の都邑にして、周の宋國、唐の睢陽郡と稱せし處、現今
商邱縣の所在地たり。附近土地平坦にして農産物に富む。

歸德府以往線路は尙も西走して小驛 Hsiao-pa (一
六四基)、柳河 Liu-ho (一八〇基)、福壩李 Fu-pa-li
(一九七基)、内黄 Nei-huang (二一八基)、蘭封
Lan-feng (二二三基)、羅王 Lo-wang (二四五基)、
興隆 Hsing-lung (二六二基) 等を過ぎ開封に至る。
開封 Kai-feng (二七六基、一七哩) 河南省の首府に
して鄭州を東に距る約四十哩、黄河の南岸より約三哩に在り、
戰國時代の魏、後梁、晋、漢、周、宋皆此に都し、金は
之を汴京又は南京と稱し、明初北京と改め尋で開封府と稱し
今日に至る。府城の周圍には堅固なる堤防あれども、黄河氾
濫の際は往々災害を被ることあり。城内には文武の各官衙、兵
營、郵政局、電報局、各種學校等あり、人口約二十萬を
有する大都會たり。城の内外には鐵塔寺を首め宏壯なる寺觀
廟宇等を見るべきもの尠からず。

開封を後にすれば線路は黄河左岸と淮河上流との中間地
帯を進み中牟 Chung-mou (三〇六基)、白沙 Pai-

Sha (三二一基) の二站を経て鄭州に入る。
鄭州 Cheng-chow (三四一基、約二三三) 京漢線との
連絡驛なり (第二二七頁参照)。

鄭州よの前途は線路較、北西に轉向して黄河に近く、
鐵爐 Tieh-lu (三五三基)、榮陽 Yung-yang (三六
八基) の二站を過ぎ、汜水 Fan-shui (三八三基)、
鞏縣 Kung-hsien (四〇一基) に至て洛河に沿ひ黒
石關 Hei-shih-kuan (四一七基)、義井舖 I-ching-
pi (四四四基) を經て河南府に達す。

河南府 Ho-nan-fu (四六〇基、二八七五) 周の洛邑、
東漢、晋、北魏、隋等の洛陽、唐の東都と稱したる地にして、
黄河の支流伊、洛二水の流域に在り、附近には嵩山を首め多
くの高峯聳ゆ。府城は隋唐時代の洛陽城東南の一隅に在れ
ども昔時の盛觀なく、人口僅に二萬餘に過ぎず、商工業等觀
るべきものなし。

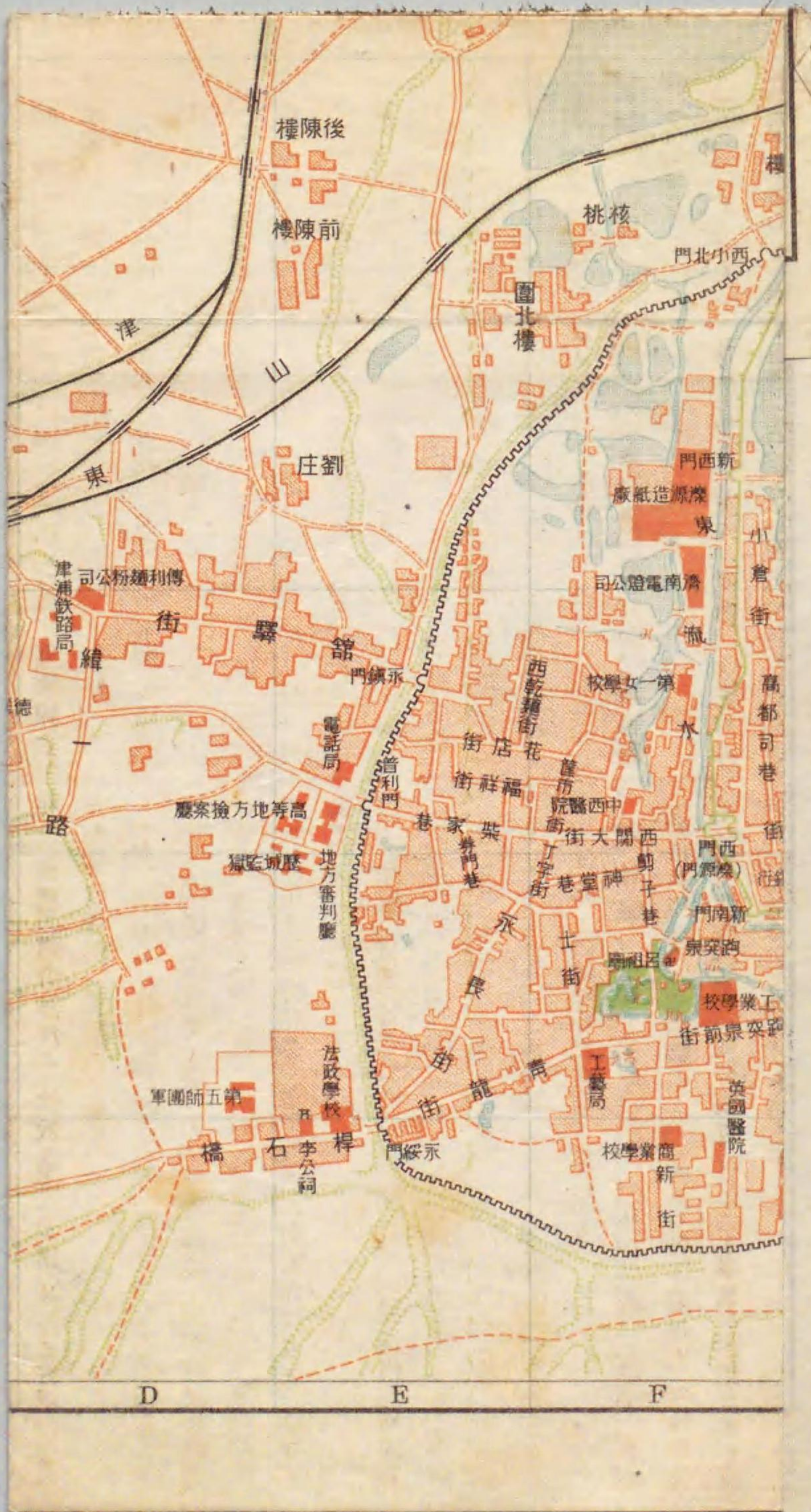
【龍門の千佛崖】 府城の南方に在り、後魏、初唐の佛
像に富めるを以て其名顯はる。古來京綏線大同府の石佛寺
(第二二七頁参照) と併稱せらるゝ處にして、支那古代美術

の觀賞上看脱すべからざる古蹟たり。【白馬寺】 府城の東に
在り、東漢の明帝月氏より佛教を傳へて建立したる古刹にして、
支那佛教寺院の嚆矢として著名なり。

【天津橋】 府城の西南に在り、隋時代に洛水に架せし名
橋にして、唐宋の詩文に其の名著はる。【嵩山】 府城の西南
に在り、支那五嶽 (第二四四頁参照) の一にして標高約七
千呎、山上には寺廟多く菩提達磨の面壁九年せし少林寺亦
此處に在り。

河南府以西は最近開通の線路にして、路途概ね舊潼關
街道に沿ひ、磁澗 Tzu-chien (四八〇基)、新安縣
Shin-an-hsien (四九三基)、鐵門 Tieh-men (五〇
七基)、義馬 I-ma (五二〇基)、澗池 Min-chih (五
三四基) の諸站を過ぎ觀音堂に至る。

觀音堂 Kuan-ying-tang (五五二基、三四五) 本線
に於ける現今の終端驛にして、此より更に蘭州迄延長の豫
定なり。當驛以西は地勢峻峻にして工事頗る困難なるも潼
關西 安間は近く竣工の筈なり。



南 濟

一之分千五万二 尺縮

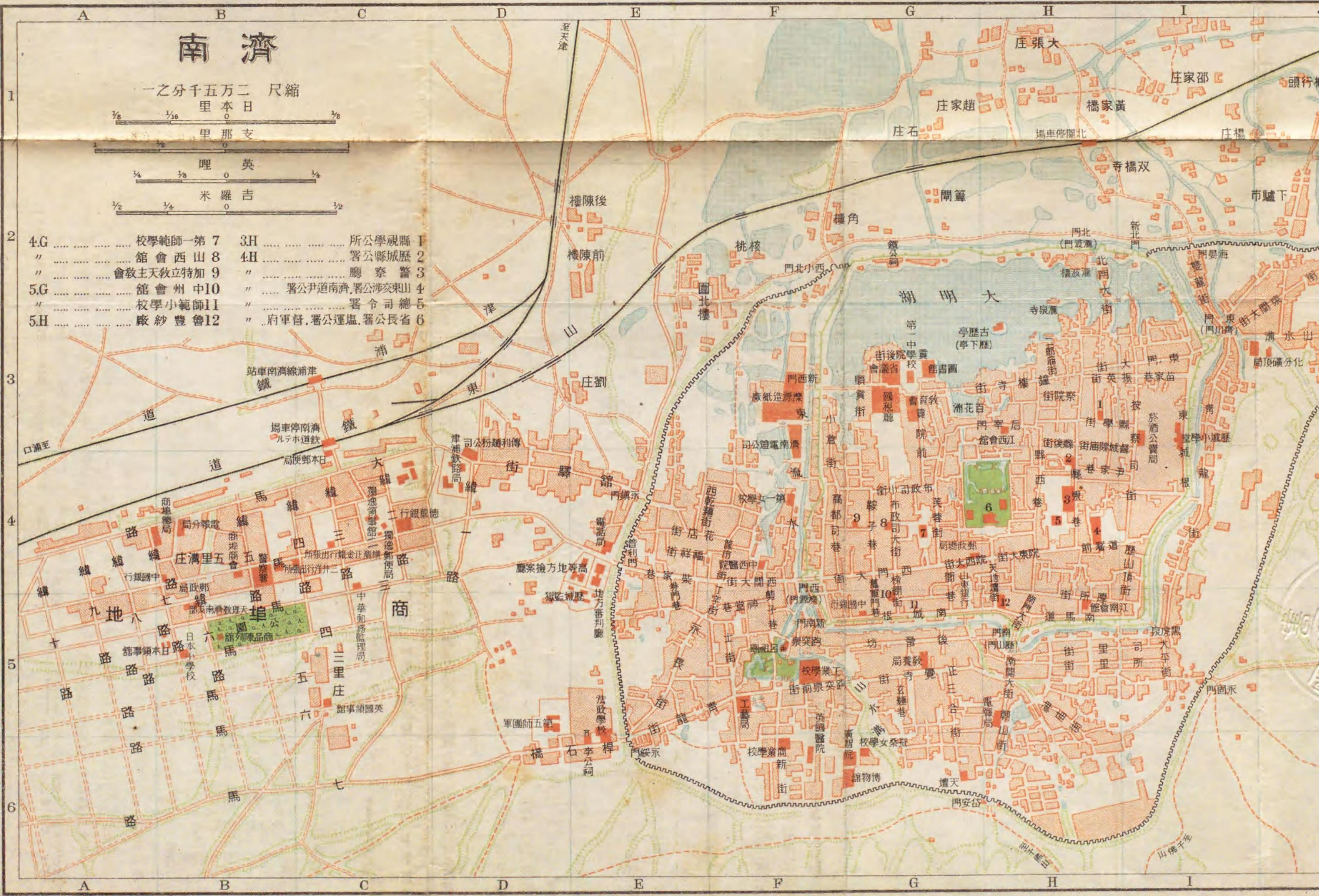
里本日本

甲那支

哩英

米羅吉

- | | | | |
|-----|------------|----|----------------|
| 4.G | 校學範師一第 7 | 3H | 所公學視縣 1 |
| " | 館會西山 8 | 4H | 署公縣城歷 2 |
| " | 會教主天教立特加 9 | " | 廳察警 3 |
| 5.G | 館會州中 10 | " | 署公尹道南濟署公涉交東山 4 |
| " | 校學小範師 11 | " | 署令司總 5 |
| 5.H | 廠紗豐魯 12 | " | 府軍督署公運處署公長省 6 |



商埠大馬路濟、...

濟南

縮尺二萬五千分之一

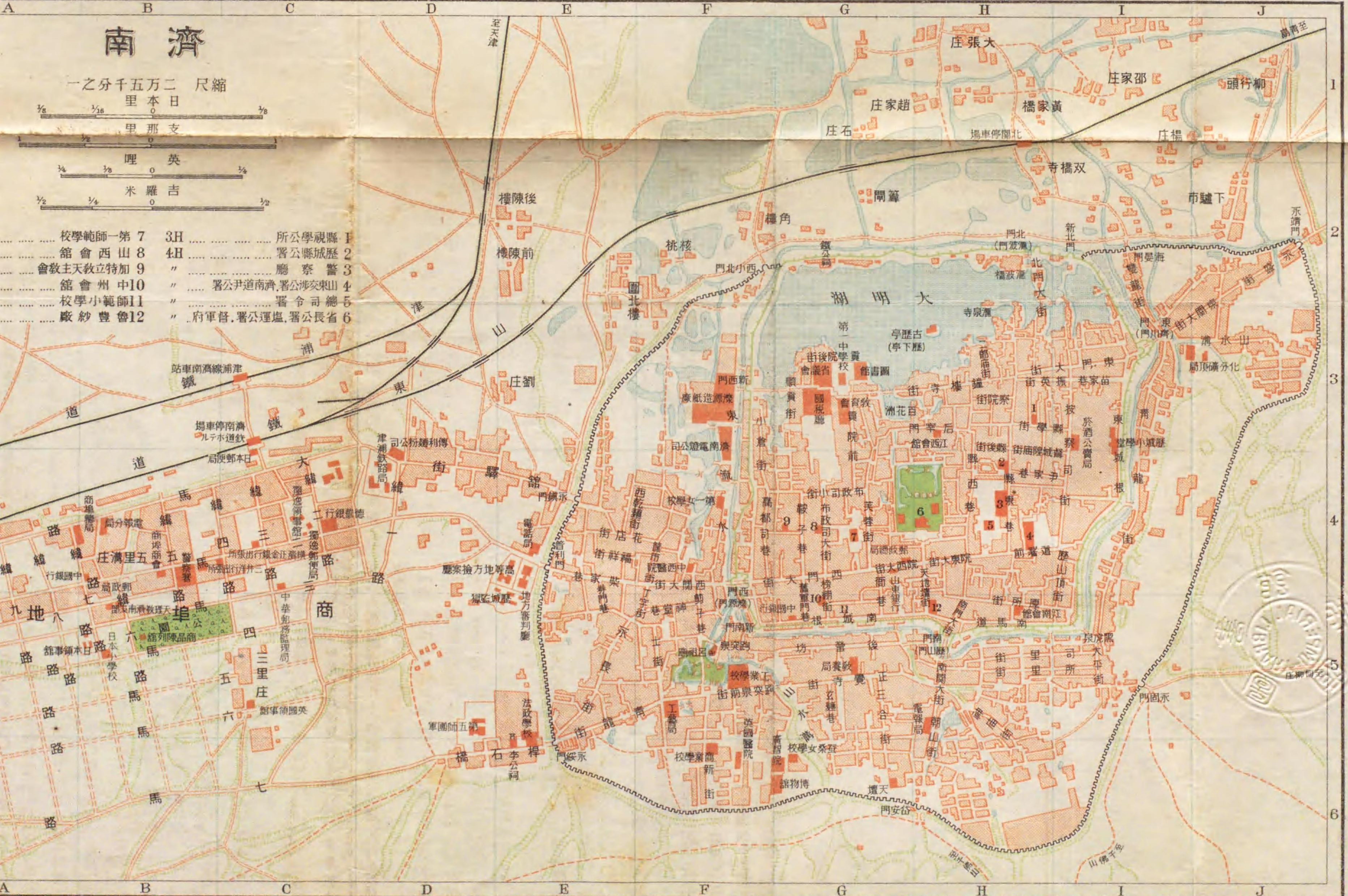
日本里 0 1/8 1/4 3/8 1/2 5/8 3/4

支那里 0 1/2 1 1 1/2 2 2 1/2 3

英里 0 1/4 1/2 3/4 1 1 1/4 1 1/2

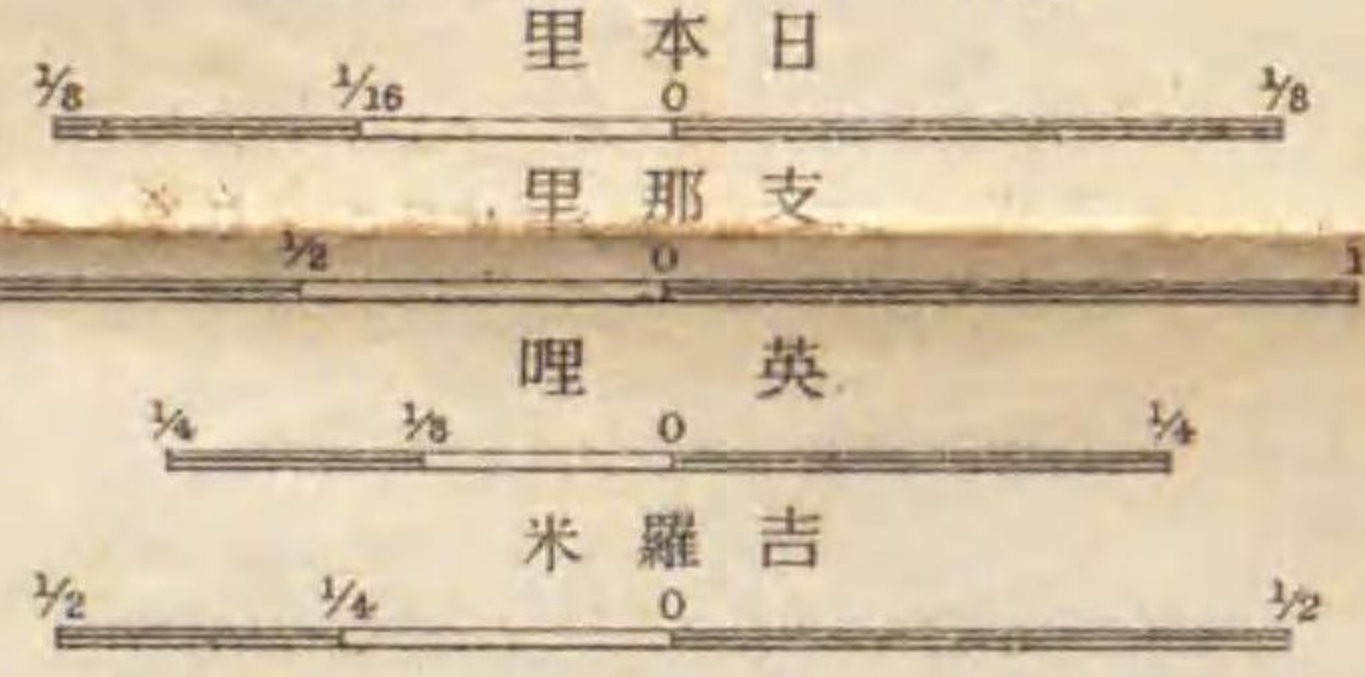
吉羅米 0 1/2 1 1 1/2 2 2 1/2 3

- | | | |
|------------------|----|-----------------------|
| 校學範師一第 7 | 3H | 所公學視縣 1 |
| 館會西山 8 | 4H | 署公縣城歷 2 |
| 會教主天教立特加 9 | " | 廳察警 3 |
| 館會州中 10 | " | 署公尹道南濟,署公涉交東山 4 |
| 校學小範師 11 | " | 署令司總 5 |
| 廠紗豐魯 12 | " | 府軍督,署公運塩,署公長省 6 |



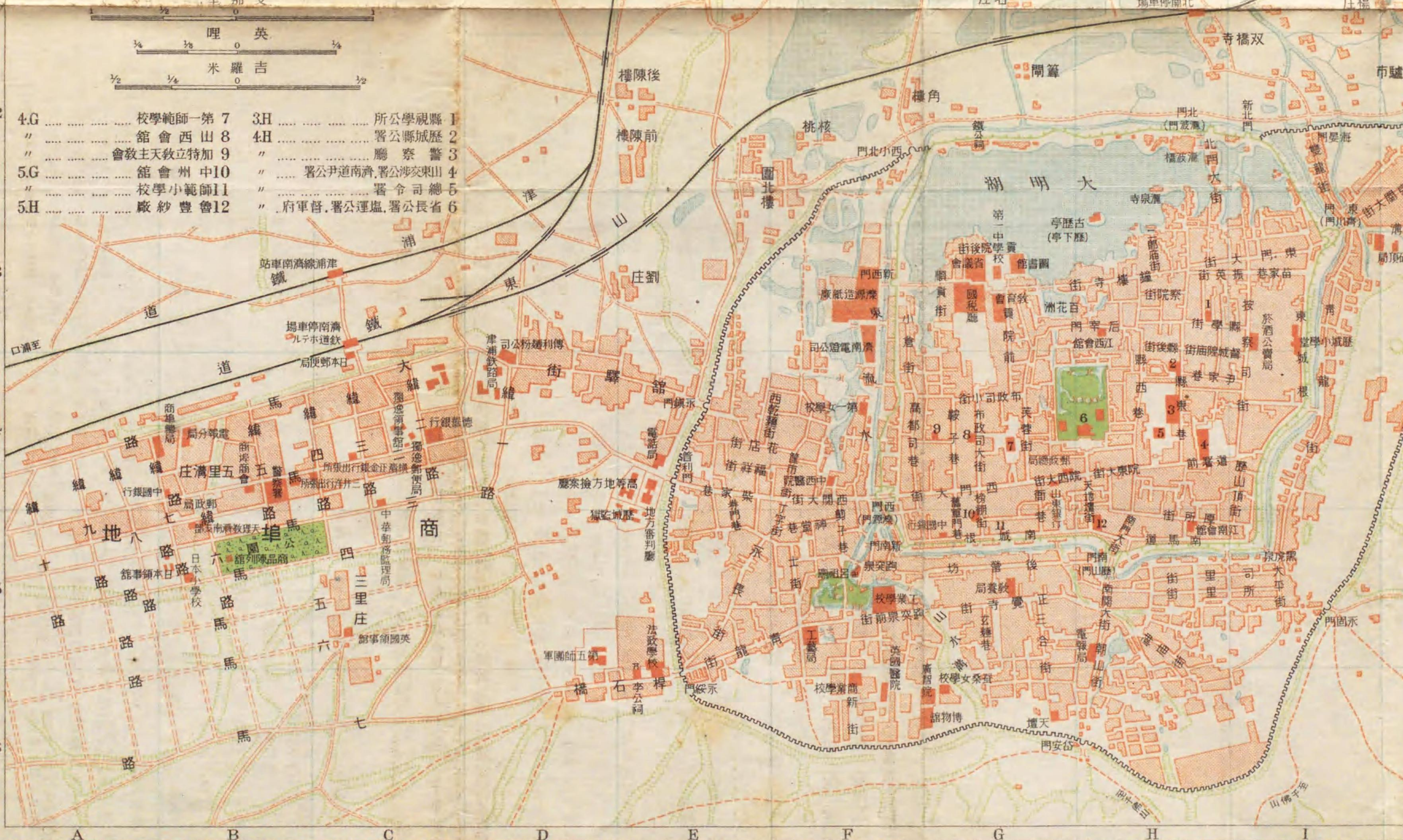
南 濟

一之分千五万二 尺縮



- | | | | |
|-----|------------|-----|-----------------|
| 4.G | 校學範師一第 7 | 3.H | 所公學視縣 1 |
| " | 館會西山 8 | 4.H | 署公縣城歷 2 |
| " | 會教主天教立特加 9 | " | 廳察警 3 |
| 5.G | 館會州中 10 | " | 署公尹道南濟,署公涉交東山 4 |
| " | 校學小範師 11 | " | 署令司總 5 |
| 5.H | 廠紗豐魯 12 | " | 府軍督,署公運盧,署公長省 6 |

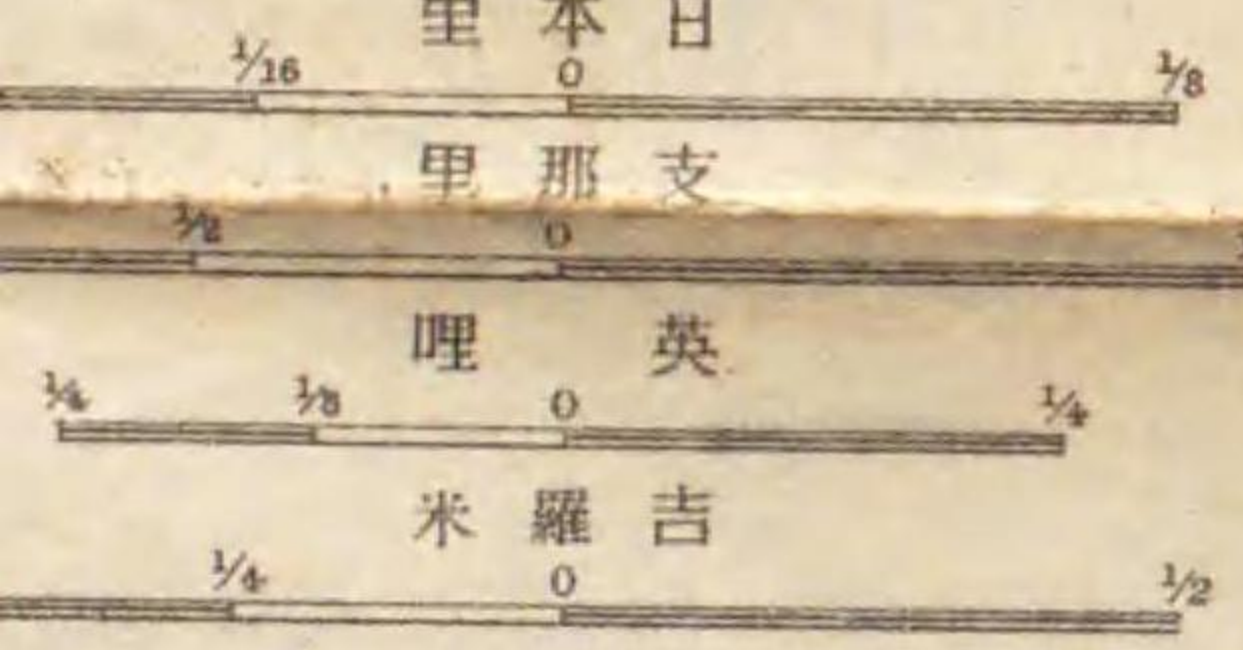
1
2
3
4
5
6



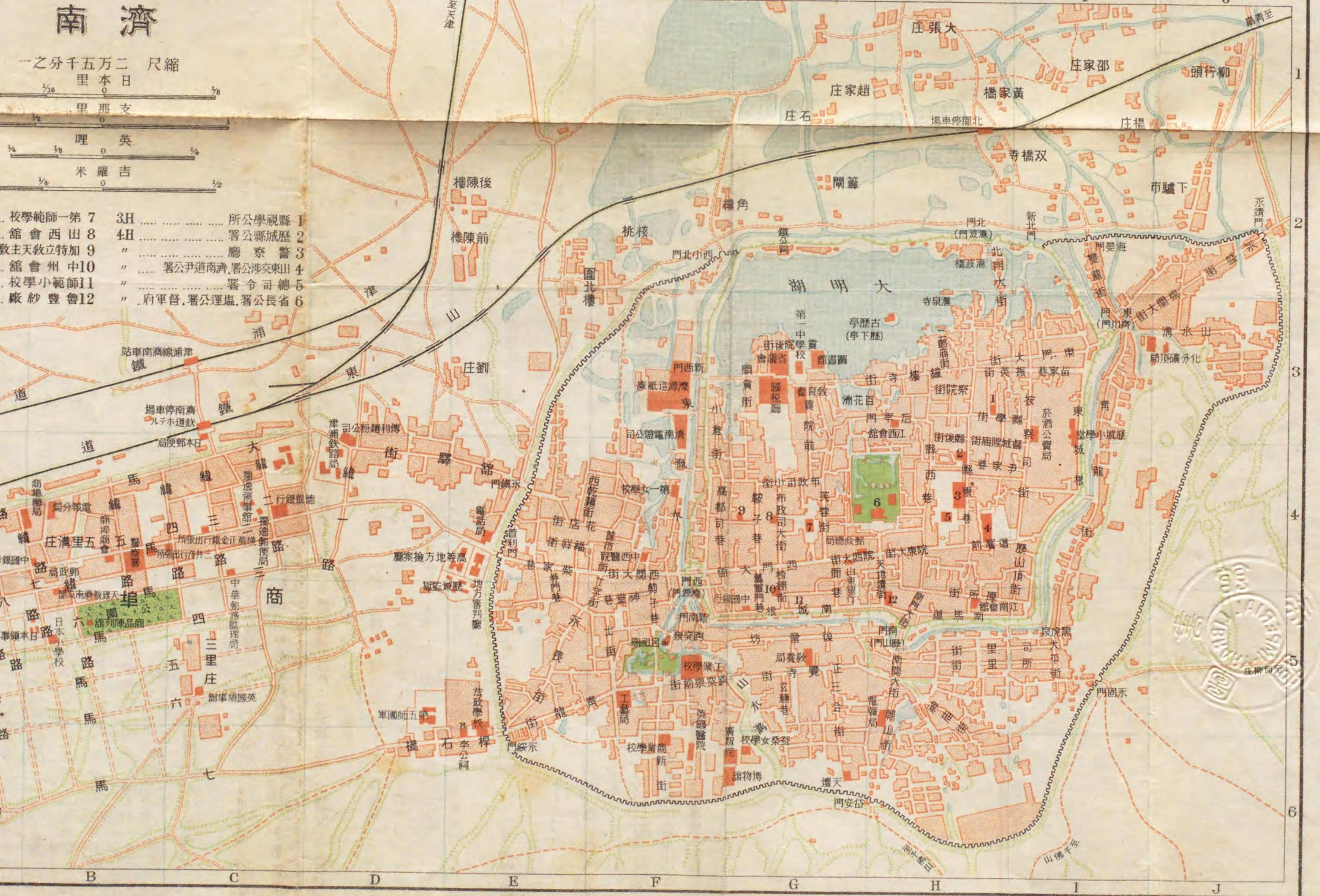
途路
25 濟南府 Chi-nan-fu (Tsi-nan)
常盤館(小緯)、初音館(商埠大馬路濟南車站構內)、宿泊料(三弗位至)

南 濟

一之分千五万二 尺縮



- 校學範師一第 7 3H 所公學視縣 1
- 館會西山 8 4H 署公縣城歷 2
- 教主天教立特加 9 " 廳察警 3
- 館會州中 10 " 署公尹道南濟署公涉交東山 4
- 校學小範師 11 " 署令司總 5
- 廠紗豐魯 12 " 府軍督署公運盧署公長省 6



途路 25 濟南府 Chi-nan-fu (Tsi-nan)

【到着】 濟南は津浦鐵路の主要驛(天津より二二〇哩、濰口より四一哩)たると同時に山東鐵道の二極端驛(青島より二四六哩)なり。津浦線に依る旅客の濟南到着は城外商埠附近なる津浦線濟南車站(C3)とし、又山東鐵道に由りて青島方面より来る旅客は黃臺車站(東關外に在り舊濟南東站、黃河方面行旅客の下車驛)、北關車站(H1、舊濟南西北站、城内との往來に便なり)及濟南新車站(C3、商埠附近に在り外客の乗降に至便なり)の内孰れかを撰ぶべし。各車站附近には人力車多數あり乗用に便す。

【車馬賃】 人力車—津浦線車站及濟南新車站より商埠迄二十仙位。其の他一時間十五仙、一日雇切一弗内外。轎(四人擔き)一半日雇切一弗五〇乃至二弗、一日雇切二弗五〇乃至三弗位。

旅館 【歐風旅館】 鐵道ホテル(C3 山東鐵道濟南、新車站樓上)、

金水旅館の經營する所なり。ホテル・シュタイン Hotel Trendel Stein (商埠二路)、ホテル・トレンデル Hotel Trendel (商埠十王殿) 以上兩者は獨人經營。宿泊料(五弗乃至八弗位)。

【日本旅館】 金水旅館(昇平街)、鶴家ホテル(三馬路) 以上は一流旅館、宿泊料(三弗乃至五弗位)。

大陽館(二馬路)、東洋館(三馬路)。

常盤館(小三路)、初音館(商埠大馬路濟南、南車站構内)、宿泊料(一弗乃至三弗位)。

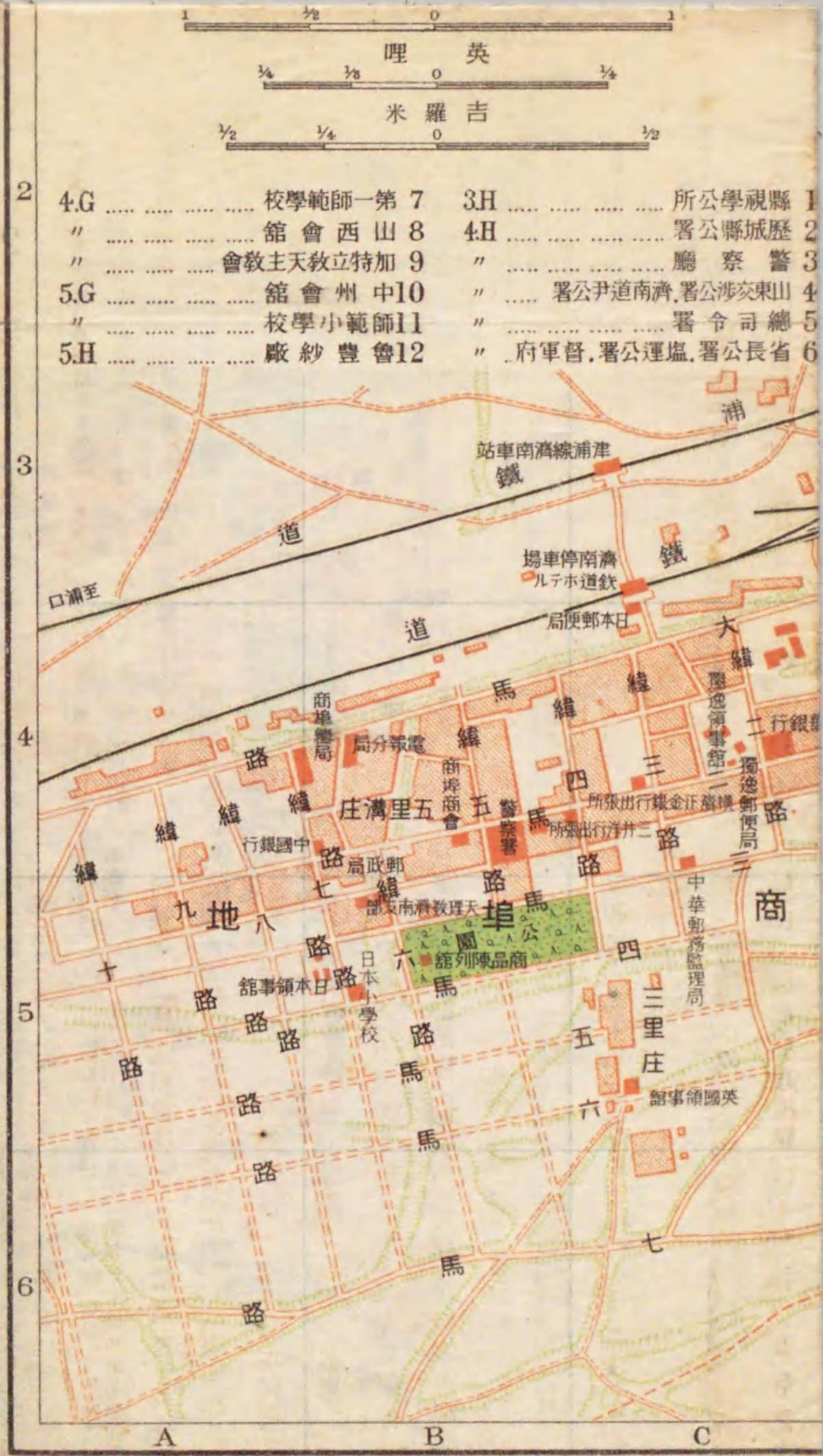
【支那客棧】 福照樓(商埠昇平街)、泰安棧(四路)、慶元棧(城內司大街北)等。宿泊料(各棧共一日房錢(室料)二十仙乃至各棧路)等。飯料五十仙乃至七十仙位。

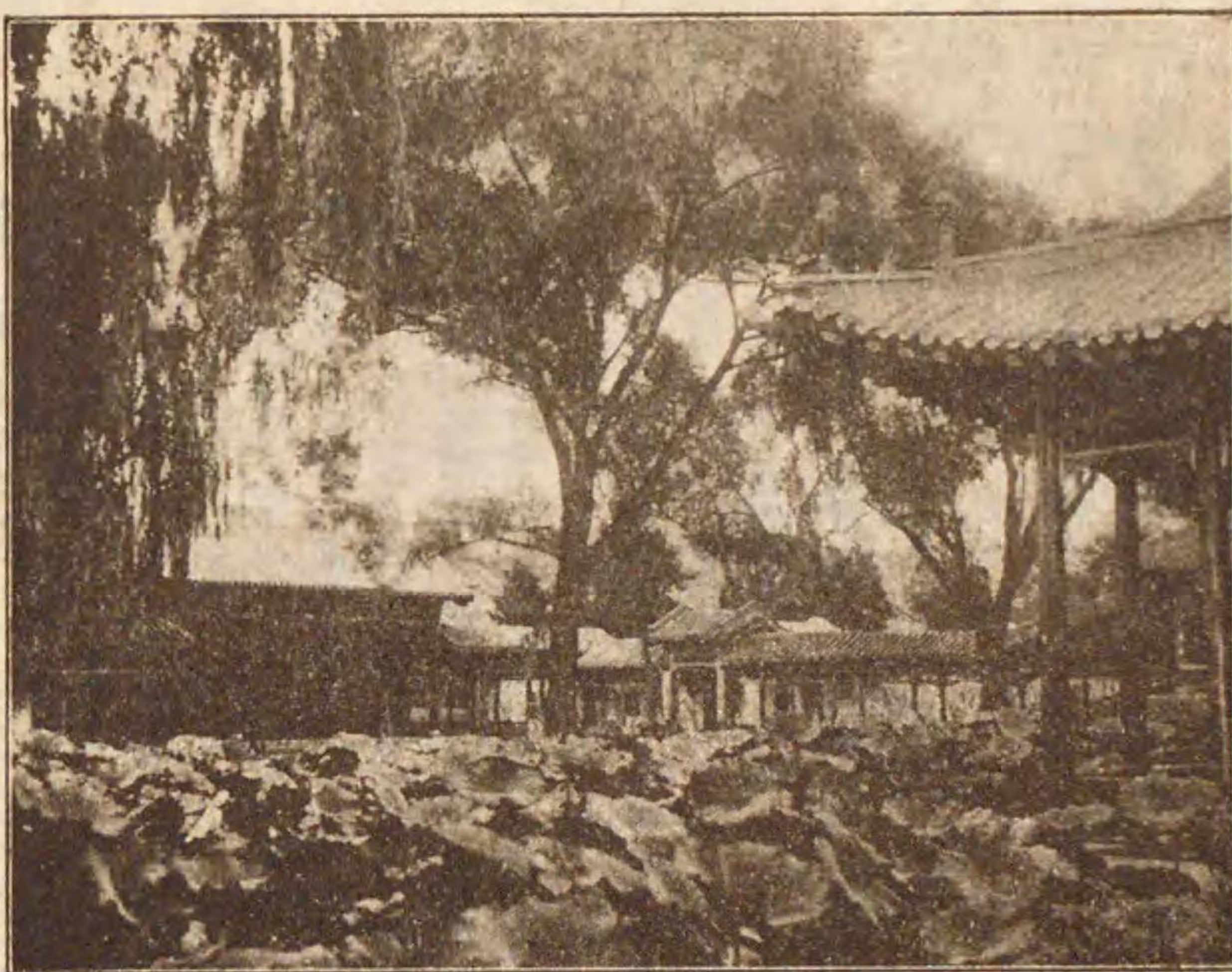
料理店 【歐風料理店】 前記鐵道ホテル兼營のもの、外支那人の經營に係る海會樓(商埠普利門外)、海天春(四路)、明湖居(城內散華橋)等あり、一人前(一弗乃至一弗五仙)。

【日本料理店】 富貴館(商埠大馬路)、山東館(上)、松茂里(詠仙)、峯月(上)、多吾作(昇平街)、雲水(上)、外約八軒あり。【支那飯莊】 泰豐樓(商埠二馬路)、飽德樓(商埠二馬路)、百花村(上)、萬福樓(城內半吉元樓(同貢院前)、岱北樓(宰制)等。會食料(一卓十弗乃至三十弗)と。

【茶樓】 雅園(城內司家碼頭)、柳園(同新東門外)、明湖居(同散華橋)等。領事館 日本領事館(A5 商埠三馬路)、英國(C6 商埠六馬路)。

郵便電信 濟南日本郵便局(山東鐵道濟南、停車場構内)、濟南日本電信局(上)、中華郵政總局(G4 城內西大街)、中華郵務管理局(C4 商埠三馬路)、濟南電報局(H5 城內歷山門外朝山街)、濟南電報分





大明湖鐵道公祠蓮池

局(B 4 商埠大馬路)、濟南電話局(E 4 商埠利門外)。
 銀行【外國銀行】橫濱正金銀行(出張 C 4 商埠馬路)、
 德華銀行(C 4 上)【支那銀行】交通銀行(支店城內院西大街)、中
 國銀行(G 5 城內舊軍門巷)、山東銀行(G 4 城內院西大街及 B 4 商埠馬路)、
 齊魯銀行(同西門外)。

市街概観 【城市】東南近く山腹に千佛山の勝地を有する歴山々脈を負ひ、西北遙に鵲山(黄河左岸)、華山(黄河右岸)の奇峯を控へ、小清河、黄河の二流に蒞める濟南城市は規模壯大なる牆壁と城壕とを以て一城廓を形成し、齊川(東)、濼源(西)、歷山(南)、匯波(北)の四門の外に東南、西北、西南及東北の四側門を有し、各大街路に通ず。又東南西の三面は更に外廓を重ねて繁華なる市街を包擁す。城内北部に大明湖あり城外幾多の池沼、溝渠と相通ず。城内の街路は皆鋪石道なるも磨滅して凹凸甚しく且路幅狹隘なるより車馬行客常に雜鬧す。城内最殷賑の區は西門大街なれども、近來大商店等は商埠及城外西關大街に多し。試みに北關なる匯波門樓上に登臨して府城の全景を俯瞰せんか、街衢の整然たる城廓の雄大なる將又人煙の稠密なる眞

に一省の會城たるに耻ぢざるの偉觀たり。全市の人口三十八萬餘(其内邦人約三千人)と稱せらる。

【商埠】は府城の西關外に在り、北面は山東鐵道線路に沿ふ長方形の一地區にして、外國人居留地として繁榮なる一市區を形成す。從來支那の通商市場は多く外國との條約に基き開放せる處なるも、當地は全然獨逸の青島經營に對抗すべく支那政府が自發的に開放せし處にして、隨てその經營及管理等一切の權限を自國の手に留保し、外人の關與を許さざるを特色とす。街區は山鐵線路と併行する三馬路を經とし、此等と南北に交叉する八條の街路を緯とす。就中最も殷賑なるを一、二馬路及三、四、五緯路となす。各國領事館、會社、商店その他外人關係の建築物等悉く此區に在り。當地に於ける邦人の發展は一時獨人の跋扈に壓せられ微々振はざりしも、青島の經營邦人の手に移るや日に隆盛の域に向へり。

官公署 督軍府及省長公署(6 H 4 城內中央)、財政廳(城內學街)、第五師署及第四十七旅署(D 5 永毅門外)、濟南鎮守使署(城內院東大街)、山東交渉公署(4 H 4 道署前街)、濟南道尹公

署(上)、山東鹽運公署(省長公署內)、警察廳(3 H 4 城內東巷)、歷城縣公署(2 H 4 城內縣東巷)、商埠總局(A B 4 商埠大馬路)、高等審判廳(E 4 普利門外)、地方審判廳(上)、高等檢察廳(上)、山東省議會(G 3 城內真院後街)、菸酒公賣局(1 3 同、按察司街)、縣視學公署(1 H 3 縣學街)。

會社商店 【邦商】三井洋行(出張 B C 4 商埠四路)、東和公司(出張同、緯三馬路)、東亞煙公司(馬路)、清喜洋行(牛骨同、萬)、文明公司(城內西門大街、商埠三馬路)、日華公司(城內美同、文商務公所(利門外)、山玉分行(同、緯四路)、玉井洋行(上同)、華和公司(上馬路)、久原(出張商埠三、馬路)、鈴木商店(貨同、緯六路)等。

【外國商】仁得利洋行(英商埠普利門外)、義利洋行(獨同上)、華豐洋行(獨同上)、美孚洋行(米商同、二、馬路)、開治洋行(獨同上)、華昌洋行(佛同、二、馬路)、亞細亞石油公司(英同上)、英美煙公司(英同、三、馬路)。
 【支那商】阜成信(花二馬路)、慶泰合(上)、同聚和(根大馬路)、興順(福上、路)、謙益泰(大馬路)、長泰祥(五

裕豐成(路二馬) — 以上雜貨行。聚興和(路五) 天祥永(同) 玉昌號(路五) 濟祥(南關) 正立(苗家) 瑞映祥(同) 大同行(同) 惠成永(西門) 惠寶(首飾街) 濟寶(上) 醴泉居(江家) 隆聚號(四隅) 廣立順(美蓉) 全盛行(西關) 德和棧(上) 春和祥(西) 等。

學校 【外人經營】 濟南東文學校(城內新街) 基督教會附屬高等女學校及幼稚園(英國人經營) 濟南基督教青年會附屬夜學英文學校(米人經營) 齊魯大學(英米人共同經營) 德文學堂(城內新街) 【支那人經營】 法政學校(F 5 6 關西) 師範學校(7 G 6 城內西) 山東公立商業學校(F 6 城內) 山東工藝學校(F 5 城內) 第一中學校(G 3 城內) 第三中學校(高都司) 第一女學校(F 4)。

公會等 山東商務總會(國稅廳) 同上分會(商埠) 工會(城內美) 山東農會(新街) 教育總會(城內) 實業協會(同) 孔教會支會(將軍) 教養局(G 5 正覺寺街) 紅十字會(城內南) 省會(慈善事) 同、院。

教會寺廟 英國浸禮教會(城內南) 中國基督教會(三馬路) 米國長老教會(城內) 基督教青年會(南關) 天主教會(城內東) 城隍廟(城內) 呂祖廟(F 5) 舜皇廟(城內) 關帝廟(太明) 娘々廟(上) 匯泉寺(H 2) 等。

華藏醫院(馬路) 以上邦人經營。中西醫院(F 4) 育生院(馬路) 紅十字社病院(城內) 博愛院(聖陽) 以上支那人經營。共合醫院(南關) 德華醫院(馬路) 娛樂場 【劇場】 魁座(邦人經營) 大舞臺(城內) 富貴園(城內) 慶尚茶園(五路) 新舞臺(馬路) 等。

【活動寫真】 小廣寒(南關) 【俱樂部】 日本人俱樂部(南關) 博信俱樂部(同) 濟南俱樂部(馬路) 水路交通 【小清河】 一名小興河と稱し、府城東關外約二哩に在り。濟水の故道に人工を加へて運河となしたるもの、河口より約三十哩の間は河幅千呎内外、水深十呎乃至二十五呎、潮水満干の差四呎に及ぶ。更に上流に溯れば幅員百呎乃至二百呎に狹まり、水深亦大に減ずれども數個

所の水閘に依り常時四呎以上を保ち、冬季結氷期(毎年十二月より翌年二月)を除き濟南地方より海に通ずる唯一の水路たり。故に山鐵開通前の濟南貿易は一に此水路に頼りたり。河口附近なる羊角溝と黃臺橋間(約三哩)を航行する大小民船(吃水二七呎)は帆を用ひ、上航に今尚ほ毎年約二萬隻を算すと。

【黃河下流の水路】 其の源を遠く甘肅、青海の高原より發し山西、陝西の省界を劃して中部支那に入り、河南及山東省内に於て京漢、津浦兩鐵路を横斷して渤海に注ぐ一大水路なれども、沙土の流下甚しく常に河床を層高するより、其の下流に於ては屢々河道の變轉あり。現今開封府以下の其れは大清河の舊河床に依るものにして、開封より濼口に至る約三八五哩間は濁水漫々として緩流し、民船通航(上航七日、下航四日位)の利あれども、濼口より以下は淺灘隨處に横はるを以て通航に便ならず。乃ち前記小清河水路の之に代用せらる、所以、隨て又此等兩水路間に鐵道連絡施設(第二四二頁參照)の必要ある所以なり。

商業 【貿易額】 貿易總額約一千九百萬海關兩に達し、内約八割は輸入額なりと言ふ。【輸出入品】 その主なるものを擧ぐれば輸入品に於て綿糸、赤砂糖、石油、燐寸、蠟燭、石鹼、顏料、その他の雜貨を大宗とし、又輸出品に於ては麥稈、真田、落花生、棉花、牛骨、牛油、牛皮、蜂蜜等とす。【貿易範圍】 由來濟南は一省の首城として政治的關係の下に漸次その發達を促進せられしに止まり、商業上將又經濟上特にその勃興を援へべき主動力なく、隨てその貿易範圍の如きも纔に地方住民の需給に應ずべき程度に過ぎざりき。されど輓近山東鐵道の開通及市場の開放は青島港の發達と相俟て、濟南をして一躍輸出入貨物の一大集散地たらしめ、一面津浦鐵路の完成は北方天津方面に對する貿易範圍を擴大して德州、濟寧、東昌等の各都邑及黃河沿岸一帶の地方をその圈内に收め、更に南方浦口方面とも連絡を得て南京、上海と相呼應するに至れり。

工業 山東玻璃公司(邦人) 山東兵器廠(北平) 工業傳習所(城內) 濼源造紙廠(F 3 同) 電燈公司(F 3 同) 岱北模範染織有限公司(商埠) 長豐染織工廠(上) 興華染織工廠(城內) 興順福機器麵粉公司(商埠) 正立工廠(城內) 豐年麵粉公司(上) 振業火柴公